

お茶の水女子大学
Ochanomizu University

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1
TEL : 03-5978-5105
FAX : 03-5978-5545

<http://www.ocha.ac.jp/>

OCHANOMIZU UNIVERSITY

GUIDE BOOK 2018

| LETTERS and EDUCATION | SCIENCE | HUMAN LIFE and ENVIRONMENTAL SCIENCES |



みがかずば 玉もかがみも なにかせん 学びの道も かくこそありけれ

これは本学の校歌である。人はみな、磨かれざる原石として生まれ出る。

そして、自らの中に宝を見だし、輝きを増すためには、

周囲の人々から愛情深く磨かれ、育てられることが必要である。

温かく育まれたものは強く、優しい。本学に関わる人々はそのことを体現している。

学びの道を志す人には、何処に在ろうとも、自らの信ずるものを自らの努力によって

怠りなく磨き続けることが求められるのである。

CONTENTS

巻頭特集

「みがかずば」

- 003 学長メッセージ
- 004 教育の礎
- 006 学ぶ原石
- 010 未来の輝石
- 013 卒業生メッセージ

教育の特色

- 017 教育プログラム
- 018 教養教育：21世紀型文理融合リベラルアーツ
- 020 専門教育：複数プログラム選択履修制度
- 022 グローバル教育
- 026 キャリアデザインプログラム
- 028 教員免許等資格取得課程

学部・学科／大学院

- 030 学部・学科・プログラム一覧

032 文教育学部

- 034 人文科学科
- 040 言語文化学科
- 048 人間社会科学科
- 056 芸術・表現行動学科
- 060 グローバル文化学（学科共通）

062 理学部

- 064 数学科
- 066 物理学科
- 068 化学科
- 070 生物学科
- 072 情報科学科

074 生活科学部

- 076 食物栄養学科
- 078 人間・環境科学科
- 080 人間生活学科
- 084 心理学科

- 086 特色ある副プログラム
- 088 特色ある学際プログラム

090 大学院

- 092 人間文化創成科学研究科

キャンパスライフ

- 098 キャンパス・施設
- 100 年間行事
- 102 課外活動
- 104 サークル活動
- 106 お茶大生の日・学生寮
- 110 卒業生の進路／
学科（専攻）別就職先一覧
- 112 奨学金制度
- 113 入試関連情報
- 129 アクセス／キャンパスMAP

日本と世界の未来を拓く女子教育を

お茶の水女子大学は、女性のための日本初の官立の高等教育機関として1875年に創設され、学ぶ意欲を持って社会のために役立ちたいと望む女性たちのために、140年余りにわたって、女子教育の先達として道を切り拓いてきました。これまでに数多くの卒業生が、学術・研究、教育、産業、行政、報道など、多様な場において優れた実績を挙げ、周囲からの信頼も集めて、女性たちの活躍の舞台を創出してきています。

現在も、本学は、社会からの要請に応じて、広い視野と豊かな感性をもって、わが国と世界の未来を担う女性の育成に取り組んでいます。

2004年の国立大学法人化に際して、お茶の水女子大学は『学ぶ意欲のある全ての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在する』との標語を掲げました。そして、世界中の全ての女性たちの夢の実現を支援することを目指し、多様な文化と異なる価値観や考え方を持った人々と深く理解しあい、互いに切磋琢磨しながら、自らを成長させていくことのできる学園でありたいとの決意を持って、さらなるグローバル化を進めました。学びたくても学ぶことのできない開発途上国の女性たちをも含めて、国籍や年齢を問わず女性たちの成長と資質能力の開発を支援する活動を推進して、現在に至っています。

その後本学では、リベラルアーツ教育、グローバル教育、リーダーシップ教育といった特色ある教育システムを構築して、若い女性たちが、自己を磨き、世のため人のためになすべきことを知るための学びの場を提供しています。

それらの教育を通して、本学で学ぶみなさんには、①複雑・多様な社会的課題を認識し、それぞれの専門的見地からの探求方法や課題解決方法を思索すること、また、②自分とは異なる価値観や考え方を持った人々と深く理解しあい、異なる生き方をしている人たちと互いに切磋琢磨しながら、自らを成長させていくこと、そして、③他者への配慮を忘れず、統合的・実践的な「智」を以って多様な世界の人々との協働を実現し、さらには社会をリードし時代を創ることを、目指して頂きたいと考えています。

お茶の水女子大学は、人が一生を通じて心身共に健康で幸せな生活が送れる社会を構築するための多様な研究と教育を実践しています。そして、みなさんが夢を実現し、豊かな未来を創造することができるよう、また、周囲の人々や社会に対して、未来への希望と勇気を呼び起こす活躍をして下さることを心から願って、高等教育機関としての役割を果たして参ります。

(2017年)

国立大学法人 お茶の水女子大学長

室伏 きみ子

Kimiko Murofushi

1970年お茶の水女子大学理学部生物学科卒業、1972年同大学院理学研究科修士課程修了、1976年東京大学大学院医学系研究科博士課程修了、医学博士。専門は細胞生物学、生化学、科学教育。
お茶の水女子大学助手、講師、教授、理学部長、理事・副学長を経て2015年4月から現職。社会活動として、(株)ブリヂストン社外取締役(2011年～2015年)、NHK経営委員会委員(2013年～2016年)、日本学術会議会員(現在連携会員)、日本医療研究開発機構監事等。2013年フランス共和国教育功労賞シュヴァリエ叙勲。



世界で輝く女性リーダー創造の拠点へ

特集

みがかずば

どんな宝石も原石のままではただの石同然ですが、磨かれて初めて美しく光り輝き、磨けば磨くほど輝きが増していきます。人も同様で、きちんとした教育があり学びつづけることで人間的魅力が増していきます。「みがかずば」には、そのような意味が込められているのです。

お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現の場として存在します。歴史と伝統を礎に、先進性と多様性に満ちた教育プログラムで一人ひとりの可能性を広げ、世界で輝ける女性リーダーの育成を使命として教育と研究を推進します。

教育の礎

お茶の水女子大学の歴史と伝統

お茶の水女子大学は、女性のための日本初の高等教育機関として創設されました。
142年にわたる歴史と伝統を礎に、教育の理想を探究し続ける国立の女子最高学府です。

日本初の官立女子高等教育機関

お茶の水女子大学は、1875年に御茶ノ水（現文京区湯島）の地に、東京女子師範学校が設立されたことに始まります。本学が設立された目的は、女子の教育を普及させるための女性教員の養成を目指したものでした。

1879年、第1回卒業生は総勢15名。1890年に女子高等師範学校となったからは、我が国唯一の官立の女性のための高等教育機関として、全国の覇気に富む女性たちの憧れの的となりました。また、本学を巣立った女性たちは、次世代の女子教育を担い、日本各地の学校に赴任して教壇に立ちました。卒業生のなかには、東京女子大学長となる安井てつ、日本初の女性理学博士の保井コノ、国際的に活躍した女性物理学者の湯浅年子など、多くの優秀な研究者や教育者がいます。

未来を担う女性を育む高度な教育

お茶の水女子大学では、国立大学法人化に際して、「お茶の水女子大学は学ぶ意欲のあるすべての女性にとって、真摯な夢の実現される場として存在する」という標語を掲げました。1世紀以上にわたり、日本における女子教育の先達として、さらに世界屈指の女子大学として、常に現代社会に必要とされる高度な教養と専門性を備えた女性リーダーを育成するとともに、女性のライフスタイルに即応した教育研究のあり方を開発・実践してきました。それはまた、女性の生涯にわたる生き方のモデルの供給源として、男女共同参画社会を実現し、豊かで自由かつ公正な社会の実現に寄与することでもあります。実際に、数多くの出身者が多様な場所で時代を創り、支えています。

研究・教育の拠点を担う女子総合大学

現在の文京区大塚に移転したのは1932年、関東大震災（1923年）で全校舎を焼失した後のことでした。現在使用している講堂（微音堂）や大学本館、附属高等学校校舎、附属幼稚園園舎、大学正門は、その当時に建てられたものです。

1949年の戦後の学制改革によりお茶の水女子大学が発足、翌年文教育学部、理学部、家政学部（現在の生活科学部）の3学部をもつ女子総合大学となりました。戦後、種々の価値観が錯綜するなか、単独で大学昇格を果たし、数少ない国立女子大学として出発できたのは、女子教育への強い使命感と長い伝統・歴史があったからでした。その後、1963年には修士課程を、1976年には博士課程を設置するなど、教育・研究環境を整えながら、たゆみない発展と進歩を遂げてきました。

明日を切り拓く斬新な研究

本学が目指すのは画一的イメージにとどまるようなリーダー像ではありません。それは、「心遣い」「知性」「しなやかさ」を備えながら、同時に急激に変化する現代社会に柔軟に対応できる高度な専門知識と広い見識をもち、新たな事柄に挑戦することのできる女性像です。小規模ながら人文社会科学・自然科学・生活科学がそろった大学として、一貫して従来の学問領域を横断する新しい視点に立ち、社会が求める研究分野をいち早く開拓してきました。その姿勢と実績は社会的にも高い評価を得、数々の大型教育研究予算を獲得しています。2012年度には「グローバル人材育成推進事業（全学推進型）」、2013年度には「博士課程教育リーディングプログラム」にも採択され、この事業は教育の充実にも反映しています。



お茶の水女子大学の歴史

- | | | | |
|------|---------------------------------------|------|--|
| 1874 | お茶の水女子大学の前身
東京女子師範学校の設立を布達 | 1949 | お茶の水女子大学（文学部・理家政学部）設置 |
| 1875 | 「御茶ノ水」の地に開校
（現東京都文京区湯島1丁目） | 1950 | 文学部を文教育学部に、理家政学部を理学部及び家政学部へ改組 |
| 1885 | 東京女子師範学校は、東京師範学校と合併し、
東京師範学校女子部となる | 1963 | 大学院家政学研究科（修士課程）を設置 |
| 1886 | 東京師範学校は高等師範学校となり、
高等師範学校女子部となる | 1964 | 大学院理学研究科（修士課程）を設置 |
| 1890 | 高等師範学校から女子部を分離し、
女子高等師範学校を設立 | 1966 | 大学院人文科学研究科（修士課程）を設置 |
| 1908 | 奈良女子高等師範学校の設置に伴い、
東京女子高等師範学校と改称 | 1976 | 大学院人間文化研究科（博士課程）を設置 |
| 1923 | 関東大震災のため、校舎焼失 | 1992 | 家政学部を生活科学部に改組 |
| 1936 | 現在地の新校舎で開校記念式を実施
（東京都文京区大塚2丁目） | 1997 | 大学院人文科学・理学・家政学研究科（修士課程）を、
大学院人間文化研究科（博士前期課程）に改組 |
| | | 2004 | 国立大学法人法により、
国立大学法人お茶の水女子大学に移行 |
| | | 2007 | 大学院人間文化研究科を
大学院人間文化創成科学研究科に改組 |

学ぶ原石

専門性と多様性に満ちた教育環境

次世代の女性リーダーを育む先進性に満ちた教育プログラムと恵まれたキャンパス環境は、学ぶ意欲と夢を支え、一人ひとりの個性を磨き、可能性を広げます。

01

徹底した文理融合と 少人数教育

学部と大学院、研究施設までも含む文理双方の学部が一つの敷地内に集結した環境は、まさに文理融合を具現化する環境にあります。学際的研究も盛んです。その独創的な発想と先進的な研究開発の成果は、教育の現場に積極的に反映されてきました。

お茶の水女子大学の教育の最大の特長が、少人数制による高度な教育課程です。学生と教員の距離が近く、一人ひとりの学生としっかり向き合える徹底した少人数制教育が、それぞれの個性を大切にしたいきめ細やかな指導を実現しています。特に専門教育課程では、少人数のゼミや実験・実習を通してそれぞれの目指す目標に合致した教養知と専門知、学術知と実践知を育成します。

02

グローバル化を見据えた リーダー教育

教育のもう一つの軸となるのが、時代を牽引する女性リーダーとなり得る資質の養成です。キャリアデザインプログラムでは、コミュニケーション能力、問題解決能力、交渉・調整・マネジメント能力など、人間として基盤となる能力を磨きます。これは社会のリーダーに必要とされる力であると同時に、生涯にわたって自らを支える基礎力となるものです。

さらに、グローバル時代に不可欠な国際的な知見と能力の養成にも注力しています。高度な語学力、世界に対応できる文化リテラシーを育成するとともに、留学や研修などの機会を豊富に提供してきました。毎年、多くの学生が海外の大学や研究機関で研鑽を積んでいます。

03

領域を横断する 独創的なプログラム

教養教育、専門教育とも、基幹となる教育は2つの独創的なプログラムを軸に展開されています。

一つは教養教育の軸となる、「21世紀型文理融合リベラルアーツ」です。現代を読み解く鍵となる系列(テーマ)を設定し、系列ごとに領域横断的な科目を多数提供し、自然・人文・社会領域の総合的理解を深めます。次に専門教育では「複数プログラム選択履修制度」が軸となります。所属する学科が提供する主プログラムに、各自の目的に合わせて複数のプログラムを組み合わせることで学びます。専門領域をさらに深化して学ぶことも、領域を横断して学際的領域へ踏み込むことも可能な教育システムです。

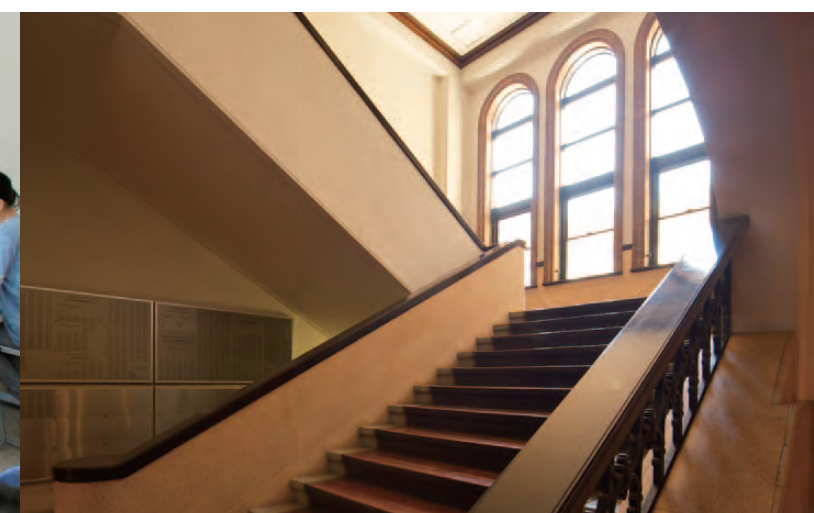
04

生涯にわたり 礎となる人間教育

就職率、進学率がともに極めて高いのも特筆すべき点でしょう。理系はもちろん、文系でも数多くの学生が大学院へ進学し、博士号を取得する者も少なくありません。就職先は民間企業や公務員、シンクタンク等の研究機関が中心で、それぞれ各分野の最先端で活躍しています。

また、いまだ結婚や出産、育児などの要因で離職する女性が多い日本において、お茶の水女子大学卒業者は生涯にわたって仕事と家庭を両立させている割合が極めて高いという傾向が見られます。これは自主自律の精神をしっかりと育んだ結果であり、自らの道を究めていく女性たちが数多く巣立っている証に他なりません。





05

アクセス至便、 緑豊かな文教地区

お茶の水女子大学は、都内交通のキーステーション・池袋駅まで地下鉄で2駅、東京、新宿などにも近い交通至便な場所にあります。住宅地を中心に形成される「文教地区」に位置し、近隣には小石川図書館、小石川植物園、六義園のほか、歴史上の文人・文化人が数多く眠る雑司が谷霊園など歴史と文化の香り漂うスポットが数多くあります。

周辺には他の国立・私立の大学、教育研究施設や文化施設が点在しており、学修や研究には格好の立地です。他大学や各種研究機関との行き来もしやすく、共同研究からサークル活動まで外部との交流も活発に行われています。また、羽田や成田からのアクセスも良いため、国内外から講師を招いての講演会なども盛んに企画されています。

06

豊かな学びを実現する 充実の施設環境

学生の自主的な学びの拠点となるのが附属図書館です。71万冊の図書と1万1千タイトルの電子ジャーナルをはじめ豊富な資料を提供、学修スペース「ラーニング・コモンズ」やコミュニケーションスペース「キャリアカフェ」などで、学修と知的交流を支えます。また、インターネットのアクセスポイントを図書館内はもちろんキャンパス内の各所に設置、ICT環境も整っています。

生活環境の整備にも注力しています。2011年、寮生がともに生活し、成長する新しい学生寮として、学部1、2年生対象のお茶大SCC (Students Community Commons) を開設しました。既存の学生寮 (国際学生宿舎、小石川寮) を含め、現在では計3寮に500人以上が入寮し、学生生活を満喫しています。

07

歴史と伝統に育まれた 学びの拠点

キャンパスには全学部と大学院、各種研究センター等、あらゆる大学機能が集結し、附属幼稚園、小・中・高校が併設されています。敷地内には、本学のシンボルとなっているイチョウ並木、国の登録有形文化財に登録されている正門と大学本館、大学講堂、附属幼稚園があり、伝統的な趣に満ちています。四季折々の花と緑に彩られたキャンパスは、落ち着いた雰囲気が漂う恵まれた環境となっています。キャンパス外では、千葉県館山に屋外教育施設を有し、東京都八王子と群馬県草津のセミナーハウスも利用することができます。これらの施設は休業中の集中講義や、ゼミ合宿、学生の自主活動に活用されています。

08

女性の立場に立った サポート体制

学生生活を支援する設備も細部にわたって配慮されています。キャンパス内にある学生センターでは専門のスタッフが、授業や学生生活、留学や就職まで、キャンパスライフのさまざまな悩みや相談に応えます。保健管理センターや専門のカウンセラーが常駐する学生相談室では、女性の心と体への深い理解に基づいて、心身両面からのサポートにも注力しています。

経済的支援では、寄附金などによるお茶の水女子大学独自の奨学金のほか、公共団体等の各種奨学金も用意しています。お茶の水女子大学では、細部にわたって環境を整え、明日を担う女性の育成に努めています。

未来の輝石

グローバルに活躍する女性リーダーへ

お茶の水女子大学から羽ばたき、グローバルに活躍する卒業生たち。
それぞれが感じるキャリアデザインについてお聞きました。



ピアニスト・日本女子大学 (非常勤助手)
石田 万紀 さん

2011年 文教育学部 芸術・表現行動学科
音楽表現コース 卒業
2013年 大学院人間文化創成科学研究科 博士前期課程
比較社会文化学専攻 音楽表現学コース 修了



日産自動車 車両生産技術本部
車両組立技術部 車両組立技術課
藤木 さゆり さん

2012年 理学部 化学科 卒業
2014年 大学院人間文化創成科学研究科 博士前期課程
理学専攻 化学・生物化学コース 修了



東京都水道局 給水部 配水課 計画担当
水野 杏子 さん

2012年 生活科学部 人間・環境科学科 卒業
2014年 大学院人間文化創成科学研究科
博士前期課程 ライフサイエンス専攻
人間・環境科学コース 修了

広く深い見識を身につけ、グローバルな活躍に挑む

現在、どのような仕事をされていますか？

水野さん●東京都水道局の仕事は、都民の方々に安全でおいしい水を安定してお届けすることです。その中でも、給水部配水課は区部において、給水所からお客さまの家の前までに布設された配水管の計画・設計・施工・維持管理を総括しています。私は主に配水管の取替計画を立てる仕事に携わっています。近年は、震災対策として避難所等への供給ルートを地震の揺れに強い耐震継手管へ取り替える事業を推進しています。

石田さん●私はピアニストとして活動しながら、大学の教育学科で将来、小学校や幼稚園の先生を目指す学生たちへのピアノの実技指導をしています。レッスンはマンツーマンで、学生たちのピアノのレベルはまったくの初心者から、ショパンの難曲をすらすら弾く上級者までさまざま。レベルに関わらず、一人ひとりに音楽の楽しさを知っていただきたいので、それぞれの個性や性格にも合わせて、ユーモアを交えながらレッスンできるように心がけています。

藤木さん●私は自動車メーカーに勤務してまして、試作車両をつくる段階における、設計の部署と現場で組み立て作業をする人の橋渡し役を担っています。3Dデータから初めて実際に車両を試作すると、設計者が考えた組み立て順序だとうまく部品がつかないなど、それまでわからなかった問題が見えてきます。私の仕事は、そうした一つひとつの課題をクリアするための調整をして、作業性をよくすることです。最終的には組み立てという作業を通して、車の品質向上を目指しています。

仕事のやりがいや魅力を教えてください

水野さん●東京都水道局が管理する配水管は、都内のいたるところに布設されていて、その長さは地球の約3分の2周にもなります。管路の口径は大きいものから小さいものまで様々で、口径が大きいほど輸送能力が高く、たくさん水を遠くまで運べるのですが、大きすぎると水が停滞してしまう上に経済的ではありません。そこで、その場所に適した口径の管路を布設して、適切な水圧で必要な水量をお客さまに届けるというのが私の仕事です。以前は、蛇口をひねれば水が出る、という当たり前のことがこれほど大変な仕事で成り立っているとは思いませんでした。都民の方々が毎日使う水道水を支える、縁の下の力持ちのような役割を担えることにやりがいを感じます。

石田さん●私の場合、レッスンでたまに自信がなくて不安そうにピアノを弾く学生を指導することもあります。そうしたときに「あなたの演奏のここがよかった。もう少しこうすると音楽的にもっといいものになりますよ」といったアドバイスをすることで、「あ、なるほど」と気づいてもらえることがあります。すると、レッスン前とレッスン後で、演奏が大きく変わり、本

人の表情もぱっと明るくなります。そういうときには、教える仕事をしていてよかったと思います。たとえ初心者でも、その人が音楽と心が通じ合い、素敵な音を奏でられる瞬間があります。そうした瞬間を大切にしたいので、技術だけを教えるのではなく、「この曲のこの部分はこういうイメージで」といった、演奏が楽しくなるようなアドバイスを入れるようにしています。
藤木さん●私はメーカー勤務ですので、自分が携わった車が道路を走っているところを見ると、やっぱりうれしいですね。さらに携わった車が人気車種になると、よりやりがいを感じます。試乗された方や、購入してくださったお客様の声として「いい車だ」といった評判を聞くと、この仕事をしていてよかったと思います。

水野さん●人との調整が多い仕事ですので、コミュニケーションをできる限り円滑に行うことは、つねに心がけています。一緒に仕事を進めていく皆さんに、気持ちよく仕事をしていただきたいので、感謝の気持ちを忘れず、まずは「ありがとうございます」から始めるようにしています。

藤木さん●水野さんと同じで、私の仕事も人と人の間に入って調整することが多いので、そこに難しさを感じることはあります。よくあるのは、設計はこう言っているけれど、現場ではこの作業はできないと言っている……といった板挟みの状態ですね。そうした場合に心がけているのは、きちんと理論立てて説明すること。「こういった理由があるので、どうしてもここは力をお借りしたい」と誠実に順序立ててお願いすれば、皆さんわかってくれ、頑張ってくれます。試作段階で課題をできるだけ解消しておくことで、ゆくゆく現場の負担が減り、いい仕事につながります。

グローバルな活躍をするために
必要だと思うことを教えてください

水野さん●私は大学院に在籍中、大学のプログラムで2回、イギリスとニュージーランドへ短期の語学研修に行かせていただきました。海外で学んでまず衝撃を受けたのは、どんどん質問が飛び交うこと。日本とは異なる講義風景に軽いショックを受けるとともに、私も積極的に質問しなければと刺激を受けました。外国で学んで自分自身の意識が大きく変化したことで、語学力も向上したと思います。じつは水道局を志望したのは、学生時代、ベトナムとカンボジアを旅行した経験もきっかけとなりました。日本では蛇口をひねれば飲める水が出るのが当たり前ですが、カンボジアでは水を使う環境がまだ整っていない場所を訪れました。途上国にはまだまだ水道が整備されていない地域もあります。東京都水道局は水道技術による国際貢献の事業も進めているので、私もアンテナを張って、機会があれば携わりたいと思っています。

基幹システムの導入という、 非日常の躍動感を共有

基幹システムを企業に導入する際のコンサルタントをしています。なかでも私が扱っているのは、標準的な機能がすでにできあがっているパッケージシステムです。とはいえ、そのままシステムを納品できるわけではありません。たとえば自動車を生産する場合、生産計画を日付ではなく時間単位で行う必要があるなど、会社ごとに機能を一部変更する必要があります。そうした変更に必要な情報をお客様から聞き取り、システムの設計図をつくります。基幹システムの入れ替えは、企業にとって何十年に一度の一大プロジェクトであり、責任ある仕事です。いわば非日常の業務に携わり、会社の熱意や躍動感を共有させていただけるのが楽しいところです。

お茶大で学んだことは、おもに2つあります。ひとつは丁寧な振る舞い。人に対して丁寧に接する学生や教職員の方々が多く、自然とそうした振る舞いが身についたようです。そこが仕事で評価されています。もうひとつは、英語力です。とくに英語圏言語文化コースは卒論を英語で書き、厳密に指導してくださったため、高い英語力が身につきました。仕事で文書を英訳した際、ネイティブの方に「完璧」といわれたこともあります。今後も長期的な視点で仕事を続け、女性が社会で活躍する道のひとつを拓ければと思っています。



#01

文教育学部 卒業

日本アイ・ビー・エム
GBS 事業部 (Global Business Service)

清水 由美 さん

2015年
文教育学部 言語文化学科 英語圏言語文化コース 卒業

人々が生涯にわたって 健康な生活を営めるように

スポーツ庁は、日本のスポーツ行政を担う文部科学省の外局の組織です。なかでも健康スポーツ課のミッションは、一般の人々の健康に寄与するスポーツを普及させていくことです。私は課内で進行するいくつものプロジェクトの状況を把握し、全体をマネジメントする業務を担当しています。まだ入庁3年目ですが、仕事の手応えを感じることも多くなってきました。たとえば平成29年3月、スポーツ基本法に基づき、第二期スポーツ基本計画が策定されましたが、その策定に関わった際には、細かい言葉の選び方の重要性、一言一言の重さを非常に感じました。各関係団体の調整などが難しく、苦労したことも多いのですが、自分の手がけた仕事が世の中に出ていく瞬間を経験することで、大きな達成感を得られました。

もともと私はどちらかというと物事の大枠をとらえることが苦手なタイプだったのですが、お茶大の研究室の先生に指導していただいた「全体を組み立ててから、各論を書く」という考え方が、仕事の上でとても役立っています。お茶大で学んでよかったと思うのは、自分も他人も大事にできる素敵な友人たちに恵まれたことです。進路ガイダンスや懇親会などでOGや先輩方の話を聞くチャンスも多く、多くの人たちに温かく見守っていただきながら、安心して成長できたと思います。

自分が歩いてきた道を忘れることなく、目の前のことを一歩ずつやっていき新しい自分になっていきたいですね。今後は教育者としても経験を積み、成長していきたいと思っています。
藤木さん●私は将来的には、海外の工場などで仕事をしてみたいと思っています。また、現場に近い視点をもって設計に近い仕事をしてみたい気持ちもあります。もちろん大きな目標は、世界で愛されるいい車をつくること。いつか「あの車をつくったのは、あなただ」と言ってもらえるくらいの仕事ができたらうれしいですね。結婚はしたいと思っています。ただ、海外転勤の可能性もありますから、結婚出産を考えると、そのタイミングに悩むところです。子育てしながら活躍している女性社員も多いので、会社と相談しながら挑戦したいですね。

お茶の水女子大学のどのような点が魅力ですか？

水野さん●お茶大の大きな魅力は、少人数で学べること。私のときは学科で20人余りでした。そのため、先生方との距離が近く、気軽に質問できる身近な存在だったことが印象的です。大学4年間は長いようで、あっという間です。しかし、私にとってとても多くのことを経験できた貴重な歳月でした。これからお茶大で学ぶ後輩の方々にも、貴重な時間を悔いのないよう精一杯過ごしてほしいと思います。

石田さん●私も少人数で学べたことが、とてもよかったと思います。私が学んだ音楽表現コースでは、第一線で活躍されている先生方から音楽の深いところまで指導していただくことで、音楽に携わるものとしての「覚悟」を得られました。とくにレッスンを通じて、単にテクニックだけではなく、ピアノを弾いていくうえですごく大事な心の持ちようを授けていただいたと思います。また、音楽についてはもちろん、専門領域を超えて幅広く授業を選択できたので、総合大学ならではの見識が深まり、海外での演奏活動にも生かすことができました。お茶大は自分の専門領域の興味を深め、世界を広げられると同時に、幅広い視点でいろいろな分野を見ることができ、自分がやりたいことを探せる大学だと思います。

藤木さん●私がお茶大の魅力だと思うのは、留学プログラムが本当に充実している大学だということです。私は大学のプログラムを使って、在学中にニュージーランド、イギリス、大学院に進学してからドイツに2回と合計4回海外に行かせていただき、その経験が現在の仕事に役立っています。費用の自己負担がほとんどなく、とても助かりました。また、お茶大は女性が活躍していくためのサポートが徹底している大学だと思います。現在活躍されているキャリアの先輩方の話を聞く機会も多く、社会で活躍する女性のロールモデルがたくさん用意されています。これから社会で活躍したいと考えている女性にとっては、非常に学べることの多い大学だと思います。

石田さん●私は大学院修了後、もっと音楽を勉強したいと思い、ドイツのドレスデン音楽大学に2年半、留学しました。留学中はレッスンのほかに、コンクール出場やリサイタルの機会をいただいてスペイン、オーストリア、イタリアと各国を巡り、とても濃密な月日を過ごすことができました。留学して実感したのは、西洋音楽はやはりヨーロッパに根付いているものということ。あちらではキリスト教が根付き、多くの方が日曜になるとミサに出かけ、教会では讃美歌やパイプオルガンが演奏されます。西洋音楽には宗教という背景があり、リサイタルで私の演奏を聴いてくださった年配女性から「音楽は神様から授かったもの」という言葉をかけていただいたことが印象的でした。留学の経験を通して思うのは、他者を理解し、他者に関心をもつことを自分の喜びにできることが大事だということ。海外では日本に暮らしていたらあり得ないと思うことも起こりますが、日本人としての意識や誇りをもちつつ、その国の文化や国民性といった異文化に対する柔軟な理解が必要だと思います。

藤木さん●私もそう思います。日本人とは違う相手をきちんと受け入れて、一番よい条件を検討していくというのがグローバルな活躍にもっとも必要なことだと思います。日々の仕事で海外の工場とやりとりをする機会が多く、そこで感じるのは、国によってまったく考え方が違うということ。国民性はもちろん工場の設備や、作業員の技術レベルも異なり、たとえばある国の工場ではできる作業が、違う国ではできないということもあります。また、単純に体格の差によってできる仕事とできない仕事に分かれることもあります。小柄な日本人なら車内で作業ができるけれど、大柄な体格の人が多いアメリカ人はできないことも。そうした違いにひとつずつ対応していく必要があります。国境を超えたチームで課題を乗り越え、新しい車が市場に出たときの達成感はとても大きいですね。

今後、挑戦したい仕事や やりたいことを教えてください

水野さん●チャンスを見つけて、ぜひ国際貢献に携わる仕事に取り組みたいという思いをずっと抱いています。また、近年、東京都水道局では国内貢献の事業にも力を入れています。東京都は1300万人の生活を支えてきた実績と、いろいろな課題を乗り越えてきた歴史があります。ほかの地方自治体の役に立てることがあれば、技術協力や提案などにおいて、私も携わりたいと思っています。また、プライベートでは、結婚して家庭をもつというのは一つの目標です。公務員は家庭と両立しやすい仕事だと思うので、うまく両立していければと思います。
石田さん●現在、大学のほかに自宅でもピアノを教え、演奏活動も続けています。今後は地元の千葉を中心に、音楽をもっと身近に感じていただけるような活動をしていきたいと思っています。私にとってピアノを弾くということは、自分と向き合うということ。ときに自分の限界と向き合います。そのような「挑戦」が課された人生は価値があると信じています。今まで



#02

文教育学部 卒業

スポーツ庁 健康スポーツ課 企画係

古屋 桃香 さん

2013年 文教育学部 人間社会学科 心理学コース 卒業
2015年 大学院人間文化創成科学研究科 博士前期課程
人間発達科学専攻 心理学コース 修了

本質的な数学の面白さを 生徒全員に伝えたい

私が高校2年生のときに数学を教わったのが、お茶大の数学科出身の先生。その先生の授業は、ただ教科書の内容をなぞるだけではなく、「なぜこの方法でうまく解けるのか?」といった、本質的な数学の面白さに迫るものでした。そのときに知った数学の面白さを多くの人に広めたいと思い、教員を目指すようになりました。私が授業で心がけているのは、単なる解き方のテクニックだけではなく、より本質的な部分に迫っていくことです。かなり難しいことを教えているという自覚はありますが、「なぜだろう」という疑問をもち、立ち止まって考える時間がある方が面白いと思うからです。授業中、教科書にない疑問を投げかけ、生徒たちが答えにたどり着いて「いい顔」を見せてくれると、数学教師としてうれしく思います。それは、彼女たちの中で何かが生まれた瞬間です。

お茶大の特長のひとつが、附属学校園がすべて敷地内にそろっていることです。私は大学院の2年間、附属高校で非常勤講師をさせていただいたので、その経験からある程度の自信をもち、生徒の反応を予測しながら授業を組み立てられるようになりました。数学の教員として思うのは、数学を楽しんでほしいということ。純粋に勉強したいという気持ちで、数学を学んでもらえる授業をしたいと思っています。



理学部 卒業

桜蔭学園教員 小林 千洋さん

2013年 理学部 数学科 卒業
2015年 大学院人間文化創成科学研究科
博士前期課程 理学専攻 数学コース 修了

#04



理学部 卒業

三菱商事 地球環境・インフラ事業開発グループ
インフラ事業本部 水事業部 事業開発チーム

太田 茜さん

2013年 理学部 物理学科 卒業

世界の人々の暮らしを守る インフラ事業を支えます

インフラ事業を核とするグループで、国内外の水事業の投資に関わる仕事をしています。私の仕事は、大きく分けて2つあります。ひとつは新規の事業投資案件の開発サポート。基礎調査から出資までに数年かかるプロジェクトもあります。もうひとつは、チリやイギリスなどにある既存の事業投資先の管理です。世界中にいる駐在員のサポートも大事な仕事です。

国によってビジネスの進め方はもちろん、規制や出資形態なども違いますから、そこをうまく調整して、ゴールに近づけていくことがこの仕事の面白さです。チーム全体を見渡して、サポートをすることが私の役割。日本にいながら世界を感じるこのできる、やりがいのある仕事です。

お茶大の物理学科で出される講義レポートの中には1日では解けない難しい問題もあったことが印象的です。授業前や休み時間に友人たちで集まり、議論をしながら解いた過程が私にとって大きな力となりました。少人数だからこそ、答えにたどり着けるかわからない議論にもチャレンジすることができましたし、一人ひとりの得意不得意を補い、力を合わせて解決していくというチームワークの礎を築けたと思います。

#03

生活科学部 卒業

栃木県県南児童相談所

石井 水紀さん

2015年
生活科学部 人間生活学科 発達臨床心理学講座 卒業

#05



ゼミで学んだ「資料批判」の 精神が役立っています

大学2年の夏、ニュージーランドで6週間の語学研修を経験しました。その際、小さな町でのんびりと仲良く暮らしている家庭に滞在し、「私もこのような暮らしをしたい」と思うようになり、故郷の福井市に戻って就職しました。

現在の私の仕事は、固定資産税について、用途に応じて課税を見直すことです。たとえば更地に住宅が建つと、住宅用地の特例により土地の税額が安くなり、一方で建物の分が新たに課税されます。先祖代々受け継がれてきた土地や、大切な新築住宅などに対して税金をかける仕事ですので、どちらかという市民の方々からは敬遠されることもあります。課税の根拠をお伝えし、こちらの思いが伝わったと感じたときは安心します。適正な課税を実現するため、現況確認の際は必ず単独ではなく、2人1組で行動するなどチームワークで成り立っている仕事です。

お茶大での学びで一番印象に残っているのは、ゼミの先生から学んだ「資料批判の精神」です。本の内容を素直に受け止める姿勢も大事ですが、そこに書かれていない裏側の内容をくみ取って読み解くことも大切という精神です。一歩引いた姿勢で、物事の本質に迫るというこのアプローチ方法は、仕事のうえでも役立っていると感じています。

#06



生活科学部 卒業

福井市役所
財政部 税務事務所 資産税課

野坂 朋代さん

2008年
生活科学部 人間生活学科 生活文化学講座 卒業

子どもたちに寄り添い、 前向きに進めるよう支援

ケースワーカーとして、子どもに関する相談全般を受けつけ、支援につなげる仕事に取り組んでいます。児童相談所に来る子どもたちは、一人ひとりが何らかの事情を抱え、心身に傷を負っているケースも珍しくありません。そのような子どもたちは、大人に対する警戒心や不信感を強くもっていることが多いため、信頼してもらうまでにとてども時間がかかります。しかし、どんな状況であろうとも「私はあなたと関わっていく」という姿勢を崩さず、背景にどんな問題があるのかという意識をもって関わるよう心がけています。少しでもその子が自分の思いを話し、自信をつけ、自分の人生を受け入れて頑張っていこうという様子が見えたときには、この仕事に取り組んでいてよかったと思います。子どもたちの背景、環境全体を見て、支援のあり方を考えなければなりません。

お茶大では現場実習が週2〜3回と多く、幼稚園、保育園、公立小中学校、特別支援学校とさまざまな現場で長期にわたって子どもと関わることができ、貴重な経験を積みました。また、少人数なので、ディスカッションの場面ではつねに自分の意見が問われました。現在、仕事で担当者としての意見をもち、内外にしっかり伝えなければなりません。学生時代の経験が、そうした力を伸ばしてくれました。



教育の特色



「リベラルアーツ」と「複数プログラム選択履修制度」を軸に 実践的語学力を強化する「ACTプログラム」、四学期制を導入

お茶の水女子大学では、教養教育と専門教育それぞれに独自の教育システムを導入しています。1・2年次は、自分の将来を切り拓くために必要な広い視野と考える力を身につける「21世紀型文理融合リベラルアーツ」を軸に、言語や情報など必要な基礎を学びます。「グローバル教育」では外国語(コア科目)の必修単位を増やすとともに、「ACT(Advanced Communication Training)プログラム」を導入した英語教育で発信力を強化するなど、外国語教育の充実を図っています。また、2014年度から前学期・後学期を分割し、一部授業での四学期

制を導入し、サマースクールや語学研修などの海外留学を促進する環境を整えています。

専門教育課程では、「複数プログラム選択履修制度」を導入し、それぞれの目標に向かって複数のプログラムを組み合わせながら自在に学べるシステムを実現しています。さらに「キャリアデザインプログラム」で社会のリーダーとなり得る礎を築くなど、多角的かつ独創的な教育を展開しています。

▶ 教育プログラムカリキュラム表

※単位互換大学についてはP031学部・学科・プログラム一覧をご覧ください。

1年次	2年次	3年次	4年次
01 教養教育 (コア科目) →P018へ これからの学修・研究をしていくための「コア(core)=芯」となる科目で、現代世界を理解するために重要な問題領域を捉える視点を養います。「21世紀型文理融合リベラルアーツ」科目群のほか、基礎講義などで構成されています。 ●21世紀型文理融合リベラルアーツ 自然科学、人文科学、社会科学を融合した多角的なプログラム。領域横断的視野、課題解決能力、論理的思考力を養います。 ●その他のコア科目 基礎講義……社会生活で必要となる基本を学びます。 情報……教育・研究活動で必要となるスキルと知識を学びます。 外国語……英、独、仏、中、露、朝鮮語等の授業を用意しています。 スポーツ健康…健康・体力の維持増進と身体への理解を深めます。 02 専門教育 →P020へ 高度な専門性ととともに、その能力を発揮できる知識と技能を体系的に学ぶことができる専門教育課程です。お茶の水女子大学では、学生一人ひとりが自分の目的に合わせ、より主体的な学修プログラムを構築できる「複数プログラム選択履修制度」を導入しています。2～3種類のプログラムを組み合わせ、履修するこの制度では、専門を深めるだけでなく、異なる部門へ発展させることも、学際領域へ踏み込むこともできます。 ●複数プログラム選択履修制度 主プログラム 専門的な知識や技能の基礎を学びます。 副プログラム 主プログラムと異なる分野の学修をします。 強化プログラム 専門分野に特化した深い専門性を培います。 学際プログラム さまざまな分野を融合する最先端の学際型の知識や技能を学びます。 専修プログラム(4年一貫制) ■卒業論文・特別研究			
03 グローバル教育 →P022へ グローバルに活躍できる人材を育成するプログラムです。外国語教育で1年次から語学、プレゼンテーションなどの情報発信力を強化するほか、専攻分野を英語で学ぶ授業を設けました。また、英語で行う集中講義や交換留学生との交流などを通して文化リテラシーを育みます。 留学や語学研修、海外でのボランティア活動や調査研究活動などのプログラムを充実させ、多くの学生が海外体験を積めるよう、金銭的支援など各種サポートを整備しています。 ●ACT(Advanced Communication Training)プログラム あらゆる活動の基盤となる語学力を1年次の教養課程から強化する、実践的な上級英語プログラムです。「英語を学ぶ」だけでなく「英語で学ぶ」ことを取り入れ、会話力・作文力に力点を置いた授業で、グローバル人材に必要な英語力を養います。 ●その他のプログラム サマープログラム／交換留学／海外短期研修			
04 キャリアデザインプログラム →P026へ 就業力の養成を目的としたプログラムです。1～3年次を中心に、意識的・計画的に大学での学修を進められるよう、自分の学業を計画的にプランニングする基礎をつくります。同時に、専門教育で培った力を社会で存分に発揮するための礎となる基礎力を養います。コミュニケーション力、計画実行力、ICT活用力、関係構築力、創造性、社会性など、社会で必要とされる力を包括的に身につけます。 ●キャリア支援 通年で就職活動に役立つノウハウや情報を提供しています。			
05 教員免許等資格取得課程 →P028へ 各種資格取得には、それぞれ履修の必要な科目があります。			



教育の特色：教養教育

01 21世紀型文理融合リベラルアーツ

自然科学・人文科学・社会科学の領域を横断し 知の基盤を学び、広い視野を身につける

お茶の水女子大学の教養教育の中核をなすのが、文系・理系を融合した「21世紀型文理融合リベラルアーツ」です。

1～2年次を中心に履修するプログラムで、現代世界を読み解く「鍵」となる5つのテーマごとの系列科目群と演習からなっています。

高度な専門教育を支え、使いこなすためには、発信・交渉能力と領域横断的な広い視野、変化に対応する

判断力が必要です。これらの能力は、どんな専門分野に進んでも重要な基礎となるもので、

生涯をととして、自在(リベラル)に使える技(アーツ)となります。

1年次のうちからリベラルアーツの系列科目群を体系的に学ぶことで、文系、理系の領域を横断した視野を獲得するとともに、

教養教育と専門教育を結びつける能力を養うことができます。

プログラムの特徴

リベラルアーツは文系・理系にまたがる5つのテーマ（生命と環境、色・音・香、生活世界の安全保障、ことばと世界、ジェンダー）にそって、講義、討論、発表、演習・実験・実習を組み合わせた系列科目群からなっています。各人がそれぞれの目的や興味によって学科を問わずに自由に選択することができ、1年次から専門性の高いテーマを自然科学・人文科学・社会科学の3つの角度から多角的かつ体系的に学ぶことができます。目標はテーマを根源から理解することです。ひとつのテーマに文理双方から問題を問いかけることで、そこを「切り口」として深く掘り下げていくなかで、学術的にも価値ある領域横断的な知識と経験を身につけ、さまざまなシーンで応用可能な実践力を高めていきます。なお、必要単位数を履修すると、申請に基づき成績証明書に「系列履修認定」が明記されます。

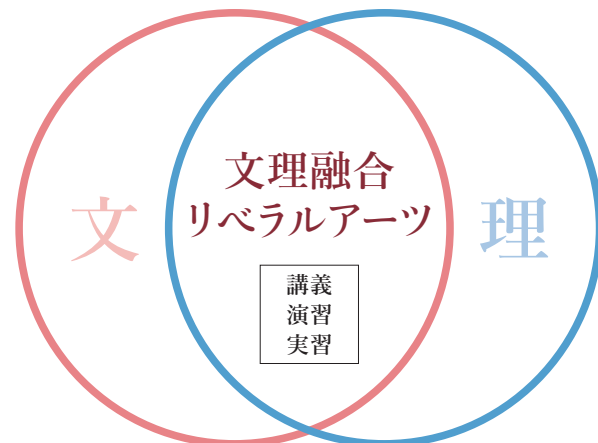
テーマと系列科目群

各系列にはそれぞれ2年間を1クールとする「講義」と、少人数形式で行われる「リベラルアーツ演習」の2種類の授業科目が用意されています。

講義では、テーマに立脚した課題学修を通じて、学問分野の基礎を修得するとともに、自然・人間・社会の関係や相互作用を多面的に理解することを目的とします。

演習には、3つの学部の教員が自由に対象やテーマを設定して行う科目と系列に関連した科目があります。テーマに関連するテキスト（書物や論文）を読み、発表・討論し、レポートを書くことで、読み・聞き・書き・語り・作るという作業を通じて、思考力やコミュニケーション力を養成します。

採取や観察などを含む実験や、実習、インターンシップなどを通して具体的な体感を得て、知識を経験に裏付けられた実践力へと高めていく科目もあります。



発信・交渉能力
広い視野
判断力



専門教育

リベラルアーツの5つのテーマ

生命と環境

近年、生存の場としての環境の重要性はますます強く認識されるようになっていきます。環境とのかかわりを深く理解し、新たな共生の方法を創成することは、21世紀を生きる私たちに課せられた重大な使命です。生命を守るための環境への配慮を行うために必要となる、「複眼」的視野の導入を図ります。生命とは何か、現代科学における生命像、生命倫理から生命を取り巻く自然環境、文化環境、地域と風土などの問題を扱います。

- 講義 : 生命の科学、生命倫理と法、多様性生物学、生物人類学、生命と環境の化学、惑星地球の科学、文化と環境、地域と風土
- 実習 : 基礎生命科学、海洋環境学ダイビング



色・音・香

色・音・香という身近な感覚、感性を共通の切り口とし、自然の原理と私たちの文化や社会について学びます。色・音・香を通じて自然現象の基礎を理解するとともに、人間（生物）が自然界や社会・文化的情報をいかに認識し、受容して利用していくのか、さらにそれをどのようにして社会的、文化的情報として蓄積していくかを探究し、広く人間と自然、人間と社会の相互作用についての理解の視点を養います。

- 講義 : 分子から見た色と香り、生命と色・音・香、色・音・香の物理学、コンピュータが創る色と音、情緒と発達の心理学、色・音・香と生活文化、舞踊における色・音・香、宗教と色・音・香、おいしさと色・音・香、知覚認知と環境デザイン



生活世界の安全保障

人間は安全を確保するため、さまざまな社会的・技術的・文化的な装置を作りだしてきました。しかし時代の進展につれ、テクノロジーの発展によって克服された危険がある一方で、それが逆に新たな危険や抑圧・不平等などの脅威を発生しています。身近な安全を守るために何が必要かを考えることを通じ、技術と制度と文化の相互関係や生命としての人間のあり方を捉え直します。

- 講義 : 生活世界と法、情報社会の安全保障、リスクの社会史、平和と暴力、現代物質文明の履歴、ゲノム時代の健康管理、水の安全保障、社会的弱者の存在論
- 実習 : NPOインターンシップ



ことばと世界

ことばは世界とどのようなかかわりを持つのでしょうか。ことばは何を表し、私たちはそれによって何を表現しているのでしょうか。人間を取り巻く世界（人間社会や自然界）を、人間はどのようにして記述し、どのように伝えてきたのでしょうか。自然言語、数学言語、コンピュータ言語など科学の「知」を記述することばの仕組みと働き、文学作品や新聞・雑誌などに記述された言語による表現世界など、ことばについて多面的に考えます。

- 講義 : 日本語論、言語の習得と発達、論理学、文化の記号学、日本文学、海外の文学、数理のことば、自然のことば、グローバル化社会を生きる、文法と意味、知能環境論



ジェンダー

ジェンダーは社会や文化によって形づくられた性別であり、グローバル化が進む現代では実に巧妙に私たちの生活に入り込んでいます。性別に関係なく充実した幸福な生活を営める社会にするために、何を考え、どう研究すればよいかを学び、ジェンダー視点の導入を行います。政治、経済、地域文化、国際、歴史、文学、アート、テクノロジーなど様々な学問領域を通して、今を生きるジェンダー学を学ぶことで視界を拓き、新しい知の担い手として活躍できる国際人を目指します。

- 講義 : 女性史・男性史とジェンダー、グローバル経済とジェンダー、政治・政策とジェンダー、文化メディアとジェンダー、アートとジェンダー、宗教文化とジェンダー、グローバル化／ローカル性とジェンダー、テクノロジーとジェンダー



- 系列関連演習 : トランス・サイエンス論入門、地図を読む、おいしさのサイエンス、手話学入門



教育の特色：専門教育

02 複数プログラム選択履修制度

4種のプログラムを自在に結びつけながら 多様で主体的な学びを実現する

リベラルアーツ教育を基礎とする専門教育課程には「複数プログラム選択履修制度」があります。

まず、第1のプログラムとして、所属する学科（コース・講座・環）の開設する主プログラムを必修とします。

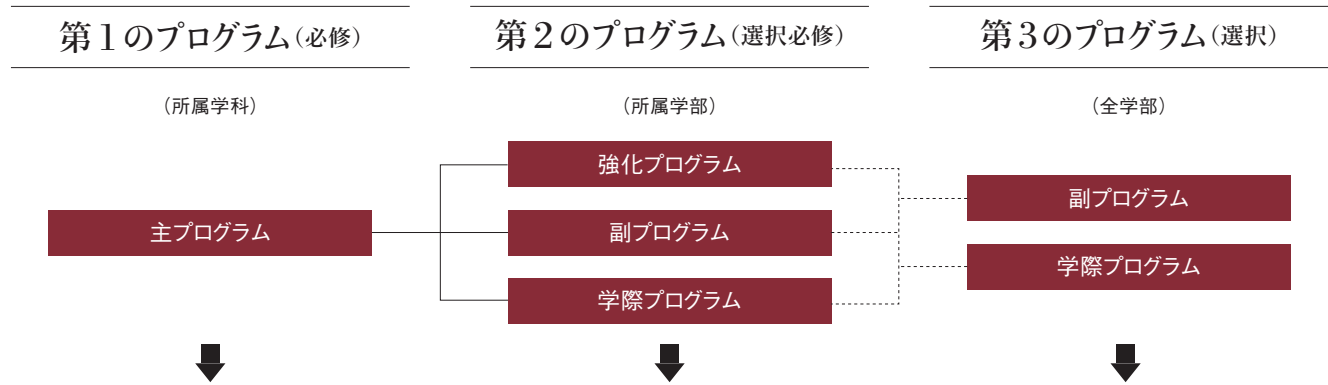
次に、第2のプログラムを所属学部プログラムから選択します。専門領域に深く特化するなら強化プログラム、

複数の専門領域を横断的に学ぶなら副プログラム、領域融合型・学際型を目指すなら学際プログラムを履修します。

さらに第3のプログラムとして副・学際プログラム（他学部を含む）を選択することもできます。

目的に合わせて最大3プログラムまで選択できる、主体的な学びのための教育システムです。

なお、文教育学部人間社会科学科総合人間発達科学プログラム、芸術・表現行動学科及び生活科学部食物栄養学科は、
上記とは異なる4年一貫の専修プログラムにしたがって学修しますが、ニーズに応じて第3のプログラムとして副・学際プログラムを選択できます。
主プログラムまたは専修プログラムを選択した学生が所属し、専門教育を学んでいく足場となる教育組織が学科、またはコース・講座です。



■ **主プログラム**：各専門領域の基礎的な知識や技能を、一貫的、調和的に修得するためのプログラムです。所属学科の開設するプログラムから選択します。

■ 文教育学部と生活科学部人間生活学科の学生は、主プログラムを1年次修了時に選択します。理学部と生活科学部人間・環境科学科及び心理学科の学生は入学時点で決定しています。なお、第2・第3のプログラムは全学部とも2年次修了時またはそれ以降に選択します。

※ グローバル文化学を主プログラムとする履修者は、必修プログラムとしてグローバル文化学主プログラムを選択し、第2のプログラムとして所属学科のいずれかの提供する副プログラムを履修します。

■ **強化プログラム**：各専門領域のより高度な科目群からなり、専門領域に特化した深い専門性を培うためのプログラムです。主プログラムと同一名のプログラムを履修します。

■ **副プログラム**：学生の多様な能力・適性及び学修意欲に応え、専門とは異なる分野の幅広い学修機会を提供するためのプログラムです。所属学部のプログラムから、主プログラムと異なる分野のプログラムを履修します。

■ **学際プログラム**：新たな領域融合型ないし学際専門領域に即応し、先端研究分野で要請される新しい専門人材養成に対応するプログラムです。所属学科の開設するプログラムから履修します。

■ 他学科、他学部の提供する副プログラムや学際プログラムからも選択できるため、学問領域を横断して学びたい場合に有効です。第2のプログラムで選択したもの以外に、もう一つの副プログラム・学際プログラムを学ぶことができます。

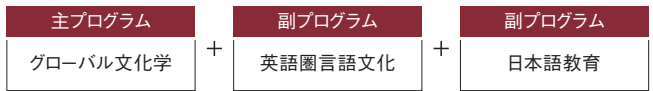
■ **副プログラム**：他学部のプログラムも選択できます。

■ **学際プログラム**：他学部のプログラムも選択できます。ただし、理系学科提供のプログラムを、文系学科所属の学生が履修することはできません。また、3つのプログラム外の専門教育科目を選択して履修することもできます。

プログラム履修例

文教育学部

「NGOや国連など国際的な場で活動したい」
国際情勢など幅広い視野を身につけて、世界の国や地域について造詣を深め、国際協力に従事することを目標にプログラムを選択

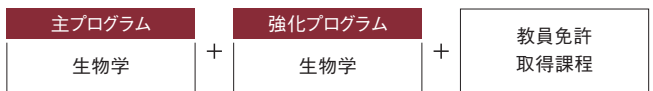


「中学校・高校の先生になりたい」
中学校・高校の教員（社会・地理歴史）を目指して、教科の専門分野とともに、教育科学の知識を学べるようにプログラムを選択

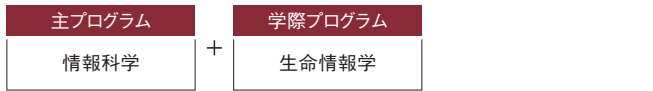


理学部

「高校の生物の教師になりたい」
高校の生物教師になることを目標に、生物学を重点的に学べるプログラムを選択

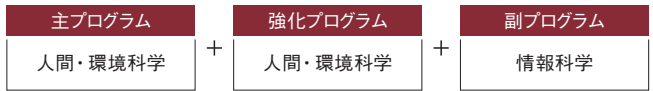


「ICT(情報通信技術)関連のグローバル企業で活躍したい」
希望進路に必要な情報通信の専門的知識に加え、自身の知識の幅を広げるためにゲノム研究について学べる学際プログラムを選択



生活科学部

「身のまわりの課題を理工学的に考えてみたい」
研究や進路の幅を広げられるように、人間と環境とともに情報技術についても学べるプログラムを選択



「行政や企業で消費者に関するエキスパートとして働きたい」
社会科学の基礎的な考え方を学ぶとともに、消費生活アドバイザーの資格取得も目指してプログラムを選択



開設プログラム一覧

主プログラム	強化プログラム	〈文教育学部〉	副プログラム	〈文教育学部〉
		人文科学科 言語文化学科 人間社会科学科 人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科	哲学・倫理学・美術史、比較歴史学、地理環境学 日本語・日本文学、中国語圏言語文化、英語圏言語文化、仏語圏言語文化 社会学、教育学、子ども学、舞踊教育学、音楽表現 グローバル文化学（主プログラムのみ）	哲学・倫理学・美術史、比較歴史学、地理環境学、日本語・日本文学、中国語圏言語文化、英語圏言語文化、仏語圏言語文化、日本語教育、社会学、教育学、子ども学、舞踊教育学、音楽表現
主プログラム	強化プログラム	〈理学部〉	副プログラム	〈理学部〉
		数学科 物理学科 化学科 生物学科 情報科学科	数学 物理学 化学 生物学 情報科学	数学、物理学、化学、生物学、情報科学
主プログラム	強化プログラム	〈生活科学部〉	副プログラム	〈生活科学部〉
		人間・環境科学科 人間生活学科 心理学科 ※	人間・環境科学 生活社会科学、生活文化学 心理学	人間・環境科学、公共政策論、ジェンダー論、生活文化学、心理学
主プログラム	強化プログラム	〈文教育学部〉	副プログラム	〈文教育学部〉
		グローバル文化学	グローバル文化学	グローバル文化学
主プログラム	強化プログラム	〈理学部〉	副プログラム	〈理学部〉
		応用数理(数学科、物理学科、情報科学科)、物理・化学(物理学科、化学科)、ケミカルバイオロジー(化学科、生物学科)、生命情報学(生物学科、化学科、情報科学科)	応用数理(数学科、物理学科、情報科学科)、物理・化学(物理学科、化学科)、ケミカルバイオロジー(化学科、生物学科)、生命情報学(生物学科、化学科、情報科学科)	応用数理(数学科、物理学科、情報科学科)、物理・化学(物理学科、化学科)、ケミカルバイオロジー(化学科、生物学科)、生命情報学(生物学科、化学科、情報科学科)
主プログラム	強化プログラム	〈生活科学部〉	副プログラム	〈生活科学部〉
		消費者学	消費者学	消費者学

※心理学科については、2018年度設置届出書類提出中（2017年5月時点）。心理学科設置は予定であり、変更があり得る。

（ ）は提供学科



03 グローバル教育

留学などの海外経験と語学力強化プログラムなどにより、世界にはばたくグローバル人材を育成する

お茶の水女子大学は高度な国際性を備えた人材育成を目指してグローバル教育を推進しています。

世界25カ国、71大学(2017年3月現在)に協定校を有し、そのネットワークを礎に長期、短期の留学の場を提供するとともに、国際協力や海外実習、語学研修等のプログラムで、英語力はもちろん、多言語、多文化能力の強化を図ります。

海外との交流も盛んで、毎年、海外から多くの留学生を受け入れた結果、留学生は学生総数の約10%を占めています。

短期留学、受入の促進をめざした4学期制の実施、本学でのサマープログラムの開催、海外でのインターンシップ、日本語教育実習、ボランティア活動、国際調査などの展開を進めています。また、グローバルキャンパスを実現し、語学力強化を図るため、英語による授業や留学生と日本人が同じ教室で学ぶ交流型授業、TV会議システムを用い海外の教室とともに学ぶ国際遠隔授業、各種国際フォーラム、セミナーなども活発に行っています。

VOICE

グローバル社会に必要なグローバル力強化！



森山 新 教授
国際教育センター長

世界は急速にグローバル化しており、もはや国境を超えることは当たり前のこととなっています。2020年にオリンピックが開かれる東京にはますます多くの人々が海外から訪れるでしょうし、社会は今、グローバル時代を生き抜き、リードする人材を必要としています。本学では交流型授業、TV会議授業、ACTプログラムなどを通してキャンパスのグローバル化を推進、学生時代に国際交流の機会を日常的に体験し、それをステップとして短期語学研修や短期プログラム、さらには半年～1年の長期留学と、3段階のグローバル人材育成プログラムを用意し、全ての学生がそれぞれのニーズに応じてグローバル力を強化できるようにしています。

グローバル女性リーダー育成のための各種プログラム

お茶の水女子大学では留学などの海外経験をより有意義なものにできる基盤として、外国語のカリキュラムや留学前後のプログラムの充実を図っています。

その強化策のひとつが、発信型の外国語教育です。「ACT (Advanced Communication Training) プログラム」では、会話力、記述力に加えてプレゼンテーション能力を育成します。さらに、分野ごとの専門英語のカリキュラム「アカデミック・ライティング」も拡充し、実践力のある語学力修得を目指します。

また、海外でのフィールド調査やインターンシップ、産業界との連携による各研究機関でのインターンシップなどの機会の拡充も進められています。類型に囚われない独自の視点から構築した国際教育の実践で、真に国際社会で活躍できるグローバルな女性リーダーを育成しています。

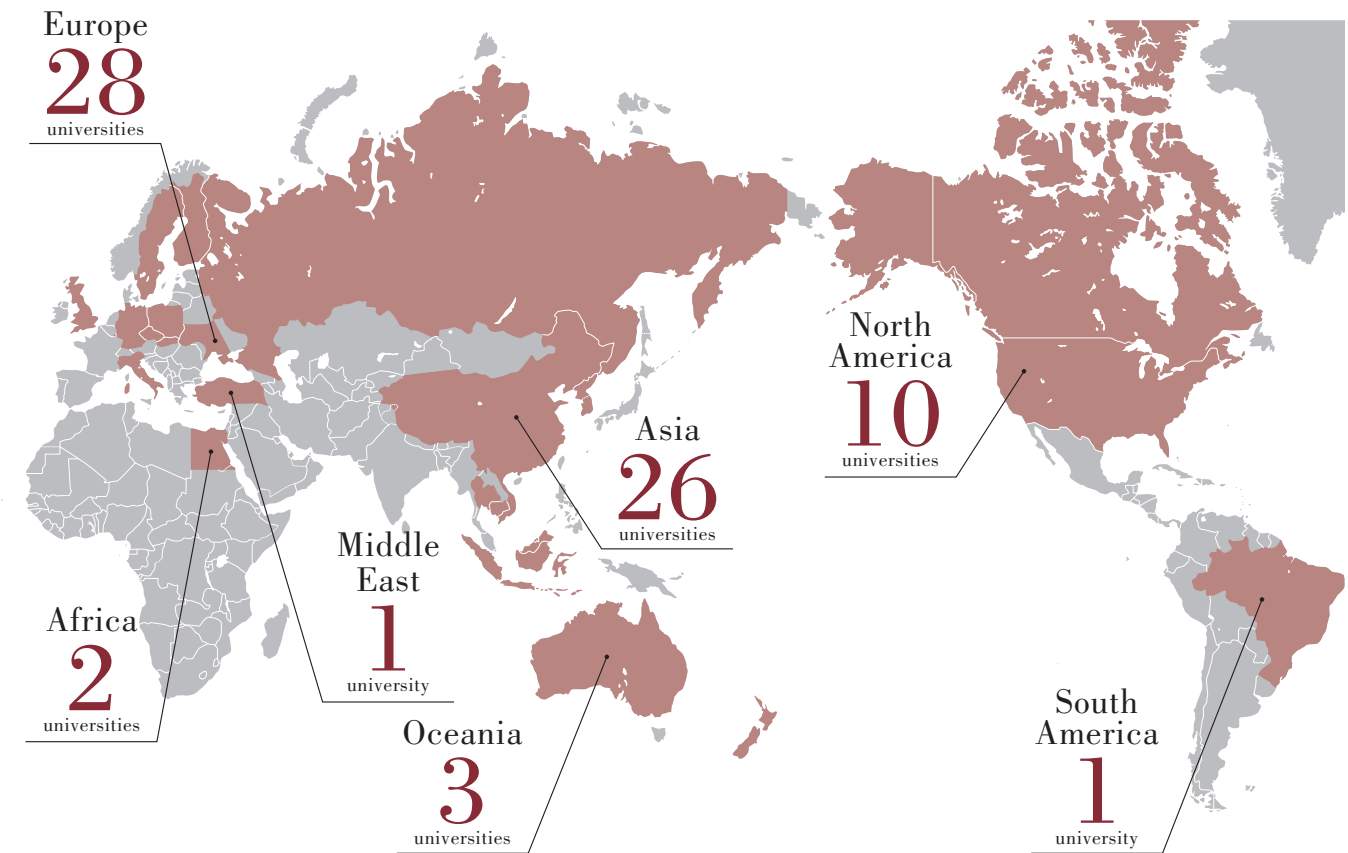
TOPICS グローバルな教育と実践をつなげる国際協力活動

お茶の水女子大学では、アフガニスタンの女子教育への支援をはじめとして、途上国の課題、グローバルな課題に取り組んでいます。例えば、「国際共生社会論実習」では、ネパール、カンボジア等の開発途上国での調査を行い、教育、保健、女性のエンパワメント等について、現場から学んでいます。また、「共に生きる」スタディグループでは、学生による勉強会や国際協力の取組を支援しています。



大学間交流 協定大学 (25カ国、71大学)

▶ 協定大学所在地



▶ 協定大学一覧

アジア	インドネシア：インドネシア国立芸術大学デンパサール校／韓国：韓国芸術総合学校舞踊院、慶北大学校、啓明大学校、建国大学校、高麗大学校、淑明女子大学校、同徳女子大学校、釜山外国語大学校、釜山大学校、梨花女子大学校／タイ：アジア工科大学院大学、タマサート大学、チェンマイ大学、プリンス・オブ・ソンクラーク大学／台湾：開南大学、国立政治大学、国立台北芸術大学、国立台湾大学／中国：大連外国語大学、北京外国語大学、北京大学歴史学系、復旦大学歴史学系／ベトナム：国立ハノイ教育大学、ハノイ大学、ベトナム科学技術アカデミー・ゲノム機関
中東	トルコ：アンカラ大学
アフリカ	エジプト：カイロ大学、マンソウラ大学
北米	アメリカ：ヴァッサー大学、オルブライト大学、カリフォルニア大学サンディエゴ校、カリフォルニア大学デービス校、カリフォルニア大学リバーサイド校、カリフォルニア州立大学フラトン校、チャタム大学、パーデュー大学、南オレゴン大学／カナダ：マギル大学
南米	ブラジル：サンパウロ大学
オセアニア	オーストラリア：ニューサウスウェールズ大学、モナシュ大学／ニュージーランド：オタゴ大学
ヨーロッパ	イギリス：オックスフォード大学、クイーンズコレッジ、マンチェスター大学、ハル大学、ロンドン大学キングスコレッジ、ロンドン大学東洋・アフリカ研究院／イタリア：国立ナポリ大学オリエンターレ、コッレージョ・ヌオーヴォ、'サビエンツァ'ローマ大学、先端研究国際大学院大学 (SISSA)／オーストリア：ウィーン工科大学／スウェーデン：リンショールン大学／スロバキア：スロバキア工科大学／チェコ：カレル大学／ドイツ：ケルン大学、ブレーメン応用科学大学、バーギシェ・ブッパタル大学／フィンランド：セントリア先端科学大学、タンペレ大学／フランス：ストラスブール大学、パリ市立工業物理化学高等専門大学、パリ・ディドロ (パリ第七) 大学、フランス研究開発機関、クレルモン・オーベルニュ大学、ボルドー大学、ヨーロッパ理工学パリ・デジタルイノベーション大学院／ポーランド：ワルシャワ大学／ルーマニア：ブカレスト大学／ロシア：トムスク国立教育大学

※2017年3月現在

学内で学ぶ

2013年度からは語学カリキュラムを聴解力・読解力中心から会話力・作文力中心へと大きく改変。1年次の教養教育に「ACT (Advanced Communication Training)プログラム」を開設したほか、専門教育にも英語で学ぶ講義を取り入れました。さらに講義からレポート提出まですべてを英語で行う集中講義「英語によるサマープログラム」も開講しています。また、「中国語パワーアップ・プログラム」の開設など、英語以外の言語でも発信力強化に向けた取り組みを多々推進しています。



ACTプログラム

1年次から履修できる英語力を強化する教養科目(コア科目)として設けられたのが、「英語を学ぶ」だけでなく「英語で学ぶ」ことにより英語の運用能力を向上させる実践的な上級英語プログラムです。プレゼンテーション、ライティング、ビジネス英語、資格英語などの実践的な英語科目群から構成されています。12単位以上履修することにより、プログラム修了証を取得できます。

サマープログラム

生きた英語を身につけることを目的にした英語による夏期集中講義が「英語によるサマープログラム」です。2017年度は「ジェンダー」、「自然科学」、「食文化」のレギュラーコースに加え、日本文化を深く知るためのカルチャーイベントも開講します。本学在学生のほか、国内外の協定校の学生数十名が参加する14日間の講義期間中には英語によるディスカッションや交流会も催され、学生間に新たな交流の輪を生みだす格好の機会になっています。

語学学習のサポート体制

学生が語学学習をより積極的かつ円滑に進められるよう、外国語教育センターを中心に各種支援が積極的に行われています。語学専門の自学自習室「ランゲージ・スタディ・コモンズ」にはeラーニングや多様なCD・DVD教材を完備。世界の52言語の学習教材で、それぞれの目的に合わせて自由に学習することができます。

from Student



サマープログラムのススメ

私にとってサマープログラムは大学生活の中の最も印象的な授業の一つです。留学経験がない私は1年の夏、不安と緊張でいっぱいになりながら参加したのを今でも覚えてます。しかしそこで7カ国以上の優秀な学生と出会い、日本文化の体験をし、一緒にご飯を食べ、花火大会にも行ったりと充実した日々を過ごすことが出来ました。彼らとの出会いで、その後の学生生活や英語学習へのモチベーションがとても高まりました。また多くの友人が、参加後に短期・長期の留学に飛び立つ姿も見ており、このプログラムが「日本にいながら留学の準備ができる」絶好の機会になってることを実感しています。ぜひみなさんにも入学後にチャレンジして頂きたいです。

文教育学部 言語文化学科 3年
第1のプログラム：グローバル文化学主プログラム／第2のプログラム：英語圏言語文化副プログラム

藤井 理緒 さん

海外で学ぶ

できるだけ多くの学生が海外経験を積めるように、海外との交換留学制度や海外短期研修プログラムの拡充、留学奨学金制度や提携大学との単位互換制度の整備、短期留学に対応しやすい四学期制の導入などの整備を進めています。将来的には卒業までに半数の学生が留学を経験できる体制を整える予定です。国際教育センターでは、留学に関する個別相談を随時受け付けているほか、留学手続きのサポート、渡航前から留学中の異文化適応、危機管理指導など、万全な支援体制を敷いています。



交換留学

海外の協定校に1年以内で留学するプログラムです。現在、本学は、25カ国71大学と交流協定を締結しており、留学希望者は、学内選考を経て、協定校の求める要件(志望動機、語学能力試験、学業成績など)を満たせば、留学することができます。お茶大に在学のまま留学ができ、派遣先大学での授業料は原則として免除され、留学先で修得した単位は互換制度により卒業単位として認定されます。一方、本学ではアジア、中東、ヨーロッパなどの協定校から、交換留学生49名(2016年度)を含む約270名の留学生が学んでいます。

海外短期研修

大学の休暇期間を利用した1～2カ月の海外短期語学研修も盛んです。英語や多国語による授業、世界各国の研修生との交流、インターンシップ、現地の家庭でのホームステイや寮生活など、短いながらも充実した研修が行えます。生きた語学の修練とともに、多言語・多文化交流を肌で感じられる絶好の機会です。韓国、台湾、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、イギリス、ドイツ、ロシアなどへの短期研修のほか、理系学生のための研修プログラムもあります。

インターンシップ

アメリカ、オーストラリア、イギリスへの短期留学研修では、インターンシップや海外演習のプログラムを構築し、単位として認定する制度を設けています。また、日本語・日本文化を世界に発信する日本語教育実習を行い、日本語教育の授業にTA(ティーチング・アシスタント)などとして補助的に研修に参加するプログラムも提供しています。

from Student



国境を越えて、知らない世界を見に行こう

私は、かつてソ連の衛星国であった、何度も地図から消え復活した、ポーランドで一年間交換留学をしました。日本とは全く異なる歴史を持つ国での学びは、非常に有意義でした。本来は、当時最も興味のあった国際関係学についてより深めようと思っていましたが、国際協力やジャーナリズムなど分野を跨いで幅広く受講。どの授業も刺激的で、様々な国の学生とのディスカッションを通し視野が広がりました。また、現地でのランゲージエクスチェンジをきっかけに日本語教育に興味を持ち、帰国後は第三プログラムとして勉強しています。この一年は、私に大きな変化と機会を与えてくれました。留学すると、数多くのチャンスがあります。ぜひ挑戦してみてください。

文教育学部 人文科学科 4年
第1のプログラム：グローバル文化学主プログラム／第2のプログラム：比較歴史学副プログラム／第3のプログラム：日本語教育副プログラム

五十嵐 由華 さん



教育の特色

04 キャリアデザインプログラム

自分を見つめて未来を描き 目的をもった学修で、生涯にわたる礎を築く

実社会で活躍できる実践力・就業力の育成も、教育の大きな軸となっています。身につけた専門的な知識や技術を社会での活動に結びつけ、存分に力を発揮できるための礎を築くのも大学教育の重要なテーマです。

「キャリアデザインプログラム」が提供するの、社会で活躍する女性リーダーに必要とされる能力です。

自分にあった仕事を見つけ就業継続するための就業力は、人生のあらゆる場面に立ち向かう際に大きな力を発揮します。

自分を冷静に見極めて将来像を描く力、主体的に授業に取り組む自律性、さらにリーダーに必要とされる問題解決力を養い、未来の社会を牽引する女性リーダーの基盤を育成します。



3つのコンピテンシー

女性リーダーのためのコンピテンシー開発

キャリアデザインプログラム科目群は、基幹科目群と関連科目群で構成されています。基幹科目群には、キャリアデザインに直接的に関わる科目のほか、実社会から提起される具体的な課題を取り扱う課題解決型学習（Project Based Learning）が多数盛り込まれ、社会を見わたす「窓」の役割を果たします。関連科目群は、全学のさまざまな領域から選定されたキャリア開発に関連の深い科目です。

このプログラムによって、キャリアデザインに不可欠な3つのコンピテンシー（知識や技能を組み合わせる成果を生む包括的能力）を育成します。コンピテンシー評価システム（My Portfolio）を利用し、定期的に自己分析を行うとともに、学修活動の振り返り、計画を促します。自分にどんな能力が必要なのかを見極める判断力を養い、自ら意欲的・計画的に大学での学修を進めるためのプログラムです。

双方向的
活動

- 双方向的活動：コミュニケーション力、知性・思考力、ICT活用力
- 自律的活動：自己管理能力、計画実行力、社会性
- 協働的活動：関係構築力、チームでの連携力、統率力

自律的
活動

協働的
活動

キャリアデザインプログラムの基幹科目群

お茶の水女子大学論、パーソナル・ブランディング、ファシリテーション、女性のキャリアと経済、キャリアプラン、ICTとコミュニケーションスキル、知能環境論、女性のキャリアと法制度、インターンシップI、インターンシップII、キャリアプランと進路選択、ダイバーシティ論

キャリアデザインプログラム科目例

お茶の水女子大学論

自らの未来を描くための授業です。お茶の水女子大学の特色を知り、自らの将来をイメージしながら、在学期間を有意義に過ごすための基礎をつくります。学長による講演会、本学の歴史と社会的役割、卒業生やロールモデルの講演会などが組み込まれた、あらゆる学修の基盤となる講義です。



ファシリテーション

協働を促すスキルとして有効な「ファシリテーション」に焦点を当て、企業から出された課題に対し、チームを組んで理論と実践を通してその手法を身につけることを目標とします。



キャリアプラン

人生と職業という視点でキャリアプランを捉え、過去・現在・未来を貫く視点を養い、学生時代にすべき課題を考え実行することを目指します。また、キャリア理論や仕事の社会について学び、受講生が互いのプランについて意見交換する機会を設けます。



キャリアプランと進路選択

納得のいく進路選択を行うためには、自分自身と社会・仕事を知り、その接点の持ち方についてしっかりと考えることが役に立ちます。この授業では、心理検査等も用いて様々な角度から自分らしさの点検を行うとともに、キャリア情報の収集に関する実習を行い、生涯使えるキャリアデザインのための基本的視点や方法を体験的に学びます。



関連活動と環境づくり

インターンシップと自主活動

企業や官公庁、NPO、各種研究機関などでの30時間以上のインターンシップ（体験就労）で、社会に出て働くことの意味を考えます。学内でも図書館でのインターンシップ、各センターが募集する自主活動などの多様な体験学修の機会により、キャリアデザインに関連した学修課題が発見できます。



ICT環境を活用した能力開発

キャリアデザインプログラムでは、各基幹科目で積極的にICTによるコミュニケーションを活用しています。プレゼンテーションや情報収集のツールとするほか、キャンパス内の充実したICT環境をグループワークに活用、授業時間外にも学生同士で集い、自主的に共同作業に取り組んでいます。



キャリア支援

学生・キャリア支援センターでは、学生の進路・就職支援に全学的に取り組んでいます。学生のみなさんの多様なニーズに応えるため、ガイダンス・セミナー、OG懇談会、学内合同企業説明会、ワークショップなど、各種の就職支援行事を実施しています。また専門のキャリアアドバイザーが、進路やキャリアに関する学生のみなさんのさまざまな相談に応じています。



ガイダンス・セミナー

就職活動の流れや採用試験に関する情報提供ならびに実践対策の指導の場として、各種の就職ガイダンスを実施します。

キャリア相談

専門のキャリアアドバイザーが、進路やキャリアに関する学生の相談に応じています。

OG懇談会・学内合同企業説明会

学生の職業観や就労意識の形成を目的として、企業や官公庁等で活躍中の本学OGと人事・採用担当者を学内にお招きします。

ワークショップなど

就職活動に向けた実践的な指導を目的とした少人数制のワークショップやビジネスプラン作成セミナーなどを随時開催しています。



05 教員免許等資格取得課程

教職や各種資格の取得は、卒業後の活躍の場をより確かなものにするためにも重要です。

お茶の水女子大学では各種教育職員免許状、学芸員（博物館）、社会調査士、栄養士、食品衛生管理者及び食品衛生監視員などの資格を取得することができます。所属学部（科）によって取得できる免許状や資格が異なります。

また、取得のためには、卒業に必要な専門科目のほかに、それぞれ指定された科目の履修が必要です。

※この情報は2017年5月現在のもので、変更等ある場合もあるので、最新の情報はホームページ等でご確認ください。

▶ 資格取得

学部	学科	学芸員 (博物館)	社会調査士	GIS 学術士 地域調査士	栄養士 食品衛生管理者 ※1 食品衛生監視員 ※1	受験資格	
						管理栄養士	一級建築士
文教育学部	人文科学科	●	●	●			
	言語文化学科	●	●				
	人間社会科学科	●	●				
	芸術・表現行動学科	●	●				
理学部	数学科	●	●				
	物理学科	●	●				
	化学科	●	●				
	生物学科	●	●				
	情報科学科	●	●				
生活科学部	食物栄養学科	●	●		●	●	
	人間・環境科学科	●	●				●
	人間生活学科	●	●				
	心理学科※2	●	●				

※●印のある学科で資格を取得できます。※GIS学術士は人文科学科地理環境学主プログラムに限りです。※地域調査士資格取得、一級建築士受験資格の詳細に関してはお問い合わせください。

※1 必要な職種に就いた時、その任につくことができる任用資格です。

※2 心理学科については、2018年度設置届出書類提出中（2017年5月時点）。心理学科設置は予定であり、変更があり得る。

▶ 各種教育職員免許状

学部	学科	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状	その他の免許状	
文教育学部 ※1	人文科学科	社会	地理歴史・公民		
	言語文化学科	国語	国語		
		中国語	中国語		
		英語	英語		
	人間社会科学科	社会	公民	幼稚園教諭一種免許状 ※2	小学校教諭一種免許状 ※2
	芸術・表現行動学科	保健体育	保健体育		
音楽		音楽			
理学部	数学科	数学	数学		
	物理学科	理科	理科		
	化学科	理科	理科		
	生物学科	理科	理科		
	情報科学科	数学	数学		
		情報			
生活科学部	食物栄養学科				栄養教諭一種免許状
	人間生活学科	家庭	家庭		

※1 文教育学部言語文化学科及び芸術・表現行動学科の学生は、選択するプログラムによって、取得可能な免許状の教科が異なります。

※2 人間社会科学科は、総合人間発達科学専修プログラムの選択者に限り、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状が取得可能です。



学部・学科・プログラム一覧

文教育学部		
人文科学科	哲学・倫理学・美術史プログラム	哲学・倫理学・美術史は、それぞれ真・善・美という価値を主軸にした学問です。感性と批判的な思考力を磨き、体系的知識と実践的応用力を身につけます。専攻分野を深めるほか、思想的、実証的アプローチとして他領域との学際的探究も可能です。
	比較歴史学プログラム	人類の多様な文化を掘り起こしていく歴史学。日本史、アジア史、西洋史を比較の視点から探求することで、人類共通の問題と個々の地域や時代の特性、及び世界の中の日本人の軌跡を見出していきます。地球規模の視野と見識を得られる学問です。
	地理環境学プログラム	空間、場所、景観、地域などに注目して自然、社会、人間を扱う地理学は、ローカルからグローバルまで視野を自在に動かし、また理系と文系の枠を超えて思考する総合科学です。経済や都市、福祉、環境などの諸問題を解決する応用科学でもあります。
言語文化学科	日本語・日本文学プログラム	身近な日本語を見つめ直し、また日本語による表現の結晶としての日本文学の世界を探究します。文学では奈良時代から現代までの文学史を基盤に、語学では日常語から文法・語彙・音韻等の理論までを網羅し、文学・語学を通じての体系的な学修を深めます。
	中国語圏言語文化プログラム	さまざまな側面をもつ中国文化に、現代語学、現代文化・文学、古典文献・語学、古典文学の4つの領域から言葉を通じて切りこみます。国際社会に羽ばたくための言語として、現代社会で重要視される中国語は大きなスキルとなり得ます。
	英語圏言語文化プログラム	世界の未来を担う言語である英語と、英語圏の文学、文化を総合的に学びます。教養レベル以上の英語運用能力と学術レベルの英語によるプレゼンテーション力を育成すると同時に、英語という言語の本質と英語圏の社会や文化に対する理解力を深めます。
	仏語圏言語文化プログラム	ヨーロッパの中心であり、世界の仏語圏の核であるフランス。その言語と文化を知ることによって、国際的な視野を持つ人材を育成します。そのために多様なフランス語を学ぶとともに、幅広く仏語圏の文化と社会についての知識を獲得します。
人間社会科学科	社会学プログラム	理論と実証によって、人間の行動と意識、社会の構造・機能とその変動を研究する学問です。文献研究から、現地に足を運んで調査するフィールドワークまで、多様な手法を縦横に駆使して、社会の多岐にわたる問題を解決に導く糸口を探ります。
	教育科学プログラム	人間形成や発達の過程の謎に、多彩な研究方法を駆使して理論的、実践的にアプローチする総合的人間科学です。人間発達に関する基礎科学と、その諸問題の解決を志向する実践科学を学びます。教育を科学し、研究し、実践することを目的としたプログラムです。
	総合人間発達科学専修プログラム	小学校や幼稚園の教員免許を取得するためのプログラムです。このプログラムには1年次から在籍し、実践的なプログラムによって教員免許を取得します。
	子ども学プログラム	「子ども」という境界領域から、人間、社会、文化の生成過程・構造を探究する視点や方法の多様性にアプローチし、実践・対話を通して理論的な学びを深めていきます。学内外の教育・保育現場とのネットワークを生かした授業も行います。
芸術・表現行動学科	舞踊教育学専修プログラム	舞踊を中心に、スポーツや日常動作にわたる人間の身体活動や表現を多角的に学びます。舞踊を身体、運動、表現、コミュニケーションなどの観点から探求し、芸術・教育・学術の世界での活躍も期待できる人材を育成する新しい分野です。
	音楽表現専修プログラム	演奏学と音楽学の二つの視点から音楽を専門的に学びます。演奏実践と学術的な探求が専門分化した音楽教育の枠組みを超え、双方を融合した独自のカリキュラムの下、総合大学ならではの学問的かつ最先端の視点から音楽を捉えて学びます。
人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科	グローバル文化学プログラム	文教育学部の3学科（人文科学、言語文化、人間社会）から志望できるプログラムで、「地域研究・地域文化」「多文化交流・多文化共生」「国際関係・国際協力」の3領域からなる学際的カリキュラムを知と実践の両面から提供しています。文化の差異を理解し尊重しながら、その差異を超えて協働できる知識・感性・態度を養うことで、グローバル時代の先達を育成します。

理学部		
数学科	数学プログラム	数学は科学の世界の言葉です。自然科学、社会科学いずれの表現や記述にも不可欠であると同時に、数学には発展し続ける美があります。大学の数学は高校までの数学とは異なり、答を求めることだけでなく、答えを求める道具立ての理論体系そのものも学びの対象とします。数学的な知識・思考法・表現から、現代数学の基礎となる代数・幾何・解析の基礎を本格的に勉強します。
物理学科	物理学プログラム	永遠の真理と、その帰結の多様性を発見するのが物理学です。1年次から専門的な物理学の授業を受講し、物理学の基礎から応用に至るまでの幅広い分野を学び、物理現象を理論と実験の双方向から、直感的かつ論理的に理解し得る能力を養い、物理学の研究能力を高めます。これは同時に、還元論的・多元的なものの見方や、物事の法則を発見して応用する能力にもつながります。
化学科	化学プログラム	自然界の森羅万象から先端科学までのあらゆるものを、物質をつくりあげる原子・分子の結合とその変化という視点から考察するのが化学です。化学科では物理化学、無機化学、分析化学、有機化学、生物化学の5分野について基礎から応用までを幅広く学べます。実験を重視したカリキュラムで、将来、どの応用分野に進んでも自らの研究を多彩に展開できる基礎力を身につけます。
生物学科	生物学プログラム	生命のしくみを解き明かす生物学は、近年、飛躍的な進歩を遂げています。医学、薬学、農学、化学、情報科学などの分野とのコラボレーションも進み、多様な生命現象だけではなく、生命を取り巻く環境や精神世界の問題にも興味向けられています。生物学プログラムでは、講義と実習を通して生物学の基礎から最前線までを学び、多彩な分野で活躍できる礎を築きます。
情報科学科	情報科学プログラム	意思決定の拠り所となるのが情報です。シミュレーション、コンピュータグラフィックス、ヒューマンインターフェースなどの情報技術は今やあらゆる領域で、研究と開発・発展に不可欠な技術となっています。情報業界で必要とされる実践的な知識とともに情報技術の理論的背景までもしっかり学ぶことで、応用力に長けた広い視野を獲得できるのも情報科学科の特徴です。

生活科学部		
食物栄養学科	食物栄養学専修プログラム	「食物と人を見つめるサイエンス」をキーワードに、食物について科学的概念と実践的知識を身につけた、食物栄養学の専門家の育成を目指しています。食品そのものの研究から栄養学、基礎医学、病理学、さらに医療制度、社会福祉なども学び、食品の安全性の評価やトータルマネジメントする能力も養います。管理栄養士受験資格をはじめ食と栄養関連の各種資格が取得できます。
人間・環境科学科	人間・環境科学プログラム	生活をとりまく身近な課題に対し、人間工学、環境工学、建築学、材料物性学、自然人類学など科学技術的アプローチで新しい生活の提案を目指す学科です。科学技術の実践的な応用、生活関連分野のタイムリーなテーマへの取り組み、研究成果の社会での応用・評価などを学びます。2013年度入学生より、一級建築士の受験資格を得られるカリキュラムも開始しています。
人間生活学科	生活社会科学プログラム	家族・ジェンダー・高齢者・社会福祉・医療・消費者問題など、私たちの身の回りの生活のなかにある社会問題を、生活者の視点を重視しながら、社会科学の諸方法（法学・政治学、経済学、社会学）を用いて解明し、解決策を探求します。
	生活文化学プログラム	服飾、工芸、住居などの生活造形や子どもを対象とし、服飾史、比較生活文化論、生活造形論、民俗学、保育学など多角的・複合的な視野と思考力によって、古今東西の文化と歴史を解明しています。
※心理学科	心理学プログラム	心理学を学び、様々な生活環境・場面における人間の心理・行動に対し、その基礎的なプロセスと機能への深い理解と科学的な見方を培い、課題の発見と問題の解決に活かす力を養います。教育プログラムは基礎・実証系心理学と臨床・実践系心理学の科目群を融合した形で構成されており、「認知・生物系」、「社会・福祉系」、「医療・健康系」、「発達・教育系」という4つの専門領域を設置しています。

※心理学科については、2018年度設置届出書類提出中（2017年5月時点）。心理学科設置は予定であり、変更があり得る。

学部学生交流協定校一覧

協定先	受入・派遣学生の条件				履修可能学部
	対象学年	文教育学部	理学部	生活科学部	
東京工業大学	—	○	○	○	
東京芸術大学	—	○	○	○	音楽学部
共立女子大学	—	×	×	○	家政学部
東京外国語大学	2年生以上	○	○	○	言語文化学部／国際社会学部
東京海洋大学	—	×	○	×	海洋科学部
一橋大学	2年生以上	○	○	○	商学部／経済学部／法学部／社会学部
早稲田大学	4年生	×	○	×	先進理工学部

本学では、上記の大学と交流協定を結び、単位互換制度を実施しています。協定先大学が開講する授業科目を「特別聴講学生」として履修することができ、修得した単位は卒業に必要な単位に含めることができます。

文教育学部

Faculty of Letters and Education

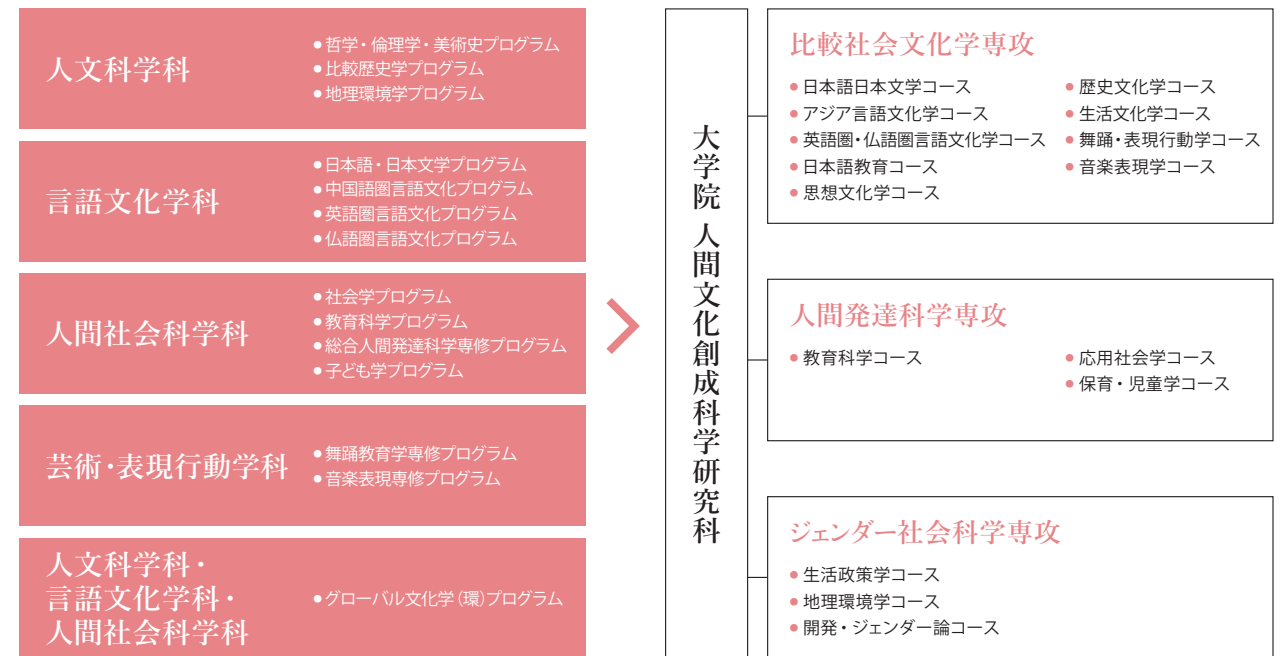
文化は、生き方です、社会です、情報です 世界をミクロに、マクロに、学問してみませんか

文教育学部には、人間をとりまくマクロな社会や環境から、ミクロな個々人の思想や言語、文学・美術や音楽・舞踊といった芸術まで、多彩な研究分野があり、そこでは「生きている」人間とその文化や社会への関心が核となっています。人文科学科、言語文化学科、人間社会学科、芸術・表現行動学科の4つの学科で14の専門教育のためのプログラムを提供しており、学生の関心にそって広く学修ができるように、自由度の高いカリキュラムを組んでいます。ひとつの専門を深めることも、複数の専門分野を広く学ぶこともできます。専門という自分の鏡を磨き、さらに他の鏡と合わせることで、虚と実が交錯する複雑な人間社会の全体像を映し出すことができます。人間と自然とが複雑にからみあう現代では、ひとつの現象を多方面から分析し、多くの人々と理解しあい行動することがますます重要になっています。文教育学部では、人生のさまざまな場面で生きる、多面的な「物事の捉え方」(文化)を学ぶことができます。



<http://www.li.ocha.ac.jp/index.html>

文教育学部から進学実績が多い大学院専攻課程



※文教育学部を卒業する際に学士（人文科学）が授与されます。
※人文科学科、言語文化学科、人間社会学科は、2年次よりグローバル文化学プログラムを選択することもできます。
※人間社会学科は、総合人間発達科学専修プログラムの選択者に限り、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状が取得可能です。

平成30年度、文教育学部に「子ども学プログラム」が誕生します。
文教育学部と隣接することも園、附属幼稚園、ナーサリーと連携し、子どもと出会い子どもから学ぶ教育プログラムを展開していきます。

文教育学部の特徴

人間の歴史と知恵、世界の文化と社会

文教育学部は、人文科学科、言語文化学科、人間社会学科、芸術・表現行動学科という4つの学科からなります。各学科は複数のプログラムを提供しており、また学科の枠を越えた学際的なグローバル文化学プログラムもあります。人間が長い歴史のなかでつくりあげてきた文化や社会のあり方を研究するとともに、グローバル化する世界のなかで、生きる力を身につけるための教育を提供します。企業、官庁、学校、そして大学・研究機関など、社会のさまざまな場で、卒業生たちが活躍しています。

多様な研究ときめ細やかな少人数教育

本学部の最大の特徴は多様性です。教育や研究の対象は、古代から現代へ、日本から世界へと広がり、誕生から死まで人間の一生を追いかけます。三千年前の中国古典文学から現代世界の社会問題まで、多様な研究分野と研究方法の教員がいます。他学科の副プログラムを選んだり個々の授業に参加したりしやすいのも特色の一つです。もう一つの特徴がきめ細やかな少人数教育です。一人の教員あたりの学生数が少なく、時には一つの授業に学生が数人という贅沢な環境が提供されます。その分、ただ受動的に講義に出ればよいという姿勢では学生はやっていけません。講義でも演習でも、十分な準備をして主体的に参加することが求められます。教室の授業だけでなく、実習や学外での研修が組み込まれているプログラムもあります。

主プログラムを自分で選ぶ

入学試験は学科を単位として行い、学科に入学します。人文科学科・言語文化学科・人間社会学科の学生は、2年次に進む時に主プログラムを選ぶ制度になっています。主プログラムは、自学科のいずれか、またはグローバル文化学を選びます。人間社会学科総合人間発達科学専修プログラム、芸術・表現行動学科の学生の場合は、その学びの専門性を生かすために1年次より4年一貫の専修プログラムを履修します。

1年生向けに専門の基礎科目や入門科目が置かれており、主プログラムの選択の参考にすることができます。そして、1年生の時には、それらの科目や文理融合リベラルアーツ・基礎講義などで広い視野から多角的に問題を見ることを学びます。主プログラムを選択できる上限人数はゆるやかに設定されていますので、ほとんどの場合は希望するプログラムを履修することができます。上限を大幅に超えた場合や各プログラムで定められた条件を満たしていない場合は、一定の方法で選考を行います。

プログラムの組み合わせを自分で選ぶ

自分で選んだ主プログラムが、専門の学修の軸となります。この主プログラムにどのプログラムを結合させるか、第2のプログラムを選びます。主プログラムでの学修を徹底するなら関連する強化プログラム、学際研究を目指すなら、異なる学問分野の副プログラムが学際プログラムを選びます。さらに第3のプログラムとして、文教育学部あるいは他学部のプログラムを履修することもできます。なお、人間社会学科総合人間発達科学専修プログラム、芸術・表現行動学科の学生も第3のプログラムを選択して履修することができます。

グローバル文化学プログラムと日本語教育副プログラム

グローバル文化学主プログラムを履修する場合は自分が在籍する学科のいずれかの副プログラムを組み合わせる学際的に学修します。人文科学・言語文化学・人間社会学科の学生は、第2のプログラムとして、グローバル文化学学際プログラムを選ぶことができます。また、言語文化学科では日本語教育副プログラムが提供され、日本語を母語としない人の日本語教育やコミュニケーションのあり方を学ぶことができます。このような多彩なプログラムにより、学生一人ひとりの関心と目的にあった学びを構築し、将来のキャリアに生かすことができます。

人文科学科 哲学・倫理学・美術史 プログラム

http://www.li.ocha.ac.jp/ug/hum/philart/index.html



人間の叡智が息づく知的遺産の森 深遠な世界の奥底に潜む新しい価値に出会う

哲学、倫理学、美術史は、真・善・美という価値を主軸にしながら、すべての学問や知のあり方を問い直すことで、私たちが生きる現在のさまざまな問題を根本的に考えます。

哲学は考え方の多様性を知り、考える可能性を拡大することを学びます。倫理学は「私は何をなすべきか」という人間の行為に対する問いかけと、「私は何であるのか」という人間の存在に対する問いかけにより人間を幅広く理解する学問です。美術史は、人間が創造した美術作品など視覚表象の機能や意味を巡る考察力や実証的な探求力を養い、人間の考え方や時代を捉えていきます。

社会で生きるために必要な「考える力」「行う力」「感じる力」を養い、人生をより幸福に生きる応用力を育みます。

目的	特徴
感じ、考え、行う それぞれの学問を深く学ぶことで、体系的知識と実践的応用力を身につけることを目指します。ものごとを感じ、考え、適切に判断し、柔軟にコミュニケーションする力や、日常を取り巻く視覚情報を的確に受け取る力を養います。哲学では、他の文化や時代の人がどのようなことを問題に議論や解答を重ねてきているか体得することで、物事を多角的で自由に考える力を養います。倫理学では、人間のあり方についての古今東西の先哲の説をよりどころに、人間はどうあるべきかを探り、社会や人生の現実的な諸問題について考え、主体的に実践する力を養います。美術史では作品と歴史的・社会的な文脈を踏まえて向き合うため、実証的検討や理論的分析を行う力を養います。民間企業への就職者や公務員・教員のほか、美術館・博物館の学芸員や専門研究者も多数輩出しています。	普遍的、批判的視点の養成 本プログラムを選択すると同時に研究分野を選びます。哲学では、西洋の伝統的な哲学的議論を現代の文脈のなかで受け止め、実地に解釈して展開させ、現代に通じる論理性や明快さを基本に議論や解答の多様性を学びます。倫理学では、西洋と日本の倫理思想を手がかりに、人間はどうあるべきかという普遍的な問題と自分はどうあるべきかという特殊的・個別的な問題をともに見据えながら、「よく生きる」ことの内実を探っていきます。美術史では絵画、彫刻、写真、装飾から広告まで、多様なイメージと向き合い、対話を重ねることで意味を的確に引き出し、自らの視点で捉える力を磨きます。それぞれの分野を専門的に探究することも、文教育学部の他の副・学際プログラムと組み合わせて固有のアプローチで他領域を探索することも可能です。

カリキュラム（主＋強化プログラム）

	基礎	発展		
哲学	哲学基礎論 哲学概論Ⅰ・Ⅱ	理論分析論演習Ⅰ・Ⅱ 概念分析論演習Ⅰ・Ⅱ 問題分析論演習Ⅰ・Ⅱ	哲学ⅠⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 哲学ⅡⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 哲学演習ⅠⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 哲学演習ⅡⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 哲学演習ⅢⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 哲学特別研究ⅠⅠ・Ⅱ・Ⅲ 哲学特別研究ⅡⅠ・Ⅱ・Ⅲ 他	卒業論文
倫理学	倫理学基礎論 倫理学概論Ⅰ・Ⅱ	西洋倫理思想史Ⅰ・Ⅱ 日本倫理思想史Ⅰ・Ⅱ	倫理学演習Ⅰ・Ⅱ 倫理思想史演習Ⅰ・Ⅱ 倫理学特殊講義ⅠⅠ・ⅡⅡ・ⅢⅢ 倫理学資料講読 他	卒業論文
美術史	美術史基礎論 美術史概論	西洋美術史ⅠⅠ・ⅡⅡ・ⅢⅢ・ⅣⅣ・ⅤⅤ・ⅥⅥ・ⅦⅦ 東洋美術史ⅠⅠ・ⅡⅡ・ⅢⅢ・ⅣⅣ・ⅤⅤ・ⅥⅥ・ⅦⅦ	形象分析学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 形象分析学特殊講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 美術史学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 美術史学特殊講義Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 他	卒業論文

科目紹介
■ 哲学基礎論 人間、自然、社会、存在、真理、価値、心、行為などこれまで多くの側面から研究されている哲学のさまざまなテーマを紹介する。 ■ 哲学概論 古代から近代に至る西洋哲学の古典的な哲学者が、当時の文脈のなかで存在や認識、神についての思考をどのように展開してきたか紹介する。過去の思考とのつながりを実感することが狙いである。 ■ 倫理学基礎論 倫理とは何かについて講じ、西洋と日本の倫理思想を概観する。 ■ 倫理学概論 幸福、苦しみ、死、悪、性格、愛、社会という生きることと密接に関わるテーマについて倫理的に考察する。 ■ 美術史学概論 多様な視覚的イメージとどのように向き合い、それをどのように理解し、いかに自らの視点で捉えるのか。美術史という学問の基本的な問題や視点、方法を今日的な問題と結びつけながら考える。 ■ 哲学演習 既存のテキストから考えるべき問題や解決のための議論を理解し、さらに自分なりの問題点や解決法の探求を目指す。哲学のテキストを読み解釈する。 ■ 倫理学演習 倫理学の基本文献の講読を通して、人間のあり方について考え、自分自身のあり方についても振り返る。 ■ 美術史学特殊講義 西洋を中心に近・現代の視覚表象を巡る諸問題を取り上げ、ジェンダーやポストコロニアリズムなどの多様な視点から具体的な事例を通じて考察する。 ■ 形象分析学特殊講義 日本において独自の発展を遂げた「絵巻」について、その展開を追いつつ、テキストとイメージの関係、図像の伝承、受容者の問題などを考察する。「絵巻」という画面形式が抱える問題についても併せて検証する。

取得できる主な教員免許・資格
学芸員（博物館）、中学校教諭一種免許状（社会）、 高等学校教諭一種免許状（地理歴史・公民）

教員の研究分野
教授 天野 知香 西洋近代美術史 准教授 三浦 謙 知識・認識の哲学、科学哲学 准教授 中野 裕考 近代哲学（西洋、特にドイツ哲学） 助教 宮下 聡子 倫理学（主に西洋） 助教 土谷 真紀 日本美術史

TOPICS

授業の一環として 各地の実地調査も 深まる理解と 広がる交流の輪

哲学・倫理学・美術史コースでは、テキストの輪読や講読といった机に向かって身につける知識だけではなく、実際に現地に赴いて学修するための研修旅行を積極的に行っています。たとえば倫理学では日本人の倫理観を具体的なものや場所に即して考えるため、日本国内の聖地や寺社巡りを実施しています。また美術史では、都内の美術館・博物館での作品見学ばかりでなく、奈良や京都の古寺見学を行い、記録に残された言説を手懸かりに、実際の作品との比較検討を繰り返し、美術史学の方法論を会得する機会を広げています。旅程をともにすることで仲間との交流が深まるという意味でも、研修旅行はたいへん貴重な体験になっています。



※写真は2013年度のコース旅行（青森・恐山）



VOICE of STUDENT
木村 瞳子 さん（4年）
第1のプログラム：哲学・倫理学
第2のプログラム：哲学・倫理学・美術史強化プログラム

自分の中にある疑問に真正面から取り組める

本プログラムの魅力は、自分の中に生まれたどんな疑問でも、問題にし研究対象にすることができる点です。講義は主に少人数で行われ、学生自身が問題を提示し、先生も一緒にみんなで考えながら答えを導きだします。自分とは異なる視点や考え方に巡りあったり、一見当たり前に思えることが実は大きな矛盾をはらんでいることに気づいたり、毎日とても刺激的な体験ができます。



VOICE of FACULTY MEMBER
土谷 真紀 助教

かたちとイメージをめぐる冒険へ

ふと周りを見渡すと、私たちは様々な造形、イメージに囲まれ暮らしています。美術史は、それらを生成・享受する人間、時代、社会について考える学問です。長い時間のなかで様々な影響を受け、取捨選択されながら紡ぎ出された「かたち」「イメージ」は、現代に生きる私たちの社会認識や嗜好、美意識にもつながっています。造形を通じて先人たちと対話をしてみませんか。

人文科学科 比較歴史学 プログラム

<http://www.li.ocha.ac.jp/ug/hum/history/index.html>



時空を超え、タイムマシンが始動する 過去を見つめて未来へつなぐ、心躍る知の世界

比較歴史学の対象は、この広い地球上に展開された人間の営みすべてです。人は自己のルーツの解明をしたいという強い本能に導かれながら歴史を探索してきました。そして、歴史のなかに時代が直面する困難への対処法を見出しながら歩んできました。グローバル化時代を迎えた今、人類の多様な文化を掘り起こし、世界のなかの日本人の軌跡を見据えることは、より強く求められるようになっていきます。

比較歴史学では、日本史、アジア史、西洋史の3つの領域を柱にしています。

地域や時代によるさまざまな比較を行い、歴史をタテ・ヨコ・ナナメに歩きながら新しい世界史像を追求します。

目的	特徴
領域のクロスオーバー	文字と言葉とモノに挑む
比較の視点から歴史を見ることを目指します。それには二つの方法があります。一つは、民族や文化の相互交流を明らかにすること。日本と中国・朝鮮、ヨーロッパとイスラム世界など、さまざまな交流によって「世界」が形づくられました。もう一つはテーマによる比較。祭り、家族など世界には時代を超えて共通する事象があります。これらの比較から、人類共通の問題と個々の地域や時代の特性が浮かび上がります。比較の視点を身につけるためには、さまざまな地域の人々と交流することも大事で、留学生と交友関係を持つことはもちろん、自分から海外に出ることもよい経験になります。	歴史学で用いられる主な史料は文字ですが、決してそれだけではなく、遺跡、建築物、絵画・写真、生活用具など、さまざまなものが使われます。多種多様な史料を集めて整理・分析し、明らかになった事実を組み立てて、筋道が立つかどうか、何度も考えます。
広く民間の企業、たとえば金融・マスコミ・IT関係、公務員、教職への就職、大学院への進学が主な進路です。	また使われる言語も多種多彩です。漢文、くずし字、中国語、アラビア語、英語、ドイツ語、フランス語、ラテン語……。自分で史料が読めてこそ楽しいです。

カリキュラム(主+強化プログラム)

	基礎		発展			
	初級	中級	講義		演習	
日本史	日本史概説 日本文化史概論 日本史入門講読	日本史研究法 日本史講読 日本史論文講読 古文書学 歴史史料学	史跡調査 歴史考古学 考古学通論Ⅰ・Ⅱ 日本古代中世文化史 日本古代中世社会経済史 日本古代中世政治史 日本古代中世特殊講義 日本近世近代文化史	日本近世近代社会経済史 日本近世近代政治史 日本近世近代特殊講義	日本古代史演習Ⅰ・Ⅱ 日本中世史演習Ⅰ・Ⅱ 日本近世史演習Ⅰ・Ⅱ 日本近代史演習Ⅰ・Ⅱ 日本古代史料演習Ⅰ・Ⅱ 日本中世史料演習Ⅰ・Ⅱ 日本近世史料演習Ⅰ・Ⅱ	日本近代史料演習Ⅰ・Ⅱ 歴史史料調査Ⅰ・Ⅱ 歴史現地調査Ⅰ・Ⅱ
領域横断型	比較文化史 比較社会史 リスクの社会史(LA講義) おいしさと色・音・香(LA講義) 感覚の歴史を読む(LA演習) 歴史のなかの危機とその克服(LA演習)	歩いて学ぶ比較歴史Ⅰ・Ⅱ グローバル・ヒストリー	都市社会史 比較女性史 比較家族史 歴史情報論 歴史人類学	卒業論文		
外国史	アジア史概説 西洋史概説 外国史入門講読Ⅰ・Ⅱ	アジア史研究法 西洋史研究法 アジア史講読 西洋史講読 外国史論文講読 歴史学文献講読Ⅰ・Ⅱ	東アジア政治史 西アジア政治史 東アジアの歴史と文化 西アジアの歴史と文化 比較アジア社会史論Ⅰ・Ⅱ 比較アジア文化史論Ⅰ・Ⅱ 西洋政治史	西洋文化史 西洋中世史 西洋近現代史 イギリス史 フランス史	東アジア史演習Ⅰ・Ⅱ 西アジア史演習Ⅰ・Ⅱ 比較アジア史演習Ⅰ・Ⅱ 西洋政治史演習Ⅰ・Ⅱ 西洋社会経済史演習Ⅰ・Ⅱ 西洋社会史演習Ⅰ・Ⅱ	

※ LA：21世紀型文理融合リベラルアーツ(P018参照)

科目紹介
■ 日本文化史概論
16世紀までの日本の歴史(古代史・中世史)を、「都市」をゆるやかなテーマとしながら概観する。都市の歴史を通じて日本通史における時代の特徴を掴むことが目的。
■ 外国史入門講読
西洋史の基礎的な文献(日本語)を出席者全員で輪読しながら、現在西洋史の学問世界でどのようなテーマの研究が行われているのかについて具体的に学ぶゼミ形式の入門型授業。
■ アジア史研究法
中東・イスラム世界の仕組みについて、地理・環境・宗教・家族・教育・政治・経済・法・社会秩序などのテーマを取り上げ、史料を基に考察し、その研究方法を学ぶ。
■ 西洋史講読
西洋近現代史に関する英語文献を講読する。研究文献の読み方やレファランスの使用法に慣れ、基礎的な読解力を身につけることを目的とする。
■ 日本古代中世政治史
10～12世紀の平安時代史について論じる。摂関政治を中心に、天皇制、政治システム、宮廷文化、都市性、地方政治、国際関係などについて多面的に考察する。
■ 比較アジア史演習
中国史の漢文史料を自力で読解する能力を養う。17世紀の学者、顧炎武の歴史論文集『日知録』を題材に輪読、語彙や人名の検索方法を学び、問題を掴みだす能力を養う。

取得できる主な教員免許・資格
学芸員(博物館)、中学校教諭一種免許状(社会)、 高等学校教諭一種免許状(地理歴史)
教員の研究分野
教授 三浦 徹 アジア史、特にアラブ・イスラム史
教授 古瀬 奈津子 日本史、特に古代の政治史や儀式、対外関係史
教授 新井 由紀夫 西洋史、イギリス中世後期史
教授 安成 英樹 西洋史、フランス近世国制史
教授 神田 由築 日本史、特に近世の文化史や社会史
助教 大藪 海 日本史、特に中世の政治史や寺院社会史
助教 湯川 文彦 日本史、特に近代国家形成史

TOPICS

書を捨て、街に出よ！
「歴史の現場に立つ」
多彩な授業群

フィールドワーク中心の授業である「歩いて学ぶ比較歴史」、新2年生を迎えオリエンテーションを兼ねて行われるコース旅行、発掘を現場で指揮している最前線の考古学者などの案内による「史跡調査」、世界遺産などを訪ねる「歴史現地調査」、貴重な生の史料に触れる「歴史史料調査」など、実際の歴史の舞台に立ったり、歴史を今に伝える「証人」たちと対話したりするための授業が用意されています。どの「現場」も多くのドラマを秘めて待っています。



※写真は2014年度のコース旅行、伊香保温泉の石段街にて

人文科学科 地理環境学 プログラム

<http://www.li.ocha.ac.jp/ug/hum/chiriog/index.html>



知的に世界を生き抜くために 文系と理系の知識を「場所」で結びつける

今、自分は地球上のどこにいるのか。自分のいる位置がわかれば、次はどのような場所にいるのか知りたくなります。どのような社会と自然がそこにあるのか、どのような原理で形成されているのか等々、疑問は次々と新しい関心と呼び覚ましていきます。地球と人類に関する興味・関心は、知的に世界を生き抜くために不可欠です。それを、世界の誰もが共有できるように、それぞれの知る場所を通じて明らかにしていくのが地理学です。空間、環境、景観、地域などをキーワードに、各人が特定の場所に強い関心を持って、自然・社会・人間を捉え考察する地理学には、文系・理系の枠を超えた広大なフィールドが広がります。好奇心旺盛な人に最適な学問です。

目的

ローカルな知識と実践力の育成

地理学は、大学の教育・研究において文系と理系の知をローカルな場所で考え、結びつける総合科学であり、さらに社会生活においては現実的な諸問題に解決策を与える応用科学・政策科学としての特徴を持ちます。地理環境学プログラムでは、現実的な諸問題（経済振興、地域計画、都市問題、少子高齢化・福祉問題、防災、環境問題など）の解決のために、ローカル、ナショナル、グローバルの地理的マルチスケールのセンスと知識を育みます。

卒業生の多くは専門を生かした分野へ進みます。公務員では地域計画・交通計画の部署、民間企業ではマスコミ、鉄道、百貨店、建設・不動産、情報システム、地図作製、シンクタンクなどです。地理学の実践的、応用的なスキルが力となります。

特徴

幅広いテーマとスキルの尊重

地理環境学プログラムでは、経済、社会、都市、環境などの地理学の知識を講義や演習を通じて広く学びます。さらに、地理学独自の分析視点や方法を学ぶため、フィールドワーク（東京近郊と日本各地）、地図・GIS、地域統計分析、アンケート調査、自然観測などの授業を履修します。これによって、地理学の基礎的なスキルを学ぶとともに、地球と人類に関して人文科学・社会科学・自然科学のそれぞれの分野が問題とする諸現象の場所性・地域性について考えるための地理的センスを身につけます。卒業論文では、授業を通じて学んだ知識・スキル・センスを生かして、学生の一人ひとりが任意の地域で設定したテーマに基づき研究に取り組みます。地理学の卒業論文では、多様なテーマ設定が可能です。

カリキュラム（主＋強化プログラム）

	基礎		発展	
地理学共通	都市と自然 地理学英書講読 地理学フィールドワーク B	地誌学 地図学	地理学フィールドワーク演習 地理学研究法演習 測量学 地理情報システム演習 I・II	地理環境学演習 I～IV 地理学研究法演習 地理学卒業演習 卒業論文
人文地理学分野	人間と空間	経済地理学 社会地理学 都市地理学 人文地理学分析基礎演習	地域分析学演習 I 社会地理学演習 都市・福祉地理学演習 I	地域分析学演習 II 都市・福祉地理学演習 II
自然地理学分野	自然と人間	自然地理学 環境地理学基礎演習	自然地理学演習 I 環境地理学演習 I	環境地理学演習 II

※強化プログラムでは、表中の科目以外にグローバル文化学、社会学、自然科学、生活科学分野の指定科目を履修できます。

科目紹介

■都市地理学

グローバル化や高度情報化、少子高齢化など、経済社会の変化を受けて変貌する都市空間と住民の生活を考察するための地理学的な視点・概念・方法を学ぶ。

■地域分析学演習

産業集積がなぜ起こるか、その現代的意義とは何か。大田区の下請け企業や秋葉原の電気街、神田の古書店街などを事例にして、関連文献を読み、討論する。

■人文地理学分析基礎演習

地域社会でのフィールドワークを想定し、調査レポート作成に必要な、地域情報に関する知識、統計資料の扱い方、統計分析の基礎、フィールドワークの技法を学ぶ。

■地理学フィールドワーク

理論やスキルを学んだら、教室を出て現実を眺め、考える。自らテーマを設定し、自然環境・歴史・経済・文化など多様な側面から地域を考察するフィールドワーク。

■自然と人間

自然環境内で人間が活動することによって起こる環境問題を取り上げ、それを理解するためのアプローチを実践的に学ぶ。さらに、自らの環境観の構築を目指す。

■地誌学

特定の地域を総体的に記述するのが地誌である。古今東西の地誌書や各種文献による地域の描写を検討し、地域の個性とその記述スタイルについて考える。

■地理情報システム演習

地理情報システム（GIS/Geographic Information System）を用いた地理情報解析について学ぶ。また、代表的な GIS について基本的な使用方法を修得する。

■環境地理学基礎演習

自然環境を自ら測ることを通して自然の摂理を理解する。さらに、さまざまなデータ（自ら観測したデータや全球規模の膨大なデータなど）を図化し分析できる能力を身につける。

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（地理歴史・公民）、学芸員（博物館）、GIS 学術士、地域調査士、社会調査士

教員の研究分野

教授 水野 勲 経済地理学、数値地理学
准教授 宮澤 仁 都市地理学、福祉地理学、地理情報システム（GIS）
准教授 長谷川 直子 自然地理学、陸水学

TOPICS

実践的なフィールドワークで 学んだ地域情報を 生きた知識に

一人の人間が見聞できる範囲は限られますが、地図・GIS はそれを補います。他方、地図・GIS を使って表現された情報は、現場で確かめることによって、はじめて生きた知識になります。場所・地域の状態をそこに住む人々のあり方を通して知ることにより、人間の活動と社会をよりリアルに捉えることが可能になるのです。地理環境学のプログラムでは、現場で情報を収集・理解するフィールドワークを重視しています。フィールドワークの学習過程を経ることで「地域調査士」「社会調査士」資格取得への道も開けます。



好奇心から広がる無限大の学び

「地理」と聞いたときにまず何が思い浮かぶでしょうか。地図？地形？そのようなイメージが強いのではないのでしょうか。しかし、大学で学ぶ「地理学」では、景観、福祉、宗教といった多様なテーマを扱い、地域に対する多角的な視点を養うことができます。幅広い分野の講義に加え、フィールドワークや地理情報システムといった地理学ならではの調査手法を通して、自分の興味関心に深く向き合えるのが魅力です。



VOICE of FACULTY MEMBER
長谷川 直子 准教授

総合学の草分け的存在？

最近、総合学や学際学といった分野を超えた学問の必要性が叫ばれ始めています。地理学はある地域に注目し、その地域の自然環境を巧みに利用しながら人間が活動している現象全体を扱うので、まさに総合学にあたります。大学の授業で事例を学ぶと、旅行などでどこかへ行った時に自ら地域のことを理解できるようになります。「これもそうなんだ！」の発見の楽しさを味わってみませんか？

言語文化学科 日本語・日本文学 プログラム

http://www.li.ocha.ac.jp/ug/lhc/jpn/index.html



言葉たちがきらめく文学の森で 日本文化の「本質」と今を見極める

私たちはいつの間にか「日本語」をしゃべっていますが、それはいつ、なぜ、このような言葉になったのでしょうか。自分たちが知っているようで知らない、言葉のしくみや働きを理解したいと思いませんか。遙か昔の、万葉びとたちの歌が、いま生きている私たちにも「わかる」と思えるのは、なぜでしょうか。それぞれの時代の日本人が、自分の思いを託し、洗練し続けてきた言葉。文学作品はその宝庫です。遠い古代から現代に至る、広大な文学の森に分け入ってみましょう。学問は的確なコンパスとなって、あなたを導いてくれるはずです。

目的

作品に迫る！

日本語・日本文学を学ぶために十分な基礎力を身につけ、言葉というものに対する洞察を深めるとともに、文学作品に対する分析手法を学びます。

研究の方法はさまざまです。和紙に墨で書かれた古写本を読んだり、平安時代の人物の生涯を細部まで復元したりするほか、最新の文学理論を応用して作品に迫ったり、大量の言語データをパソコンで統計処理するようなこともします。しかし、結局のところ、文章をじっくり、深く読むこと、自分で突き詰めて考えることがいちばん大事だとわかってくるでしょう。

卒業後は専門を生かして教職やマスコミ関係に進む人、一般企業に就職する人、公務員になる人のほか、大学院に進む人も少なくありません。

特徴

幅広く学ぶ！

文学関係では、奈良時代以前から現代まで、各時代の文学史を中心に広く学ぶようになっています。語学関係では、文法論や語彙論といった基礎理論から、実際に話されている日常会話の分析まで、幅広く学びます。他の大学では、自分の興味のある所だけを勉強しても卒業でできてしまう場合がありますが、本プログラムではオーソドックスな体系的学修が重要であると考えています。幅広く学んでみて、初めて自分の好きなものの位置がはっきりしてくるのです。

授業は文学史や概説・通論のような科目から、作品を深く読む講読科目、自分で調べ、考えて発表する演習科目などからできていて、これらを組み合わせて学修していきます。最後は、自分の力で大きな卒業論文をまとめることになります。

カリキュラム（主＋強化プログラム）

	基礎		発展	
日本文学	日本文学概説 日本古典文学史論（上代～近世） 日本近代文学史論（近代・現代）	日本古典文学論基礎演習Ⅰ・Ⅱ 日本文学論講読Ⅰ～Ⅳ	日本古典文学論特殊研究（上代～近世） 日本近代文学論特殊研究（近代・現代） 日本古典文学論特殊講義Ⅰ～Ⅲ 日本近代文学論特殊講義Ⅰ・Ⅱ	日本古典文学論演習（上代～近世）Ⅰ・Ⅱ 日本近代文学論演習（近代・現代）Ⅰ・Ⅱ 日本文学研究指導
日本語学	日本語学通論 日本語彙論 日本語文法総論	日本語学基礎演習 日本語音声表現論 日本語文章表現論	日本語学特殊研究 日本語史特殊研究 日本語学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	日本語学演習（日本語史）Ⅰ・Ⅱ 日本語学演習（近・現代語）Ⅰ・Ⅱ 日本語学研究指導
その他			書道Ⅰ・Ⅱ	卒業論文

科目紹介

■ 日本古典文学史論（近世）

儒学、出版文化、貨幣制度など近世を巡る環境を前提として、中世文学との相違を意識しつつ、仮名草子、浮世草子、読本、洒落本など、近世小説の展開を概観する。

■ 日本語学通論

日々活用している日本語をちょっと離れて客観的に見る試み。語彙論や音韻・音声論、文法論や文学・表記論などの面から通観するとともに昔の日本語についても考察する。

■ 日本語音声表現論

音声と音韻理論から、日本語の〈音〉について学ぶ。口の動きを観察して発声の仕組みを考えるだけでなく、方言や文献を手がかりにして〈音〉の歴史の変遷についても迫る。

■ 日本古典文学論演習（中世）

中世の作品の一つ取り上げ、学生が諸種の参考文献を精査して作品に注釈を加え、本文の理解を深めると同時に、テーマ設定やその方法を考察する。

■ 日本近代文学論演習（現代）

日本現代文学の代表的作家とその作品を資料参考で調査・分析し、レジュメを作成する。口頭発表と討議を経験することで、日本現代文学の研究方法を修得する。

■ 日本古典文学論特殊講義Ⅰ

『古事記』『日本書紀』『風土記』など日本上代文学作品から話型の展開を辿る。そこから古代人の時間・空間感覚、自然観などを考察し現代と対照しつつ、上代作品の特質を考える。

■ 日本近代文学論特殊研究（近代）

志賀直哉や川端康成など近代文学の代表的な作家を取り上げる。海外の文学や美術など他の芸術分野からの影響を視野に入れながら、それぞれの文学世界の特質を理解する。

■ 日本文学論講読Ⅱ

平安時代の『伊勢物語』『源氏物語』『大鏡』などから作品を選んで読み解く。表現の特徴や歴史・思想・文化等の背景に注意して精読し、物語とは何かを考える。

取得できる主な教員免許・資格

学芸員（博物館）、中学校教諭一種免許状（国語）、
高等学校教諭一種免許状（国語）

教員の研究分野

准教授 松岡 智之	中古日本文学
教授 浅田 徹	中世日本文学
講師 藤川 玲満	近世日本文学
准教授 谷口 幸代	近代日本文学
教授 大塚 常樹	現代日本文学
助教 竹村 明日香	日本語史
助教 石井 久美子	現代日本語

TOPICS

楽しい思い出となる 奈良・京都研修旅行

文学について知るには、その舞台を実地に知ることでも大事です。日本語・日本文学コースでは、3年生の秋に奈良・京都を3泊4日の行程で旅行します。どこを巡るかなど、企画も学生自身が立てます。飛鳥路を散策する人、嵯峨野を歩く人、新撰組の史蹟を訪ねる人などさまざまです。友人たちと学びながらの旅は、心に残る思い出となります。



VOICE of STUDENT

川上 愛梨奈 さん（4年）

第1のプログラム…日本語・日本文学主プログラム
第2のプログラム…日本語・日本文学強化プログラム



深い学びにつながる、様々な魅力との出会い

日本語・日本文学プログラムでは、上代から現代までを網羅できる文学史論や、普段使っている日本語を学術的な切り口でとらえ直す日本語学通論などの授業を通して、日本文学と日本語に広く親しむことができます。多角的視点から様々な魅力に触れ、知識を吸収しながら自由に興味の幅を広げていく充実感、それらを土台としてさらに専門的な学びに踏み込んでいく楽しさを、ぜひ味わってください。

VOICE of FACULTY MEMBER

谷口 幸代 准教授



日本文学を読むことの意味を問い直そう

文学が時を越えて読む者の心をとらえるのはなぜでしょうか。日本の近代文学を担当する私の授業では、受講生は漱石や一葉らを対象に、作品の構造や語られ方、時代背景、女性像、古典文学の継承、外国文学からの影響など、各々の関心に基づいて、この本質的な問いに挑戦しています。皆さんも文学がもたらす感動の意味を問い直し、日本語による文学表現の豊かさについて一緒に考えてみませんか。

言語文化学科 中国語圏言語文化プログラム

<http://www.li.ocha.ac.jp/ug/lhc/chn/index.html>



「子曰」から「你好」まで 中国三千年の歴史が織りなす豊かな言語世界

中国語は現代世界でもっとも重要な言語の一つです。中国は、国内にさまざまな矛盾を抱えながらも、政治的経済的に急速に世界におけるプレゼンスを増しています。一方で、三千年の昔から文学の歴史を持ち、世界に広がる強固なネットワークを有する国でもあります。彼らが使う中国語は、深い思索の言葉として遥かな時空間を超え、今、この瞬間に使われているリアルな言葉でもあります。中国語圏言語文化プログラムでは、さまざまな意味において豊かな中国文化に言葉を通じて切りこみます。人々の考えや感情に言葉を通じて触れていく学びの旅は、社会で生きていく時に大きな力となってくれます。

目的

全球的に活躍するアジア人

国際社会で活躍するための言語として中国語はとても大きなスキルとなります。欧米の国々では義務教育段階から中国語の教育をする学校も出現しているほど、重要視されています。中国語圏言語文化プログラムでは、専任教員が現代語学、現代文学、古典語学・文献学、古典文学の4つの領域をカバーし、さらに中国語を母語とする外国人講師が中国語の運用能力を養成する授業を担当し、言語から文化論まで幅広い知識と認識を提供しています。授業外でも、中国に直に触れる中国語学研修、最新の研究成果に出会えるお茶の水女子大学中国文学会など、さまざまな学びのチャンスを提供しています。

卒業後の就職先は官庁、地方自治体、放送出版、商社、金融、メーカーなどさまざまで、専門研究者も多数輩出しています。

特徴

少人数の多彩なゼミ

中国語圏言語文化プログラムは1学年6～7人です。お茶の水女子大学のなかでも、もっとも小規模な所帯です。授業も少人数のゼミ形式が大半で、授業の準備は大変ですが、それだけに力もつきます。カリキュラムは中国語の実践的運用能力を修得するための科目群を基礎とし、その土台の上に、中国現代文化、中国現代語学、中国古典文献、中国古典文学という4つの研究領域を設けています。またそれぞれの領域に、基礎的知識を修得するための概論、研究方法を学ぶための講義、さらにそれを向上させるための演習という、3つのレベルの授業を用意しています。

行事の合宿やコンパには2年生から大学院の博士課程の学生までと一緒に勉強したり楽しんだりします。

カリキュラム（主＋強化プログラム）

	基礎	発展	
専門中国語 中国語学	中国語ヒアリング基礎 中国語ヒアリング演習 中国語作文基礎演習 中国語学概論 日中対照言語学	中国語会話演習 中国語コミュニケーション・スキル 中国語作文応用演習 中国語統語論 中国語文法論	中国現代文化特別演習 中国現代語学特別演習 中国古典文献特別演習 中国古典文学特別演習 卒業論文
現代文学 現代文化	中国現代文学史 中国語講読 中国文化論	中国現代作家論 中国現代作品論 中国事情	
古典文学 文献学	中国古典文学史（先秦～唐） 中国古典文学史（宋～清） 中国古典文献講読入門 中国古典文献講読基礎	中国文学古典講読 中国文学古典演習 中国古典詩講義演習 中国語学文献講読	

科目紹介

中国語講読

同じ漢字を用いていながらも、中国語と日本語には微妙な差異がある類義語がたくさん存在している。その違いを学びながら中国語への理解を深める。

中国語学文献講読

漢字と字書についての学修を通じて中国文化への認識を深めることを目指す。漢字の変遷や構造を学びながら、人々が漢字にどのような思いを託してきたかを考察する。

中国現代作家論

主として中華民国から中華人民共和国の時代の文学を扱う。それを通じて中国を巡る現代的問題を考える際の手がかりを得て、各人が自らの中国像の構築を目指す。

中国古典文学史（宋～清）

唐代以前とは異なる独特の中国近世文学。そのあり方を時代背景を踏まえつつ考察するとともに、漢詩文に親しんでいた当時の日本人の文学環境についても概観する。

中国語統語論

中国語の文法構造を色々な観点から考える。中国語を学ぶ、というよりは、中国語という宝の山から面白い現象を見つけ出すと言えるかもしれない。他の言語との比較なども考えていく。

中国事情

現代中国の社会と文化を学ぶ。文字テキストだけでなく、映像資料を用いたり、時には中国人から話を聞いたりして、多面的に今の中国を知り、考える。

中国文化論

中国文化について学ぶと同時に、中国に関する情報の収集・取り扱いの方法について学ぶ。

中国語ヒアリング基礎

中国語の聞く力を鍛える授業。発音された音を正確にキャッチし、正確な発音で会話することを目指す。

中国語コミュニケーション・スキル

中国語運用能力向上を目指す。

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状（中国語）、高等学校教諭一種免許状（中国語）

教員の研究分野

教授 宮尾 正樹	中国現代文学
教授 伊藤 美重子	中国古典語学・文献学
教授 和田 英信	中国古典文学
准教授 伊藤 さとみ	中国現代語学・言語学

TOPICS

北京の語学研修で 言葉を学ぶ、 中国を体験する

毎年夏、中国語短期海外研修を実施しています（研修先は北京外国語大学）。期間は2週間と本当に「短期」で、効果が上がるはずないと思うかもしれませんが、中国語力が格段に向上することが検定試験の結果等から確かめられています。同時に、あるいはそれ以上に、中国の人々や社会の生の姿に触れる貴重な機会になります。図書館ホームページのTeaPotに掲載の報告書で、過去の参加者の感想を読んでみてください。研修の成果は単位として認定されます。また、学生支援機構や本学独自の奨学金を受けることができます。



お茶大最弱!? いいえ、最強です!

少人数授業が特徴のお茶大の中でも最小規模を誇るのが我らが中文プログラムです。1学年わずか5、6人。それ故に先生方の丁寧な指導を受けることができ、語学研修など実際に中国語を使う機会も豊富、学生たちも学年を超えて仲が良かったです。先生方が一人一人に合わせて指導をしてくださるので、中文の学生の研究内容は多種多様。ぜひここで、あなたの「やりたい!」を叶えてみませんか?



VOICE of FACULTY MEMBER
伊藤 さとみ 准教授

言葉の研究を通して自分を認識しなおそう

私たちは毎日、当たり前のように日本語でおしゃべりしたり、メールしたりしています。でも、その「当たり前のこと」は、実は複雑な規則、豊富な語彙知識とコミュニケーションの経験に支えられています。外国語を学ぶとは、この三つを学ぶことですが、この訓練は自分が「当たり前」と考えていたことへの見直しの場でもあります。皆さんもこれまでの自分から脱皮してみませんか。

言語文化学科 英語圏言語文化 プログラム

http://www.li.ocha.ac.jp/ug/lhc/eng/index.html



未来の世界を担う共通語 言語としての英語、文化としての英語を学ぶ

古くは中世・ルネサンスの時代から、多くの世界的文学作品を生み出してきた英語は、現在世界でもっとも広く通用する言語として、国際化が進む世界の未来そのものを担う言語となっています。

本プログラムでは、英語の言語としての特質やその運用・修得のあり方を学ぶと同時に、英語を母語とする人々が、その思考や感情や想像力の表現として生み出してきた文学や文化表象を、分析の方法論と併せて学びます。

高度な英語運用能力と専門知識を身につけ、思考力・発信力・表現力を同時に磨くことで、深く思考し、自信を持って世界に発信できる人材となることを目指します。

目的

世界に発信できる力をつける

本プログラムでは、英語と英語圏の文学・文化をグローバルな視野で総合的に理解することを目指します。教養レベル以上の英語運用能力を確実に修得すると同時に、学術的成果や深い思想を英語で正確に表現し、自信をもって世界に発信できる能力の修得を目標に、専門知識と技能の両面から広く深く学びます。

また、英語学や英米文学を専門に学ぶための高度な英会話・英作文の専攻科目、卒業論文を英語で作成するための科目も組まれています。さらに英語圏の社会や文化を学ぶ科目により、英語圏言語文化のトータルな理解を目指します。卒業後は、英語力を生かし、教員、翻訳、商社、公務員、出版社などさまざまな分野で活躍する一方で、大学院に進学して専門分野の研究を続ける人もいます。

カリキュラム（主＋強化プログラム）

	基礎		発展	
	講義	演習	講義	演習
英語力及び英語運用能力 英語教育学	英文法Ⅰ(1)(2) 英文法Ⅱ	英作文演習(初級) 英会話演習(初級) 英語圏テキスト研究入門(1)(2) ギリシャ語 ラテン語	英米事情(1)(2) 第二言語教授法研究	英作文演習(中級) 英作文演習(上級) 英会話演習(中級) 英会話演習(上級) 対照表現学演習Ⅰ(1)(2)・Ⅱ 卒業論文
言語学 英語学	英語学入門(1)(2) 言語学入門Ⅰ(1)(2) 言語学入門Ⅱ	英語学概論	英語学特殊講義Ⅰ～Ⅶ	特別演習(言語研究方法論)Ⅰ(1)(2)・Ⅱ 特別演習(言語資料分析) 英文法演習 英語音声学演習 卒業論文
英語圏文学文化 英語圏表象文化	英語圏言語文化入門(1)(2)	英米文学演習(初級)	英文学史Ⅰ(1)(2)・Ⅱ 米文学史Ⅰ(1)(2)・Ⅱ 英文学特殊講義Ⅰ～Ⅶ	特別演習(英米文学研究方法論)Ⅰ(1)(2)・Ⅱ 特別演習(作品分析) 英米文学演習(中級) 英米文学演習(上級)(1)(2) 卒業論文

特徴

思考力・発信力・表現力を磨く

英語と英語圏の文学・文化について効果的に学ぶため、1年次には文法に関する基礎的な講義を履修し、2年次には英文法演習、英語音声学演習、英語学概論などを基礎から積み上げ、じっくり高度な実力を身につけていきます。一方、2～3年次には、英文学・米文学・英語学のなかから自分の専攻する領域を選んで演習や講義を受け、さらに専門知識を深めることができます。英語学なら、特別演習(言語研究方法論)と各種の英語学特殊講義を、米文学なら、米文学史、特別演習(英米文学研究方法論)、英文学特殊講義(アメリカ)などを履修します。いずれの場合も4年次には、語学・文学別に組まれている特別演習と各種の特殊講義を引き続き履修して専門知識を深め、英語による卒業論文を作成します。

科目紹介

■ 英作文演習（初級）

In this class students will improve their ability to plan, organize, write, and revise their English essays. Students will also expand their vocabulary knowledge through an online vocabulary course.

■ 特別演習（作品分析）

作品選択、テーマ設定、方法、資料収集等、卒業論文執筆に至る実践的研究方法を学ぶ。

■ 英米事情（1）(2)

The aim of this class is familiarize students with the cultural similarities and differences between the U.S.A., the U.K. and other English speaking countries.

■ 米文学史Ⅰ（1）(2)

植民地時代から現代に至るアメリカ合衆国の文学を今日的視点から概観する。

■ 英文法演習

最近の理論言語学の知見に基づき、特に文構造の問題に焦点を当てて、英文法の知識を深め、統語論の基礎知識を身につける。

■ 英語学概論

言語の規則性・普遍性を意味の面から考察し、意味論の基礎知識を身につける。

■ 対照表現学演習Ⅱ

卒業論文の書き方を学ぶ。テーマの選定・文献調査方法・先行文献の引用方法・英文30ページ以上に及ぶ卒論の構成を扱い、授業内議論による吟味を踏まえて各自の卒業論文の基となる英文レポートを作成する。

取得できる主な教員免許・資格

学芸員（博物館）、社会調査士、中学校教諭一種免許状（英語）、
高等学校教諭一種免許状（英語）

教員の研究分野

教授 松崎 毅	英文学（17世紀イギリス詩、宗教学、政治文学）
教授 戸谷 陽子	米文学（アメリカ演劇を中心とする表象文化研究）
教授 清水 徹郎	英文学（イギリス初期近代の詩、演劇）
准教授 ダイアン・ナガトモ	英語教育学
准教授 野口 徹	英語学・言語学 （文法理論、統語論・意味論のインターフェイス）
准教授 中西 公子	英語学・言語学（意味論、語用論）
准教授 山腰 京子	英語学・言語学（第一言語習得）
准教授 高桑 晴子	英文学（主に19世紀のイギリス・アイルランド小説）
准教授 デイビッド・アレン	心理言語学・応用言語学・第二言語習得

TOPICS

Per Ardua Libertas

「かんなん艱難によって自由は得られる」を
モットーに自主学習で自分を磨く

本プログラムのモットーは「艱難によって自由は得られる」です。少人数の演習授業が多く、綿密な下調べと積極的な授業への参加が求められます。多くの時間を費やして行う予習や自主学習といった労苦を通してこそ、言語や外国文化の真の理解のうえに立つ知的自由を得ることができるのです。また、授業を通じて興味をもったことがあれば、学生が自主的に勉強会を立ち上げます。教員や大学院生も巻き込んで、自主的な学習と活発な議論が行われます。知的な興味を探索する学びの姿勢が、学生の能力をさらに高めます。



言語文化学科 仏語圏言語文化 プログラム

http://www.li.ocha.ac.jp/ug/llc/fra/index.html



フランスから見た欧州、欧州から論じるフランス 移民問題から現代思想まで、仏語圏を食べ尽くす

フランスは、17世紀以来、ヨーロッパの政治と文化の中心でした。20世紀の後半になって、フランスはドイツとともに欧州連合（EU）の創設に深くかかわり、現在でもヨーロッパ全体に大きな影響力を発揮しています。したがって、フランスの文化と社会を考える時にはヨーロッパ全体を視野に入れること、逆にヨーロッパ全体の問題を考える時にはフランスを一つの中心核とすることは大きな意義があります。また世界各地のフランス語圏の国々の文化や社会にも視野を広げ、狭い意味での言語文化だけではなく、映画から思想まで、ファッションから移民問題まで、幅広く学んでいきます。

目的

国際的視野を持つ人材の育成

フランス語の実践的運用能力を身につけること、フランス語で営まれているさまざまな言語文化やフランス語圏の社会事情に深い理解を持つこと、さらにはドイツ語圏文化などヨーロッパの他の言語文化や世界の仏語圏の文化にも視野を広げて異文化交流にも関心を抱くこと。そのような能力と知的好奇心を備えた人材の育成が目的です。

また、文学・思想から映画・美術まで、食文化から移民問題まで幅広く仏語圏の文化と社会を学ぶことによって、視野の広い柔軟な思考ができる人材が育成されます。

卒業生は国際化した現代社会の要請に応え得る人材として、商社・金融などの民間企業や、官庁、マスコミ界などさまざまな分野で活躍しています。

特徴

時事仏語から文学言語まで学ぶ

本プログラムのカリキュラムは、新しく入学してくる学生が、フランス語をまだまったく学修していないことを前提として構成されています。1年次から2年次にかけてはコア科目のフランス語に関する授業を履修することによって、フランス語の基本的な語学能力を獲得します。

2年次から始まる専門科目においては、作文や会話の力を伸ばすとともに、時事フランス語やビジネスフランス語から文学や社会問題のテキストまで多様なフランス語を学びます。それとともにフランス語圏の文化や社会に関する専門的な知識を段階的に深めていきます。

4年次に必修として課されている卒業論文は4年間の勉学の総決算となるべきものです。

カリキュラム（主＋強化プログラム）

	基礎		発展	
仏語圏の文化と社会	西欧社会文化論Ⅰ～Ⅳ ヨーロッパ言語文化論	欧州文化論Ⅰ・Ⅱ 仏語圏社会言語論Ⅰ・Ⅱ	フランス社会文化論Ⅰ～Ⅳ 仏語圏言語文化論Ⅰ～Ⅳ	上級仏語学演習Ⅰ・Ⅱ 独文学演習Ⅰ・Ⅱ 仏語圏言語文化研究指導 卒業論文
フランス語・フランス文学		基礎仏作文演習 中級仏作文演習 基礎仏会話演習 中級仏会話演習	上級仏会話演習Ⅰ・Ⅱ 応用仏語学演習Ⅰ・Ⅱ 近代仏文学演習Ⅰ・Ⅱ 現代仏文学特殊講義Ⅰ・Ⅱ	

科目紹介

■ 基礎仏作文演習

テーマを決めて作文をする。毎回担当となった学生の作文を教室で添削しながら文法や単語などの説明を行う。作文はすべて添削を行いコメントをつけて返す。

■ 上級仏会話演習

担当者が、前もって決められた社会問題などのテーマについて発表を行った後、それについて皆で議論をする。各自あらかじめ自分の考えをまとめておくこと。

■ 西欧社会文化論

「ヨーロッパ学入門」を意図する授業。前半は西ヨーロッパの社会と文化の特性を考察する。後半はフランスとヨーロッパ世界との関係の諸問題を考える。

■ 欧州文化論

欧州におけるファッションとアートの関係を考える。ファッションがアートと結びつくことによって、いかに多くの創造的な試みが生まれたかを明らかにする。

■ 仏語圏社会言語論

ヨーロッパやアフリカの多くの国々で公用語とされているフランス語の現状を、その歴史的背景や、フランスにおける地域語の問題などからめて考察する。

■ 近代仏文学演習

フランス近現代の何人かの女性作家の小説を講読する。歴史的、社会的背景を視野に入れながら、小説の分析の方法を身につける。

■ 現代仏文学特殊講義

文学と美術との相互影響関係を考えるために、主としてフランスの文学者の書いた美術批評を読む。また、フランス語のテキストの読解力の向上を目指す。

■ 仏語圏社会言語論

フランス企業またはフランス企業と取引のある日本企業で日常的に使用されているビジネスフランス語の基礎を具体的な事例を使って学び、実務に応用できる能力と知識の修得を目指す。

■ 仏語圏言語文化論

近・現代のパリを中心とする都市文化を考察する。建築・芸術・映像文化・消費文化等の動向、所産を考察し、現代との関連について検討していく。

■ フランス社会文化論

「フランス政治外交論」の授業。フランスの政治、経済、外交について概括的な解説の講義を数回行った後、外交文書や政策決定者の記録文書などを取り上げて分析する。

■ ヨーロッパ言語文化論

フランスを中心にヨーロッパの文学と音楽の関係を学ぶ。特に19世紀にオペラ化された文学作品に焦点をあて、文学と音楽の交わりによって何が生み出されてきたのかを考えたい。

教員の研究分野

准教授 小松 祐子	仏語圏文化、仏語教育学
助教 田中 琢三	近代フランス文学・文化、フランス語教育
助教 前田 佳一	ドイツ語圏文学・文化、ドイツ語教育
外国語教員 オレリアン・サバティエ	フランス語教育、日仏比較文学

TOPICS

「仏語検定試験」を受けよう フランス語圏の大学に 留学しよう

「実用フランス語技能検定試験（仏検）」は、自分のフランス語力を客観的に証明してくれる手段です。在学中にできるだけ高い級の合格を目指しましょう。なお、本コースは、そのフランス語教育への貢献が認められて、仏検を主宰する「フランス語教育振興協会」より2015年度の「文部科学大臣賞団体賞」を授与されました。また、本学と協定を結んでいるフランス語圏の大学に留学すれば、卒業年度を遅らせることなくしに、大学を卒業することも可能です。留学は、単に語学力を向上させるためだけではなく、その国の人々の生活や習慣を、直接の体験で知ることができることから重要です。



VOICE of STUDENT
析倉 那帆 さん（4年）
第1のプログラム…仏語圏言語文化主プログラム
第2のプログラム…仏語圏言語文化強化プログラム

「好き」を追究できる場所

『星の王子さま』を原語で読みたい。これが私のフランス語習得のきっかけです。本プログラムでは、文学や映画から仏語圏の言語状況、社会問題や政治、服飾まで、幅広く学ぶことができます。私は演劇に興味を抱き、文化的背景も含め包括的に学ぶことを目標に、1年間ストラスブール大学に留学をしました。学生が各々好きなことを追究でき、多様性を認め合える環境が、本プログラムの魅力です。



VOICE of FACULTY MEMBER
前田 佳一 助教

言語を通じて異文化を知る

言語は単なる情報の伝達手段であるだけでなく、それを用いる人間の思考を育む土壌でもあります。異文化を現地の言語で理解することは自らもその土壌に足を踏み入り、その中で思考することによってある意味で自らを「変身」させることもあります。本プログラムはフランス語あるいはドイツ語を徹底的に学ぶことを通じての変身願望をもったあなたを歓迎します。一緒に頑張りましょう。

人間社会科学科 社会学 プログラム

<http://www.li.ocha.ac.jp/ug/hss/socio/index.html>



疑う、観る。分析して問題解決の糸口をつかむ 社会と人間の行動をトータルに捉えて研究する

社会学は、人間の行動と意識の社会的な側面及び組織や社会の構造・機能とその変動を研究する学問です。社会学コースでは、社会のなかに埋め込まれた個人のパーソナリティ、人と人との相互関係、そこから生み出される文化、制度や社会全体の仕組みなどを対象に学んでいきます。具体的な研究領域としては、自分探し(アイデンティティ)、家族、マス・メディア、コミュニケーション、エスニシティ、環境、企業、職業、消費、非行・犯罪、余暇、階層・階級、青年文化、学校、社会福祉、地域開発、都市、法社会学などがあります。最新の時事や社会現象などに主題を見つけ、理論を立て、実証することで、社会を見る新しい視点を養います。

目的	特徴
理論に基づき事実を解明する	方法論と演習、隣接諸科学の重視
理論と実証の2つの基礎を学び、社会科学的な考え方と分析手法を身につけます。そのうえで、コミュニケーション、メディア、福祉、高齢者、環境、ジェンダー、家族などの領域で生じる具体的な社会現象を分析します。さらに人間の社会生活を巡る問題意識を育て、社会のさまざまな問題の背景や原因を分析し、問題の解決に向けて自主的・積極的に取り組む能力を身につけることを目指しています。	社会学の概論的講義の「社会学総論（人間と社会）」、社会調査の全過程を修得する「社会調査法」を必修として、教育社会学や地理学、生活科学など隣接分野の授業科目も含んだ幅広いメニューで社会学と文化人類学の基礎を修得します。学外からの非常勤講師も迎え、多様な研究領域に触れられる多彩な授業科目が用意されています。
卒業生はその専門知識をもとに、マスコミ関係、官公庁、非営利団体、国内・海外の調査機関、一般企業の人事・広報、コンピュータ関連企業などで活躍しています。大学院へ進学し、より専門的な知識を身につける人も多く、多くの大学で教壇に立ち、研究者として精力的に研究活動を行っています。	研究方法も、文献中心の理論研究、地域社会でのフィールドワーク、コンピュータを駆使した計量研究などさまざまです。企業や自治体、コミュニティなどで社会の現実を的確に解明する手法として「質的」または「量的」な社会調査法を重要なものと位置づけています。
	講義で吸収した知識をもとに、演習での活発な討論に力を入れており、その集大成として卒業論文の作成を重視しています。

カリキュラム(主+強化プログラム)

	基礎		発展	
人間社会科学	人間科学論 人間と発達 社会学総論(人間と社会) 子ども学総論	教育社会学概論 教育社会学特殊講義 学校社会学特殊講義 子ども社会学概論	教育社会学演習 学校社会学演習	
社会学	ジェンダー論 現代社会論 現代生活論 社会政策論Ⅰ 社会調査の設計と実施	社会意識論 比較社会論 社会政策論Ⅱ 社会問題論 比較社会政策論 文化人類学概論 文化人類学特殊講義 民族誌学特殊講義	ジェンダー論演習Ⅰ・Ⅱ 社会意識論演習Ⅰ・Ⅱ 社会政策論演習Ⅰ・Ⅱ 社会保障論演習Ⅰ・Ⅱ 現代生活論演習Ⅰ・Ⅱ 現代社会論演習Ⅰ・Ⅱ 文化人類学演習Ⅰ・Ⅱ 民族誌学演習Ⅰ・Ⅱ	社会調査法 社会学研究指導Ⅰ 社会学研究指導Ⅱ 卒業論文
隣接分野	フィールドワーク方法論 応用生活統計学 人間と空間 都市地理学	社会福祉学 老人福祉論 老年学 地域社会論 児童福祉論 社会統計学Ⅰ	家族社会学	

科目紹介
■ 人間と社会 社会学の基本的知識と、それを基盤とした現代的な諸問題、諸現象へのアプローチがテーマ。社会学を学ぶ準備段階として、社会学における古典的・典型的な知見を得る。
■ 社会調査法 大規模標本調査を念頭に置き、目的の設定・明確化／調査の企画・設計／調査票の作成／調査の実施／調査結果の集計・分析／レポート作成まで、一連の過程を実習する。
■ ジェンダー論 「ジェンダーの視点」というものの見方を理解し、人間や社会の諸現象を自分の人生と関連させて考察できることを目指す。ジェンダーの社会学入門。
■ 社会意識論 社会意識、コミュニケーション、メディアについての理論や分析枠組みを学び、それを通じてアクチュアルな社会現象についての理解を深める。
■ 社会政策論 社会保障を中心に社会政策(社会保障、社会福祉、住宅政策、雇用政策等)の概論的な講義から、社会福祉(介護サービスを含む)の基礎理論とその政策の課題までを取り上げて論じる。
■ 文化人類学概論 フィールドワークから得られる「文化の多様性」の視点に基づいて人間現象を捉え、そこからさまざまな現代的課題の分析を試みる。
■ 社会保障論演習 比較社会政策論(比較福祉国家論)の主要な理論と研究方法の基礎的な理解を目標にする。この分野の基本文献を読むことと研究発表を中心に授業を進行する。

取得できる主な教員免許・資格	
社会調査士、学芸員(博物館)、中学校教諭一種免許状(社会)、高等学校教諭一種免許状(公民)	
教員の研究分野	
教授 平岡 公一	比較社会政策、社会福祉政策論、福祉社会学
教授 坂本 佳鶴恵	社会学 (特に社会意識・文化論及び家族・女性に関する研究)
教授 棚橋 訓	文化人類学 (特に環境、人口移動、ジェンダー、エスニシティの研究)
教授 杉野 勇	理論社会学、法社会学、社会調査

TOPICS

高度情報化した メディア社会の 必須リテラシー、 「社会調査士」

社会調査の知識と技術を用いて、世論や社会意識、生活実態などを的確に捉える専門家が社会調査士です。(社)社会調査協会が認定する資格で、認定科目の履修と学部卒業が必要です。企業のマーケティングや自治体の住民調査など、現代社会のさまざまな部門で科学的な調査を企画・実施して適切なエビデンスを形成し、それに基づいて社会設計を行うことが重要になっています。のみならず、我々がメディアなどから受け取る無数の“情報”に含まれる“調査結果”の妥当性を正しく識別するためにも、社会調査方法論の知識は不可欠です。



人間社会科学科 教育科学 プログラム

<http://www.li.ocha.ac.jp/ug/hss/edusci/index.html>



ヒトはいかにして人間(ひと)となるのか？ 根源的なテーマに迫る総合的人間科学

ヒトはいかにして人間になるのか。この命題に教育科学は迫ります。人間発達は、狭い学問領域にとどまらず、およそあらゆる科学の成果と方法を結合してはじめて理解することができるものです。教育科学は、人類の究極の謎である私たち自身の人間形成や発達の過程に、多彩な研究方法を駆使して理論的・実践的にアプローチする総合的な人間科学です。単に知識を得て蓄えていくのみの既存の知識の受容者から、自らの視点と理論によって創造的知識の生産者へ。高等教育人材にふさわしく変身し、社会でその能力をいかんなく発揮できるための基礎力と応用力を獲得できることを目指します。

目的	特徴
5領域で実践的知性を磨く	現場で学び、個性を拓く
問題を発見する洞察力、事象を的確に観察・分析する方法論と能力、それらを実践的処方箋へと深める実践的知性の育成を目標としています。	学科共通科目（1年次に履修）は、教育研究への招待状です。人間の発達に関する関心とセンスを磨いてください。専門講義は1年次から概論を中心に開設され、教育科学の基礎を学んで各自の関心にあったアプローチを発見し、3年次から始まるゼミでそれを深めます。自主的に取り組む少人数ゼミは自分の個性を発見するチャンスでもあります。
教育科学プログラムは、人間発達に関する基礎科学と、人間発達にかかわる諸問題の解決を志向する実践科学の5領域で構成され、それぞれに専任教員を配しています。	1年次の「教育実地研究」は、学校や教育施設など幅広い生涯発達の実地を観察することによって、人間発達に対する視野を広げることに関与します。「卒業論文」は、4年間の研究成果をまとめる学生生活の記念碑的存在です。
基礎科学：教育思想、教育史、教育社会学 実践科学：教育方法学、教育開発論 発達に関する多様な学問領域に触れることで、卒業後には研究者の世界が、そして幅広い職業世界が広がります。卒業生の約5分の1が大学院へ進学、およそ5分の1が教職につき、5分の3が公務員、マスコミ、一般企業へと就職します。	また、教職課程の履修により、中学校、高等学校の各教員免許状が取得できます。

カリキュラム（教育科学主＋強化プログラム）

	基礎		発展	
基礎的教育科学	人間と発達 人間科学論 子ども学総論	教育思想概論 教育史概論 教育社会学概論	教育思想特殊講義 教育人間学特殊講義 教育史特殊講義 教育社会学特殊講義 学校社会学特殊講義	教育思想演習 教育人間学演習 教育史演習 教育社会学演習 学校社会学演習
実践的教育科学		教育方法学概論 教育課程概論 教育開発概論 生涯学習概論 教育制度概論	教育方法学特殊講義 教育課程特殊講義 教育開発特殊講義 比較教育特殊講義 教育制度特殊講義 学校インターンシップ	教育方法学演習 教育課程演習 教育開発演習 比較教育演習 教育制度演習
	教育実地研究		教育科学研究指導Ⅰ	教育科学研究指導Ⅱ 卒業論文

科目紹介
■ 教育思想概論 さまざまな教育思想を通覧し、教育を多角的に検討するための基礎の獲得を目指す。本講義の目標は、代表的な教育思想のあらましを説明できることと自身の教育観を論理的に説明できることである。
■ 教育開発概論 教育開発の理論、国際機関の役割、発展途上国の教育の現状と課題、国際協力、教育開発の今日的課題、国際理解・平和のための教育、ESD、日本の教育開発経験等について学ぶ。
■ 教育方法学概論 国内外の教育方法に関する理論や実践記録の検討を通して、「学校」や「授業」を規定している諸要因を学ぶ。自身の経験によって形成された「教師像」・「授業」などの柔軟な捉え直しを目指す。
■ 教育課程演習 日本の初等・中等教育の教育内容を規定する「教科」と「教科書」について考える。自明視されている「教科」や「教科書」の存在自体を相対化するため、その存在意義を巡る議論を行うと共に、具体的な教科や教科書（教材）について検討を行う。
■ 教育史特殊講義 近代日本における対「外」認識の形成について、敗戦までの中等教育の教育課程・教育内容の成立展開を検討する。特に、「東洋史」教育の成立と展開を中心に、中等教育段階の歴史教育における対「外」認識形成を扱う。
■ 教育社会学演習 教育社会学の諸理論と先行研究を学ぶ。教育現象を「社会的に」捉えることのできる知識と視角を身につけることを目指す。適宜、社会学で用いられる理論などを参照する。
■ 教育制度演習 教育委員会の戦後史と現状をテーマとし、文献や資料の読み合わせを行う。教育委員会が設置する公立学校も視野に入れる。

取得できる主な教員免許・資格
学芸員（博物館）、社会調査士、中学校教諭一種免許状（社会）、高等学校教諭一種免許状（公民） ※中学校・高等学校教諭一種免許状は教職課程の社会コースの履修により取得可能です。

教員の研究分野
教授 耳塚 寛明 教育社会学 教授 米田 俊彦 教育史、教育制度論 教授 池田 全之 教育思想、人間形成論史研究 教授 浜野 隆 教育開発学、比較国際教育学 准教授 富士原 紀絵 教育方法学、教育課程論

TOPICS

教育への視野を広げる 教育の現場に参加する 「教育実地研究」

教育の場、教育の対象というとは、真つ先に思い浮かべるのは小・中・高等学校といった学校であり、そこで学ぶ子どもたちでしょう。しかし、生涯学習の求められる現在、教育の場は学校に限られません。年齢を問わず学ぶ場が社会や地域に広がり、学校内外で子どもから大人まで幅広く参画する教育の場が多数あります。この授業ではそうした多様な教育の営まれる現場を、宿泊も含めて複数参観し、そこで学ぶ子どもや大人と実際にかかわる授業を展開します。自分の抱いている教育観を広げる上で、貴重な体験となるでしょう。



※写真は長野県松本市にある旧開智学校を見学した際のもの

人間社会科学科 総合人間発達科学 専修プログラム

<http://www.li.ocha.ac.jp/ug/hss/develop/index.html>



指導力のある幼稚園・小学校教員をめざす 高い専門性に裏付けられた、総合的な実践発達科学

こんにち、幼稚園、小学校の教育現場では、子どもたちのことを真摯に考え、指導できる力のある教員が求められています。総合人間発達科学専修プログラムは、子どもの発達や成長、教育に関する学術的・科学的知見を基盤に、幼稚園や小学校での教育実践を展開できる教員の養成を目指しています。学校インターンシップや附属学校園等での実習、教育実地研究、教育科学の専門科目など、現場での多様な経験と大学での講義を通じて、高い専門性に裏付けられた総合的な実践発達科学を身につけることができます。

目的	特徴
幼稚園・小学校の教員免許を取得する	教育を多面的に考え、現場での実践に活かす
総合人間発達科学専修プログラムは、「教育」という営みを理論と実践の両面から多角的に考察し、教育から人間や社会を広く根本的に考察して得られる知見を、幼稚園・小学校という教育現場で実践的に生かすことができる力を育てることを目的としています。幼稚園・小学校での教育実習や教科教育法を中心にした教育実践に焦点を当てた科目群を含む4年間の学修を通して、教育に関わる事象をテーマに選び、自分なりの知識、視点、方法で卒業論文をまとめます。	総合人間発達科学専修プログラムは、教育を多面的に考えて、そのうえで実践的な力を身につけることができるよう設計されています。総合人間発達科学専修プログラムは、卒業と同時に幼稚園や小学校の教員免許状を修得できるプログラムです。なお、このプログラムを履修できるのは、人間社会科学科に在籍する学生だけです。このプログラムは2015年度からの発足で、卒業生はまだおりませんが、プログラムの履修によって幼稚園や小学校の教員免許状を取得したのちは、幼稚園や小学校の現場、および、それに関連する分野で活躍することが期待されます。

カリキュラム（総合人間発達科学専修プログラム）

	学科共通科目	概論・特殊講義・演習	教職に関する科目	教科に関する科目
幼稚園免許課程	人間と発達 人間科学論 子ども学総論	幼児教育学原論 教育方法学概論 幼児教育課程概論 子ども社会学概論・演習 幼児教育制度概論・演習 幼児教育学演習 家庭教育論演習 子どもと遊び 子ども学特殊講義 子ども学フィールドワーク 子ども学インターンシップ 卒業論文	教職概論（初等） 保育内容の理論と方法（健康） 保育内容の理論と方法（人間関係） 保育内容の理論と方法（環境） 保育内容の理論と方法（言葉） 保育内容の理論と方法（表現） 保育指導法 幼児理解と教育相談	国語科教育論 算数科教育論 生活科教育論 図画工作科教育論 教職音楽実技Ⅰ・Ⅱ 体育実技
小学校免許課程	人間と発達 人間科学論 子ども学総論	教育思想概論・特殊講義・演習 教育史概論・特殊講義・演習 教育社会学概論・特殊講義・演習 教育制度概論・特殊講義・演習 教育方法学概論・特殊講義・演習 教育課程概論・特殊講義・演習 教育開発概論・特殊講義・演習 学校インターンシップ 卒業論文	教職概論（初等） 道徳教育の理論と方法（初等） 特別活動の理論と方法（初等） 生徒指導の理論と方法（初等） 初等科教育法（各教科10科目） 学校カウンセリング	各教科教育論（7科目） 教職音楽実技Ⅰ・Ⅱ 体育実技

※卒業時に幼稚園または小学校の教員免許を取得できます。

科目紹介

■ 学校インターンシップ

附属学校園でのインターンシップを行う。保育、授業、特別活動、部活動などの教員の日常業務を観察、体験し、学校における教育活動についての実際の、具体的理解を深める。同時に、幼児、児童、生徒への理解も深める。

■ 国語科教育論

幼児期の言葉の発達から学童期の言葉の学びについて幅広く考えていく。また、小学校国語科教育の目標、内容、方法について学びながら、小学校国語科の授業づくりについて探究していく。

■ 社会科教育論

社会科教育の理念・歴史などについて総論的に学んだ後、領域や内容ごとに学習をすすめ、社会科教育に関する理解を深める。具体的には、小学校教育における社会科の位置づけ、社会科の背景にある教育思想、学習指導要領の変遷、歴史教育、地理教育、国際理解教育、ESD等を扱う。

■ 初等科教育法（体育）

本授業では、自らの体を通して体験することによって、これまでの体育を問い直しながら、教材に対する理解を深めていく。そして、授業を受ける側から指導する側へと視点を移し、指導案の検討や模擬授業を通して、小学校における体育学習の内容や指導の方法について考える。

■ 保育内容の理論と方法（言葉）

乳幼児期の子どもの「言葉」の発達について学ぶ。子どもの言葉の発達過程を理解し、その意味を踏まえた上で、将来の保育者として、言葉を育てるための環境の構成、具体的な言葉かけ、援助を行うことができるようになることを目標とする。

■ 保育内容の理論と方法（環境）

保育における環境の意味や機能について、具体的な素材や事例をとりあげ、講義および実体験をとおして学ぶ。実際に身近な環境と関わるなかで、環境をとらえる視点を豊かに育むとともに、保育者としての環境に対する意識を高め、理解を深めていく。

■ 教育心理

学校という場における、生徒と教師の学びと育ちが、どのような心理過程や関係性に支えられているのか、あるいは自身が教師となったときに、生徒とどのような関係を築き、互いに学び育ち合っていけばよいのかに関して、近年の教育心理学の研究動向、学校現場の実態も踏まえながら、基礎的知識の習得と現実場面での活用を目指す。

取得できる主な教員免許・資格

幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状、学芸員（博物館）社会調査士

教員の研究分野

教授 耳塚 寛明	教育社会学	教授 小玉 亮子	教育史、子ども社会学
教授 米田 俊彦	教育史、教育制度論	准教授 富士原 紀絵	教育方法学、教育課程論
教授 池田 全之	教育思想、人間形成論史研究	特任准教授 貞光 千春	理科教育論
教授 浜野 隆	教育開発学、社会科教育論	特任講師 堀田 のぞみ	生活科教育論
教授 宮里 暁美	保育学、子育て支援論、国語科教育論	講師 中谷 隆子	学校カウンセリング（初等）
教授 浜口 順子	幼児教育学、保育人間学	講師 吉田 真咲	体育実技
		講師 武藤 世良	教育心理
		助教 松島 のり子	幼児教育制度、保育の環境

TOPICS

子どもや教師とふれあい、実践力を高める

2015年に発足した総合人間発達科学専修プログラムでは、教員免許を取得するために大学で授業を受けることに加え、4年間の中で幼稚園や小学校の学校現場でのインターンシップやボランティアといった活動を通し、実際に子どもや教師と触れあい、そこで学びながら実践力を高める機会を提供することになっています。大学での教育に関する学修と学校現場での体験を総合的に学ぶことにより、お茶大ならではの高度な教員養成を目指しています。



よりよい教育について考える

実際の教育現場や子どもたちに接することと、現場を離れて客観的に教育について考えることの両方ができることが魅力だと思います。教員として即戦力になる内容を学ぶだけではなく、今までの「当たり前」を問い直し「よりよい教育とは何か」について先生方や友人と意見を交わし、学びを深めています。教室を飛び出して、附属学校の先生方に学ぶ授業もあり、現場の雰囲気も感じられます。



池田 全之 教授
VOICE of FACULTY MEMBER

教育を根本から考えてみましょう

西洋教育思想を研究しています。学校教育から連想されるのは教室での実践です。それは社会の中での活動でもあります。すると、各社会が抱く教育理念が実践を支えていることになります。しかも、今の社会があるのは、その社会が辿った歴史の結果です。今の実践には教育を巡る歴史が埋伏しています。教育実践の精妙さに触れつつ、それを支える歴史や理論まで視野を拡げてほしいと思います。

人間社会科学科 子ども学 プログラム（新設）

http://www.li.ocha.ac.jp/ug/hss/child/index.html



「子ども」という境界領域から、理論・実践・対話を通して、 人間・社会・文化の生成過程および構造を探究する

「子ども」という概念の裏側には「大人」というもののイメージが貼り付いています。「大人としてあるまじき」とはどんな人間でしょう。「子どもっぽい」と「子どもらしい」とはどう違うのでしょうか。法律も、教育も、哲学も、幸福の尺度も、世の中のあらゆる場で当たり前になっている大人目線。これをいちどひっくり返して、「子ども」という境界領域から、社会、文化、そして人間という存在について問い直してみる。そこから学問が変わり、人間・人間関係が変わり、社会が変わる。これがこの子ども学プログラムのコンセプトです。

目的

「子どもから」人間・社会・文化の生成過程 および構造を探究する

私たちの世界は多様な人々から構成されています。子どももまた世界の多様性を構成する要素の一つだと考えることができます。子どもたちは多様な世界の中に登場し、様々な世界を経験して成長していきます。世界は新しく参入してきた子どもを育て・支え・教育するシステムを様々な工夫して作り出してきましたが、私たちは今、次々に現れる課題に直面しています。

子ども学プログラムでは、子どもをとりまく多様な課題について考えます。ただ、子どもの課題に取り組もうとすると、ともすれば目の前の課題に振り回されてしまうことはないでしょうか？そのためには少々遠回りに思われるかもしれませんが、幅広い知識を習得し多様な経験を重ねていくことが重要だと考えています。本プログラムでは、子どもを取り巻く課題を考えながら、その背後にある社会や文化の構造について、そして人間とは何かについて探究することを目的としています。

カリキュラム（子ども学主プログラム）

	学科共通科目	講義	演習・実習	他学部科目
1・2年	子ども学総論 人間と発達 社会学総論 人間科学論	幼児教育課程概論 子ども社会学概論 幼児教育制度概論 子どもと遊び 幼児教育学原論	子ども学フィールドワーク 学校インターンシップ	臨床心理学 児童福祉論
3・4年		子ども学特殊講義	子ども学インターンシップ 幼児教育学演習 保育学演習 子ども社会学演習 家庭教育論演習 幼児教育制度演習 子ども環境論演習 子ども学演習 子ども学研究指導 卒業論文	家族心理学 児童文化論

特徴

理論・実践・対話による 多様な学び

子ども学プログラムでは、まず、専門の基礎として、「子ども」や保育・幼児教育に関する理論を多様な専門領域の観点から多角的に学びます。誰もが経てきた「子ども」時代を相対化して捉えることにより、「子ども」を通して人間・社会・文化へと視野を広げていきます。さらに、同じキャンパス内に位置するナーサリー・こども園・幼稚園など子どもたちが生活する場に臨み、「子ども」や子どもを取り巻く環境について実践的に学ぶフィールドワークも行います。

これらの学修のなかで、大切にしたいのは「対話」です。学生と、学生／教員／子ども／保育者／自己など、それぞれの間でなされる豊かな対話は、理論と実践の積み重ねと合わせることで、学びの深化をもたらすはずです。3年次からの演習でも、学問的対話を大切にしながら自身の問題関心を深め、4年間の集大成としての卒業論文につなげていきます。

科目紹介

■ 子ども学総論

子ども学を学ぶ上で基本的に必要な思想・文化・制度について、多様な専門領域の観点から多角的に学ぶ。さらに、現代における子どもの教育・支援に関わる多様なアクターについての理解を深め、現在生じている子どもに関する諸問題に対して実践的に活動するためにもとめられる視点・課題について考察する。

■ 子ども学フィールドワーク

大学内にある附属幼稚園、お茶大こども園、いずみナーサリーなどの乳幼児の施設を訪問し、実際の子どもの姿に触れたり関わったりして、子どもに関する理論・知識や、子どもに対して抱いているイメージを捉えなおす機会とする。現場で子どもと関わる保育者などの専門家とも話し合いなどを行い、保育・教育について考える。

■ 幼児教育課程概論

日本には、就学前教育施設として、幼稚園、認定こども園等があるが、子どもが安心して過ごし、質の高い教育・ケアが保障されるために、戦前から現代にいたる間にさまざまな教育課程が考えられ実施されてきた。そこには、時代の変化に呼応して変わってきた部分と、一貫して守られてきた部分がある。幼児教育の「新」と「真」を考える。

■ 子ども社会学概論

子どもたちはどのような世界で生きているのか。あるいは、社会は、子どもたちをどのように見ているのか。家族、コミュニティ、国家、あるいは、メディア、コミュニケーション、ジェンダー等の概念に焦点を当てながら、時空を超える比較分析を行うことを通して、グローバル化する社会の中の子ども問題について検討する。

■ 幼児教育制度概論

子どもや保育・幼児教育に関わる制度の基礎を学ぶ。講義では、幼稚園や保育所、認定こども園に関して、制度の歴史的変遷、「幼保一元化」や保育・幼児教育の制度改革の動向などをとりあげ、子どもや保育・幼児教育の実践と制度の関わりや、幼児教育制度の課題について考察していく。

■ 子どもと遊び

人は遊ぶ存在であり、遊びを通して自分になっていく。遊びは生涯にわたって楽しめるものであるが、特に乳幼児の教育においては「遊びの中の学び」が重要であると言われている。本授業では、理論や実践についての講義や思い切り遊ぶ実体験を通して、「遊び」のもつ意味や可能性、「遊びの中の学び」について理解を深めていく。

取得できる主な教員免許・資格

学芸員（博物館）、社会調査士、中学校教諭一種免許状（社会）、

高等学校教諭一種免許状（公民）

※中学校・高等学校教諭一種免許状は教職課程の社会コースの履修により取得可能です。

教員の研究分野

教授 小玉 亮子	教育史、子ども社会学
教授 浜口 順子	幼児教育学、保育人間学
教授 宮里 暁美	保育学、子育て支援論
助教 松島 のり子	幼児教育学、保育制度

TOPICS

子どもと出会い、子どもに学ぶ。 豊かで確かな学びがそこにある。

本大学には、附属幼稚園（日本で最も歴史の長い）、いずみナーサリー、認定こども園という3つの子どもの居場所があり、どの場も子どもを中心におき糧やかで豊かな保育を展開しています。インターンシップや実習、授業の一環などで大学生が園を訪れることで、双方にとって豊かな体験がもたらされています。小さい子どもにしか見えないもの、聞こえないものが聞こえてくる。大事な学びの時間です。



子どもの世界を探究する

待機児童問題や新制度開始がきっかけとなり、乳幼児教育への関心が高まっています。学内に幼稚園・ナーサリー・こども園という3施設があるという利点を生かして、実際に子どもと出会う体験を通して乳幼児教育の在り方を学びます。心や発達の理解、家庭支援、絵本・玩具等の児童文化研究等、「子ども」に関わることを総合的に学び、「子どもとは何か？」という問いに向き合っていきましょう。

VOICE of FACULTY MEMBER 宮里 暁美 教授



VOICE of FACULTY MEMBER 小玉 亮子 教授



社会の中の子ども・文化の中の子ども

人はみなかつて子どもだったと言われますが、他方で、最近の小学生は私たちとは違うという話もよく耳にします。子どもについてのイメージが共有されることもあれば、全く異なることもあるでしょう。これには社会や文化が決定的な影響を与えていると思われます。子どもをとりまく諸問題について、時間的・空間的な比較という方法を駆使してマクロな視点から考えていきたいと思っています。

芸術・表現行動学科 舞踊教育学 専修プログラム

http://www.li.ocha.ac.jp/ug/geijutsu/buyou/index.html



「芸術の母」と称される身体表現——舞踊—— 人間の根源的な表現行動を実技と理論で探求する

「舞踊は芸術の母である」と称したのは、音楽・舞踊学者のクルト・ザックスでした。

舞踊教育学コースでは、舞踊を中心にスポーツや日常動作にわたる人間の身体活動や表現について、実践を通しながら多角的、総合的にその意義と特性を追究していきます。

4年制国立大学のなかで「舞踊」という名称がついた専門コースがあるのは本学だけ。

まだ歴史が浅い分野だけに、あなた自身が新しいパフォーマンスや学問領域を開拓することも可能です。これまでに巣立った先輩たちも、芸術・教育などのさまざまな分野のパイオニアとして活躍しています。

目的

表現行動を多角的に学ぶ

本プログラムはプロのダンサーやスポーツ選手の養成所ではありません。舞踊やスポーツについての歴史と地理的広がり、その構造や思想・美意識、社会的意義と今後の展望、さらに人間の身体のしくみや運動の生理、日常動作を含めた身体運動の動作特性といった内容を学び、研究していくことを目的としています。

また、本プログラムでは中学・高校の保健体育教員免許が取得できます。「陸上競技」、「器械体操」、「球技」、「体づくり運動・武道」といった、中学・高校の保健体育教員免許を念頭においた科目が開設されています。卒業後の進路としては、教職のほか、一般企業（近年はマスコミ、運輸旅行業などが多い）への就職、大学院への進学などが挙げられます。芸術・学術専門職や、舞踊家として公演・教育活動に携わる人も増えてきました。

特徴

実技と理論からのアプローチ

本プログラムの研究分野は、人文・社会・自然科学と多岐にわたっており、多様な講義、演習、実技科目が開設されています。それらの研究分野を縦横に行き来しながら、舞踊を身体、運動、表現、コミュニケーションなどの観点から追究しています。

講義としては、人間と舞踊のかかわりを探究する「臨床舞踊論」、理論と実践の両面から研究する「舞踊芸術学」、文化の視点から舞踊を研究する「民族舞踊論」のほか、「スポーツ人間学」、「体育原理」、「動作学」といった内容の授業を開設しています。実技としては、「モダンダンス・テクニク」、「民族舞踊実習」、「舞踊上演法実習」、「舞踊表現法実習」、「舞踊創作法実習」、「舞踊教育法実習」に加え、「バレエ実習」、「日本舞踊実習」など多様なジャンルの舞踊の実技授業を開設しています。

カリキュラム

		1年次	2年次	3年次	4年次	1～4年次
必修	講義		舞踊・運動科学研究法入門 舞踊芸術学 民族舞踊学 (1) (2) 臨床舞踊論 体育原理 動作学 (1) (2)			舞踊教育法実習 (初等教育) モダンダンス・テクニク (中級Ⅰ・中級Ⅱ・上級) 民族舞踊実習 (発展) 舞踊上演法実習 (初級・中級・上級) 舞踊表現技法実習 舞踊学特殊講義 運動科学特殊講義 舞踊音楽構成法 球技 体づくり運動・武道 体育心理学 病理学 学校保健 器械体操 陸上競技 水泳実習 バレエ実習 日本舞踊実習 運動学 (運動方法学を含む) 衛生学及び公衆衛生学 学校安全と救急看護
	演習・実習	モダンダンス・テクニク (初級) 舞踊創作法実習 (即興創作) 民族舞踊実習 (基礎)	舞踊創作法実習 (舞踊構成法)	舞踊・運動科学研究法演習 舞踊教育法実習 (中等教育)	卒業論文	
選択	講義	舞踊学概論 表現行動論Ⅰ	表現行動論Ⅱ 解剖学 生理学 (運動生理学を含む)			
	演習・実習			舞踊芸術学実験演習 (1) (2) 民族舞踊学実験演習 (1) (2) 臨床舞踊論実験演習 (1) (2) スポーツ文化論演習 (1) (2) 動作学実験演習 (1) (2) 舞踊創作法実習 (舞踊上演・制作)		

※理論と実技の双方の修得を目的とする、4年一貫の専修プログラムを履修します。

※必要に応じて副プログラム、学際プログラムを履修できます。

科目紹介

■ 舞踊芸術学

舞踊を歴史的に概観し、その身体文化の考究を通して有機的統一としての形式である舞踊への理解を深める。上演芸術としての舞踊作品の表現的特性や思想も考察する。

■ 民族舞踊学 (1) (2)

日本と東南アジア地域の舞踊を取り上げ、その文化と社会的な背景への認識を文献講読によって高める。また、映像資料を通して舞踊鑑賞や舞踊動作分析の方法論を学ぶ。

■ 臨床舞踊論

臨床の現場（学校・病院・地域・スタジオなど）での活動観察や文献、映像資料によって、それぞれの臨床場面における舞踊活動の意義を具体的に捉え、考察する。

■ 動作学実験演習 (1) (2)

動作解析や運動中の各種生理応答を調査・解析する実験演習と、動作学に関する研究論文（英文）抄読の2つを中心に進める。

■ 体育原理

体育学の専門用語の理解を通して、体育・スポーツの教育的意義、運動文化財としてのスポーツや舞踊の機能・役割について論議できるよう自身の観点を形成する。

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状（保健体育）、高等学校教諭一種免許状（保健体育）

教員の研究分野

教授 猪崎 弥生	舞踊学、舞踊芸術学
教授 新名 謙二	スポーツマネジメント (特にスポーツ施設の立地とスポーツ消費者行動)
教授 水村 真由美	身体運動科学 (特に運動生理学及びバイオメカニクス)
准教授 中村 美奈子	民族舞踊学、舞踊記譜法、ダンスとテクノロジー
助教 福本 まあや	舞踊学、舞踊教育学、身体性哲学

TOPICS

劇場での舞踊上演と ダンスフェスティバルへの 挑戦

舞踊教育学コースでは、モダンダンス、クラシックバレエ、日本舞踊などのさまざまなジャンルの実技授業、そして即興創作や舞踊構成法、舞踊上演・制作などの舞踊創作法実習等を展開しています。毎年4月には舞踊実技の成果発表、特に4年生にとっては卒業公演となる都内劇場での「創作舞踊公演」を開催しています。また、夏に開催される「全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）」においては、学生有志が毎年参加し、これまでに数々の賞に輝いています。



芸術・表現行動学科 音楽表現 専修プログラム

<http://www.li.ocha.ac.jp/ug/geijutsu/ongaku/index.html>



その旋律の背後にはいつも人間の営みがあった 音楽から世界を知り、音楽で世界を考える

音楽の学修は、単に演奏技術や理論的知識の修得にとどまるものではありません。
音楽を深く理解するには、音楽の背後にある豊かな人間の営みを捉えることが不可欠です。
音楽表現専修プログラムでは、日本でも数少ない総合大学の中で音楽を専門的に学ぶことができます。
「演奏学」と「音楽学」という深いかかわりを持った二つの視点から学びます。
人文・社会・自然科学のさまざまな研究との関連の中での音楽の学問的研究と演奏の実践的修得を重視し、
現代に生きる私たちの音楽を、最先端の視点で捉えることを目指しています。

目的	特徴
学問と実践の高度な融合	深い専門性と高い現場即応力を
音楽における演奏実践と学術的な探究は本来表裏一体となるべき筈の ものですが、極度に専門分化された現在の音楽教育ではとかくどちら かに偏りがちになってしまっているのが実状です。 本専修プログラムはこうした現状認識の下、音楽学部とも教員養成課 程とも異なった独自のカリキュラムで、「音楽学」「演奏学」両方の視野 で高度な基礎知識や能力を身につけたうえで専攻を選択、卒業するシ ステム構築になっています。また、総合大学のなかの一部門であるこ から、美術・文学など他分野の芸術や、教育・社会学などについても より深い知識を得ることが可能です。 卒業後は民間企業への就職や公務員・教員のほか、海外への留学や 大学院への進学も多く、専門的研究の関心が高いのが特色となってい ます。	1、2年次で基礎的な知識や演奏技術を修得、3年次以降は各自の 専門に沿った少人数のゼミと個人指導が中心となります。 音楽学では、中世から現代までの西洋音楽とともに、日本の伝統的 な音楽、アジアや世界の色々な地域の音楽について、その背景にある 文化との関連のなかで、理論や歴史、美学などを考えます。音楽学の 授業はほとんどが英語のテキストを用いるので、十分な英語力が必要 となります。 演奏学を専攻する場合には、ピアノか声楽を選択します。いずれも 各レパートリーのエキスパートである教員の授業があり、プロ奏者を共 演者に招聘しての器楽二重奏や、コレペティートゥアによるレッスンを 重視したオペラ関連科目など、現場に即した形で能力が身につくよう工 夫されています。

カリキュラム

	1年次～	2年次～	3年次～	4年次～
基本的な科目	ソルフェージュ 音楽形式論 作曲原論 西洋音楽史 日本音楽史概論	音楽学研究法 西洋音楽史	指揮法 日本音楽演奏法	卒業研究 卒業論文演習 卒業演奏研究
ピアノ	ピアノ基礎	ピアノ発展 A ピアノ研究演習 ピアノレパートリー研究 ピアノ合奏研究	ピアノ発展 B ピアノ研究演習 ピアノレパートリー研究 ピアノ特別演習 室内楽研究	ピアノ発展 C ピアノ研究演習 ピアノレパートリー研究 ピアノ特別演習
声楽	声楽基礎 オペラ研究	声楽発展 A 声楽特別演習 オペラ研究 合唱演習	声楽発展 B 歌曲研究 オペラ研究 演奏身体論	声楽発展 C 歌曲研究 オペラ研究
音楽学	音楽学概論	西洋音楽史特殊講義	音楽学研究演習 民族音楽学 アジア音楽論 音楽学特殊講義	音楽学特殊講義

※理論と実技の双方の修得を目的とする、4年一貫の専修プログラムを履修します。
※必要に応じて副プログラム、学際プログラムを履修できます。

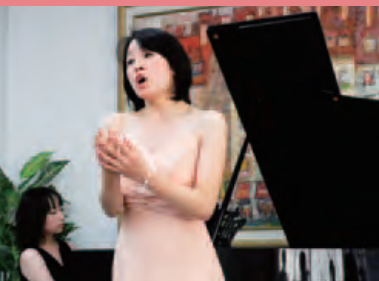
科目紹介
■ 西洋音楽史 単旋律聖歌からルネサンスのポリフォニーまでを中心に西洋における音楽の変化を辿ることにより、従来の19世紀的音楽を基準とした音楽観を相対化する。
■ 日本音楽史概論 日本の主要な伝統音楽を成立順に取り上げ、その歴史と音楽の特徴を学ぶ。並行して、楽器、音高理論、楽譜も考察する。講義を通じ、現行の伝統音楽の外観を把握する。
■ 音楽学研究演習 音楽学の近年の研究成果を踏まえ、さまざまな音楽の概念や接近の仕方を考える。卒業論文のテーマ設定のための基礎づくりを目指す。
■ ピアノ 基礎奏法の研究を主体としたピアノ音楽の研究に始まり、音楽的、技術的向上を目指す。最後は古典から現代に至るピアノ作品を数多く研究する個人レッスン。
■ 声楽 声楽基礎、呼吸法、歌唱法の講義及び演習に始まり、高度なテクニックと表現力を養い、最終的にはホールにおけるより表現豊かな演奏の研究を目指す。
■ オペラ研究 オペラ作品のスコアと台本を音楽的・演劇的・語学的・文学的・心理学的に研究・分析・考察し、歌唱・演技表現法を自ら視覚的に創造する方法論を身につける。
■ 民族音楽学 世界の諸民族の音楽について、単なる知識の羅列ではなく、それぞれの音楽に関するさまざまな考え方、捉え方を理解し、文化的な基盤も合わせて、日本語と英語の文献を使用しつつ考察する。

取得できる主な教員免許・資格
中学校教諭一種免許状（音楽）、高等学校教諭一種免許状（音楽）
教員の研究分野
教授 永原 恵三 音楽学
准教授 小坂 圭太 ピアノ演奏学
助教 井上 登喜子 音楽学

TOPICS

キャンパスを彩る 美しい旋律 学生たちによる演奏活動

音楽表現コースは、本学内でも忙しい学科の一つとされていますが、学生の多くは時間を上手に使って演奏会を企画したり、コンクールに積極的に参加したりするなど、専門分野を生かして充実した学生生活を送っています。また、学内の附属図書館ラウンジでは、秋には毎月のようにコンサートが開かれます。七夕やクリスマスのピアノコンサートやオペラコンサートも恒例の行事です。大学内外での自主的な演奏活動なども盛んです。



VOICE of STUDENT

井上 晴子 さん（4年）
第1のプログラム：音楽表現専修プログラム

多角的だからこそその高度な学び

音楽表現専修プログラムでは、理論・実践の両面において高水準のプログラムが用意されているため、多角的にかつ深く音楽を学ぶことができるのが特徴です。ゼミでは学生同士で意見を交わしたり、学年を超えてお互いの演奏から学びを得たりする機会が多くあります。先生方や学生間の距離が近いアットホームな雰囲気の中で、刺激を受けながら主体的に音楽を追及していけるため、充実した毎日です。

VOICE of FACULTY MEMBER

永原 恵三 教授

思考としての音楽を実践する

音楽学という学問が専門です。高校までの勉強にはありませんが、人間の営みを考える上でとても重要な分野です。いつの時代にもどんな民族にも音楽があります。言葉がそれぞれ異なるのと同じように音楽も様々です。音楽は感性だけではなく、人間の思考の産物ですが、音楽の現場には演奏という実践が伴います。私は声の音楽、とくに合唱について考えています。

人文科学科・言語文化学科・人間社会科学科

<http://www.li.ocha.ac.jp/ug/global/index.html>

グローバル文化学プログラム



Comprehension (理解)、Communication (交流)、Collaboration (協働) 知と実践が世界を結ぶ

インターネット、ワールドミュージック、エスニックレストラン……。日常は国境を越えた物・情報・人であふれています。

グローバル化時代を生きるために、私たちはどのような知識や感性や態度を養えばよいのでしょうか。

グローバル文化学環は、従来の専門コースとは異なり、3つの学科(人文科学・言語文化・人間社会)のいずれからも主プログラムとして志望できるコースで、多様な専門領域にまたがる教員が所属しています。目指すのは、文化の差異を理解し、大切にしながら、その差異を超えて協働して何かをともにつくりだす、グローバル社会の新しい市民です。グローバル文化学はその先達となる人材の輩出を目指す、新たな知と実践の学問です。

目的	特徴
----	----

3つのCがキーワード

グローバル文化学では3つのCで表現される学際的なカリキュラムが組まれています。

「地域研究・地域文化」領域:グローバル化で変容する地域の社会や文化を「理解」(Comprehension)する方法を学びます。

「多文化交流・多文化共生」領域:多様な文化を持つ人たちと「コミュニケーション」(Communication)するための理論と方法に心理的・言語的な側面からアプローチします。

「国際関係・国際協力」領域:お互いの文化や価値の違いを十分に理解し、国家や文化を越えて「協働」(Collaboration)するための課題と方法を学びます。卒業後の進路は、国際機関やNGO、企業、マスコミ、公務員、教員など多彩です。大学院へ進学し専門的技量を磨く人もいます。

カリキュラム(主プログラム)

	基礎		発展		
	グローバル文化学総論	グローバル文化学方法論			卒業研究
地域研究・地域文化	比較ジェンダー論 グローバル・ヒストリー	地域研究方法論 フィールドワーク方法論 文化理論研究	文化変動論Ⅰ イスラム社会文化論Ⅰ オセアニア社会文化論Ⅰ 対日交流論 中国社会文化論 東アジア社会文化論 南アジア社会文化論	アフリカ社会文化論 地域研究特論 英米事情	イスラム社会文化論Ⅱ オセアニア社会文化論Ⅱ 地域研究実習Ⅰ・Ⅱ
多文化交流・多文化共生		多文化間交流論 言語と文化	文化と人間関係Ⅰ グローバル化と言語教育Ⅰ・Ⅱ 文化と心理 表現行動論Ⅰ・Ⅱ 言語と社会Ⅰ・Ⅱ 多文化共生論 国際交流論Ⅰ・Ⅱ	多文化交流特論	多文化交流実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 文化と人間関係Ⅱ
国際関係・国際協力	国際関係論 比較法文化論 グローバル・メディア論 グローバル化と経済	国際協力学 国際協力実習Ⅰ・Ⅱ	平和構築論Ⅰ 国際協力方法論Ⅰ 国際開発論Ⅰ・Ⅱ グローバル化と労働 国際機構論 国際教育協力論	NGO/NPO論 比較社会政策論 地域開発論 国際金融論 国際協力特論	平和構築論Ⅱ 国際協力方法論Ⅱ 国際協力実習Ⅲ

※グローバル文化学プログラムは、文教育学部の人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科から主プログラムとして選択できます。
 ※グローバル文化学を主プログラムとして履修する場合は、第2のプログラムとして、所属する学科のいずれかの副プログラムを履修します。
 他の主プログラムを履修する場合に、第2のプログラムとしてグローバル文化学学際プログラムを選択・履修することもできます。
 ※複数プログラム選択履修制度についてはP020、021を参照ください。
 ※詳細はグローバル文化学環のHPをご覧ください。

科目紹介

■ グローバル文化学総論

国境と文化を越えた相互理解の必要性と、その知的解決法と態度について、歴史学、地理学、多文化間心理学、日本語教育など多様な切り口から考察する。

■ 地域研究方法論

中国、東南アジア、アフリカ、中東、アメリカ、日本など地域研究に関する論者を読み、私たちの地域像を振り返り、「遠くの」地域を理解する方法を考える。

■ オセアニア社会文化論

オセアニアの社会文化の特質を、外部との関係性のなかで作られていく地域のダイナミズムとして捉え、風土、移動、先住民と多文化主義などの視点から考える。

■ 多文化共生論

多文化社会において異文化間交流で生じる障壁を分析し、多様性の尊重と共生とは何かを探る。当事者の視点からその現状と課題を多角的に検討していく。

■ 平和構築論

現代のグローバリゼーションという変容のなかでの平和のあり方について学ぶ。最終的には世紀の難問である人道的介入の問題を学び、21世紀の平和構築の道を構想する。

■ 国際協力学

国際機関・国家・NGO等の多様なアクターの役割に注目しながら、国際協力の仕組みや開発理論・政策について学ぶ。市民による国際協力のあり方、かわり方も模索していく。

教員の研究分野

教授 加賀美 常美代	異文化間心理学、異文化間教育、多文化間カウンセリング
教授 熊谷 圭知	社会文化地理学、 オセアニア（パプアニューギニア）地域研究
教授 小林 誠	国際関係論
教授 三浦 徹	アラブ・イスラム史、中東地域研究
教授 森山 新	応用言語学（日本語教育学、第二言語習得、認知言語学）
准教授 荒木 美奈子	開発研究、アフリカ地域研究
助教 倉光 ミナ子	人文地理学、地域研究

TOPICS

文化を越えた協働を
実地で学ぶ「実習」

グローバル文化学プログラム（通称「グロ文」）の特色はなんと言っても「実習」にあります。アジアの農村を訪れ国際協力の現場を肌で感じる「国際協力実習」、韓国の大学生と交流・討論しながら共同でテーマ研究をし、交流と相互理解を深めていく「多文化交流実習」（日韓大学生国際交流セミナー）、日本国内の現場を日帰りで訪ねたり、東日本大震災の被災地を訪ねて復興の現状と課題を学ぶ「地域研究実習」など、多彩なメニューがあり、心を揺さぶられる体験が待っています。



※写真は多文化交流実習（日韓セミナー）で。民族衣装を身にまとう学生

理学部

Faculty of Science

自然の原理を解き明かしていく理学の世界 幅広い理学の教育と研究で、科学の明日を創る

理学とは自然界の構造や現象の不思議や謎を探求する学問です。
近年の先端科学であるゲノム解析、環境保全、金融工学などでは、
さまざまな分野の協力による問題解決が必須となっています。

その基礎をなすのが理学の幅広い知識です。

理学部は数学、物理学、化学、生物学、情報科学の5学科で構成されています。

人類の英知がこれまで蓄積してきた理論や知識を深く知り、
新たな謎に挑むための「こころ」を養い、探究のための方法を学びます。

自然と人間の活動がかかわるさまざまな場面で発揮できる力を培う教育です。

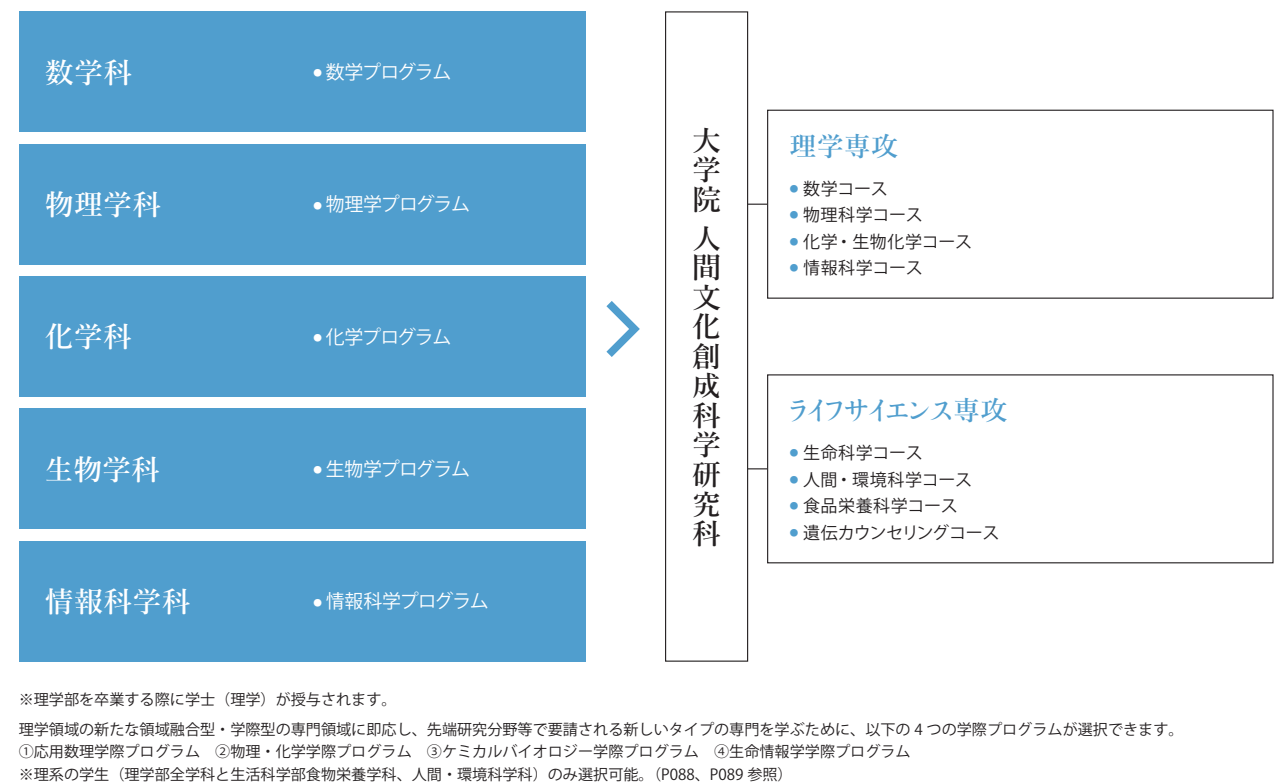
学内には伝統的な学問から最先端の研究に至るまで幅広くカバーする
学内共同教育研究施設が整備され、学生との密接な距離を保ちながら
理学の幅広い分野にわたり最先端の研究を行っています。

140年にわたって理系女子の源流として多くの専門職業人や科学者、
教育者を輩出してきた伝統を踏まえ、「誰もが認める優れた理系女子」を育て、
その活躍を支えることで、社会への貢献を目指しています。



<http://www.sci.ocha.ac.jp/>

理学部から進学実績が多い大学院専攻課程



理学部の特徴

理学の専門家を育成

お茶の水女子大学理学部では、理学への入り口としての5分野（数学、物理学、化学、生物学、情報科学）を設けています。その分野の専門教育を行うために5つの学科が設置されています。各学科での教育が目指すものは、それぞれの分野において、社会が求める高度な専門知識を身につけた人材の育成です。

多様な教育システム

お茶の水女子大学の専門教育の特徴は、「複数プログラム選択履修制度」と名付けられた学修システムです。これは、専門性の深化と多様化の両方を可能にできる優れたシステムです。理学部の場合、5つの分野の入り口から入って、そこでの専門知識をとことん追求したいという人、すなわち、専門性を深化させたいという人には、各学科の「主プログラム」を学んだ後に、同じ学科の提供する「強化プログラム」に進んでもらいます。一方で、理学に含まれる多くの分野を広く学びたいという人、すなわち、多様な専門性を身につけたいという人には、「主プログラム」で一つの分野の基礎固めをした後に、他の学科が用意する「副プログラム」を選択することができます。また、複数の分野の専門家が協力して開発した「学際プログラム」を選択することで、既存の分野にはない専門性を身につけることも可能です。このような履修プログラムと並行して、理学部独自の試みである「卒研シフト」を利用して専門性を広げることできます。これは、自分の所属する学科の枠を超えて、別の分野の先生の指導のもとに卒業研究を行うものです。すでに多くの学生がこの制度を利用し、それぞれが自分の専門性の新たな開発に挑戦してきています。

一人ひとりが輝く教育

お茶の水女子大学理学部では、教員は一人ひとりの学生のすぐ近くにいます。少人数のクラス単位での授業（講義）は、参加者の表情を確認し、それぞれの反応を確かめながら進められます。理学部の教育では、実習や演習が

たくさん用意されていますが、そこでも、少人数ならではの濃密な指導が行われます。また、実習機材も充実しており、思う存分実験ができます。「自分の実験は自分でやる」というのがお茶の水女子大学理学部の大原則です。これに従って、最先端の機械を自分自身で操作する機会も多く体験できます。

充実した施設・設備

理学部の教育・研究を支える施設も充実しています。たとえば、情報処理システムの運営と支援を行う「情報基盤センター」、海洋生物・環境研究の前線基地としての「湾岸生物教育研究センター」、物質科学や生命科学の研究を支える大型機器を管理運営する「共通機器センター」、家庭におけるコンピューター利用を研究する「ユビキタス・コンピューティング実験住宅（Ocha House）」などがあります。また、ラジオアイソトープ実験センターや、遺伝子組換え実験室等も、理学部の活動を強力に支援しています。この他にも多くの研究センターが設置されており、実際の研究の最前線に参加することで、より深化した専門性を身につけることが可能です。さらに、さまざまな国立の研究機構や、国内外の多くの大学とも連携した取り組みを行っており、より広い視野に立った教育・研究を展開しています。

理系女子の源流

お茶の水女子大学理学部は理系女子の源流として、社会で先導的な役割を果たす多くの高度専門職業人・科学者・教育者を世に送り出してきました。卒業後の進路として大学院進学を選ぶ学生も多く、学部・大学院を通して卒業生は高い割合で希望する職業に就いており、その活躍分野は多岐にわたります。また、多くの卒業生が教員となって理学部の教育に携わっています。活躍する女性として、そして科学者としてのロールモデル（お手本）を身近に感じながら自らを磨き上げることができます。

数学科

数学 プログラム

<http://www.sci.ocha.ac.jp/ug/math/index.html>



数学とは科学の世界の言葉です 発展し続ける数学の美に触れましょう

数学とは科学の世界の言葉です。自然科学はもちろん、社会科学などの諸科学においても、数量的あるいは図形的内容の表現や記述に不可欠なものです。現代数学の基礎を学び、数学的思考力を身につけ、日々発展し続ける数学の美に触れましょう。

1 年次から 2 年次前半は数学的な思考法・表現の修得と同時に、数学の面白さ・有用性を学びます。2 年次後半から数学のあらゆる分野で必要になる代数・幾何・解析の基礎を本格的に学修します。3 年次には幅広い分野の講義が演習とともに展開され、4 年次には数学講究（セミナー）が開講されます。教員の研究分野は数学の広い範囲をカバーしています。

目的

人材の養成と良好な就職状況

数学科の目的は、教育内容を自ら構築できる教員、専門的技能を有する創造的職業人、基礎研究に従事する研究者など社会に主体的に貢献する人材の育成です。

数学を学び研究しようと志す女性に対して、現代数学の基礎教育を施し、高度な職業人や研究者として、さらには自ら学んでいける素地を育むこと、あるいは各教科、特に数学講究を通じて数学的理論思考を身につけた、社会における有為な人材を輩出することなどを目指しています。

卒業生の進路は、ここ数年、就職者数と進学者数がほぼ同数ですが、大学院を目指す人が増えてきています。主な就職先は情報通信関連や金融関連の企業、中・高教員や公務員などです。就職状況は良好で、就職希望者は全員就職しています。

特徴

少人数教育による細やかな対応

専門科目の授業は 1 年次 4 月から始まります。1 学年の定員は 20 名ですから、必修科目でも 20 名ほど、選択科目になればさらに少人数で行われることになり、教員は学生の様子がよくわかります。

学生 2 ～ 3 名に対して 1 教員の割合で担当教員を決め、勉強や生活全般の相談にのる「スーパーバイザー制」を採用し、よりきめ細かい指導を行なっています。

4 年次の必修科目である数学講究では、4 人以下の少人数のグループに分かれて、希望する教員のもとでセミナーを行います。年度末にはその成果を見るゼミ発表会が開かれます。論文や専門書を読み、その内容を指導教員の前で黒板などを使いながら説明・解説するというのが一般的なゼミの形態です。

カリキュラム（主＋強化プログラム）

	主プログラム	強化プログラム
1 年次	◎集合論 1・2 ◎線形代数学 1・2・3・4 ◎微分積分学 1・2・3・4 初等代数学 確率序論	コンピュータシステム序論
2 年次	◎線形代数学 5 線形代数学 6 ◎微分積分学 5 微分積分学 6 ◎位相空間論 1・2	◎群論 1・2 集合論 3 ベクトル解析 数理解析序論
3 年次	◎関数論 1 ◎多様体論 1 ◎積分論 1 ◎環論 数学輪講	関数論 2 多様体論 2 積分論 2 微分方程式論 関数解析 微分幾何学 位相幾何学 体論
4 年次	◎数学講究	ガロア理論 フーリエ解析とラプラス変換 関数論続論 数理経済学

◎：必修 無印：選択

科目紹介

■ 群論

さまざまな数学の対象の対称性を代数的に記述する理論が群論である。群の定義やその典型例を学び、さらに準同型定理、有限生成アーベル群の構造定理などの基本定理について学ぶ。

■ 関数論

複素平面上に定義された複素数値関数、特に正則関数の基本的性質を学ぶ。Cauchy の積分定理という簡明にして強力な定理と、それに関連する諸定理を中心に扱う。

■ 多様体論

曲線や曲面を一般化した概念が多様体である。その上で定義される関数、写像、接ベクトル、ベクトル場等に関する基礎的事項を学ぶ。

■ 位相空間論

数列の収束、関数の連続性は、“近さ” の概念に基づいて定義される。“近さ” の概念を一般化、抽象化した「距離構造」「位相構造」についてその基礎を学ぶ。

■ 確率論

「大数の法則」「中心極限定理」などの各種極限定理を定式化するなど、測度論に基づいた、厳密な数学としての近代確率論への入門。

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状（数学）、高等学校教諭一種免許状（数学）

教員の研究分野

教授 塚田 和美	微分幾何学
教授 中居 功	幾何学（WEB 幾何学）、 位相幾何学（特異点論、複素力学系）
教授 横川 光司	代数幾何学
准教授 戸田 正人	幾何学周辺
准教授 大場 清	位相幾何学
准教授 萩田 真理子	離散数学
准教授 山下 真	作用素環論、非可換幾何学
講師 古谷 希世子	関数解析学（特に発展方程式と偏微分方程式）
講師 堀江 充子	代数的整数論
助教 千葉 優作	多変数複素関数論

TOPICS

時には楽しく、時には真剣に 学生と教員の ふれあいスペース

数学のような理論系の学問では、実験系の研究室のようなものではありません。そのため、学生と教員の交流の機会が不足しがちです。そこで数学科では学生も教員も誰でも気軽に訪れて自由に語り合える談話室と、数学議論のためのディスカッションルームを設置しました。授業の合間に、放課後に、多くの学生たちが集う、和やかなコミュニケーションスペースとなっています。



物理学科

物理学 プログラム

<http://www.sci.ocha.ac.jp/ug/phc/index.html>



理論と実験、仮説と実証を積み重ねる その先にある、永遠の真理を見つけるために

宇宙をつくった永遠の真理。それは時間空間を超越し、地上の至るところに多様なかたちで現れています。自然界に起こるさまざまな現象をモデル化・理論化し、新しい現象の予言をし、実験で確かめることによって真理を発見する。そうして物理学は実証学問として発展してきました。変わることのない真理を探究し、物質や宇宙が秘める謎を解明し、未知のものの創造に挑む物理学の世界は、刺激的な楽しさに満ちています。物理学科で行われている研究は、素粒子論、宇宙物理、統計力学、物性理論、分光実験、極限状態、超伝導、ソフトマターの各分野の幅広い領域をカバーし、少人数制で密度の高い教育を実践しています。

目的	特徴
物理のプロを目指して	最先端の研究に触れ物理を楽しむ
物理学の基礎から応用に至るまでの一貫した教育・研究によって、物理現象を理論と実験の双方向から直感的かつ理論的に探究する能力を養成します。これは、単に物理学の研究能力の向上にとどまることではありません。「物事の法則を発見し、それを応用する能力」であり、人生のさまざまな場面で出会う問題を還元論的・多面的な視点から見据えて問題解決できる、高い能力を身につけることを意味しています。多彩な物理学の教育・研究を通して、社会の各分野において時代を先導する女性の育成を目指しています。卒業生の約7割が本学または他大学の大学院に進学し、研究者等を目指して研究を続けます。卒業後はメーカー、情報産業、教職、出版社、大学・研究所など多彩な分野で活躍しています。	1年次から専門的な物理の授業があります。2年次になると学生実験が始まり、物理学の基礎となる基本的事項を確認する実験を、3年次ではその応用として超伝導やカオス、原子間力顕微鏡など最新の研究の入門的な実験を行い、実証論的な考え方を養い、しっかり基礎を固めます。4年次の特別研究では研究室に所属し、物理をする楽しさと感動を味わいます。また、最先端の研究に早い段階で触れることができるように、3年次の後期から研究室に所属して学ぶことができます。さらに優秀な学生は3年次を終わった時点で本学大学院博士前期課程に進学することも可能です。他大学との単位互換、海外の大学への留学など、より広い視野から物理を学ぶこともできます。

カリキュラム（主＋強化プログラム）

	主プログラム		強化プログラム	
	講義	実習・演習	講義	実習・演習
1年次	◎古典力学 ◎解析力学 ◎電磁気学Ⅰ ◎電磁気学Ⅱ ◎物理数学Ⅰ ◎物理数学Ⅱ 物理英語	初等解析学Ⅰ 初等解析学Ⅱ 初等線形代数学 宇宙・地球科学 大気・海洋科学概論 地史・古生物学概論	◎力学演習 ◎電磁気学演習 化学基礎実験 生物学基礎実験 地学基礎実験	
2年次	◎量子力学Ⅰ ◎量子力学Ⅱ ◎熱力学 ◎数理物理学 ◎力学系理論	◎基礎物理学実験 ◎量子力学演習 ◎物理数学演習	物理実験学 相対論 物性物理学序論 放射線基礎講義	
3年次	◎統計力学 ◎量子力学Ⅲ	◎統計力学演習 ◎物理学実験	固体電子論 素粒子物理学 基礎工レクトロニクス 宇宙物理学 流体物理学	量子光学 場の量子論 相転移物理学 連続体物理学 ソフトマター物理
4年次		◎特別研究	凝縮系物理学 原子核物理学 物理学特別講義Ⅰ～ⅩⅩ	計算物理学講義・演習 物理学基礎研究

◎：必修 無印：選択

科目紹介
■ 物理数学 1・2年で修得する力学、電磁気学、量子力学、熱・統計力学に関連した数学を中心に学ぶ。道具として使えることを目標に、計算力養成、直感的理解に重点を置く。
■ 量子力学 現代物理学の基礎である量子力学の基本を理解する。物理量と状態の考え方を理解し、物理量の測定や不確定性関係、ハイゼンベルグ方程式などの概念の理解を目指す。
■ 熱力学 熱のやりとりを含むマクロな世界の物理化学現象を普遍的に記述できる熱力学の基礎を論理的に展開し、熱力学の法則を学び、エントロピーの概念と意味の理解を目指す。
■ 基礎物理学実験 物理の初等的な実験装置を自分の手で取り扱い、力学、電磁気学、電気回路、熱力学、物性論等にかかわる基礎的な物理量を測定する実験などを体験する。
■ 統計力学演習 ゆらぎを示す多自由度の力学系から有限の巨視変数を取り出し、それを確率過程で記述するという、統計力学の基本方針を理解し、活用することを演習を通して学ぶ。
■ 連続体物理学 毎回、実験ムービーや実験で液体や弾性体に関する身近で興味深い現象を観察してもらった後、その現象をシンプルな数式で物理的に理解する喜びを体験する。

取得できる主な教員免許・資格	
中学校教諭一種免許状（理科）、高等学校教諭一種免許状（理科）	
教員の研究分野	
教授 森川 雅博	宇宙物理学（特に宇宙論）
教授 出口 哲生	数理物理学、物性基礎論、統計物理学
教授 小林 功佳	物性理論、固体物理、表面物理
教授 古川 はづき	強相関電子系の物性実験 (超伝導、ペロブスカイト型 Mn 酸化物等)
教授 奥村 剛	理論物理学 (特に化学物理、ソフトマター、場の理論、統計力学周辺)
教授 番 雅司	開放系の量子力学、量子情報の基礎
教授 曹 基哲	高エネルギー物理学、素粒子物理学
准教授 外館 良衛	物性物理、複雑系科学
准教授 北島 佐知子	非平衡量子統計力学（量子系の不可逆過程、量子通信等）
助教 梅原 利宏	物性実験（特に生体及び生体高分子のまわりの水に関して）
助教 河野 能知	高エネルギー物理学実験、素粒子物理学実験
助教 高橋 遼	スピントロニクス

TOPICS

学外にも広がる研究の場 他研究機関との 緊密なネットワーク

物理学科では、大型放射光施設、加速器実験施設など、国内外の研究機関と連動し、広いフィールドでの研究活動に参加できる教育・研究環境を整えています。また、学内に設立されたソフトマター教育研究センターは、国内有数の研究拠点となっています。



VOICE of STUDENT



白井理紗子さん（4年）
第1のプログラム…物理学主プログラム
第2のプログラム…物理学強化プログラム

じっくり学び、存分に楽しむ

少人数のため、先生・生徒との距離が近いことが本学の物理学科の魅力です。授業で分からなかったことや、もっと知りたいことをすぐに聞くことができ、先生方もとても丁寧に教えてくださいます。また、学生同士で教え合ったり、議論したりすることもあり、刺激を受けることも多いです。自分の興味のある分野をじっくりと学ぶ環境が整っていて、存分に物理を楽しむことができます。

VOICE of FACULTY MEMBER



番雅司 教授

様々な自然現象に潜む普遍原理を理解しよう

物理学は自然現象に潜む普遍的原理を解明し、新たな現象発見を目指す学問です。物質の根源である素粒子の性質や宇宙の起源から我々の身の回りの様々な物質を調べる為に、数学的手法や実験的手法を駆使して研究が行われています。本学科では素粒子・宇宙から物性・ソフトマターまで物理学の幅広い分野で研究が行われています。また、少人数教育の特長を活かした丁寧な指導が行われています。

化学科

化学 プログラム

<http://www.sci.ocha.ac.jp/ug/chemhp/index.html>



生命現象からコンピュータケミストリーまで 森羅万象も先端科学も、すべては分子・原子の世界から

自然界は、生体も、地球も、宇宙もさまざまな物質から成り立っています。化学とは、これらの物質をつくりあげる原子・分子の結合とその変化という視点で考え、得られた知識を体系化する学問です。たとえば、私たちの身の回りのほとんどのものが化学的に合成された化合物と関係しているように、化学によって新しい物質が生み出される可能性はまだまだ無限に存在しています。化学の基礎を修めることにより、生命の起源、ナノスペースの化学の研究をはじめとして、工業化学、農芸化学、医薬化学などさまざまな応用分野へと学問や研究を多彩に展開させることができます。

目的	特徴
少人数で個性を伸ばす	化学の基礎から応用まで
本学科では、少人数の学科ならではのきめ細かく、各個人に対応した教育を展開しています。また、学年間の交流だけでなく、学年を越えて、また卒業生と交流する機会も多いため、先を見据えて勉学できる点も特徴です。小規模ですが、各教員の研究分野は、基礎的な化学分野に限らず、機能性材料や超分子の合成から、バイオ、コンピュータケミストリーまで幅広いため、特別研究では学生のさまざまな興味を踏まえて発展させることが可能です。	本学科の授業は、物理化学、無機化学、分析化学、有機化学、生物化学など幅広い分野の授業があり、基礎から応用まで、講義と実験（実習）を両輪にまんべんなく学びます。
化学科では約4分の3以上の学生が大学院博士前期課程へ進学し、成績優秀者には大学院への飛び級制度もあります。化学は幅広い分野で重要であるため、卒業生の多くは化学、製薬、化粧品、電気などの企業の研究所、研究開発部門をはじめとして、官公庁、教育、マスコミなど多彩な分野で活躍しています。	主プログラムで化学の基礎を学び、強化プログラムなどその後選択するプログラムにおいて、基礎学力に加え思考力や分析力の鍛錬を行うよう、カリキュラムが設計されています。4年次には特別研究（卒業研究）で、最先端の研究を経験することにより、自ら、研究を推進していく力を身につけることができます。また、教員の研究を紹介する講義（化学特別ゼミなど）を通じて、最先端の研究に1年次から触れることができる点や、将来の就職を見据え、化学科独自の卒業生組織（桜化会）を通じて卒業生との情報交換を密にできる点も化学科の魅力です。

カリキュラム（主＋強化プログラム）

	主プログラム		強化プログラム		
	講義	実習・演習	講義		
1年次	◇基礎化学A ◇基礎化学B ◎無機化学	◎基本化学実験Ⅰ 化学特別ゼミⅡ			
2年次	◎物理化学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ◎分析化学Ⅰ ◎無機化学Ⅱ ◎有機化学Ⅰ・Ⅱ ◎生物化学Ⅰ・Ⅱ	◎基本化学実験Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 化学英語	計算化学		
3年次		◎専門化学実験Ⅰ～Ⅴ	◎分析化学Ⅱ ◎有機化学Ⅲ ◎分子分光法 物理化学Ⅳ 無機化学Ⅲ	有機化学Ⅳ 生体分子機能・反応学 分子生命科学 量子化学	反応物理化学 高分子化学 実験値解析法 放射化学 生物物理化学
4年次		◎特別研究Ⅰ・Ⅱ ◎化学演習Ⅰ・Ⅱ			

◎：必修 無印：選択 ◇全校共通（推奨科目）

科目紹介

■基本化学実験

基本的な化学実験を通じて、専門化学実験を履修する上で必要となる基礎的な実験技術（秤量操作、器具や試薬の取り扱い、物質抽出、機器測定など）と知識を身につける。

■専門化学実験

物理化学、無機化学、分析化学、有機化学、生物化学の専門的な実験を行う。先端的な分析機器を使用した実験に加えて、物質の特性や構造に関する情報検索など、研究の基盤となる知識、技術、思考力を学ぶ。

■化学特別ゼミ

新入生が少人数のグループに分かれ、化学科全教員の研究室を訪問し、教員ごとにゼミ形式の授業を行う。化学の基礎知識を修得し、研究への関心を高める授業。

■化学英語

ネイティブスピーカーによる演習形式で、化学英語を身につける。化学の専門用語や化学英語ならではの表現、文法などに慣れ、英語論文の読解力の向上を目指す。

■化学演習

研究室に配属された4年次学生が、卒業研究に関連した学術論文を読み、理解し、プレゼンテーションするゼミ形式の演習。知識を深め、専門英語の読解力を養う。

■特別研究

各指導教員の助言を受けつつ、個別の新しい研究テーマについて、研究の背景や目的を理解したうえで、自ら研究計画を立て、卒業研究に取り組む。

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状（理科）、高等学校教諭一種免許状（理科）

教員の研究分野

教授 益田 祐一	溶液化学、無機物理化学
教授 山田 真二	有機化学、合成有機化学、構造有機化学
教授 小川 温子	生物化学、タンパク質・複合糖質の機能と構造
教授 鷹野 景子	理論化学、量子化学、計算化学
教授 近藤 敏啓	電気化学、界面物理化学、自己組織化
教授 森 義仁	非平衡系化学、非線形化学
教授 相川 京子	細胞生化学、糖鎖科学、遺伝子工学
准教授 棚谷 綾	超分子化学、創薬化学、構造有機化学
准教授 矢島 知子	有機化学、有機フッ素化学
准教授 森 寛敏	理論化学、マテリアルズ・インフォマティクス
講師 伊村 くらら	ナノ材料化学、コロイド界面化学
講師 三宅 亮介	錯体化学、超分子化学、生体関連化学

TOPICS

高度な大型実験装置による 実験も研究のすべてを 自分の手で

化学現象の本質を調べたり、合成した分子を確認するとき、さまざまな測定手段を用いる必要があります。小規模な学科ですが、必要な最先端の測定装置はほぼすべて揃っています。また、これら最先端の機器は、小規模ゆえ全員に操作時間を十分にとることができるため、機器操作や測定方法に関する技術を実地でしっかりと修得することが可能です。こうした基礎的な力を学生時代に積み重ねることが、研究者としての高い実力を養成することにつながります。



VOICE of STUDENT

寺崎 遥 さん（4年）

第1のプログラム…化学主プログラム
第2のプログラム…化学強化プログラム



「なぜ」の本質を探究する

化学科は、少人数構成であるため仲間との繋がりが深く、アットホームな雰囲気のおかげで一人ひとりがじっくり学ぶことができます。また、先生方との距離が近く、実験や授業での丁寧な指導はもちろん、進路についての悩みなども親身に対応していただけます。授業以外にもセミナーや海外留学など、学びの機会に満ち溢れた環境で、視野を広げて多くのことを吸収できるのも大きな魅力です。

VOICE of FACULTY MEMBER

相川 京子 教授



化学するころ

化学はものの本質をその構造と性質から追求する学問で、自分自身はもちろん、身の回りのあらゆるものが化学の題材になります。これは何？どうなっているの？というところを満たしてくれるのが化学です。そして、化学の知識を武器にすれば、作る、役立てる、問題を解決する喜びも味わえます。大学では好奇心をもって没頭し、「化学するころ」を大いに育ててほしいと思います。

生物学科

生物学 プログラム

<http://www.sci.ocha.ac.jp/ug/bios/index.html>



神秘的なまでに美しい原理がそこにある 先端の研究環境で、生命のしくみを解き明かす

生物学は、微生物からヒトまで、多種多様な「生き物」の複雑で多様な生命現象を研究する学問です。分子生物学などの発展により、近年、生物学は飛躍的な進歩を遂げています。神秘の世界だった生命も具体的に理解されるようになり、それを取り巻く環境（宇宙・地球）や精神世界の問題にも興味が向けられるようになりました。情報科学や化学など他分野とのコラボレーションが進み現在は、ますますその傾向が強まっています。

今や生物学は、医学、薬学、農学、情報科学など周辺領域をはじめ、地球環境問題や生命倫理などの社会的な問題にまで影響を及ぼすようになっています。魅力的で多彩な研究が展開される活気あふれる領域です。

目的

多様な個性を伸ばす

神秘的に見える生命現象には、美しいほどの見事な原理や理論性が潜んでいます。生物学科では、この21世紀に残された「宝の山＝生物」を体系的に学べるだけでなく、最先端の研究に参加することができます。さまざまな生物について、遺伝子などのミクロなレベルから、個体や環境などのマクロなレベルまで、幅広く研究対象にしています。

生物学科では「学生の数だけ才能がある」を信条に、生命を深く理解するための鋭い感性と洞察力を備えた創造力あふれる個性の育成を目指し、きめ細やかな指導を行っています。

卒業生の8割が大学院に進学し、修了後は企業や国公立の研究機関、大学などで研究者として活躍しています。就職先は食品、医薬、銀行、シンクタンク、IT関連、教職と多彩です。

カリキュラム（主＋強化プログラム）

	主プログラム		強化プログラム	
	講義	実習・演習	講義	実習・演習
1 年 次	◎生化学 ◎植物生理学 ◎生物物理学 ◎進化生物学 ◎動物系統学	◎生物学実習Ⅰ ○植物系統学臨海実習		
2 年 次	◎植物系統学 ◎動物生理学 ◎代謝生物学 ◎基礎遺伝学 ◎分子遺伝学	◎細胞生物学 ◎発生生物学 ◎生物統計学 植物生態学 動物生態学	◎生物学実習Ⅱ ○基礎遺伝学実習 ○植物系統学実習 ○動物系統学臨海実習	
3 年 次	生物学外書講読		○分子遺伝学実習 ○細胞生物学実習 ○細胞生化学実習 ○代謝生物学実習 ○植物生理学実習 ○動物生理学実習 ○発生生物学実習 ○動物生理学臨海実習	細胞生化学 分子細胞情報学 生物系統地理学 進化遺伝学 発生遺伝学 バイオメカニクス 植物生理工学 遺伝子工学
4 年 次			◎生物学演習Ⅰ ◎生物学演習Ⅱ ◎特別研究Ⅰ ◎特別研究Ⅱ	(1～4年次) 生物学特別講義Ⅰ～Ⅴ 生物学特殊講義Ⅰ～ⅩⅩ

◎：必修 ○：選択必修 無印：選択

特徴

実習重視で実践力を育成

1・2年次には生物学の基礎分野の講義と基本的な実習によって核となる知識理解力、論理力、実験手法を修得し、3・4年次における専門的な実習及び特別研究を通して実践力を身につけます。実習の対象は野外の海洋生物や植物から、顕微鏡でみる小さな生物や細胞、そして遺伝子やタンパク質の分子レベルまでの広範囲かつ高度なものとなります。顕微鏡を一人に1台用意し、最先端の実験設備を備え、学生の知的探求心をしっかりと受け止める環境を整えました。湾岸生物教育研究センターに宿泊して行う野外実習もあります。

教育を担当するのは、それぞれの専門分野で活発な研究活動を実践している教員陣です。発展し続ける現代の生物学の最前線までを追求する講義や実習を提供しています。1年次から研究室に参加して、実践研究に参加することもできます。

科目紹介

■ 進化生物学

生物学の広範な「なぜ」に答えるべく、生物進化の重要概念を適用して進化機構の理解と思考力の向上を目指す。生物学全般の基盤となる科目。

■ 生化学

生命の活動単位である細胞の営みを分子レベルで理解するために、細胞を構成しているさまざまな生体高分子の構造、性状、機能について基礎的知識を修得する。

■ 動物生理学

動物の感覚や運動に関わる活動電位の発生とその伝搬、及び筋収縮などの現象について、生物物理、細胞生物学、分子生物学の側面から解説し、理解を深める。

■ 植物系統学

光合成により酸素を発生させる植物（陸上植物と藻類）の多様性や起源についての理解を深め、植物が獲得してきた形態的・生理的機能について基礎的知識を修得する。

■ 基礎遺伝学

さまざまな遺伝現象について、遺伝子のはたらきに基づいた理解を深めることを目指す。また、進化を理解する基礎として、集団内における遺伝子のふるまいにも触れる。

■ 生物学実習Ⅰ・Ⅱ

生物学科の学生として学ぶ専門科目の授業や実習に役立つ基礎的な技術や考え方を学ぶ、20種類に及ぶ「お茶大・生物学科実習メニュー」の玄関口。

取得できる主な教員免許・資格

学芸員(博物館)、中学校教諭一種免許状(理科)、高等学校教諭一種免許状(理科)

教員の研究分野

教授 加藤 美砂子	植物生理学
教授 小林 哲幸	脂質生化学、細胞生化学、脂質栄養学
教授 作田 正明	植物生理学（特に二次代謝、環境応答）
教授 千葉 和義	発生生物学、細胞生物学、理科教育
教授 服田 昌之	進化発生学
教授 最上 善広	動物生理学、宇宙生物学
教授 由良 敬	生命情報学、計算生物学
准教授 清本 正人	発生生物学、海洋生物学
准教授 近藤 るみ	分子進化学、実験集団遺伝学
准教授 髙田 智	植物系統進化学、海洋植物学
准教授 宮本 泰則	分子細胞生物学（特に細胞接着分子の分子細胞生物学）
助教 佐藤 敦子	環境発生進化学

TOPICS

海辺の自然の豊かな生態系に 湾岸生物教育研究センター （千葉県・館山）

生物学科の特色には実習プログラムが多いことが挙げられます。その拠点の一つが南房総の海沿いにある湾岸生物教育研究センターです。宿泊施設完備の実験実習施設があり、臨海学習では泊まり込みで生物についての理解を深めます。造礁サンゴなども生息するこの海域の生物相は多様で、ウニやウミホタルなどの海産生物に加え、海藻や里山の植物なども対象に、フィールド採集から顕微鏡で見るミクロな世界、さらに遺伝子やタンパク質の分子レベルまで、広範囲かつ高度な実習を行っています。



VOICE of STUDENT

川越 和泉 さん（4年）

第1のプログラム…生物学主プログラム
第2のプログラム…ケミカルバイオロジー学際プログラム



無限大の可能性が広がっています

個体から分子のレベルで生物を学ぶことができる場です。同じ生物でも異なる分野についてじっくり学ぶので幅広い観点を身につけることができます。実験は1、2人で行うため実践的に学べます。少人数なので学生だけでなく先生との距離もとても近く、気軽に質問でき、先生も学生一人ひとりのことを考えてくれています。そのサポートにより、私は2年生の夏から1年間長期留学をしました。

VOICE of FACULTY MEMBER

佐藤 敦子 助教



未知の海に飛び込む

高校までの勉強では、生物のこんなんでわかっていることばかりに見えるかもしれません。しかし実際は、まだまだわかっていないことばかりなのです。大学に入ることとは、「未知の海に飛び込む」ということ。私の研究室では、生物のかたちの進化と環境との関係について研究しています。みなさんも、未知の海に飛び込む探検隊のひとりになってみませんか。

情報科学科

情報科学 プログラム

<http://www.sci.ocha.ac.jp/ug/is/index.html>



21 世紀の基盤技術、「情報」を科学する

20 世紀にコンピュータの発達をもたらした情報技術は、今では携帯電話や家電製品にも搭載され、私たちの日常生活を大きく変えるものになっています。さらに、自然や生命のしくみ、言葉や経済のしくみを分析して予測するなど、情報科学は大きく注目されています。情報科学は、私たちの生活をよりよくする手段として、またあらゆる学問に貢献する手段として、無限の可能性を秘めています。本学科では、さまざまな専門で最先端を行く教員陣が理論から実践まで幅広い教育を展開し、女子大学ならではのユニークな視点から日常生活に密着した情報科学を開拓します。

目的

抜群の就職力で情報技術の前線へ

本学科では将来の研究者・技術者を養成するために、1 年次から情報技術のしくみを修得するとともに、多くのプログラミング科目によりコンピュータの動作を体感します。それと同時に本学科では、情報技術の基礎となる理論の科目も充実しています。つまり、情報業界で必要とされる実践的な知識だけでなく、社会に出てからでは学ぶ機会の少ない理論的背景もしっかり学べるのが本学科の特徴です。

卒業後は 7 ～ 8 割の学生が大学院に進学し、より高い専門性を身につけたうえで、企業や研究機関など最先端の職場で活躍しています。就職状況が非常によいのも本学科の特徴で、情報通信業界の就職力で日本一の大学と報道されたこともあります。HP に就職状況の全貌が載っていますので、ぜひご覧ください。

特徴

さまざまな興味に応える教員とカリキュラム

1、2 年次では情報科学の基礎となる数学や理論の科目を多く学びます。1 年次から始まる実習科目ではプログラミングを初歩からじっくり修得でき、数学や理論の科目にも演習問題を解く時間が用意されています。少人数制ならではの親身な体制で、安心して指導を受けられます。2 年次にはアーキテクチャやネットワークなどの情報基盤技術の講義も始まります。

3 年次からは、いよいよ情報科学の先端分野の講義が始まります。コンピュータ科学、数学、自然科学など幅広い科目群のなかから各自の興味に合わせて受講することで、情報科学の視野がぐんと広がります。4 年次には各自の興味に合う研究室を選び、教員の親身な指導のもと卒業研究を行います。この研究成果を、学内外、さらには海外にも積極的に発表しています。

カリキュラム（主＋強化プログラム）

	主プログラム		強化プログラム
	講義	実習・演習	講義・実習・演習
1 年次	◎線形代数学 1・2・3・4 ◎微分積分学 1・2・3・4 ◎数理基礎論 ◎コンピュータシステム序論 ◎データ構造とアルゴリズム	初等代数学 物理学概論 A・B	◎コンピュータ基礎演習 ◎プログラミング実習
2 年次	◎確率序論 ◎離散数学 ◎コンピュータアーキテクチャ I・II ◎コンピュータネットワーク I ◎マルチメディア 線形代数学 5・6 微分積分学 5・6	グラフ理論 関数型言語 位相空間論 情報理論	◎システムプログラミング実習 ◎マルチメディアプログラミング実習 計算機代数演習
3 年次			英文講読
4 年次	◎特別研究		

◎：必修 無印：選択

科目紹介

■ コンピュータシステム序論

コンピュータシステムの基礎知識と、その実社会での役割について学ぶ。コンピュータの原理や仕組み、歴史、情報科学の中核となる諸技術などを学ぶ。

■ マルチメディアプログラミング実習

オブジェクト指向の概念の理解と活用を目的に、Java 言語を用いてマルチメディアプログラミングの基礎を実習する。

■ 数理基礎論

あらゆる数学の基盤であると同時に、プログラミング言語、自然言語の認識・意味・計算にかかわり、電子回路の設計にも用いられる「記号論理学」を学ぶ。

■ コンピュータグラフィックス

近年急速に普及しているコンピュータグラフィックス（CG）を構成する諸技術について、2 次元・3 次元 CG 技術から可視化技術まで網羅的に学ぶ。

■ 情報理論

「情報」とは何かという基本的な概念から、情報の計量化といった実用的技術の数学的理論まで、情報通信の基礎理論を展開する。

取得できる主な教員免許・資格

中学校教諭一種免許状（数学）、高等学校教諭一種免許状（数学、情報）

教員の研究分野

教授 浅本 紀子	離散数学、計算機援用論
教授 伊藤 貴之	可視化、マルチメディア
教授 小口 正人	ネットワークコンピューティング・ミドルウェア
教授 河村 哲也	流体科学、数値シミュレーション、環境物理学
教授 小林 一郎	言語情報処理、知能情報処理
教授 椎尾 一郎	ヒューマンインターフェース
教授 吉田 裕亮	非可換解析学、特に非可換（量子）確率論 及び作用素環論
准教授 浅井 健一	プログラミング言語
准教授 粕川 正充	ユーザインターフェース、コンピュータアーキテクチャ
准教授 工藤 和恵	数値計算、統計物理学
准教授 郡 宏	複雑系科学、数理物理学、シミュレーション科学
准教授 戸次 大介	数理言語学、計算言語学
助教 オベル カトウ ナタナエル ヤン イバン	DNA コンピューティング、最適化

TOPICS

多彩な卒業研究で 新しい情報科学を 切り拓く

卒業研究では、新しい理論を提案したり、新しいソフトウェアやシステムを発表します。生物の体内リズムを再現する数学的理論、津波や竜巻などの自然現象を再現するシミュレーション、料理や化粧を楽しむ日常生活支援システム、自分の好きな音楽を推薦してくれるシステムなど、幅広いテーマのなかから選ぶことができます。



生活科学部

Faculty of Human Life and Environmental Sciences

身体と精神に関わる諸問題を総合的に見つめなおし 文理融合の多角的アプローチで、生活を科学する

生活科学部は、人間と生活と環境を多角的な視点と複合的なアプローチで探求する学部で、自然科学系の食物栄養学科と人間・環境科学科、人文社会科学系の人間生活学科と心理学科の4学科で構成される、理系・文系の枠を超えた学際的なプログラムが特徴です。

身体と精神にかかわる諸問題を人間生活という視点から捉え直し、食の科学と健康、人間と環境、人間生活と社会、人間生活と文化、心の科学と健康に関する諸問題を包括的に科学し、生活の質を再検討していきます。

さらに、時代の流れを敏感に捉えながら、人間と生活について総合的に見つめなおし、現代にふさわしい価値と基準の創出を目指し自立する女性を育てます。

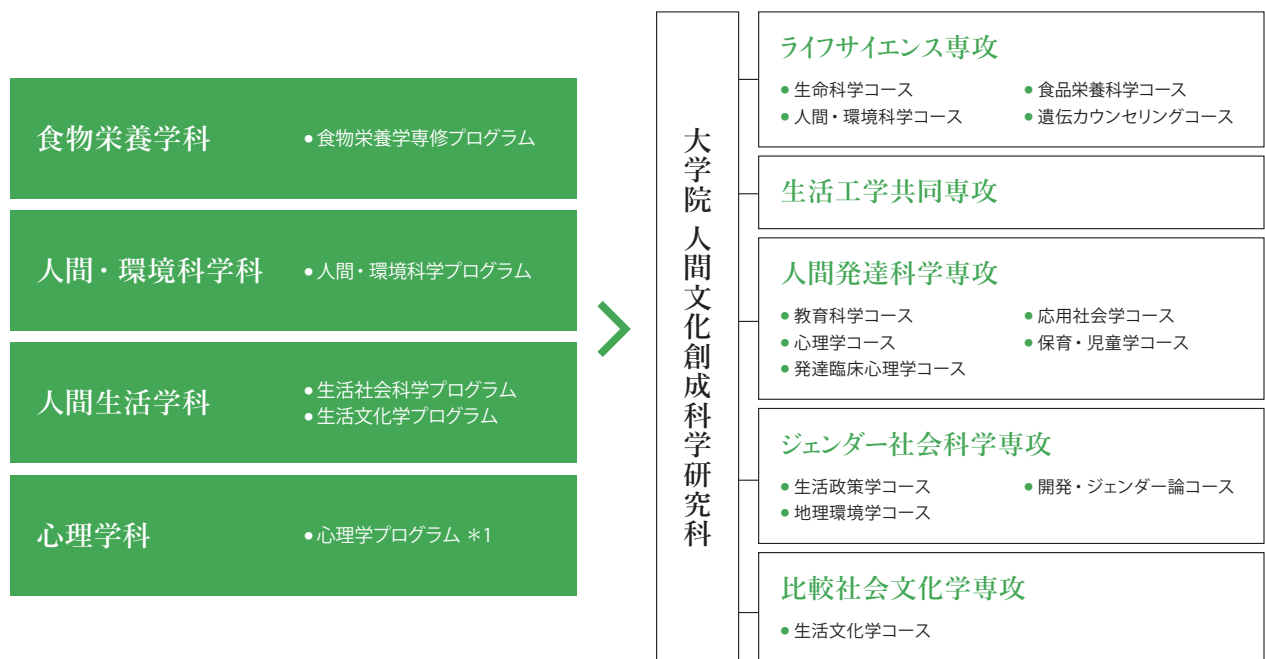
生活科学部は教員免許状や博物館学芸員などの各種の資格に加え、2004年度には管理栄養士の、2013年度からは一級建築士の受験資格も得られるようになり、それぞれ受験資格に必要なカリキュラムを用意しています。



<http://www.hles.ocha.ac.jp/index.html>



生活科学部から進学実績が多い大学院専攻課程



※生活科学部食物栄養学科・人間・環境科学科・人間生活学科を卒業する際に学士（生活科学）が授与されます。心理学科を卒業する際に学士（心理学）が授与されます。*1
*1 心理学科については、2018年度設置届出書類提出中（2017年5月時点）。心理学科設置は予定であり、変更があり得る。

生活科学部の特徴

生活科学部の歩み

生活科学部は、家政学部（1950年）を改組して、1992年に誕生しました。家政学というと、家事である裁縫、調理、育児、家計を習い、良妻賢母を養成するところというイメージがあるかもしれませんが、しかし、1939年には戦争未亡人のための東京特設中等教員養成所裁縫科が本学に設けられたように、まさに女性の自立を目指すことも含まれるようになりました。家政学部から生活科学部への変革は、日常の人間生活が、地球規模の自然環境、世界規模の社会環境と密接に関係するようになったこと、また社会における女性の位置や役割が変化してきたことに対応して行われました。そのため、生活科学部は、家政学部に比べてはるかに広い学問領域を含んでいます。

しかし、生活科学部は、どこまでも人間生活の諸問題に対して、人間らしい豊かで健康な生活とは何か、色々な価値観を持った人々や社会とどのように共生していくか、環境問題と人間生活の豊かさをどう折り合わせるかという地に足の着いた総合的な視点から取り組む姿勢は変わりません。

生活科学部のテーマ

現代は科学技術の発展や急速な経済成長により、物質的に豊かで、快適な生活を享受できるようになりましたが、その一方、急激な自然環境、社会状況の変化にともなう問題が噴出しています。たとえば、少子高齢化、女性の社会参加が進む中での子育て、高齢者介護などの問題に対応して、子育てと仕事のバランスはどうあるべきか、バリアフリーの住宅、高齢者に使いやすいユニバーサル・デザインの衣料とは、が課題となります。さらに生活環境や対人関係等の諸問題も解決すべき課題です。また、食については、過食やアンバランスな食事による生活習慣病などへの食物栄養学からのアプローチも求められています。

このように生活科学部に期待されるテーマはたくさんありますが、個々の問題解決のみではなく、生活者の視点から、環境や社会との関係の中で、総合的に、実践的に問題に取り組む姿勢が生活科学部の特色といえます。

このため、各専門プログラム及び現代の消費生活について総合的に学ぶ消費者学学際プログラムが開設されています。

食物栄養学科

“食物と人を見つめるサイエンス”をキーワードに、食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた食物栄養学の専門家の育成を目指しています。少子高齢化社会を背景に、これまで以上に人間や健康とのかかわりが重要になっていることから、おいしさや品質といった食品を中心とする研究に加え、食物が人間に対してどのように機能するかという人間栄養学的な教育・研究も充実させています。

人間・環境科学科

生活をとりまく身近な課題に対し、人間工学、環境工学、建築学、材料物性学、自然人類学など科学技術的アプローチで新しい生活の提案を目指す学科です。科学技術の実践的な応用、生活関連分野のタイムリーなテーマへの取り組み、研究成果の社会での応用・評価などを学びます。2013年度入学生より、一級建築士の受験資格を得られるカリキュラムも開始しています。

人間生活学科

当学科は生活社会科学プログラム・生活文化学プログラムの2つで構成されています。2年進級時にはこれらの主プログラムから1つを選択します。主プログラムを選択できる上限人数はゆるやかに設定されていますが、上限を大幅に超えた場合は選考を行うこともあります。また、1年生向けには学科共通の専門の基礎科目や入門科目が置かれており、主プログラム選択の参考にすることができます。

心理学科

2018年開設の新学科です。心理学を学び、様々な生活環境・場面における人間の心理・行動に対し、その基礎的なプロセスと機能への深い理解と科学的な見方を培い、課題の発見と問題の解決に活かす力を養います。教育プログラムは基礎・実証系心理学と臨床・実践系心理学の科目群を融合した形で構成されており、「認知・生物系」、「社会・福祉系」、「医療・健康系」、「発達・教育系」という4つの専門領域を設置しています。

食物栄養学科

食物栄養学 専修プログラム

<http://www.hles.ocha.ac.jp/ug/food/index.html>



食物とヒトを見つめるサイエンス

食物と人間及び健康は時代を問わず、社会の人々の大きな関心事です。毎日の生活に欠かせない「食」には、おいしさ、栄養や健康、製造や安全性など、さまざまな側面があります。食物は人間が生きるために不可欠であり、生活にうるおいや楽しさをもたらすなど、健康を維持するには、食物についての正しい知識が必要です。食物栄養学科では、「食」に関する分野を総合的な視点で捉えます。食品化学、食品貯蔵学、調理科学、栄養化学、臨床栄養学、応用栄養学、栄養教育学、給食経営管理学、公衆栄養学などさまざまな学問分野において、遺伝子レベルから人間栄養学的なものまで幅広い領域を対象に、食の研究を科学的に取り組んでいます。

目的

食の専門家としてのリーダー育成

食物と栄養に関する科学的視点と実践力を身につけた、食物栄養学の専門家の育成を目指しています。食物栄養学科では、おいしさや品質といった食品を中心とする研究に加え、食物が人間に対してどのように機能するかという人間栄養学的な教育研究も充実させています。

さらに、人と「食」の関係を考えるには科学的な視点が必要です。基礎医学、病理学、さらに医療制度、社会福祉なども教育に取り入れ、食品の安全性を評価し、トータルマネジメントする能力も養います。

卒業後は大学院への進学の道も用意されています。卒業生は、厚労省や自治体など官公庁、食品会社などの民間企業、病院、学校関係など、専門を生かした広い分野で活躍しています。

特徴

広い専門性と充実した実験・実習

カリキュラムでは特に実験・実習を重視しています。1年次は専門を学ぶために必要な知識・技術や一般教養を修得し、2年次からは食物栄養学にかかわる専門課程や基礎的な実験・実習を通して論理的思考を身につけます。

3年次後半になると全員が食物栄養学科の研究室に所属し、各自が設定した特定のテーマについて卒業研究を進めます。さらに管理栄養士の国家試験受験資格に必要な臨地実習があります。

食物栄養学科には食品や栄養に関する幅広い専門分野の教員が所属しています。さらに、授業では保健管理センターの医師も参加し、健康や生活について総合的な教育を行っています。

カリキュラム（主＋強化プログラム）

	主プログラム			強化プログラム		
	講義			実習・演習		
1年次	食物栄養学入門 生化学 解剖生理学Ⅰ・Ⅱ 調理科学 基礎有機化学			基礎調理学実習		
2年次	細胞生化学 臨床医学総論 臨床医学各論Ⅰ・Ⅱ 生活環境学 食品製造・保存学 食品微生物学 分析化学	代謝栄養学 社会福祉学 臨床栄養アセスメント学 栄養教育学Ⅰ 給食経営管理論 栄養カウンセリング論 応用栄養学	食品化学 食嗜好評価学	応用調理学実習 分析化学実験 食品微生物学実験 解剖生理学実験		
3年次	公衆衛生学 ライフステージ栄養学 病態栄養学 給食マネジメント論 食品機能論	食品衛生学 ライフスタイル栄養学 臨床栄養療法学 栄養疫学・統計 栄養教育学Ⅱ	公衆栄養学 食事療法学	食品製造・保存学実験 食品化学実験 栄養学実験 調理科学実験 臨床栄養アセスメント学実習	食物栄養管理論総合演習Ⅰ 栄養臨地実習Ⅰ 栄養カウンセリング論実習 給食経営管理実習 応用栄養学実習	公衆栄養学実習
4年次	食物栄養学輪講			卒業論文 食物栄養管理論総合演習Ⅱ 栄養臨地実習Ⅱ		

※栄養士資格および管理栄養士国家試験受験資格を取得できる、4年一貫の専修プログラムを履修します。
※必要に応じて副プログラム、学際プログラムも履修できます。

科目紹介

■ 食品機能論

近ごろ話題の食品成分が「からだによい」とする機能性（三次機能）に関して、法律や資格、化学、生化学という多方面から学び、未来への健全な利用法を考える。

■ 栄養教育論

食べたらいけないと思っていても、つい食べてしまう。行動科学は、そのような複雑な食行動を理解するための学問である。栄養教育論では行動科学の他、栄養教育の方法論を学ぶ。

■ 調理科学

食品をおいしくする非加熱操作、加熱操作の基礎を学ぶ。界面現象、伝熱現象などの理論を理解することで、実際の最適な調理条件の設定へとつなげる。

■ 食品微生物学

人と微生物のかかわりは古く、深い。微生物学の歴史や基礎知識を学ぶとともに、食品と微生物のかかわりを、食品の製造（醸造）と食品の保存・安全性の両面から学ぶ。

■ 代謝栄養学

食物は身体のなかでどのようにしてエネルギーへと変わるのか。体内で起こる食物のエネルギー蓄積・利用のしくみ、栄養素の機能を学ぶ。

■ 臨床栄養学

様々な病気に対して栄養がどのように関わっているか、医学的・栄養学的知見に基づいて学ぶ。また、科学的エビデンスに基づいた栄養食事療法についても理解を深める。

取得できる主な教員免許・資格

栄養士、食品衛生管理者（任用資格）、食品衛生監視員（任用資格）、
管理栄養士（受験資格）、栄養教諭一種免許状

教員の研究分野

教授 村田 容常	食品加工貯蔵学（食品生化学、食品微生物学）
教授 香西 みどり	調理科学
教授 藤原 葉子	栄養化学、脂質生化学
教授 森光 康次郎	食品機能化学、食品分析化学、食品有機化学
教授 赤松 利恵	健康教育（栄養教育）学、公衆衛生学、健康心理学
教授 飯田 薫子	生活習慣病学
准教授 須藤 紀子	公衆栄養学
講師 市 育代	臨床栄養学
助教 佐藤 瑤子	給食経営管理
助教 馬橋英章	応用栄養学

TOPICS

現場を知る、 仕事に向き合う 管理栄養士のための 臨地実習

3・4年次には、管理栄養士の国家試験受験資格に必要な臨地実習が始まります。病院をはじめとする医療施設や給食施設現場などに出向き、実際に管理栄養士が働いている現場で勉強します。これまで学修してきた管理栄養士の位置づけ、職場や役割について、現場の体験学習を通して理解し、実践できる能力を養います。現場ならではの得難い体験が得られます。



VOICE of STUDENT
尾崎 沙織 さん（3年）
第1のプログラム：食物栄養学専修プログラム

幅広い分野から食について考える

食物栄養学科の授業では「食」という一つのテーマについて、様々な観点から学ぶことができます。日常生活で実感できることなどもあり、とても面白いです。先生方との距離も近く、比較的少人数での授業なので理解も深まります。友人たちも「食」ということに興味がある人ばかりなので、みんな仲良しです。入学してもう2年が経ちますが、この学科で本当に良かったな、と実感しています。



VOICE of FACULTY MEMBER
村田 容常 教授

食べ物を科学の言葉で語ろう

なぜ人は食べ物を食べるのでしょうか。どうして美味しいものとそうでないものがあるのでしょうか。答えは簡単ではありません。食べ物のなぜは最先端の科学を使っても分からないことばかりです。高校までに学んだ物理、化学、生物学の考え方を土台に、大学ではより専門的な概念や知識そして実験科学的方法論と実践を学びます。頭と手を同時に使って、なぜを解き明かしていきましょう。

人間・環境科学科

人間・環境科学 プログラム

<http://www.hles.ocha.ac.jp/ug/eng/index.html>



人間にとっての環境とは、環境にとっての人間とは ふたつの視点が、明日の生活を変えていく

より快適に、安全に、暮らしやすく。人は常に生活を改善しようと努力してきました。
しかし、人間によいことは必ずしも環境によいとは限らず、逆に、環境への配慮がすべての人間に望ましい結果になるわけではありません。
本学科では、生活者と環境の視点に立ち、人と暮らしを中心とした物づくりの実践を通じて、
生活のための工学、〈生活工学〉の教育・研究を展開します。科学技術にライフスタイルを合わせるのではなく、
ライフスタイルに合わせた科学技術の創造が求められています。安全・安心で豊かな未来の社会・生活を創造すべく、
生活に関連する諸課題を生活者の視点に立ち、工学的手法に基づき解決できる人材を育成します。

目的

生活に人間中心の科学技術を

本学科は衣服、水、建築、医療福祉など、私たちを取り巻く身近な課題に対し、理工学的アプローチから解決方法を探ります。科学技術の分野で研究成果を社会に還元することが求められるなか、生活・環境関連の課題をテーマの中心に据えることにより、先進的な役割を果たすことを目指します。身の回りの課題を理工学的なテーマとして研究してみたい人、社会における科学技術のあり方に深い関心を持つ人を求めます。4年間の勉学を通じて、科学技術の実践的な応用、生活関連分野のタイムリーなテーマへの取り組み、研究成果の社会での応用・評価などを学びます。卒業生は「生活関連分野の科学技術研究」という本学科の特徴から、生活関連民間企業、大学院進学、公務員など、理系分野を中心に幅広い領域で活躍しています。

特徴

基礎をしっかりと、そして専門へ

年次進行に従い、まず基礎科目を、次に応用専門科目を学ぶカリキュラム構成です。1・2年次では、専門に進むための基礎力として数学、物理、化学、生物、情報などの理工系基礎科目を履修し、基礎力を着実に身につけます。その後、人間や環境に関わる科学・技術としてさまざまな専門科目を学びます。社会や生活に対し、新しい価値を創造するにはこれだけでは不十分です。具体的な演習課題に取り組みながら、科学技術に関する知識を用い、人間の行動や生活を中心にしたライフイノベーションを創造していくプロセスを学習する文理融合・問題解決型のワークショップ（LIDEE 演習）を展開しています。4年次では3年間の勉強の成果を踏まえて卒業論文に取り組みます。自分が抱いていた課題がどのように掘り下げられるか、実感することができます。

カリキュラム（主＋強化プログラム）

	主プログラム		強化プログラム	
	講義	実習・演習	講義	実習・演習
1 年次	デザインとテクノロジー 建築一般構造 ヒトと文化 基礎有機化学 住居学概論 生活科学概論	数学物理学演習Ⅰ・Ⅱ デザイン工学演習 設計製図基礎		LIDEE 演習＊1
2 年次	基礎構造力学 物理化学 環境科学 西洋建築史 生物化学 反応工学論	統計学 応用統計学 環境生理学 建築環境計画論 計測工学 機械と運動	資源循環工学 人体計測学演習 機器分析演習 設計製造演習	環境衛生学 人間工学 建築法規 建築構法計画 建築環境工学
3 年次		情報工学演習 人間環境科学演習 人間環境科学実験実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	数学物理学演習Ⅲ 建築設計製図演習Ⅰ・Ⅱ 測量学 LIDEE 演習＊1	人間環境科学特別演習Ⅰ・Ⅱ＊2 建築設計製図演習Ⅲ LIDEE 演習＊1
4 年次	卒業論文 / 人間環境科学輪講Ⅰ・Ⅱ		水環境工学 システム工学 都市エネルギー工学 環境材料物性 医用工学 建築構造力学	建築意匠論 建築施設計画 電子工学 環境評価学 都市計画論 環境心理学

＊1 LIDEE：Life Innovation by Design & Engineering Education ワークショップ型のデザイン演習授業。
＊2 企業で就業実習をおこなうインターンシップ。

科目紹介

■ **建築環境工学**
生活環境を快適にするため、建築物の室内環境要素である光・音・熱・空気などについて、人間の知覚のしくみや周囲環境の把握方法について理解する。

■ **環境材料物性**
材料の性質と構造の観点から生活材料の物性を学ぶ。機能性材料（消臭材料、吸水材料）や膜などの分子選択性材料などにつき、機能や性質、設計開発方法を講義する。

■ **水環境工学**
安全快適な水環境構築のための評価法や解決技術を学ぶ。水質項目の意味や適用法、水の保全や浄化消毒技術に関する知識を講義する。環境低負荷型の技術開発が重要である。

■ **人間工学**
神経や感覚のしくみの工学的な解析、障害を有する人のための福祉工学、高齢者のための健康支援など、医療・福祉のための工学技術について講義する。

■ **建築設計製図演習**
住宅や公共施設、都市空間のあるべき姿を、デザイン性、人間工学、心理学などの観点から分析・設計する。美しさや機能だけでなく、社会との関連やユニバーサルデザインの視点も重視する。

■ **西洋建築史**
新たな建築デザインの創造には、先人達の遺産の理解が重要である。古代から現代までの主要西洋建築について、空間理念、社会背景、建設技術とともに特徴を概説する。

■ **環境評価学**
低炭素社会、循環型社会、安全・安心社会を設計・診断するためのモデリング技法を学ぶ。物質・エネルギーフロー解析、ライフサイクルアセスメント、環境リスク評価法に関する知識を講義する。

■ **人間環境科学実験実習**
人類学・物理学・化学・建築学・人間工学など多岐にわたる実験・実習を行うための基礎から応用までを学ぶ。
※教育・研究の最新情報は学科ホームページでご確認ください。

取得できる主な教員免許・資格

一級建築士（受験資格）、学芸員（博物館）

教員の研究分野

教授 仲西 正	材料物性
教授 太田 裕治	人間医工学
教授 大瀧 雅寛	水環境工学
准教授 元岡 展久	建築意匠
准教授 長澤 夏子	建築計画
助教 近藤 恵	自然人類学
助教 中久保 豊彦	環境評価学
助教 小崎 美希	建築環境工学

TOPICS

よりよい暮らしと 環境を求めて 実験住宅 Ocha House

家庭生活のなかでどのようにコンピュータを活用していくかを研究するために、2009年、大学隣接地にユビキタスコンピューティング実験住宅を建造し、さまざまな実験を進めています。たとえば、居室内の照明のコントロール、遠隔地とのコミュニケーション支援のアプリケーション、高齢者支援やセキュリティシステムの提案など。サスティナブルエネルギーシステムの実験にも活用する計画です。



人間生活学科 生活社会科学 プログラム

<http://www.hles.ocha.ac.jp/ug/humanlife/soc/index.html>



子育て、家族、消費者、福祉、ジェンダー論 生活者の視点で社会経済問題を解明し、提案する

私たちの身の回りではさまざまな問題が生じています。派遣労働をはじめとした非正規雇用の増加、不況の時の雇用の問題、少子高齢化社会における医療・介護制度のあり方、社会的・経済的格差にどのように取り組むか、家族にかかわる問題など枚挙に暇がありません。私たちは生活者の視点から、家族問題、女性問題、高齢者問題、教育問題、消費者問題など生活にかかわる社会・経済問題に取り組んでいきます。法学、政治学、経済学など社会科学の方法を学際的なアプローチで分析し、問題解決の方法について考えていきます。

目的

社会科学の基礎・応用、学際的研究へ

本プログラムでは、法学、政治学、経済学、社会学の基礎から応用まで徹底的にマスターすることを目標にしています。日常性のなかに潜む具体的な問題から出発し、問題を多角的に、かつ深く掘り下げて分析する力をつけます。たとえば、子育て支援を取り上げてみましょう。子どもが育つ家族・社会環境のあり方を解明するには、社会学の力が必要です。そして、実際にサービスを行うための費用をどのように賄うかは経済学の課題であり、それを実現する法規範や制度を考えるのは、法学や政治学の仕事です。このように私たちの身の回りの問題を考えるために、多角的、学際的な視点を養成します。

卒業後の進路は、国家・地方公務員、教員、金融機関、マスコミ、メーカー等多様で、各界に人材を輩出しています。

特徴

演習・実習中心の少人数制授業

学生が自ら調べ、考え、発表し、討論する力をつけることを重視し、カリキュラムを構成しています。少人数の講義やゼミで、法学、政治学、経済学、社会学の基礎をマスターし、考える力、読む力、調べる力、書く力、プレゼンテーション（発表）する力、ディベート（討論）する力を着実につけていきます。文献や資料の調査・講読やフィールドワークなどを通じて現実の社会に触れて観察・分析する授業のほか、社会調査の方法、コンピュータを利用したデータ解析などの授業・実習も充実しています。

3・4年次にはゼミを選択し、学生が自ら研究したいテーマについて本格的な研究を行い、成果を卒業論文にまとめます。優秀な論文には賞（生活社会科学研究会賞、花経会賞）も準備されています。知的冒険を私たちと一緒にしてみませんか。

カリキュラム（主＋強化プログラム）

	主プログラム		強化プログラム			
1年次	生活社会科学概論 人間生活論 家族関係論	ジェンダー論 応用生活統計学 社会保障論				
2年次	生活社会科学演習 社会統計学Ⅰ 生活関連法	生活政治学 家政経済学概論 消費者経済学	生活社会科学専門英語（実践的英語力を養成）			
			法学・政治学	経済学	社会学	ジェンダー研究
3年次	演習Ⅰ 演習Ⅱ 家族法 家族社会学		生活と行政 比較家族思想史 生活法学 財産と法 労働法 刑事法 など	生活経済学 労働経済学総論・各論 企業経営論 生活と財政 生活と金融 消費者教育論 国民経済と生活 国際経済と生活 など	社会福祉学 児童福祉論 老人福祉論 地域社会論 老年学 人口学 生活調査法 生活社会調査実習 など	女性政策論 政治とジェンダー 比較ジェンダー論 法女性学 など
4年次	卒業論文					

公共政策論副プログラム			
必修	選択（4単位まで）	選択	
生活社会科学概論 生活社会科学演習	演習Ⅰ・Ⅱ	生活関連法 生活政治学 消費者経済学	社会福祉学 労働経済学総論 など

ジェンダー論副プログラム			
必修	選択（4単位まで）	選択	
生活社会科学概論 生活社会科学演習 ジェンダー論	演習Ⅰ・Ⅱ	女性政策論 比較ジェンダー論 政治とジェンダー	労働経済学総論 家族社会学 など

※副プログラムは本講座以外の学生向けに提供しているプログラムです。

科目紹介

■ 家族社会学

社会学理論、方法論、同棲、配偶者選択、少子化、結婚・離婚・再婚、妊娠と出産、育児と子育てなど、家族に関するさまざまなトピックスを社会学の視点から学ぶ。

■ 社会福祉学

制度やサービス提供の仕組み、福祉専門職の労働環境、社会福祉と社会的価値・文化とのかかわりなどを取り上げ、福祉社会の進むべき方向を展望する。

■ 消費者経済学

消費者にかかわる諸問題（消費者保護、独占・寡占、医療・介護、環境、流通など）を経済学の立場から研究し、社会生活で必要とされる経済学の基本を身につける。

■ 労働経済学総論

男女間の格差問題を中心に、仕事の見通し、家庭内の家族関係、転勤・残業等の雇用慣例など「日本的」な人材育成が持つメリット・デメリットについて考察する。

■ 生活経済学

私たちが生涯を通じて主体的に豊かに生きるために、人間の労働力が生活とどうかわっているのかを解明するとともに、未来を「豊かに生きる」方法を模索する。

■ 生活政治学

近代の政治学で設けられた「生活（私）と政治（公）」という二分法から生じた諸問題を、市民的生活者という立場から捉え直す。

■ 生活関連法

憲法・民法・刑法などの基本判例を生活者の視点から検討する。グループごとに担当判例を決め、自分たちで判決文や関連学説を調べて発表し、皆で討論する。

■ 家族法

家族法の基本的な知識を修得することを目的に、現代の日本社会が直面する家族法の問題をはじめ、さまざまな国の家族法についても具体的な事例を挙げながら幅広く分析する。

取得できる主な教員免許・資格

学芸員（博物館）、社会調査士、中学校教諭一種免許状（家庭）、高等学校教諭一種免許状（家庭）

教員の研究分野

教授 石井 クンツ 昌子	社会学（家族社会学）
教授 永瀬 伸子	経済学（労働経済学、社会保障論）
教授 小谷 眞男	法学（生活法学、比較法文化史）
教授 大森 正博	経済学（消費者経済学、公共経済学、医療経済学）
准教授 斎藤 悦子	経済学（生活経済学、生活経営学）
准教授 デアウカンタラ マルセロ	法学（家族法、比較法）
助教 豊福 実紀	政治学（生活政治学）

TOPICS

「卒業論文」と「ゼミ」は、皆さんの創造と表現の場です

3・4年次の「ゼミ」は、学生生活で皆さんが全力を尽くして、自分を表現できる場所です。各ゼミでの研究・学修活動は、テキストの輪読と議論、グループ研究、研究に関連する公的機関、企業等を訪問見学するなどさまざまです。ゼミで私たちがもっとも重視しているのが、学生が自ら調べ、自ら考える自発的な研究の心です。その集大成が卒業論文であり、皆さんの研究・学修生活の最大のイベントとなります。



VOICE of STUDENT
石川 文絵 さん（4年）
第1のプログラム…生活社会科学専門プログラム
第2のプログラム…生活社会科学強化プログラム

あなたの興味を育てよう

本講座では家族、消費者、高齢者、ジェンダーなどといった生活に関わる諸問題を取り上げ、社会科学の方法論を使ってその問題解決に取り組みます。数あるトピックのうち、どこに焦点をあてどのように切り取るかはあなた次第。小さな興味・関心から始まる学びの広がり、知的好奇心が刺激される毎日です。意欲ある仲間とともに自分の興味を深め、じっくりと育てていく。そんな環境が生社にはあります。



VOICE of FACULTY MEMBER
デアウカンタラ マルセロ 准教授

家族・社会と法を考える

「なぜ親の婚姻状態で子が差別されるのか」「なぜ女性は妊娠や育児を理由に職場で嫌がらせを受けるのか」「病気の兄弟を救うドナーとして遺伝子操作で生まれてくる救世主兄弟は認められるべきなのか」。家族形態の変容、ライフスタイルの多様化、女性の社会進出、科学技術の進歩等に法整備が追いついていないのが現状です。家族やジェンダー、生命倫理と法との関わりについて一緒に考えてみませんか。

人間生活学科 生活文化学 プログラム

<http://www.hles.ocha.ac.jp/ug/humanlife/acsthe/index.html>



暮らしを見つめ、今日を捉えたその先に 未来の文化と、世界の明日が見えてくる

生活文化学は、日常生活にかかわるさまざまな文化事象を対象として学際的に考究する学問です。

文化には、美術・思想・文学・歴史などさまざまな分野とアプローチがあります。生活文化学プログラムでは、領域を横断するかたちで、生活にかかわる「もの」と「こと」を歴史と今日的視野で探究しています。

生活文化学は、衣食住からデザインや風水、恋愛・結婚や家族や家庭にかかわる思想など、

生活にかかわる文化すべてを対象にします。真に豊かな生活とは何かという「生活の理念」を考え、

利害が交錯する今日の社会で解決に向けて行動できる知性と感性を養います。生活をテーマに、新しい文化論の構築を目指します。

目的

生活を見つめる知性・感性を磨く

文化は生活の中から始まります。そして、よりよい生活には、さまざまな価値観の継承と発展が求められます。生活文化学プログラムでは、生活文化のよき担い手となり、それをリードする能力を養います。現代生活における諸問題を自ら発見し、それに対峙し、解決できるような幅広い知識と判断力を4年間で身につけていくための教育が行われています。

授業では、古今東西の生活文化をさまざまな切り口で捉えていきます。美術や文学、日本と欧米の文化、住まいと工芸と服飾、子どもを中心とした、ユニークな文化論が用意されています。

卒業後は日本と海外の生活文化の交流に貢献する人材として、民間企業への就職者や公務員・教員のほか、美術館・博物館の学芸員や研究者なども多数輩出しています。

特徴

身近なテーマ・体験を通して学ぶ

民俗学、比較文化論、服飾史、保育学の各領域の基本科目を履修し、生活文化学の基礎を学びます。さらに、各領域を深化させるために資料の分析・解釈の方法を学ぶ必修の講義科目があります。3年次から始まる演習では、文献資料や図像資料の解釈の方法を学び、また、欧米の論文、著作の講読を通して生活文化の視野を広げます。密度の濃い指導を受けられる、少人数教育です。

身体を通して生活文化学を学ぶ実習も特色です。服飾文化実習では実際に洋服や和服を制作することにより、身体を通して服飾文化を深く学んでいきます。生（なま）の生活文化を経験する野外のフィールドワークや、博物館・美術館見学などの機会も充実しています。

カリキュラム（主＋強化プログラム）

	主プログラム		強化プログラム	
	講義	実習・演習	講義	実習・演習
1年次	生活文化学概論 生活科学概論 生活社会科学概論 被服学概論 児童学概論 人間生活論 生活造形論	民俗学 服飾文化概論 服飾美学概論 家庭看護学 保育実践論		
2年次	服飾史論 服飾史資料論 比較生活文化論 比較生活文化史Ⅰ 民俗文化史概論（1）（2）	歴史民俗文化論（1）（2）	服飾史Ⅰ 服飾史Ⅱ 生活文化学専門英語 民俗文化史各論 環境デザイン論 美学・芸術学 生活文化論 生活造形史 工芸史 比較生活文化史Ⅱ	地域文化論 現代文化論 文化情報論 西洋服飾論 日本服飾論 服飾文化各論 服飾美学各論 生活芸術論 LIDEE演習＊1
3年次		比較文化論基礎演習 民俗文化史基礎演習 日本服飾史演習Ⅰ 服飾文化論基礎演習		服飾制作実習 服飾文化実習 生活文化実習Ⅰ 生活文化実習Ⅱ 比較文化論演習 民俗文化史演習 服飾文化論演習 日本服飾史演習Ⅱ
4年次	卒業論文	生活文化学論文演習Ⅰ 生活文化学論文演習Ⅱ		

＊1 LIDEE：Life Innovation by Design & Engineering Education ワークショップ型のデザイン演習授業。

科目紹介

■ 比較生活文化史Ⅰ

近代の芸術家・工芸家の生涯を追いながら、彼らが直面した文化的・時代的状況を考察する。

■ 民俗学

家族のあり方、衣食住、正月や盆などの年中行事、結婚式や葬式などの人生儀礼、民俗宗教、昔話や伝説など、日本文化、特に庶民の生活文化・民俗文化について学ぶ。

■ 服飾文化論演習

ヨーロッパの服飾を対象とし、服飾史研究の基本となる資料分析の方法を学ぶ。文献・図像資料を通して、時代特有の感性、美意識、生活意識を探究する。

■ 服飾史資料論

古代から現代に至る日本服飾の歴史を、図像資料を中心に概観する。各時代における服飾の様式（かたちと名称）とその特徴について理解する。

■ 比較文化論演習

比較文化論及び生活造形論という観点から、近代日本の「生活と芸術」のかかわりについて考察する。

■ 日本服飾史演習Ⅰ

明治期以降の衣生活の変遷や服飾を巡る人々の価値観の変容について、具体的な事例やモノを通じて探っていく。

■ 歴史民俗文化論

人間が自らが暮らす空間をどのように認識しているか、さらに都市や村、住居をどのようにして造り上げてきたか民俗学、文化人類学の立場から考察する。特に日本における風水の受容について論じる。

取得できる主な教員免許・資格

学芸員（博物館）、中学校教諭一種免許状（家庭）、
高等学校教諭一種免許状（家庭）

教員の研究分野

教授 宮内 貴久 民俗学、文化人類学
教授 柴坂 寿子 人間行動学、子ども行動学
准教授 刑部 育子 子ども学、保育学
准教授 鈴木 禎宏 比較日本文化論
准教授 難波 知子 日本服飾史、学校制服文化
助教 新實 五穂 西洋服飾史、フランス文化論

TOPICS

街に飛び出し、 現在を知る 東京そのものを 学びの場として

授業が開設されるのはキャンパス内だけではありません。上野・池袋・東京など、東京23区内の主要ターミナル駅へのアクセスに優れた立地を生かし、博物館や美術館、国会図書館なども生活文化学のステージになります。都内各地で開催されるさまざまなイベントも格好の学びの場として活用されています。今の時代に生き生きと息づく文化を目で見、肌で感じ、足を使って確かめていく。その一つひとつの体験が、明日の生活文化をつくる原動力となって蓄積されていくのです。



心理学科(新設)

心理学 プログラム

<http://www.hles.ocha.ac.jp/ug/psy/index.html>



人をみつめ、人の不思議を理解し、人を支える こころを科学し、こころと向き合う力は人と社会を成長へ導く

現代社会には生活場面における判断・意思決定、対人認知、コミュニケーション、心理的問題(うつ、自殺等)、発達・健康上の問題(発達障害、高齢化等)、災害・犯罪、避難生活、非行いじめなどなど、複雑で多様な問題が存在します。心理学は、人間の心理のプロセスを科学的に解明し、エビデンスに基づいて、社会的問題や課題の解決を目指す学問領域であり、人間生活の様々な場面で横断的に、様々な領域と学際的に関わる学問です。こころを科学し、こころと向き合う力は自らの生きる力となり、人を支援する力にもなるでしょう。文教育学部心理学と、生活科学部発達臨床心理学の2つのプログラムを統合し、心理学の基礎から実践までを総合的に学ぶ新学科が誕生します。

目的	特徴
Scientist-Practitioner(科学者-実践家)の養成	理論と実践を系統的に、段階的に学ぶ
心理学科では、心理学の基礎教育と共に、生活の実践に活かす教育を行います。つまり、様々な生活環境・場面における人間の心理・行動に対し、その基礎的なプロセスと機能への深い理解と科学的な見方を培い、それを課題の発見と問題の解決に活かす力を養います。そして、人に対するあくまでも真摯な姿勢と科学的方法論を身につけ、心理系の資格を取得しながら、様々な場面で実践的役割を果たし、社会貢献を行うことができる人材、すなわち Scientist-Practitioner(科学者-実践家)の養成を学科の目的としています。	心理学科の教育プログラムは、基礎・実証系心理学と臨床・実践系心理学の科目群を融合した形で構成されています。これにより、1) 様々な生活領域の課題から問いを立て、実証する科学的探求を志向する人材、2) 科学的実証の視点や方法論を獲得し、各種の生活領域に応用する実践的視点とスキルをもつ人材育成が可能となるのです。 さらに心理学科では、基礎・実証系心理学と臨床・実践系心理学とを融合した新たな専門領域として、「認知・生物系」、「社会・福祉系」、「医療・健康系」、「発達・教育系」の4つの系列を設置し、それぞれに専門応用講義科目群、専門応用演習科目群を配置しています。

カリキュラム(主+強化プログラム)

	主プログラム		強化プログラム	
	講義	実習・演習	講義	実習・演習
1年次	こころの科学 こころの科学：研究と実践 心理学選択基礎 認知心理学概論 発達心理学概論 教育心理学概論 社会心理学概論	臨床心理学概論		
2年次	心理統計法 学習と言語の心理学 応用社会心理学 健康心理学 感情・人格心理学 心理臨床アセスメント	発達臨床心理学 心理療法学 障害臨床心理学 コミュニティ心理学 心理学専門英語	心理学基礎演習 心理学基礎実験演習 心理学基礎実践演習 心理学実践演習：質問紙法 心理学実践演習：質的研究法	心理職の職業倫理
3年次	心理臨床に関する法と制度 心理学専門英語	認知心理学演習 認知発達心理学演習 社会心理学演習 ジェンダー心理学演習 健康心理学演習	障害臨床心理学演習 心理療法学演習 人格発達心理学演習 心理臨床学演習 学校臨床心理学演習	臨床医学概論 産業心理学 家族心理学
4年次	卒業論文			

科目紹介

- 認知心理学概論**
人間の情報処理課程(パターン認知、学習・記憶など)に関して、神経生理学、計算理論、行動科学的側面などの視点から学ぶ。
- 発達心理学概論**
発達心理学の基礎的な理論、幼少期の認知や社会性の発達、児童期の学習に関する理解を深めるとともに、思春期、青年期、高齢期の発達と課題についても学ぶ。
- 心理統計法**
心理学におけるデータ収集や、検定、分散分析、回帰分析など統計的分析の理論や実践方法について学習する。
- 心理学基礎実験演習**
教育心理学、社会心理学、発達心理学、臨床心理学、認知心理学における心理測定・実験・調査の基本技術の習得を目的とする。
- 応用社会心理学**
メディア・メッセージの内容分析やその技法などについて紹介する。暴力シーン、教育番組、報道番組、新聞記事、オンラインゲームの分析などを実習する。
- 発達臨床心理学**
乳幼児から生涯にわたる発達についての基礎的な知識の習得と、その過程における臨床的問題の理解に関する代表的な理論を学ぶ。
- 学校臨床心理学**
学校現場で臨床心理学・教育心理学・コミュニティ心理学を応用して行う児童生徒支援・学校支援・進路指導について実践的に学ぶ。
- 心理療法学**
カウンセリング・心理療法理論の基本概念を学ぶ。精神分析学派、人間学派、認知行動学派などの代表的な理論について、それぞれの哲学的基盤、精神病理・心理障害の定義、面接過程、治療者の役割と介入法などの観点から比較・検討する。
- ジェンダー心理学演習**
ジェンダー・セクシュアリティなど幅広く人間の性に関連するテーマを主として、臨床心理学ではどのような研究が行われているか、関連した先行研究を調べ、現在得られている知見をまとめ、今後どのような研究が必要であるかを見定める。
- 心理臨床実習Ⅰ・Ⅱ**
保健医療機関、教育機関等における心理に関する支援、多職種および地域との連携、心理職の職業倫理等について、学内外で実習体験する。

取得できる主な教員免許・資格

学芸員(博物館)、社会調査士、公認心理師(受験資格)、
認定心理士(受験資格)

教員の研究分野

- 教授 石口 彰
認知科学、人間情報学
- 教授 大森 美香
健康心理学
- 教授 坂元 章
社会心理学、情報教育
- 教授 菅原ますみ
教育心理学、パーソナリティ心理学
- 教授 笹 倫子
発達臨床心理学、障害臨床学
- 准教授 青木 紀久代
発達臨床心理学、精神分析学
- 准教授 石丸 径一郎
ジェンダー心理学、認知行動療法学
- 准教授 伊藤 亜矢子
学校臨床心理学、コミュニティ心理学
- 准教授 岩壁 茂
心理療法研究、心理療法統合
- 准教授 上原 泉
発達心理学、認知心理学



VOICE of FACULTY MEMBER
大森 美香 教授

心理学と健康?

健康心理学という領域で、心身の健康に関する研究をしています。「健康」というと保健学や医学のようで、心理学とどう関係があるの?と思われるかもしれませんが。健康心理学では、心身の健康に、身体的な状態に加え様々な心理プロセスが関与していると考えており、データを用いてこれらの関連性を明らかにする研究を行っています。



VOICE of FACULTY MEMBER
岩壁 茂 准教授

人を変える対話の力、感情の力を明らかにする

私の研究のテーマは、「人はどういうように変わるのか」ということでカウンセリングの研究をしています。カウンセリングでは、挫折・失敗・喪失・孤立などの体験を振り返り、痛みを生きる糧へと変容します。その中で、悲しみ、怒り、恥、恐怖などのネガティブな感情も重要な役割をもって機能しているのです。感情がもつ変容力、そして人を変える力をもつ対話のメカニズムについて一緒に研究しませんか。

TOPICS

2018 年度開設の新学科。® 文教育学部の基礎・実証系心理学の教育・研究(旧心理学プログラム)と生活科学部の臨床・実践系心理学の教育・研究(旧発達臨床心理学プログラム)が統合され、パワーアップ!より総合的、体系的に心理学を学び、貴女のキャリアデザインを描きましょう。

※心理学科については、2018 年度設置届出書類提出中(2017 年 5 月時点)。
心理学科設置は予定であり、変更があり得る。

特色ある副プログラム

複数プログラム選択履修制度では、特定の専門分野を中心とするプログラムとは別に、「領域融合型」の副プログラムも開設しています。

現代社会で求められる新しい人材養成に対応するプログラムです。

所属する学部第2のプログラムとして、あるいは所属にかかわらず第3のプログラムとして履修できます。

文教育学部

日本語教育 副プログラム

日本語教育で始めよう、 あなたの中のグローバル化

日本語教育副プログラムの教育目標は、多様な言語、文化的背景を持つ学習者を理解し、彼らのコミュニケーション能力を向上させるための基盤となる理論や方法、専門性と実践力をもったグローバル社会の日本語教育専門家を育成することです。そのために外国語または第二言語としての日本語教育のスキルを獲得し、国内外の教育機関等で活躍する日本語教育専門家に必要とされる専門知識の基礎や実践力を学びます。

本学の日本語教育コース（大学院）は、日本における第二言語としての日本語教育、習得・教育研究を牽引してきたと言っても過言ではありません。この副プログラムでの学びを基盤に世界に向かって羽ばたいてみてはいかがでしょうか。指定の科目を26単位履修することで「日本語教育に関する課程」を満たすことも可能です。また、より専門性を身につけたい人には、大学院日本語教育コースもあなたを待っています。

■ 在学生の声

多角的な視点を得て

日本語教育コース 猿田 静木

日本語教育基礎コース*を履修したことは、私の人生に様々な視界を与えてくれました。英語を主専攻として学ぶ傍ら、改めて母語や母国についての見識を深めることができました。また「日常で触れることのない言語を学ぶ」という日本語学習者の気持ちを体験してみようと思ったことが、留学するきっかけにもなりました。こうした経験をより昇華させようと思い、大学院で研究をしています。

※学部在籍当時（現：日本語教育副プログラム）



■ 専任教員・研究分野

佐々木泰子	日本語教育・談話分析
加賀美常美代	異文化間心理学・異文化間教育学
森山 新	応用認知言語学・第二言語習得・多言語多文化教育
西川朋美	第二言語習得・年少者日本語教育
加納なおみ	バイリンガル教育・リテラシー教育
本林響子	社会言語学・言語政策論

■ 科目紹介

第二言語教授法演習Ⅰ/Ⅱ、社会言語学演習、多文化間人間関係論演習、日本語表現法概論、日本語非母語話者年少者教育学概論、日本語教育法演習Ⅰ/Ⅱ、日本語教育学研究法実習、日本語教育学概論Ⅰ/Ⅱ、異文化間教育学演習、日本語学概論Ⅰ/Ⅱ、日本語教育学特殊講義、言語と文化、多文化間交流論などの科目があります。



釜山外大で実施された海外日本語教育実習の一場面、韓国民族衣装体験

■ 教員の声

バイリンガルの子どものことばの力を育てる

准教授 西川 朋美

第一言語（母語）の習得は、ほぼ誰もが成し遂げることでありますが、第二言語の場合、その成功度は人それぞれです。私の研究は、第二言語に触れ始める年齢の違いが、第二言語習得の成功度にどのように関係しているかを明らかにしようとするものです。特に、日本で生まれ育つ外国の子どもの日本語の習得と、彼らへの言語教育に興味を持っています。バイリンガルの子どもの言語習得に興味がある人は、ぜひ授業でお会いしましょう。



生活科学部

公共政策論 副プログラム

現代の社会問題に鋭く切り込み、 処方箋を提案する

社会科学の基本的な考え方と方法論の基礎を学び、主専攻の専門知識と関連づけつつ、社会的な課題解決の実践に活かすための力を養うことを目的とします。各自の専門分野に関する知識を中心にしながら、法学、政治学、経済学、社会学という複数の社会科学の視点をもって、さまざまな社会問題や社会現象を学際的・複眼的に考察することが可能となります。こうした素養は行政官（公務員）にも要求されるものであり、本プログラムは、公務員試験の受験を志望する学生にも役立つ科目群となっています。

■ 科目紹介

必修科目：生活社会科学概論(1)(2)、生活社会科学演習(1)(2)
選択科目：ジェンダー論、生活関連法、生活法学、家族法、労働法、生活政治学(1)(2)、政治とジェンダー、生活と行政、生活と財政、生活と金融、家政経済学概論、生活経営学、労働経済学総論、消費者経済学、消費者教育論、女性政策論、社会保障論、社会福祉学、老人福祉論、児童福祉論、地域社会論など。他に、専任教員の演習科目を4単位まで履修可能。

生活科学部

ジェンダー論 副プログラム

領域横断的なジェンダー視点をもって、 新たな知の地平を拓く

社会科学領域におけるジェンダー研究の視点と方法を学び、主専攻の専門知識と関連づけつつ、研究や実践に活かすための力を養うことを目的とします。「ジェンダー」というと、とすると「女性問題」、あるいは男女の格差の問題と、限定的に捉えられがちです。しかし、それはあらゆる社会問題や社会現象、あるいは諸学問の根底にある専門的な知識や前提とも深く絡み合う現象であり、研究視点です。本プログラムを履修することにより、各自の主専攻をさらに深め、異なる角度から見直すための、重要な手掛かりを得ることができるよう。

■ 科目紹介

必修科目：生活社会科学概論(1)(2)、生活社会科学演習(1)(2)、ジェンダー論
選択科目：家族法、家族関係論、女性政策論、法女性学、労働法、比較家族思想史、比較ジェンダー論、政治とジェンダー、社会福祉学、社会保障論、労働経済学総論、家族社会学(1)(2)、老年学、児童福祉論、生活関連法、生活法学、生活と行政、国際経済と生活、国民経済と生活など。他に、専任教員の演習科目を4単位まで履修可能

■ 教員の声

市民社会のための法学

教授 小谷 眞男

法学を専門としているわけではない学生のためにこそ「リベラルアーツ法学教育」を！といっても単なる「一般教養」ではありません。専門が何であれ、人はみな市民社会の一員です。市民としての資質の決め手は、結局は見知らぬ（場合によっては地球の裏側の）「最後のひとり」の立場に身を置くことができるかどうかです。リベラルアーツ法学教育の目的は、専門家でも意見が分かれるような裁判事例について異なる分野の人と議論することを通して、普段の自分とは違う視点からものごとを見直す機会を提供し、一市民として他者を深く理解する力と批判的精神を養うこと。それは、言わば市民社会のための法学なのです。



PICK UP

私たちの生活は、他者との関わり、社会との関わりなしには成り立ちません。それゆえ、さまざまな社会問題や社会現象のメカニズムと解決策を考える際に、社会と個人の関係を洞察する社会科学は、どのような専門分野を学ぶ人にとっても必須の素養となるでしょう。



■ 教員の声

ジェンダー論の魅力

准教授 申 琪榮

ジェンダーについて学べること、ジェンダー視点に立った学問ができることは、お茶の水女子大学の教育・研究の大きな特徴です。生活科学部では、それぞれ自分の専攻の主プログラムと並行して、ジェンダー研究を行うジェンダー論副プログラムを選択することができます。また、他学部の学生も、三つ目のプログラムとして本副プログラムを履修できます。ジェンダーやセクシュアリティに注目することによって、既成の学問が見落としてきた、新たな研究領域が広がります。



PICK UP

本学のジェンダー研究は、1975年の女性文化資料館の設立以来の伝統があります。その歴史を大切にしながら、新しいジェンダー研究の地平を切り拓くために、主専攻の専門知識とどのようなコラボレーションが可能かを、ともに考えましょう。



特色ある学際プログラム

複数プログラム選択履修制度では、特定の専門分野を中心とするプログラムとは別に、さまざまな分野にまたがる研究領域を学ぶ学際プログラムも開設しています。先端的研究や実践の分野で必要とされる人材育成に対応するプログラムです。所属する学部の第2のプログラムとして、あるいは所属にかかわらず第3のプログラムとして履修できます。

理学部

応用数理 学際プログラム

現代を支え、未来を創造する学問

数学は、科学と技術の発展を紀元前から支えてきました。自然現象を読み解く物理学も、コンピュータや人工知能の動作原理も、数学によって作られています。「応用数理」はそのような「道具としての数学」を身に付けるためのプログラムです。微分積分を用いて体系化された物理学は未来を予測する道具であり、天気予報やロボットの制御で中心的な役割を担っています。インターネットの検索技術では、点と線の世界を扱うグラフ理論、ベクトルの計算を扱う線形代数、そして確率論的な考え方が美しく融合しています。応用数理は未来に「違い」を生み出す力を与えてくれます。

■ 科目紹介

関数解析、関数論統論、確率論、フーリエ解析とラプラス変換、ガロア理論、多様体論、微分幾何学、微分方程式論、数理統計学、数理経済学、数理物理学、量子力学、解析力学、熱力学、統計力学、量子光学、凝縮系物理学、場の量子論、物性物理学序論、素粒子物理学、相対論、流体物理学、宇宙物理学、物理学基礎研究、計算基礎論、グラフ理論、情報理論、組み合わせ論、コンピュータシステム序論、暗号と符号、情報解析学など

PICK UP

体内時計などの生物リズムや、自然界や生命システムに現れる模様形成原理や機能に関する数理的研究を行っています。数学が社会でどのように役立っているのかについて、微分積分などの基礎科目の講義の中でも積極的に紹介しています。 郡 宏准教授



理学部

物理・化学 学際プログラム

物質を科学する人に強力なアイテムを

本プログラムでは、物理学と化学の基礎を踏まえた学際領域で、科学を探究するための基礎を身につけることができます。物理学と化学の両分野にまたがる複合的な学際領域にアプローチし、当該分野で活躍するための知識や基礎力、さらに、より広い学際的視野を身につけることを目指します。入門的講義（基礎化学、物理学概論）や基礎実験（化学基礎実験、物理学基礎実験）、また、物理学と化学の主プログラムにも属する基礎科目（物理化学、量子力学など）と同時に、この学際分野に進むために有用な発展的専門科目（反応物理化学、ソフトマター物理など）を学ぶことができます。

■ 科目紹介

固体電子論：物理学科で履修する量子力学と統計力学を応用して、固体の性質を理解する科目です。物質はなぜ金属と絶縁体に分類できるのか、絶縁体はなぜ電気が流れないかという事柄等を物理学の根本から説明します。また、原子と原子の結合についても取り扱います。化学科で開講している「物理化学」の授業では量子力学と統計力学を扱っているので、これらを履修した学生も講義内容を困難無く理解できると思います。

PICK UP 炭素からなる蜂の巣構造

炭素からなる物質はダイヤモンド、黒鉛などが身近ですが、図は炭素1原子層から構成されるグラフェンを立体的に組み合わせた結晶構造です。この構造はこれまで理論的には考えられていましたが、最近実験的に生成されました。



理学部

ケミカルバイオロジー 学際プログラム

生物のしくみを“物質”の視点から解き明かす

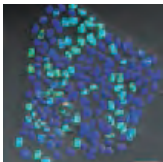
化学や生物学の基礎をもつ学生が、その知識や考え方を発展させつつ、物質の生物への作用を知り、生命のしくみをより深く理解することがこのプログラムの目的です。学際分野（薬学、生命工学、農学、食物科学など）へ進むための橋渡しとなるような知識を得ることも目指しています。化学主プログラムまたは生物学主プログラムを履修した学生が、それぞれ修得した知識を発展させて学ぶ科目と、周辺領域に視野を広げる科目（分子生命科学、有機化学、生物物理化学、分子細胞情報学、分子構造生物学、植物生理工学、細胞生物学、代謝生物学など）から12単位以上を選択履修します。

■ 科目紹介

分子生命科学：生物の中でみられる様々な現象（細胞分裂、細胞増殖、細胞分化、細胞死、細胞老化など）に関わる調節のしくみについて分子構造と分子間相互作用に焦点をあてて解説しています。履修者は、創薬や生命工学等に関する新聞記事を選び、解説するショートプレゼンテーションとディスカッションも行います。

PICK UP

細胞にヌクレオチドアナログを取り込ませることで、増殖中の細胞にだけ目印をつけることができます。図は全細胞（紫色）の中から、増殖中の細胞（緑色）を検出しています。ケミカルバイオロジーの手法で、生物の中のイベントを可視化することもできます。



理学部

生命情報学 学際プログラム

生命の成り立ちを情報からさぐる

生命情報学学際プログラムでは、理学部の各種プログラムの基礎を修得した学生に対して、学際分野である生命情報学の基礎から応用までを提供します。各個人のゲノム情報を取得できるようになった今日、自分のゲノムを自らコンピュータ解析し、健康や福祉に利用することも当然になろうとしています。生命の情報を解析する学問として生まれた生命情報学（バイオインフォマティクス）の修得をめざし、本プログラムでは、生物学、進化学、情報科学、化学、統計学、物理学の基礎知識の融合と、様々な生命情報から新しい知見を抽出するために必要な論理力と技術力の習得を目標とします。

■ 科目紹介

生命情報学を概観する「生命情報学概論(1)(2)」を履修した上で、以下の8科目から6単位を選択必修とします。「計算生物学(1)(2)」「進化遺伝学」「分子遺伝学」「バイオインフォマティクス」「コンピュータシステム序論」「生体分子機能・反応学」「計算化学」。その上で、履修生自らがもっとも力を発揮できる領域を見いだし、生物学、情報科学、化学、物理学の科目を履修し、プログラム修了に必要な20単位を取得します。

PICK UP

高校までは、生物学、数学、物理学、化学、地学が別個の科目でした。しかし生物はこれらの区別を意識せず存在しています。生命情報学学際プログラムでは、今までの固定観念を打ち破ることができる、現代社会が求める人材の育成をめざしています。



生活科学部

消費者学 学際プログラム

“消費者としての市民”とは何かを考える

「消費者学」は、消費社会における諸問題を、文理の領域を超えて多角的に学ぶ、生活科学部ならではの学際的教育プログラムです。社会と能動的に向かい合う一人ひとりの市民は、消費者としての一面をも合わせ持っています。“消費者としての市民”は、現代の高度消費社会に対してどのような働きかけができるでしょうか。食品や住居、医療や情報に関する自然科学の基礎を身につけたうえで、消費者問題の歴史を知り、政策動向を理解し、国内・国外の経済や企業の動きを分析するツールを学び、裁判事例から消費者の権利を考えることを通して、消費社会の諸問題に主体的に向き合う力を養います。

■ 科目紹介

必修科目：「消費者科学入門」（下記参照）、「国民経済と生活」（日本経済の現状をマクロ経済学の理論に基づいて学ぶ。IS-LM分析、経済政策も取り扱う）、「消費者法」（消費者と企業との間で生ずるさまざまな争いについて、法や裁判という角度から学ぶ。国境を越えた消費者紛争についても取り上げる）
選択科目：「消費者経済学」「消費者教育論」「企業経営論」「建築環境計画論」「医療と健康」「国際栄養学」など

PICK UP 「消費者科学入門」の紹介

消費者学の基礎を総合的に学ぶ。消費者庁派遣のゲスト講師も最新の政策動向についての講義を分担する。主な内容は、消費者問題の歴史、消費者の権利、消費者法の基礎、消費者と情報、消費者教育、グローバル化と消費者運動など。新聞やテレビ等の報道に触れたとき、消費者問題や消費生活に関する情報に耳聡くなってくれば、しめたものである。

大学院

Graduate School of Humanities and Sciences

人間文化創成科学研究科

世界に通用する俯瞰的視野と独創力に満ちた 真の女性リーダー創出を目指す最高水準の研究拠点

優れた女性リーダーや研究者を輩出しているお茶の水女子大学。

学部卒業後、大学院への進学を希望する学生が大変多いのも特長です。

2016年度は、文教育学部16%、理学部53%、生活科学部23%の卒業生が

本学大学院へ進み、国内外の他大学からも多くの卒業生が本学大学院に入学しています。

お茶の水女子大学大学院「人間文化創成科学研究科」の博士前期課程と後期課程には

それぞれ6つの専攻があり、少人数教育の利点を生かしたきめ細やかな指導の下、

前期・後期を緊密に連動させながら専門性と基礎力をともに高めています。

また、領域を超えて自在に展開する学際性を重視した多彩な教育と研究プロジェクトは、

各機関から高い評価を受けており、文部科学省の

「21世紀COEプログラム」(2件、2002～2007年度)、

「グローバルCOEプログラム」(2007～2011年度)、

「博士課程教育リーディングプログラム」(2013年度～)など、

大型の競争的資金を多数獲得するに至っています。



<http://www.dc.ocha.ac.jp/index.html>

人間文化創成科学研究科 組織図

博士後期課程																		
比較社会文化学専攻				人間発達科学専攻				ジェンダー 学際研究専攻	ライフサイエンス専攻				理学専攻			生活工学 共同専攻 定員2名		
定員27名				定員14名				定員4名	定員13名				定員13名					
国際日本学領域	言語文化論領域	比較社会論領域	表象芸術論領域	教育科学領域	心理学領域	発達臨床心理学領域	社会学・社会政策領域	保育・児童学領域	ジェンダー論領域	生命科学領域	人間・環境科学領域	食品栄養科学領域	遺伝カウンセリング領域	疾患予防科学領域	数学領域			



博士前期課程																								
比較社会文化学専攻								人間発達科学専攻					ジェンダー 社会科学専攻		ライフサイエンス専攻				理学専攻			工学専攻 生活共同 定員7名		
定員60名								定員27名					定員18名		定員40名				定員70名					
日本語日本文学コース	アジア言語文化学コース	英語圏・仏語圏言語文化学コース	日本語教育コース	思想文化学コース	歴史文化学コース	生活文化学コース	舞踊・表現行動学コース	音楽表現学コース	教育科学コース	心理学コース	発達臨床心理学コース	応用社会学コース	保育・児童学コース	生活政策学コース	地理環境学コース	開発・ジェンダー論コース	生命科学コース	人間・環境科学コース	食品栄養科学コース	遺伝力ウンセリングコース	数学コース			



学部												
文教育学部				生活科学部				理学部				
人文科学科	言語文化学科	人間社会科学科	芸術・表現行動学科	食物栄養学科	人間・環境科学科	人間生活学科	心理学科※	数学科	物理学科	化学科	生物学科	情報科学科

※心理学科については、2018年度設置届出書類提出中（2017年5月時点）。心理学科設置は予定であり、変更があり得る。
※学部と大学院の教育を架橋する学士・修士一貫トラックの導入を開始しています。

大学院の特徴

大学院課程の概要

前期課程では、高度な専門性に加えて幅広い教養に基づく豊かな学識を獲得するとともに、深い洞察力や国際的に通用する広い視野を身につけます。そして、時代を先取りする先見性と強い自立心を育みます。教育プログラムでは、専攻内、コース内に必修科目を設けて隣接領域に関する関心を高めるとともに、専攻に関わらず履修できる「男女共同参画リソース・プログラム」「キャリア副専攻」など、複数の領域横断的なプログラムを設けています。

後期課程では、高度な学際的総合研究を行える創造的能力と、自立した研究活動や専門的職務を遂行できるさらなる専門性、さらにその基盤となる豊かな学識を養います。

また、学生の多様なニーズに応えるために、多角的なサポートを行っています。協定大学への留学支援や海外の大学との共同学位の制度、奨学金などの経済的支援、卒業後のキャリア支援、復学者への入学料免除などのプログラムを用意し、学ぼうと望む学生たちを全面的にバックアップする体制を整えています。

大学院の特色

■複数指導制

前期課程から専門を異にする複数の教員による複数指導体制を敷いています。異なる領域の研究者による指導は、発想の転換や新しい視点の獲得へとつながります。また、専門性を生かせる広い視野と複眼的・領域横断的な思考力を養うためにきわめて有効なシステムです。

■学際性・国際性

専門性を支える豊かな学識を得るためにも、領域を超えた教育環境を整えています。国内外の他大学・研究機関とのネットワークや、留学機会の提供により、グローバル化する世界に通用する国際性を備えた研究者へと育成します。

■キャリアパス

一人ひとりが研究者としてのキャリアプランを円滑に実践できるように全面的にバックアップしています。特に出産や育児に対しては、充実したサポート体制を整えています。

■早期学位取得サポート

通常、博士課程は前期2年、後期3年で修了しますが、優れた研究業績等をあげた者には、理系・文系ともに早期学位取得が叶うよう、制度も整備しています。

比較社会文化学専攻

社会・政治・経済が世界規模で大きく揺れ動いている今、人間・社会・文化を捉えられる、既存の学問領域を横断した新たな「学」の体系」創成が強く求められています。比較社会文化学専攻は、人文社会科学分野において新たな知の地平を拓き、21世紀のグローバルな課題の解決に寄与する能力と意欲を持った人材を育てるために、前後期一貫した教育体制を敷いています。

目的は、学術的研究において指導的役割を果たす若手研究者の育成と、社会において高度な専門知識・技術を発揮できる資質の養成です。海外派遣にも力を入れ、国際的視野や国際的コミュニケーション能力の養成にも注力しています。学生の海外派遣プログラムもあり、海外での調査研究や研究発表の機会が与えられます。

■ 言語文化分野

日本語日本文学コース、アジア言語文化学コース、英語圏・仏語圏言語文化学コース、日本語教育コースの4コースを設置して、言語、言語を通じてなされる文学・文化表象、ならびに言語教育に関する研究・教育により、さらなる人間理解の深化を目指します。

■ 社会文化分野

思想文化学コース、歴史文化学コース、生活文化学コースの3コースを設置し、世界各地域を対象に、思想、歴史、生活の各側面から社会・文化の理解の深化を目指すとともに、比較の視点を採り入れた国際的研究の発展を目指します。

■ 芸術表現分野

舞踊・表現行動学コース、音楽表現学コースの2コースを設置し、芸術表現に対する理論的な研究と実践的なパフォーマンス力向上による相乗的な専門教育の深化を目指します。

■ 国際日本学領域

文学・言語・歴史・民俗・思想・文化・身体総合学としての日本学の探求を行います。

■ 言語文化論領域

言語、言語を通じた文学・文化表象、ならびに言語教育に関する研究・教育を行います。

■ 比較社会論領域

新しい人文科学の創成と、平等と自由の理念の実現を希求する人材を育成します。

■ 表象芸術論領域

文化表象・表現を多方面から専門的・横断的に追求する研究と教育を推進します。

人間発達科学専攻

個人的かつ社会的存在としての人間とその発達過程を対象に、教育科学、心理学、発達臨床心理学、社会学、保育学、児童学などをベースとして多様なコースを設け、理論的、応用的、学際的にアプローチし、高度な女性研究者、職業人を育成しています。

前期課程では、経験科学的方法論の基礎を修得し、社会的・心理的諸問題の解決を目指して実践的な課題に向き合い、社会・人間・発達を総合的・有機的に結びつける理論を身につけます。後期課程では、人間の発達に関わる幅広い学問領域を結集して、広い視野から学際的・総合的に教育研究を行うとともに、個々の領域での専門性を高めます。

■ 教育科学コース／領域

幼児期から成人期、日本や海外、過去から現在の教育事象まで、教育学の諸領域を多角的なアプローチにより研究できます。人間の生涯にわたる発達の過程を多様な方法論により科学的に深究するとともに、諸教育問題の解決に資する実践的な研究を行います。

■ 心理学コース／領域

認知、発達、教育、社会、人格、臨床などの領域における基礎から先端的研究まで、広範囲な研究方法論や知識を獲得します。脳を核として人間の心理メカニズムを、発達という時間軸、社会という空間軸の中で多角的・総合的に検討し理解する人材を育成します。

■ 発達臨床心理学コース／領域

病院、学校、福祉、産業領域などの臨床経験を持つ研究者の下、研究的な視点と臨床的視点の両方の訓練を受けることができます。臨床心理学を柱として基礎的な研究能力を養うとともに、心理臨床的、発達の問題について専門的に対処する力を育成します。

■ 応用社会学コース／社会学・社会政策領域

現代社会の諸問題（コミュニケーション、メディア、ジェンダー、権力、差別、地域、家族、福祉、医療など）、社会科学の理論と方法で解明し、実践的な解決策の提案へとつながります。

■ 保育・児童学コース／領域

発達心理学、教育学、保育学、人間行動学など多様な境界領域から保育・児童学を研究する教員を配置し、テーマの焦点化、研究方法論の検討プロセスを重視しながら研究を行います。



VOICE of STUDENT
八木橋久実子さん
(博士後期課程3年)
言語文化論領域

フランス語とフランス文学に今取り組む

文系よりも理系、語学なら英語のこの頃ですが、フランス語とフランス文学を大学院で学び続けることの意味は揺らぎません。写真論で有名な20世紀の批評家にして思想家であるロラン・バルト研究に取り組む中、学会発表や研究会への参加を通じて国内外の第一線の研究者との交流を深めています。本専攻はそうした活動を支える強い基盤となる場所です。



VOICE of STUDENT
東井千春さん
(博士後期課程2年)
心理学領域

研究にとことんまで打ち込める理想的な環境

「人間」を科学的・学際的に追究することのできる本専攻の中で、私は、VRシステムを用いて、身体感覚に関する実験心理学的検討を行っています。本学には、好きな研究にとことん打ち込むことのできる環境、多角的な視点を持ちながら研究を進めることのできる複数指導制、女性研究者のための充実した支援体制などが整っており、非常に魅力的な環境であると感じています。

ジェンダー社会科学専攻／ジェンダー学際研究専攻

学際研究の視点からジェンダー研究の確立・重点化を図る日本初の専攻です。21世紀を展望する新領域の開拓にふさわしい教養と学力を養成し、ジェンダー論の視点を積極的かつ批判的に取り入れ、社会科学の教育研究に関して独自の可能性を追求しています。本専攻の出身者は、各領域の研究者はもとより、男女共同参画社会構築の担い手、グローバル化する世界におけるさまざまな国際的活動、地域社会に根ざした草の根的な活動などで活躍しています。

人間・自然・社会に関わる諸現象を、グローバルな視点とローカルな視点を交差させながら、学際的・複眼的に解明する分析力と、それを現実の社会問題の解決・改善へと結びつけていく応用力・実践力を備えた人材を育成します。

■ 生活政策学コース

少子高齢化、女性と労働、家族生活の多様化など、生活のなかで生じる諸問題を明らかにし、解決を模索するために、法学、政治学、社会学、経済学、ジェンダー論を専門とする研究者が専門領域を超えて学際チームを結成、複眼的かつ学際的に思考し問題を解決できる人材育成を目指します。

■ 地理環境学コース

グローバル化のなかで変容する地域・空間の諸問題を、人間・環境関係、社会経済の空間性、国際関係、社会開発、健康と福祉、移動と場所のアイデンティティなどの視点から研究します。研究対象は自然環境、建造環境、居住空間、地域開発、ローカルな文化とその変容など多岐にわたります。

■ 開発・ジェンダー論コース

グローバル化における女性、ジェンダーと開発（GAD）、またフェミニズム・セクシュアリティに関わる歴史・理論研究、各国制度・政策比較研究などの広範な分野を学びます。特に「開発」の概念そのものをジェンダーとリンクして学び、研究し、仕事に生かせることを意図しています。

経済学、法律学、社会学、女性学、教育学、文化人類学、地理学、環境科学などの学問領域をベースに、ジェンダーの視点から性、家族、労働、人権、教育、開発援助、環境、テクノロジーなどの現代の社会的課題を分析・研究します。

ライフサイエンス専攻

人間の生活は、環境との調和のもとに成り立っています。しかし科学技術の発展にともなう利便性の追求が、その環境を危機にさらすという現実を生じさせています。ライフサイエンス専攻では「生命と生活」を対象に、「Life」という言葉に込められた多様な分野を学び、研究しています。生命科学、環境、食品栄養、遺伝、疾患など、基礎から応用に至る多様な分野において、理学・工学・生活科学などの学問分野を有機的に統合させつつ、人類を取り巻く環境と生活について探求します。前期課程で企業や教育・研究機関、保健医療機関などで活躍する基礎を身につけ、後期課程で博士号を取得し、ライフサイエンス分野のリーダーとなり得る力を養います。

■ 生命科学コース／領域

変動する環境の中で生きる生物の真の姿を理解するために、生物の普遍性と多様性の両面を対象として、遺伝子、ゲノム、生体分子、細胞、個体といったさまざまなレベルで基礎研究を行います。

■ 人間・環境科学コース／領域

環境に関する諸問題を科学的観点から扱います。都市・住居デザインの提案・設計、水環境の構築、障害者・高齢者支援技術など、人間と環境のインターフェイスを科学的・工学的に捉え、研究成果を具体的なデザインとして社会に提案します。

■ 食品栄養科学コース／領域

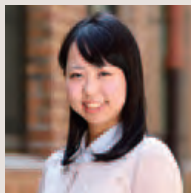
食物を美味しく食べる方法、生活習慣病の予防、食の安全性などの問題の解析・解決を目指し、食物や栄養に関する基礎的研究から応用開発、臨床対応までできる食物と栄養のスペシャリストや研究者、管理栄養士のスペシャリストの養成を目指します。

■ 遺伝カウンセリングコース／領域

遺伝性の病気や体質について、最新かつ正確な情報を対象者が理解できるよう提供するとともに、意思決定支援のための多様な実践的医療サービスを提供できる優れた遺伝カウンセリングの養成と、遺伝カウンセリングの研究を行っています。

■ 疾患予防科学領域

東京医科歯科大学等と連携した新しいスタイルの課題発見・解決型PhD教育研究プログラムにより、新たな領域かつ社会的ニーズの高い疾患予防科学分野で活躍する人材を養成します。



VOICE of STUDENT
菅原京加さん
(博士後期課程2年)
生命科学領域

少数数制ならではのアットホームな環境

私は、細胞の接着に関わるタンパク質について研究をしています。本専攻は、少数数制で先生と学生との距離が近いことが最大の魅力だと思います。そのため、実験や論文執筆等で行き詰まったときには、すぐに先生に相談して次のステップに進むことが出来ます。また、学年を問わず、学生同士でも互いの実験結果についてディスカッションを重ねながら、日々楽しい研究生活を送っています。

理学専攻

理学専攻の「理学」という名称は、大学院においても物事の本質を理解する「真理の探究」という姿勢を重視していることを表しています。これまで科学・技術は私たちの生活をたいへん豊かなものにしてきました。これを支えているのは基礎科学です。基礎科学は応用科学とも密接に結びついており、優れた応用研究を行うにはしっかりした基礎が欠かせません。

理学専攻では、数学、物理学、化学・生物化学、情報科学の各専門分野を広く深く理解するとともに、基礎に基づいた科学的思考力と論理性を涵養することを目的としています。後期課程では、グローバルな時代の中で「世界で通用する研究者の資格」である博士号の取得を目指します。

■数学コース／領域

さまざまな分野との関連も視座に入れながら、代数、解析、幾何の純粋数学の各分野で、数学理論の展開に関する高度な専門教育と研究を行っています。教育では数学の立場からの学際的研究能力を培うことを目標に、高度な数学的知識と数学的な運用能力をもつ専門職業人、教師、研究者等を養成します。

■物理学コース／領域

素粒子論・宇宙物理・統計力学・物性理論、実験分野としては分光実験・極限実験・超電導・ソフトマターに至る領域をカバーし、物理現象を理論と実験の双方向から、直感的かつ論理的に理解し得る能力の養成を行っています。物理学の研究能力を高めるとともに、還元論的、多元的なものの見方を修得し、その問題解決能力を向上させることを目指します。

■化学・生物化学コース／領域

物質を構成する広範な種類の分子、生体関連分子を対象に、その構造と性質、合成と反応、機能と現象に重点を置きつつ、物質科学、材料科学、有機合成化学、複雑系科学、生命科学などの幅広い観点から教育・研究を行います。

■情報科学コース／領域

情報科学の基礎から応用までの幅広い分野が連携して研究を行うことで、高度情報化社会で要求される情報科学的な理論と応用を明らかにしていきます。次世代の情報科学に必要な数理科学手法、現代情報科学の基礎となる計算機科学手法とその応用、自然・生命現象、生活科学などから生まれるさまざまな情報の利用・解析手法を研究します。



VOICE of STUDENT
水戸 晶子 さん
(博士後期課程3年)
化学・生物化学領域

社会へ大きく羽ばたくために

私は大腸癌細胞の増殖抑制因子について研究しています。学部生（化学科）の時から少人数教育の下でしっかり勉強したことが、研究を進める基礎力になっていると感じます。本学は留学やインターンシップへの支援も充実しており、私は副専攻（リーディングプログラム）において企業や行政機関の長期研修にも参加しました。幅広い経験が社会へ羽ばたく大きな武器になると考え、日々精進しています。

生活工学共同専攻

生活工学共同専攻では、工学諸分野の基礎から応用までを幅広く理解した上で、人間生活における諸課題を柔軟に捉え研究する能力を有する女性人材の育成を目的とします。生活者視点からの工学の推進、そして人と暮らしを中心とした物づくりの実践を通じて、学際融合型の生活工学教育・研究を展開します。科学技術にライフスタイルを合わせるのではなく、ライフスタイルに合わせた科学技術の創造が求められています。本専攻では、安全・安心で豊かな未来の社会・生活を創造すべく、生活に関連する諸課題を生活者の視点に立ち、工学的手法に基づき解決できる人材を育成します。

■カリキュラムの特徴

〔前期課程〕

基礎科目群においては、生活工学の基盤となる理工系基礎力を養うとともに、社会に有為な技術者となるべく倫理・知財についても学びます。専門応用科目群においては、Project Based Learning（PBL）として、「持続可能性デザイン」ならびに「いのちを守るデザイン」のPBL科目が設けられます。また、生活工学デザインワークショップ（LIDEE）においては、現実的課題が設定されたワークショップ演習を通じて、人間の行動や生活を中心とした「Human Centered」ライフ・イノベーションの創造プロセスを学びます。これらの学修を通じて、工学的観点からの生活関連課題解決にはコラボレーションが重要であることを理解します。

〔後期課程〕

基礎科目群において、生活工学分野における最先端の研究内容を、主指導教員、副指導教員を交えたゼミナール形式にて学修することで、博士論文研究を纏め上げるための基礎力を養成します。また、専門科目群における、教員の専門分野に直結した科目学修を通じて、個別研究課題の遂行に必要な事項を学修します。

■学位種類

前期課程：修士（生活工学）、修士（工学）、修士（学術）

後期課程：博士（生活工学）、博士（工学）、博士（学術）

■生活工学が対象とする主な分野

衣環境材料学、衣服科学、福祉工学、人間医工学、ユビキタス・コンピューティング、土木環境システム、環境創成評価学、居住空間環境学、建築学、建築計画学など。

研究を支援する豊富な研究所・センター

■研究機能強化のための戦略的研究組織

○グローバル女性リーダー育成研究機構

- ・グローバルリーダーシップ研究所
- ・ジェンダー研究所

○ヒューマンライフイノベーション開発研究機構

- ・ヒューマンライフイノベーション研究所
- ・人間発達教育科学研究所

■理工系女性リーダー育成のための組織

○理系女性教育開発共同機構

■教育研究を支援するセンター群

○全学教育システム改革推進本部

- ・教学IR・教育開発・学修支援センター
- ・外国語教育センター
- ・リーディング大学院推進センター

○国際本部

- ・国際教育センター
- ・グローバル協力センター

○研究推進・社会連携・知的財産本部

【研究推進部】

<教育研究部門>

- ・ソフトマター教育研究センター
- ・シミュレーション科学・生命情報学教育研究センター

<基盤部門>

- ・情報基盤センター
- ・共通機器センター
- ・ラジオアイソトープ実験センター
- ・動物実験施設

【社会連携部】

- ・湾岸生物教育研究センター
- ・サイエンス&エデュケーションセンター
- ・ライフワールド・ウォッチセンター

【知的財産部】

- ・知的財産センター

○グローバル人材育成・男女共同参画推進本部

- ・学生・キャリア支援センター

理工系グローバルリーダーを育てるリーディングプログラム

「グローバル理工学副専攻」は、理工系分野の確固たる基盤力をもち、産学官の分野を問わずにグローバルに活躍できる女性の育成を目指す博士課程教育プログラムで、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期の5年一貫教育プログラムを展開します。文部科学省2013年度の「博士課程教育リーディングプログラム【複合領域型（横断的テーマ）】」に採択されました。

■対象者

理学専攻・ライフサイエンス専攻と生活工学共同専攻の後期課程に所属する大学院生。

■概要

履修生は、各自の専攻に所属して専門を極めながら、「グローバル理工学副専攻」にも所属し、本専攻の授業以外に、イノベーション力強化、グローバル力強化のための資質を開発する授業を受けるとともに、チーム力強化のためのチームスタディ「PBTS（Project Based Team Study）」を実施、研究成果をまとめていきます。なお、海外・企業等への長短期「研究室ローテーション（グローバル研修）」が実施され、また、成績優秀者には奨励金（2016年度博士前期課程実績月17万円）が支給されます。

■プログラムの特色

- 修士・博士の5年一貫制：修士論文は副専攻のコースワーク及び研究で代替します。
- 自ら課題を設定し、仲間と協働で問題解決にあたる「PBTS（Project Based Team Study）」：企画力、リーダーシップ、プロジェクト・マネジメント力の醸成を目指し、外国人数員の指導の下、英語で研究、ディスカッションを行う機会を設け、実践力を養います。
- 海外で研究・調査をする「グローバル研修」が必修：在学中に必ず海外体験を実施します。
- 「イノベーション創成基盤科目」（理工系基盤科目）は外国人数員により、英語で実施：英語環境で研究する経験を積みます。
- 充実したキャリア開発・女性リーダー育成科目群：企業やグローバルNGOの女性幹部と連携して開発した科目を履修し、リーダーとしての資質を磨きます。
- 哲学、歴史、文化を英語で学ぶ「博士課程LA（リベラル・アーツ）」：グローバル社会で必要とされる教養を身につけるために、独自のプログラムを履修します。
- 修了者には副専攻プログラムの学位を授与。
- 業界と連携した「出口戦略」：研究機関だけではなく、企業への就職も視野に入れた多彩なキャリアプランを支援していきます。



VOICE of STUDENT
北川 めぐみ さん
(博士後期課程1年)
理学専攻数学領域

グローバル力強化のための学びと実践の場

外国人数員とのディスカッションや長期の海外研修を通して、グローバル力の向上につながると実感しています。また、チームスタディでは専門がそれぞれ異なる学生との協働で研究をするので、常に新たな発見や気づきがあり、視野の拡大と研究のためのマネジメント力の獲得も期待されます。複数の専門知識を得てこそそのアイデアやひらめきに出会える喜びを体験できるのも魅力のひとつです。

大学院生へのサポートシステム

経済的支援

お茶の水女子大学では、学部を卒業、または一度社会に出た後でさらに学ぼうとしている学生を応援するために、さまざまな経済的サポートを行っています。学部と共通の奨学金のほかに、大学院独自の奨学金もあります。また、支援プログラムとして、学内で教員や研究のアシスタントとして働きながら大学院で学べる制度も用意しています。

① 大学独自の奨学金……………詳細はP112を参照
桜蔭会研究奨励賞（予約型奨学金）／大学院博士後期課程研究奨励賞（予約型奨学金）／錦織チサエ奨学金／高田弘子奨学金／お茶の水女子大学 120 周年記念桜蔭会国際交流奨励賞／アバナード奨学金／育児支援奨学金／大学院研究科奨学基金／湯浅年子記念特別研究員奨学基金 他

② 大学院で働きながら学ぶ制度

ティーチング・アシスタント

大学院生を学部及び博士前期課程の講義、実験、実習、演習などのアシスタントとして雇用する制度です。経済的支援に加え、大学教育の充実と、指導者としてのトレーニングの機会提供を目的としています。（博士前期課程のアシスタントは博士後期課程の学生のみ）

リサーチ・アシスタント

博士後期課程に在籍する学生を、指導教員の研究アシスタントとして雇用する制度です。経済的支援に加え、研究プロジェクト等に参加することで、研究活動の効果的推進、研究体制の充実及び若手研究者の研究遂行能力の育成を図ることを目的としています。

プロジェクト研究員

博士後期課程の学生を、研究支援員として雇用する制度です。

③ 学生寮（小石川寮）……………詳細はP109を参照

大学から徒歩約 3 分の小石川寮は、大学院生のみ（留学生不可）が入居します。池袋や東京などターミナル駅へも交通至便な立地です。なお、外国人留学生向けには国際学生宿舎（板橋区）が用意されています。

海外での研究・留学支援

海外での研究活動や協定大学への留学を積極的に支援できるように、多彩なプログラムや制度を設けています。

派遣プログラム及び助成制度

大学間交流協定に基づく交換留学／海外語学研修（マンチェスター大学、モナシュ大学、オタゴ大学、梨花女子大学校、淑明女子大学校、ハル大学等）／パーギンシェ・ブッパタル大学研修留学大学院生派遣事業／ロンドン大学東洋・アフリカ研究院（SOAS）との大学院ダブルディグリー（DDP・複数学位）プログラム／『女性リーダーを創出する国際拠点の形成』事業によるプログラム／「湯浅年子記念特別研究員奨学基金」による海外派遣／お茶の水女子大学 120 周年記念桜蔭会国際交流奨励賞海外留学支援事業／ジェンダー研究所による「AIT—お茶大」学生交換プログラム／日本学生支援機構による留学生交流支援制度（短期派遣・長期派遣）／海外日本語教育実習（オーストラリア・アメリカなど）……………大学間交流協定締結大学一覧は P023 を参照

大学院修了後のキャリア支援

博士号取得後、就職するまでに待機期間が生じることがあります。こうした常勤研究職になる前の研究者（ポスト・ドクター）のために、お茶の水女子大学では経済面と身分上の便宜を図り、研究を継続できるように支援しています。

① リサーチフェロー

優れた研究を継続している本学のポスドク研究者に対して、研究の継続を財政的に補助する制度です。本学での学位取得者（課程博士）（前年度及び当該年度に取得又は取得見込み）を対象に、公募により採用し、原則として 1 年間、研究に従事します。

② 特別研究員（みがかずば研究員）

優れた女性研究者の継続的な研究活動を支援するとともに、女性研究者が研究中断後に円滑に研究現場に復帰する機会を提供します。

③ 基幹研究院研究員

優れた研究を継続している本学のポスドク研究者に研究員としての身分を与え、さまざまな研究上の便宜を図る制度です。本学での学位取得者すべてを対象に、公募により毎年 60 人程度採用しています。

研究環境の支援

大学院生がより円滑かつ快適に研究活動を行えるように、環境整備にも注力しています。図書館には大学院生専用の研究スペースを設置、論文作成に有用なデータベースや文献管理ツールをスムーズに利用できる環境を整えました。また、他大学所蔵資料の複写や図書の取り寄せを無料で行えるシステムも、他校に先駆けて実現しています。

ライフコースの支援

お茶の水女子大学では、女性が生涯にわたって学ぶ機会を得ていけるように、女性のキャリアプランとライフプランの両立を実現するためのサポートを行っています。育児では、ベビールームや学内保育所、おむつ替えスペースや子どもと一緒に宿泊できる学内施設などを整備し、学業・研究を円滑に行える環境を整えています。

また、子育てや研究者支援情報のメールマガジン配信、子育てについて語る「子育てサロン」の開催など、研究者を支援するための情報発信と体制づくりを推進しています。

① 学内保育所と育児支援奨学金

2005年に国立大学法人初の附属学校部所属の保育所「いずみナーサリー」を開設しました。附属幼稚園の園庭に隣接し、保育所の幼児と幼稚園の園児がコミュニケーションできることから、幼保連携の研究の場としても注目されています。託児料の半額を大学が負担する育児支援奨学金も設置しています。

② 復学者への支援

卒業生が科目等履修生や聴講生として復学する場合は入学金が無料になります。仕事や家庭から大学へ復帰する人、知識や専門性を高めて再就職に挑戦する人などの、学ぶ意欲を応援する制度です。



キャンパス・施設

四季を通じて大学のキャンパスは学生生活のメインステージ かけがえのない時を過ごす場所

お茶の水女子大学では、すべての学部生と大学院生が一つの敷地内で勉強しています。

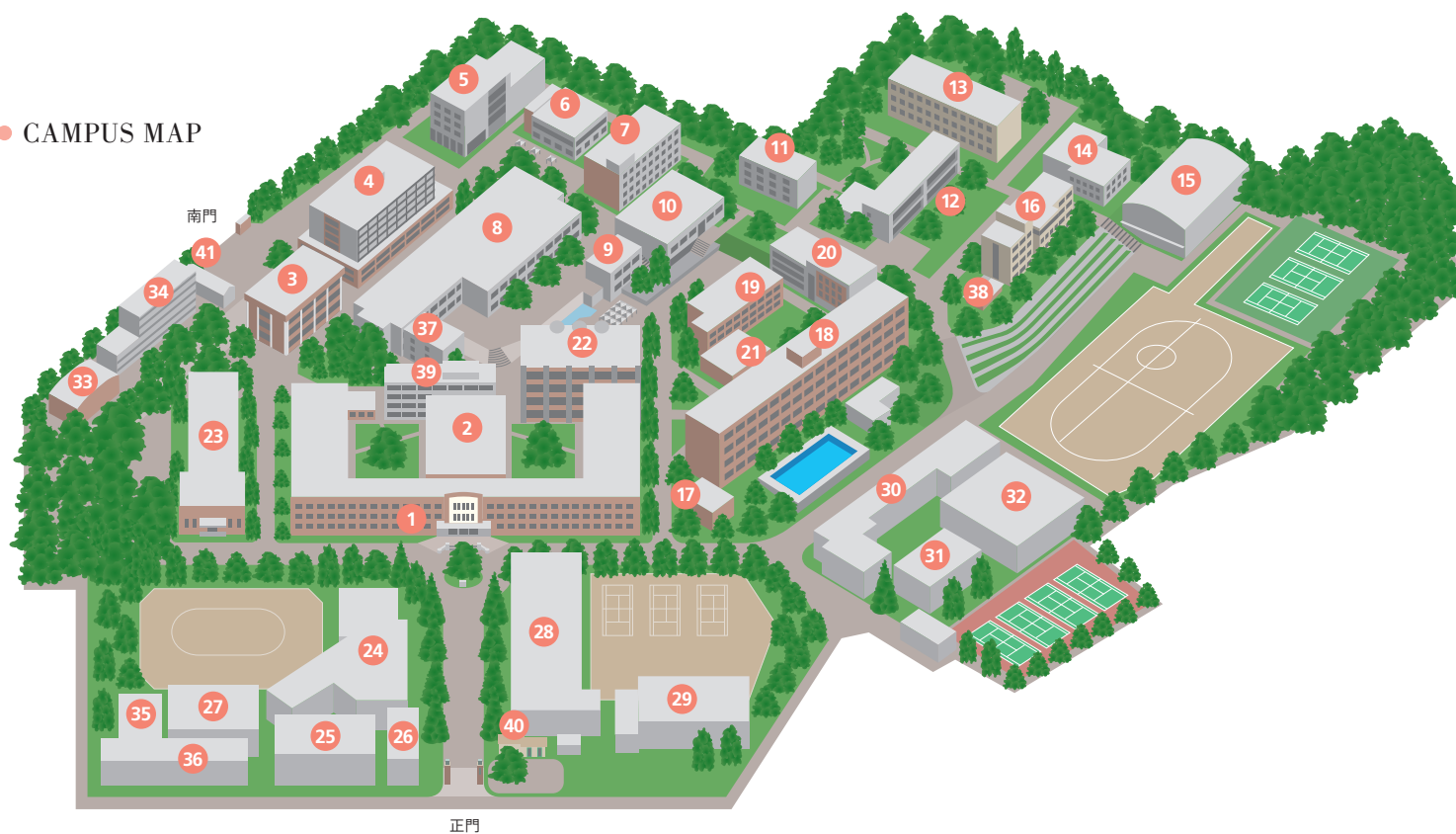
先輩や先生と話す機会もたくさんあり、日々心地よい刺激に包まれながら学生生活を送っています。

なかでも学生の活動拠点となるのが附属図書館です。毎日のように自習やグループワーク、仲間との活動に利用しています。

図書館前のパーゴラで昼休みにみんなでおしゃべり、授業の合間には学部棟の学生控室でほっと一息…。

いつも穏やかな活気に満ちているキャンパスは、いるだけで自然と前向きな気持ちと勇気がわいてくる、そんなステキな空間です。

CAMPUS MAP



施設一覧

- | | | | |
|-------------|------------------------|--------------|-------------------------|
| 1 大学本館 | 12 Student Commons | 22 総合研究棟 | 33 いずみナースリー |
| 2 大学講堂(微音堂) | 13 文教育学部2号館 | 23 附属幼稚園 | 34 大塚宿舎 |
| 3 学生センター棟 | 14 課外活動団体談話室 | 24 附属小学校第1校舎 | 35 作業会館 |
| 4 文教育学部1号館 | 15 大学体育館 | 25 附属小学校第2校舎 | 36 桜蔭会館 |
| 5 共通講義棟1号館 | 16 人間文化創成科学研究科・全学共用研究棟 | 26 附属小学校第3校舎 | 37 お茶大アカデミック・プロダクション研究棟 |
| 6 共通講義棟2号館 | 17 ラジオアイソトープ実験センター | 27 附属小学校体育館 | 38 茶室 芳香庵 |
| 7 共通講義棟3号館 | 18 理学部1号館 | 28 附属高等学校校舎 | 39 生活科学部本館2 |
| 8 附属図書館 | 19 理学部2号館 | 29 附属高等学校体育館 | 40 お茶大インフォメーション・プラザ |
| 9 保健管理センター | 20 理学部3号館 | 30 附属中学校第1校舎 | 41 文京区立お茶の水女子大学こども園 |
| 10 大学食堂 | 21 情報基盤センター | 31 附属中学校第2校舎 | |
| 11 課外活動共用施設 | | 32 附属中学校体育館 | |

その他の施設として館山野外教育施設があります。



大学本館

お茶大の象徴的な建物と言えばこれ。国の登録有形文化財で、煉瓦造りのファサード、窓や階段手すりの造作など随所に施された表現主義風のデザインは昭和初期のクラシカルモダンの趣です。館内には微音堂(大学講堂)と歴史資料館があるほか、生活科学部の教室としても利用されています。



共通講義棟

主に教養課程の基礎講義や語学など、全学部共通の授業が開講されるのが共通講義棟です。スピーキング・リスニングの自学自習室があるのもここ。授業の合間や放課後にはたくさんの学生がここにやってきて語学力にさらなる磨きをかけています。



充実のICT環境

有線・無線の認証ネットワークを随所に設置。キャンパス内のほとんどの場所から自分のノートパソコンや携帯端末からインターネットに安全にアクセスできます。入学時に配付されるお茶大アカウントで、学内の学生用コンピュータを自由に利用することもできます。短期・長期のパソコンの貸出しシステムもあります。



Ocha-Hall (オチャホール)

共通講義棟2号館にあるこの施設は、お茶大が育成を目指すグローバル女性リーダーに不可欠な資質を涵養することを目的として整備されました。講義用の空間としてだけでなく、国際交流活動をはじめ、あらゆる知的交流活動の拠点となる施設です。



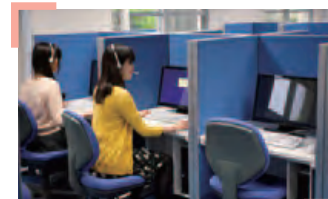
微音堂(大学講堂)

入学式や卒業式などの式典が執り行われる講堂です。微音祭(お茶大の大学祭)のメイン会場やシンポジウム、コンサート会場としても使われています。「微音」という語は、『詩経』大雅の思齊篇のなかの句「大猷嗣微音」に見られます。「微(美しい)音(声)」という名は、「美声」に「美德」をたえたことに由来します。



大学食堂

サラダバーやヘルシーな量り売りのお惣菜が充実した学食は学生たちの元気の源。お昼の時間帯は学生で賑わうガラス張りの明るい食堂です。定期的に学生サークル「Ochas」考案のメニューを提供し、価格の一部を国際貢献活動として寄付しています。



ランゲージ・スタディ・コモンズ

共通講義棟3号館にあるランゲージ・スタディ・コモンズは、外国語学習を支援する場です。ここでは、外国語学習相談室、外国語ワークスペース等に用意された「英作文自動添削システム、世界30ヶ国語を学習できるロゼッタストーン等、世界の52言語の学習教材」で目的に合わせて自由に学習することができます。



パーゴラ

お茶大のキャンパスの広場や中庭のベンチやテーブルは、学生たちの休息の場です。なかでも人気ののが附属図書館前のパーゴラです。授業の合間や放課後には、それぞれお気に入りの場所です。穏やかな天気の日には、日差しをささげるパーゴラの下でたくさんの学生が集います。

学生会館

STUDENT COMMONS



学生のニーズを踏まえた新しい建物です

この度学生会館老朽化のため新たに建て替え、安全・安心な課外活動空間として、2016年3月から新しい「Student Commons」として利用を開始しました。新しい学生会館「Student Commons」は、各部屋に学生が提案した室名表示板を掲げています。1階にはラウンジ、飲料の自販機コーナー、アトリエ、和室、微音祭実行委員会室などを配しています。2階にはピアノ演奏会やダンスの練習、ミニ講演会などができるマルチバーバス、音楽が楽しめる防音のスタジオを配しています。その他1階には車椅子利用者にも対応した「誰でもトイレ」が設けられています。また、館内には無線LANが整備され、インターネット環境も対応しています。

学生支援

STUDENT SUPPORT



勉強や就職、留学から心と体の健康まできめ細やかにサポート

学生生活を支援する設備が細部にわたって配慮されています。キャンパス内にある学生センター棟では専門のスタッフが、授業や学生生活、奨学金、留学、就職、資格取得など、キャンパスライフのさまざまな学生の悩みや相談に応えます。どこに行けばよいかわからない場合は、あらゆる相談に応じる「なんでも相談窓口」で皆さんの問い合わせ内容に応じて情報をお知らせします。また人間文化創成科学研究科・全学共用研究棟2階には専門のカウンセラーがいる学生相談室が、食堂横には心身の健康をサポートする保健管理センターがあり、学生生活をサポートしています。

お茶大グッズ ORIGINAL OCHADAI GOODS



お茶大生必携!

お茶大にはトートバッグやマグカップをはじめ、オシャレで機能的なデザインが大人気のオリジナルグッズが多数ラインナップされています。2013年には学生のプロデュースによるバッグハンガーやランチボックスなどが登場、新聞でも取り上げられ、大きな話題となりました。構内の生協売店⑩で販売しています。

附属図書館

OCHANOMIZU UNIVERSITY LIBRARY

時空を超え、知を探求する旅へ
学びの拠点、附属図書館



増築部分外観イメージ図

附属図書館では一般教養書から学術専門資料まで約71万冊の図書や1万1千タイトルの電子ジャーナル、語学学習用の教材や視聴覚資料、ジェンダー研究や幼児教育など本学特有の貴重な資料群を提供しています。

また、全国に先駆けて、ラーニング・commonsやキャリアカフェといったアクティブラーニングスペースを提供してきましたが、利用数の増大に伴う席数不足などを解消するため、増築・改修を行うことになりました。

2017年度の増築・改修工事を経て、2018年の春には、さらに魅力的な空間としてリニューアルオープンする予定です。新しい図書館に、ご期待ください。



増築部分内部イメージ図

1階は、commonsスペースとして、オープンでグローバルな環境下でのコミュニケーションを伴う学びの場とします。学生アンケートで要望の多いくつろぎ感のある場や、グループ学習室も設けます。2階は、ラーニングスペースとして、学生アンケートで要望の多い集中して学ぶ個席を増設します。1階と2階は吹き抜け階段でつながります。

アクティブラーニングの場として、一人一人の目的に合ったお気に入りの場所を見つけてください。

ANNUAL CAMPUS CALENDAR

4月

April

- 新入生オリエンテーション
- 入学式
- 1学期・前学期授業開始
- 大学院オープンキャンパス



6月

June

- 2学期授業開始
- 第3年次編入学試験（理学部、生活科学部）



8月

August

- 夏期休業（8月上旬～9月末）
- 博士前期課程8月入試
- 生活工学共同専攻入試



10月

October

- 10月入学式
- 3学期・後学期授業開始
- 第3年次編入学試験（文教育学部、生活科学部）
- AO入試（新フンボルト入試）

12月

December

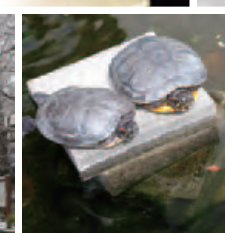
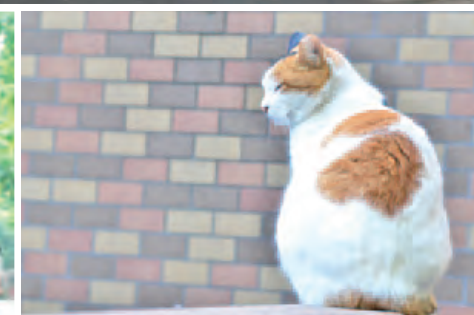
- 4学期授業開始
- 生活工学共同専攻入試
- 冬期休業（12月末～1月上旬）



2月

February

- 博士前期課程2月入試
- 一般入試（前期）



5月

May

- ホームカミングデイ（隔年開催）
- 開学記念日



7月

July

- 学部オープンキャンパス

9月

September

- 博士前期課程9月入試
- 博士後期課程9月入試
- AO入試（新フンボルト入試）プレゼミナール
- 9月卒業式



11月

November

- 微音祭
- 創立記念日
- 推薦入試・帰国子女等入試

1月

January

3月

March

- 博士後期課程3月入試
- 一般入試（後期）
- 卒業式

課外活動

経験すること、出会うこと
チャレンジの一つひとつが夢を実現へ近づける糧となる

興味があったら、とにかく飛び込んでみる！それが大学生活をより楽しく、有意義に過ごすポイントです。

そのひとつのきっかけを与えてくれるのが授業外の活動です。

たとえばお茶大名物の大学祭「微音祭」やシンポジウムの企画などで
一から物事をつくりあげる、ボランティア活動や学内インターンシップで初めての世界に触れる、
……お茶大にはそういうチャンスが日常のなかに数多くあります。
ここには仲間も、支えてくれる先生やスタッフの方々もいます。
積極的にトライして、新しい発見や出会いをたくさん掴んでほしいと思います。

● 主な課外活動

春は新入生歓迎会、秋は微音祭

大学生活を何倍も面白くする学生がつくるイベントとその活動



学生自治会

学生生活の向上を目的として組織されている学生自治会は、学生のための情報発信やサークル団体活動の補助を行っています。特に新入生向けにはクラスオリエンテーションやサークルオリエンテーションの企画・運営、学校紹介パンフレット「春が来た」の発行を行うなど、学生と大学を結ぶパイプ的な役割を果たしています。



お茶大の大学祭「微音祭」

2017年で68回を迎える伝統の学園祭です。毎年11月の土日に開催されています。いくつもの部局にわかれて企画を立ち上げ、1年かけて準備し、開催します。企画も運営も学生主体で行われ、トークショー、お笑い・アーティストのライブ、キャンパスツアーや縁日など、趣向を凝らした企画が目白押しです。受験生向けの相談会も行われ、在学生やOGなどの大学関係者だけでなく、他大学の学生や近隣の方々、お茶大に興味をもつ高校生など、キャンパスには多くの人が訪れます。1年の中でいちばんキャンパスが華やかに盛り上がる、にぎやかで楽しい特別な2日間です。



在学生とOGの懇親会

お茶大では卒業生から話を伺う機会や、交流会が頻繁に設けられています。毎年開催されるOGとの懇親会では、社会で活躍する卒業生が多数参加。軽食を傍らに、世代を超えてたくさんの会話の花が咲きました。



学生自主企画プロジェクト

本学学生がグループ活動（講演会、ワークショップ等）を主催、運営することを通じて、個々のリーダーシップを伸ばしていくことを目的としたリーダーシップ養成教育の取組の一つです。学部・学科・学年を超えた学生間のコミュニティの形成やキャンパスの活性化に寄与する個性ある企画を広く募集します。2016年度は「はんだラボ～UVレジンを使ってアクセサリーを作ろう～」と「海外で伝えたい日本の魅力を考える～外国人の知りたい日本とは？～」が採択、実施されました。

● ボランティア活動

誰かのため、何かのため できることから始めたい
学んだスキルで社会貢献



文京区のシビックコンサートに出演

シビックセンター区民ひろばでは毎月、東日本大震災の被災地への義援金などを募る定例コンサートが開催されています。2015年の春に開催された「ピアノ・ソロコンサート」では文教育学部芸術・表現行動学科音楽表現コースの学生が参加、ピアノ演奏を披露、会場を大いに沸かせました。



被災地で「夏の学校」「冬の学校」を開講

岩手県教育委員会など東日本大震災で被災した県や市町村の教育委員会と、震災復興に向けた多様な取り組みに関して相互に協力し合い、児童生徒の育成や地域社会の復興・発展に寄与するための包括的連携協定を締結し、地震と津波で破壊された被災地（岩手県沿岸部）の小・中学校に理科教材を送るとともに理科出前授業や理科教員研修を継続的に実施しています。また、気仙沼市教育委員会とも連携協定を結び、現地の復興支援ニーズと照らし合わせ、中長期的な展望のもと息の長い計画的な復興支援プロジェクトの策定や実際の支援活動に取り組んでいます。

● インターンシップ体験

授業の合間に学内でインターンシップ体験



MuSA

Museum Student Assistant

歴史資料館のアシスタントを通じて、資料の保存・管理、展示案内など、学芸員業務の一端に触れることができます。歴史資料館は、2015年に開学140年を迎えたお茶大の歴史に関わる、さまざまな史資料を所蔵しています。



LiSA

Library Student Assistant

図書館業務のアシスタントを通じてキャリア体験を積むプログラムです。書架整理やラベル貼りなど軽微な作業から、図書館ツアーのガイドや他機関との連携展示などの自主企画にも活発に取り組んでいます。



LALA

Library Academic Learning Adviser

学内インターンシップのほか、図書館ラーニング・コモンズで、大学院生が後輩たちに情報探索、レポートの書き方等をアドバイスするピアサポートのプログラムがあります。自らのアカデミックスキルズも向上します。

サークル活動

授業が終わったら、サークルで仲間とともに
いつも楽しく、時に真剣に、好きなことを追いかけて

学生生活の楽しみの一つがサークル活動です。

専攻や学年を超えて、同じことに興味を抱く人たちが集まるサークルは、たくさんの仲間に出会える格好のステージ。
スポーツ系から文芸、ダンス、音楽、レクリエーションまで、現在、文化系 30、体育系 17 の公認団体が活動しています。

サークル一覧



01. 弓道部: 温かい雰囲気の中、構内の弓道場で週に2回練習をしています。

02. 陸上競技部: 走りの好きな仲間同士、縦横無尽に街や校庭を駆け回っています。

03. 空手部: 週二回、体育館で型と組手を練習しています。護身術も学べます！

04. 華道部: お花が好きな人、資格が欲しい人はぜひ体験に来てください！

05. バスケットボール部: 夏の大会での上位リーグ昇格を目指して日々練習に励んでいます。

06. フィギュアスケート部: スケート部は、ほぼ全員が大学から始めました！練習は週2回です。

25. 経済研究会: 勉強会や講演会などを通じて、数式を用いずに経済を学んでいます！

26. 山岳愛好会雷鳥: 大学の垣根を越えて皆で山の魅力を堪能しています。

27. 緑会合唱団: オケ付き演奏やボイトレなど楽しく活動しているインカレ混声合唱団です。

28. 青い花: 部誌発行(年4回)にむけ創作活動を行います。微音祭や文芸フリマにも参加！

29. SF研究会: 文芸サークルです。SFやミステリ好きな人は覗きにきてください。

30. お茶の水管弦楽団(オーケストラ): 週2で練習し、年に2回の定期演奏会に加え、セクション毎の演奏会も開きます！

07. 硬式庭球部: 時には楽しく時には本気で、みんなテニスに打ち込んでいます！

08. オレンジマニア: 軽音サークルです！ジャンルはなんでもOK、自分のペースで好きだけ活動することができます。

09. TECKTECK: 山登りやレクなど、週末に愉快的仲間たちと楽しくテクテクしています！

10. ピアノ班: ピアノの演奏と一緒にしたり聴きあったりします。他楽器との協奏もOK♪

11. Ochas: 「食べる幸せを広げる」を目標に、食育授業や商品・レシピ開発をしています。

12. E・S・S: 気軽に楽しく英語でディスカッション・スピーチ・ガイドをします！

31. 考古学研究会: 考古学に限らず、歴史・文化について楽しく学んでいます！

32. 児童文化研究会 いのみ: 子どもと遊んだり読み聞かせをするサークルです！

33. 合気道部: 通常稽古や師範稽古、他大学との合同稽古を通じて技や合気の精神を身につける部活です！

34. 狂言研究会: 週一回、狂言・狂言小舞の稽古をしています。初心者大歓迎です！

35. サイクリング部: 自転車に乗って国内外、アウトドアな旅を満喫します。

36. 箏曲部: 週1回プロの演奏家の先生をお招きして、楽しく演奏しています。

13. 氷川下こども会: 毎週土曜日にこども達と遊んでいます。おでかけや季節のイベントもあります！

14. バドミントン部: 部員一人一人が、先輩やコーチの指導を受け日々成長しています！

15. 裏千家茶道部: 少人数でのんびりと季節ごとのお茶を楽しんでいます。

16. 表千家茶道部: 初心者経験者問わず、茶室「芳香庵」で楽しく活動しています！

17. ジャズダンスサークルflow: たくさんの仲間と一緒に、楽しく踊っています！

18. 美術部: 絵画班はそれぞれが自由に、陶芸班は先生のもとで制作をしています。

37. 白ばら会合唱団: 70年以上続く伝統ある混声合唱団です。週2回楽しく練習しています♪

38. 百人一首同好会: 楽しく、熱く、競技かるたの練習に励んでいます。

39. 民族舞踊研究会: ヨーロッパを中心に世界各地の様々な踊りを楽しんでいます。

40. LBJ スキーチーム: 初心者からベテランまで幅広いレベルの人が在籍してスキーを楽しんでいます♪

41. 劇舎プリズム: 年3回演劇公演を行います。舞台も脚本もいちから作ります。

42. 囲碁部: 先生のご指導を受けながら、各々のペースで棋力向上に努めています。

19. 写真部: 外へ出かけ自由に写真を撮るを楽しむ、和やかな雰囲気の部活です。

20. 能楽研究会: 謡と舞・小鼓・笛から好きなものを習えます。レッツすり足！

21. 剣道部: 大学から始めた人も、十年來の経験者もみんなで仲良く稽古しています！

22. バレーボール部: 練習はきちんと、普段は学年を超えて仲が良いメリハリある部活です。

23. 日本舞踊研究班: 週1回の活動で、仲良く、楽しくお稽古しています。初心者大歓迎！

24. ギター部: クラシックギターを楽しく演奏しています。独奏の他、重奏・合奏もします。

43. 英語ディベート部: 活動は週2回、試合や研究・大会を通して楽しくディベートしています！

44. ミュージカルカンパニー MMG: 主に宝塚の作品を上演する、女子大生のミュージカルサークルです。

45. TEA: 10カ国を超える留学生と楽しく国際交流したい方、お待ちしております！

46. 国際インターンシップサポートサークルIAESTE: 海外から来る研修生をサポートしたり一緒に遊んだりします。

47. 書道部: 和やかな雰囲気の中で、一人一人が自分のペースで作品を制作しています。

その他の公認団体
・漫画研究会
・モダンダンス部

お茶大生の日

● 文教育学部生の日

CASE
一人暮らし

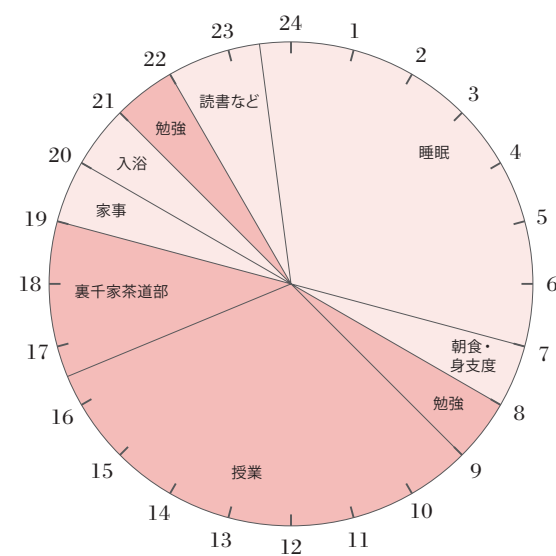
木村 香子 さん

言語文化学科 3年
日本語・日本文学主プログラム

一人暮らしで自己管理ができるように！

私は今、お茶大の近くで一人暮らしをしています。最初の頃は、家事から生活費の管理まで、全て自分でしなければならないことに戸惑いました。そして、私が想像以上に家族に支えられていたことに気づき、改めて感謝しました。そんな戸惑いから始まった私の一人暮らしでしたが、優しい友人や親身になってくださる先生方に出会い、今は毎日楽しく過ごしています。一人暮らしをしていると、全ての時間が自由に使える一方で、全ての決定に自分で責任を持たなければなりません。大変ではありますが、学生の間に自分で時間をコントロールする習慣を身につけられることはたいへん有意義だと思います。皆さんの入学を桜咲く素敵なお茶大で待っています。

木村香子さんの一日のスケジュール



時間割例 日本語・日本文学主プログラム+日本語・日本文学強化プログラム+教職課程 2年次後期

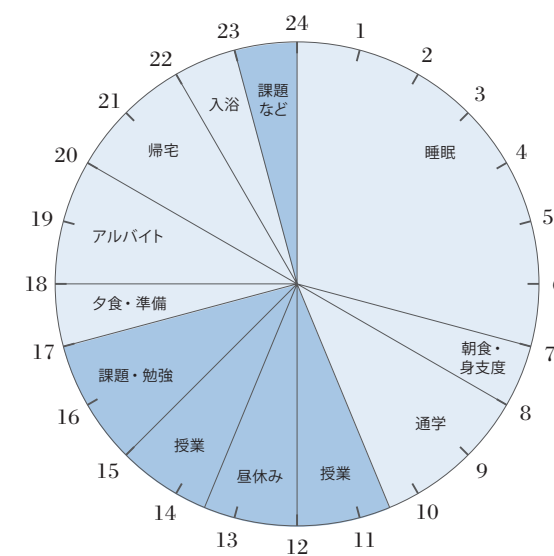
	1・2時限	3・4時限	5・6時限	7・8時限	9・10時限
月	教育課程論	学校カウンセ リング	書道Ⅱ		
火	日本語 語彙論	中級英語Ⅰ		ヨーロッパ 言語文化論	
水		生徒指導の 研究		基礎 フランス語 会話Ⅰ	
木	日本語文法 総論		日本古典 文学史論 (中世)	日本古典 文学論基礎 演習Ⅰ	
金	日本古典 文学論特殊 研究(中古)	日本文学論 講読Ⅰ		日本語史 特殊研究	
土					

PICK-UP

和の心を学ぶ穏やかな
時間・裏千家茶道部

私は大学に入って初めて茶道を始めました。茶道は、ただお茶の点て方を学ぶだけでなく、他の日本の文化も知ることができます。私は茶道を始めたことで和室での振る舞いに自信を持てるようになりました。お茶大の裏千家茶道部には「芳香庵」という茶室があります。茶室を持っている大学はなかなかありません。素敵な茶室でお茶を学んでみませんか？

村田茉莉さんの一日のスケジュール



時間割例 化学主プログラム+化学強化プログラム 2年次後期

	1・2時限	3・4時限	5・6時限	7・8時限	9・10時限
月	物理化学Ⅲ	生化学Ⅱ	基本 化学実験Ⅲ	基本 化学実験Ⅲ	
火	Advanced Communication TrainingⅣ	化学英語	基本 化学実験Ⅳ	基本 化学実験Ⅳ	
水		有機化学Ⅱ			
木			邦楽概論D*		
金		教育心理	無機化学Ⅱ		
土		生物学概論B			

※東京藝術大学との単位互換制度を利用して木曜5・6限に邦楽概論Dを受講していました。

PICK-UP

指揮を通じて知った
音楽の楽しさ

高校生の頃から吹奏楽の指揮をしています。指揮を振るのは難しいですが魔法使いの気分になって楽しいです。また、効率の良い合奏をするのは集中力が必要ですが成功したときの喜びは大きいです。演奏中に奏者とアイコンタクトを取ることで共有できる楽しい時間や、スコアを読み曲の背景や楽器間の繋がりを考える楽しさは指揮を通じて知った音楽の魅力です！

● 理学部生の日

CASE
実家暮らし

村田 茉莉 さん

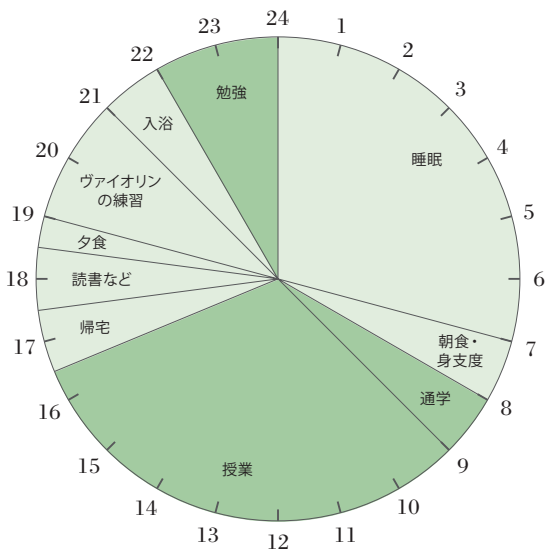
化学科 3年
化学主プログラム

実家暮らしが不安な方へ

私は実家から片道2時間程かけ通学しています。毎日電車で長時間乗ることは楽ではありませんが、時間を有効活用しています。英語の授業で課されたエッセイの簡単な構成を考えてメモしたり、化学で覚えるべき事柄を整理したり、満員電車でない限りはボーっとしないように心がけています。また、終電や終バスを気にする必要があることは辛いですが周囲の理解もあり苦勞せずにすんでいます。実家暮らしの一番のメリットは、帰宅した時に家族がいることです。大学のコミュニティ以外で会話する人がいることは大切であるし、それ以前に寂しくならず良いですね(笑)お茶大に実家から通う人は私以外にも沢山います。安心して受験勉強に専念して下さい。



川端美央さんの一日のスケジュール



● 生活科学部生の一

CASE

学生寮暮らし

川端 美央 さん

人間・環境科学科 2年
人間・環境科学主プログラム

自治寮ならではの快適さ

大山寮は、設備自体は古いし、まだまだ問題点も多いのですが、住みやすい寮だと思います。脱衣所と浴槽を備えた個室形式の大浴場があること、共用部分の掃除を業者さんに依頼していること、毎日ゴミが出せることなどは、特に便利に感じている点です。また、交流の場としても機能しており、共同キッチンで友達と料理をしたり、エントランスに集まって会話を楽しんだりする姿をよく見かけます。最近では自治会執行委員の人たちが、映画鑑賞会を開いたりマンガ部屋を作る企画をしたりと、さらに活気づいています。全体的に他の寮生との適度な距離感が保たれたこの寮は居心地がいいので、一人暮らしをするよりもオススメです！

時間割例 人間・環境科学主プログラム 1年次後期

	1・2時限	3・4時限	5・6時限	7・8時限	9・10時限
月		数学物理演習Ⅱ			
火	フランス語		スポーツ健康実習		
水	LA生物人類学	建築一般構造			
木	英語				
金	フランス語		デザイン工学演習		設計製図基礎
土					

PICK-UP

本格的に音楽に取り組めるサークル

私はお茶の水管弦楽団に所属し、ヴァイオリンを弾いています。このオーケストラには演奏技術・曲の理解等に優れた人が多く、とても良い環境で音楽が楽しめます。今年、東京医科歯科大学の卒業式・入学式でヴィヴァルディの春を演奏させていただきました。式典演奏を成功させようという共通の目標で団結したこのアンサンブルは、貴重な経験となりました。

CHECK MORE!

授業や自習など大学での学修を中心に、興味や目的に沿った活動を盛りこんで充実した学生生活を

お茶大生の1週間は、大学での講義を中心にしっかり学び、学びの時間以外は課外活動、アルバイト、ボランティアなど、その人ならではの時間を過ごしています。大学生活で鍛えられたタイムマネジメントのスキルは、卒業後の社会生活でも大きな支えとなってくれる大切なものです。

お茶大では、1年生から少人数のゼミ(演習)や実習・実験など高い専門性を有した学修の機会が提供されています。

授業の空き時間は、図書館のラーニング・コモンズを利用して講義の予習やレポート作成をしたり、友人とおしゃべりをする時間を楽しんだり、上手にタイムマネジメントを行いながら、主体的な学生生活を送っています。

3年生になると、より専門性の高いカリキュラムを学びつつ、卒業論文や特別研究に向けてそれぞれが目指す専門分野を絞り込みます。

4年生は自ら考え完成させる卒業論文や特別研究に多くの時間を費やします。

学科や学年によって授業内容や時間割の組み方にはそれぞれ特徴がありますので、詳細は各学科・プログラム紹介を参照してください。

● 学生寮の生活

お茶の水女子大学には留学生と日本人学部生対象の「国際学生宿舎」と日本人大学院生対象の「小石川寮」、そして学部1～2年生が対象の「お茶大SCC」の3つの学生寮があります。

寮には管理人が常駐し、夜間警備員を配置するなど、セキュリティ面にも細心の注意を払っています。

また、一人暮らしの不安を払拭するためのサポート体制も整っています。

詳細はホームページをご覧ください <http://www.ocha.ac.jp/campuslife/lodgings/index.html>



5人で1つの小さなコミュニティ<お茶大SCC>

お茶大SCCは人と人とのつながりを大切にする学生寮です。5人1組で「ハウス」を構成して暮らすルームシェア型で、プライバシーを守った個室を確保しつつ、キッチンや浴室、リビング等は共同で使します。寮生は全員が「寮生協議委員会」に所属し、学部3年生「レジデント・アシスタント」のサポートを受けながら、自分たちの手で寮生活を円滑にするための体制を整えています。また、「学修プログラム」では、お茶大の教授による講演後にハウスごとに学修を深め、発表会を行います。また寮祭、歓迎・送迎パーティなどハウスを超えた交流があります。SCCの活動に積極的に参加し、他者との関係の中で一人ひとりが主体性をもって寮生活を送ることを期待します。



暮らしながら異文化交流を実現する<国際学生宿舎>

日本人学生と外国人留学生が共に生活するのが国際学生宿舎(通称:大山寮)です。日々、異文化交流を体験しながら生活するなかで、グローバルな視点を自然に育むことができます。プライバシーを確保できる個室スタイルで、皆で集える玄関ホールや多目的ホールがあり、各階ごとにキッチン(共用)が設置され、寮生同士でコミュニケーションしやすい環境が整っています。また、5月と11月には寮生大会が開催され、学部を超えてコミュニケーションの輪が広がります。寮自治会を中心に、フロアミーティングなどで皆で意見を出し合いながらより快適で自律的な寮生活を営んでいます。近隣には庶民的な商店街として知られる大山ハッピーロードがあり、東京のターミナル駅・池袋にも近く、ショッピングやアルバイトにも便利な立地です。

	お茶大SCC	国際学生宿舎	小石川寮
所在地	東京都文京区	東京都板橋区	東京都文京区
大学までの所要時間	徒歩3分	電車・徒歩で約40分	徒歩3分
建物・居室概要	鉄筋コンクリート造・個室(シェアハウス)	鉄筋コンクリート造・個室	鉄筋コンクリート造・個室
収容定員	50名	399名	77名
対象学生	学部1～2年生	日本人:学部1～4年生 留学生:学部生、大学院生	日本人大学院生
寄宿料(月額)	30,000円	4,700円	4,300円

※全寮、事務員または警備員による24時間有人管理です。

入試関連情報

※入試関連情報については、変更の可能性もあるため、該当する年度の募集要項を取り寄せて必ず確認してください。
※生活科学部心理学科の新設及びこれに伴う生活科学部人間生活学科の定員は予定を掲載しております。変更となることがあります。
大学ホームページや募集要項で必ず確認してください。

http://www.ao.ocha.ac.jp



114	入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)	125	検定料
115	2018年度 入学試験一覧		
116	2018年度 入学者選抜日程	126	2017年度 入学試験実施状況
		126	一般入試
117	一般入試(前期日程、後期日程)	126	特別入試
117	大学入試センター試験	127	一般入試の合格者数・最高点・最低点・平均点
119	個別学力検査	127	志願者・合格者の出身高校所在分布
120	試験教科・科目別配点		
121	実技検査／合格発表	128	学生募集要項(願書付き)・大学案内等の請求
		128	配布時期
122	特別入試	128	資料請求
122	推薦入試	128	ホームページ
123	AO入試(新フンボルト入試)		
124	帰国子女・外国学校出身者特別入試	129	アクセス
124	私費外国人留学生(学部留学生)特別入試		
125	第3年次編入学試験		

奨学金制度

● 本学独自の奨学金一覧

	基金の名称	授与対象者	奨学金の額	授与枠
学部生	みがかずば奨学金 (予約型奨学金)	①日本の高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者 ②当該年度の4月に本学学部1年生に入学する予定の者で、本学に強く入学を志望する者 ③成績、人物とも優秀で、大学進学において経済的支援が必要と認められる者(①～③のすべてを満たす者)	1年目 300,000円 2年目 300,000円	25名
	学部長成績優秀者奨学金	学部1・2年次から引き続き在学する本学学部3年生(中途に休学期間がない者に限る。)のうち、1・2年次の成績、人物が特に優秀と認められた者	100,000円	25名
	桜蔭会奨学金	各学部より推薦された学部3年生	200,000円	4名
	新寮レジデント・アシスタント奨学金 (SCC-RA奨学金)	新寮レジデント・アシスタント(SCC-RA) ※活動期間1年 学部1年次から2年間新寮(お茶大SCC)に在寮した学部3年生で、新寮の運営に積極的に協力する者	月額 20,000円	4名
	桜蔭会研究奨励賞 (予約型奨学金)	本学学部を卒業し、引き続き本学大学院博士前期課程に進学する者(学内進学者)で、学業、人物ともに優れた者	200,000円	20名
	博士後期課程研究奨励賞 (予約型奨学金)	本学大学院博士前期課程を修了し、引き続き本学大学院博士後期課程に進学する者(学内進学者)で、学業、人物ともに優れた者	300,000円	10名
	錦織チサエ奨学金 (予約型奨学金)	本学大学院博士前期課程を修了し、引き続き本学大学院博士後期課程に進学する者(学内進学者)で、学業、人物ともに優れた者	500,000円	2名
	高田弘子奨学金 (予約型奨学金)	本学大学院博士前期課程又は博士後期課程に在学する者で、帰国後も研究を継続する意思をもって海外研究留学を行う予定の者	500,000円	前期1名・後期1名
	お茶の水女子大学120周年記念 桜蔭会国際交流奨励賞	海外留学支援事業 本学大学院博士後期課程修了者又は在学生で、成績優秀かつ将来が嘱望される者のうち海外研修を希望する者	2,000,000円を限度	1～2名
		アジア女性研究者 本学学生として留学後、アジアの各地域において研究者又は各界の指導者として活躍し来日研修を希望する者		若干名
大学院生	海外留学特別奨学金	①大学間交流協定に基づく交換留学派遣学生等として留学(1年を限度)し、留学先の大学に留学期間中の授業料を納付する者 ②留学期間中、本学の授業料免除の全額免除を受けていない者(①～②のすべてを満たす者)	本学の授業料の年額又は年額の2分の1に相当する額が上限	若干名
	海外留学支援奨学金	本学学生の短期留学(short visit) ①学部生及び大学院生(ただし、留学期間に休学する者を除く。) ②外国の大学、短期大学又は大学院に留学する者 ③グローバル教育センターが募集する短期留学(サマープログラム等)に申請した者 海外の大学間交流協定校からの短期留学(short stay) ①海外の大学間交流協定校に在学し、所属校から推薦された者 ②特に成績優秀な者	50,000円	120名
	富永ふみ教育基金	本学正規課程の私費外国人留学生で発展途上国の国籍を有し、成績、人物ともに優秀であり、経済的支援を必要とする者	300,000円	1名
	アバナード奨学金	①日本の高等学校又は中等教育学校を卒業見込みの者で、引き続き本学理学部各学科、生活科学部食物栄養学科若しくは人間・環境科学科に強く入学を志望する者又は本学学部を3月に卒業見込みの者で、引き続き本学大学院博士前期課程ライフサイエンス専攻、理学専攻若しくは生活工学共同専攻に強く進学を志望する者 ②成績、人物とも優秀で、大学又は大学院において修学上経済的支援が必要と認められる者(①～②のすべてを満たす日本国籍を有する者)	学部生 1,000,000円 大学院生 500,000円	学部3名・前期2名
学科・専攻等	育児支援奨学金	本学の正規学生で本学が設置する保育所を利用する者	原則、保育料の半額	制限なし
	保井・黒田奨学基金	自然科学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	30,000円	5名
	被服学奨学基金	被服学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	100,000円	制限なし
	食物学奨学基金	食物学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	100,000円	若干名
	家庭経営学奨学基金	家庭経営学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	100,000円	1～2名
	大学院研究科奨学基金	本学大学院博士後期課程において研究に従事し、その成績顕著な者	100,000円	2名
	池田摩耶子記念奨学基金	1.本学大学院において国際的な研究に従事し、成績顕著な者	100,000円	若干名
	池田重記念奨学基金	2.学部、大学院に私費で在学する外国人留学生で成績顕著な者	100,000円	
	湯浅年子記念特別研究員奨学基金	本学出身者、在学する者又は附属高等学校出身者で、自然科学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	250,000円	1名
	数学奨学基金	本学出身者又は本学大学院博士前期課程及び学部に進学する者で、数学の成績顕著な者	100,000円	1名
	生物学優秀学生賞奨学基金	本学理学部生物学科4年生に在学する者で、生物学の成績顕著な者	20,000円	1名
	グローバル文化学環奨学基金	本学文教育学部グローバル文化学環に卒業研究を提出した者で、研究の評価が顕著な者	20,000円	1～2名
	化学科(宮島直美)奨学基金	本学理学部化学科4年生、大学院博士前期課程理学専攻化学・生物化学コース1年生及び大学院博士後期課程理学専攻化学・生物化学領域に進学する者で、成績等顕著な者	100,000円	理2名・前期2名・後期1名
	生物学科(小沼英子)奨学基金	本学理学部生物学科に進学する者で、奨学金を授与することで学部における修学及び研究生活が支援される者	500,000円を限度	1名
	竹村和子海外研修奨学基金	本学大学院に進学する者で、成績顕著な者	1年目 2,000,000円 2年目 1,000,000円	1名
	竹村和子奨学基金	本学大学院博士前期課程に進学する者で、成績顕著な者	50,000円	1名
	菅聡子奨学基金	本学大学院博士後期課程において日本語日本文学関係の研究に従事し、その成績顕著な者	250,000円	1～2名
	矢部吉祐・矢部愛子奨学基金	本学学部または大学院に進学する者で、植物学または数学を学ぶ者のうち、学業や研究能力に優れ、本奨学金による経済的支援を必要とする者	500,000円	植物3名・数学3名
	自然地理学奨学基金	本学文教育学部人文科学科地理学コース及び大学院に進学する者で、自然地理学関係の研究に従事し、優れた研究が見込める者	国内調査10,000円又は海外調査30,000円	3名

● 日本学生支援機構奨学金

学業成績が優秀で経済的理由により学資支弁の困難な学生が対象となります。応募者に対し、学内で選考を行い、適格者を日本学生支援機構に推薦し、同機構が採択者を決定します。

種別	貸与金額	備考
第一種奨学金 (無利子)	自宅通学	本人が貸与月額を選択できます。
	自宅外通学	
第二種奨学金 (有利子)	自宅、自宅外通学者共通	

● 入学科・授業料

入学科 282,000円(予定額)
授業料・前期分 267,900円(年額 535,800円)(予定額)
入学時及び在学中に授業料の改訂が行われた場合は、改訂時から新授業料が適用されます。

● 入学科及び授業料の免除・徴収猶予制度について

入学科	特別な事情により納付が著しく困難である者等に対し、選考の上、全額または半額を免除、あるいは徴収を猶予する制度です。
授業料	経済的理由により、納付が著しく困難であり、かつ学業成績優秀と認められる者に対し、半期ごとに選考の上、全額または半額を免除、あるいは徴収を猶予する制度です。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

〈お茶の水女子大学のアドミッション・ポリシー〉

お茶の水女子大学は、学ぶ意欲のあるすべての女性の真摯な夢の実現の場であることを使命とし、幅広い教養と高度な専門性と実践力を身につけた女性リーダーの育成を目指しています。そのため不断に教育改革を進め、21世紀型文理融合リベラルアーツ教育の導入（平成20年度）に引き続き、平成23年度に複数プログラム選択履修制度を導入して新たな専門教育課程をスタートさせました。複数プログラム選択履修制度では、将来のキャリア展望や関心に応じて、専門教育プログラムを履修します。第1のプログラムとして、所属する学科の開設する「主プログラム」を履修します（必修）。次に第2のプログラムとして、専門領域に深く特化する「強化プログラム」、他の専門領域を横断して学ぶ「副プログラム」、領域融合型・学際型の「学際プログラム」のいずれかを選択し履修します（選択必修）。また文教育学部人間社会学科、芸術・表現行動学科および生活科学部食物栄養学科では、それぞれの教育目標にそった4年一貫の「専修プログラム」を設けています。入学後は、主プログラム（または専修プログラム）を開設する学科またはコース・環・講座に所属し、各自の目的や関心にそって、主体的に学修します。

お茶の水女子大学では、すべての女性が年齢・国籍などにかかわらず自立した女性として、生涯にわたって多様に活躍できるキャリア形成の場を提供しています。知的好奇心と探究心を抱き、勉学意欲に富んだ学生の入学を期待しています。

〈学部のアドミッション・ポリシー〉

文教育学部

人間は、過去から現在に至るまで地球上のさまざまな地域で、言語をはじめとする文化や科学技術を創造し、政治、経済、教育などの諸社会組織を発展させてきました。人間と文化と社会を理解するためには、時間軸と空間軸の上に現代社会を位置づけ、マクロからミクロに至る多次的なアプローチが必要です。

文教育学部は、人間と文化と社会に迫る、人文・社会系の総合的な学部です。人文科学科、言語文化学科、人間社会学科、芸術・表現行動学科の4つの学科からなり、人文科学科、言語文化学科、人間社会学科には複数の専門教育プログラム（主・強化・副・学際）が置かれ、また3つの学科が共同で設置するグローバル文化学プログラム（主・学際）が設けられています。また、4年一貫の専門教育プログラムとして、人間社会学科に総合人間発達科学専修プログラム、芸術・表現行動学科には舞踊教育学専修プログラムと音楽表現専修プログラムが設けられています。このような多彩なプログラムと少人数教育によって、専門的に深く、総合的に広く学ぶためのカリキュラムを用意しています。

高校での学習は、その後の人生を「よく生きる」ためのものです。本学部志望者には、高校において文科系の科目はもちろん理数系の科目まで幅広く、同時にどんな欲に深く学習することを望みます。

多様な領域でのリーダーを目指し、意欲と能力と個性に富んだ皆さんが志望されることを期待します。

理学部

理学部は、基礎科学の分野を研究対象として、主に自然界の原理や法則の追究を行うところです。

本理学部は、数学、物理学、化学、生物学、情報科学の5学科からなり、少人数ゆえのきめ細かな指導により、高水準の教育・研究を行っており、数少ない女子大学の理学部として多くの有為な人材を養成してきました。最近はこちらに大学院に進む者も多く平均進学率は6割を超えています。

このような教育・研究の場に知的好奇心溢れる女性を受け入れ、次世代のリーダーあるいは中核となる人材を育成し、社会に輩出することを目指しています。

本学部志望者には、高校において、理系科目（数学、理科〔物理、化学、生物〕）を学び、論理的思考力を身につけるようにすること、及び、自然科学の基礎知識を習得しておくことはもちろんのこと、文系科目（国語、社会、英語）も幅広く履修し、筋道の立った文章が書けることなどが望まれます。

「推薦入試」、「帰国子女・外国学校出身者特別入試」においては、志望学科に関係する各種コンテストなどで活躍した実績も評価します。

生活科学部

生活科学部は、人間生活における人間と環境との関係について、多角的な視点から見つめ直し、真のバランスの取れた人間の生活とは何かを探究する学部です。

現代は科学技術の発展や急速な経済成長により、物質的に豊かで、快適な生活を享受できるようになりましたが、その一方、急激な自然環境、社会状況の変化にともなう問題が噴出しています。こうした、問題に対処するためには、自然科学・人文科学・社会科学の3つの視点から、多面的に問題を考える姿勢を養うことが必要とされます。

生活科学部はこうした要請に応えるために、食の科学と健康、人間と環境、人間生活と社会、人間生活と文化、心の科学と健康についての学科、およびプログラムが開設されています。また、それぞれのプログラムでは、少人数の実験・実習・演習により、個別的教育を行うと同時に、社会生活で役に立つ資格（中学校・高等学校教諭一種免許（家庭）、栄養教諭一種免許、社会調査士資格、学芸員資格、栄養士資格ならびに管理栄養士受験資格、一級建築士受験資格、公認心理師受験資格等）の取得を促すカリキュラムも用意しています。

ただし、生活科学部では、それぞれの専門を深めるばかりでなく、文理融合の学部の特性を生かして、他の専門分野にも関心を持ち、多面的で総合的な視点から現実の人間生活の問題に取り組む力を持った、社会の多方面で活躍できる女性リーダーを育成することを目指しています。

したがって、高校におけるすべての科目が、大学での勉強に必要な基礎となりますので、志望学科の別を問わず、家庭科、芸術科、保健体育を含め、オールラウンドの学力を身につけておくことを期待します。

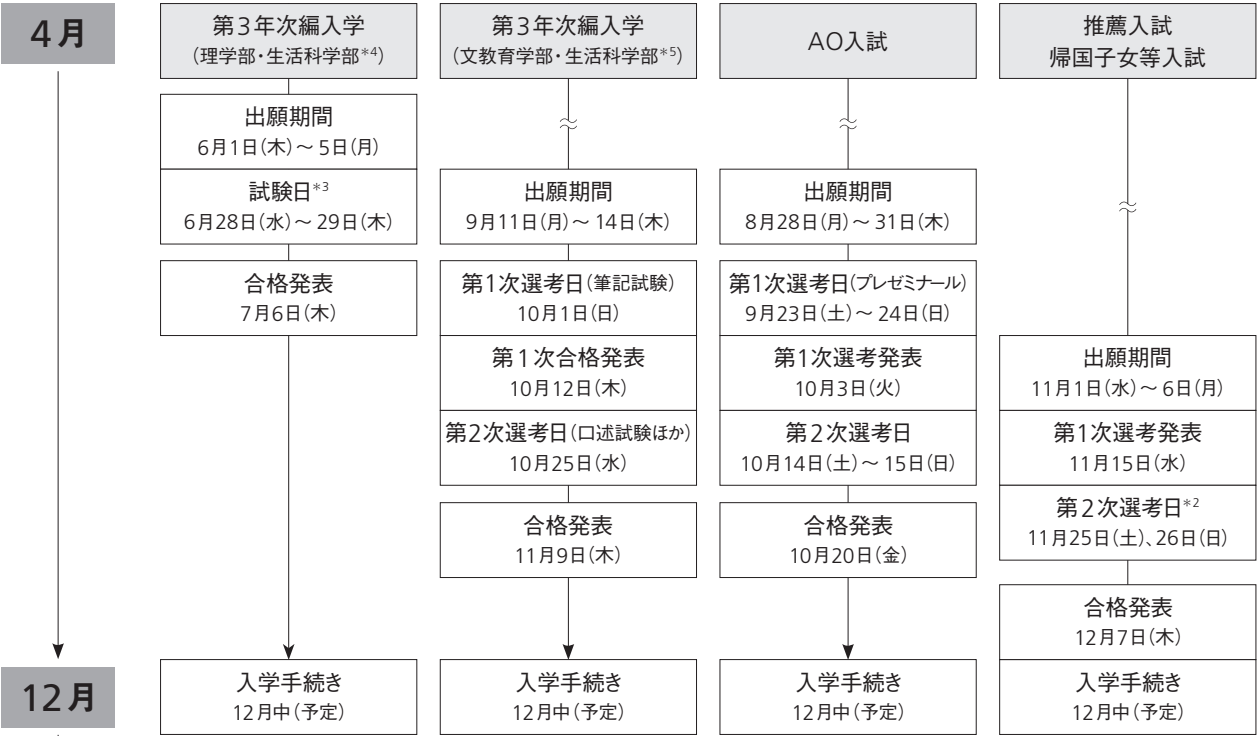
2018年度入学試験一覧

〈募集人員〉

学部	学科	コース	入学定員	一般入試		特別入試			AO入試 (新フンボルト 入試)	第3年次 編入学
				前期日程	後期日程	推薦	帰国子女	私費外国人留学生		
文教育学部	人文学科		55	32	11	12	若干名	若干名	20名以内*3	10
	言語文化学科		80	64	—*1	16	若干名	若干名		
	人間社会科学科		40	24	6	10	若干名	若干名		
	芸術・表現行動学科	舞踊教育学コース	27	12	—*1	3	若干名	若干名		
		音楽表現コース		5	3	4	若干名	若干名		
計		202	137	20	45			10		
理学部	数学科		20	13	3	4	若干名			若干名
	物理学科		20	14	3	3	若干名			若干名
	化学科		20	16	4	—*2	—*2			若干名
	生物学科		25	18	3	4	若干名			若干名
	情報科学科		40	23	10	7	若干名		若干名	
計		125	84	23	18			10		
生活科学部	食物栄養学科		36	31	5	—*2	—*2		若干名	
	人間・環境科学科		24	19	5	—*2	—*2		若干名	
	人間生活学科		39	32	—*1	7	若干名		若干名	
	心理学科		26	23	—*1	3	若干名		若干名	
計		125	105	10	10					
合計			452	326	53	73				30

[注] *1：文教育学部言語文化学科、芸術・表現行動学科「舞踊教育学コース」、生活科学部人間生活学科、生活科学部心理学科では、前期日程のみの募集で、後期日程の募集は行わない。
 *2：理学部化学科、生活科学部食物栄養学科、人間・環境科学科では、推薦入試及び帰国子女・外国学校出身者特別入試の募集は行わない。
 *3：文教育学部芸術・表現行動学科では、AO入試の募集は行わない。
 ※お茶の水女子大学学部入試に出願できる者は、大学入学資格を有する女子が対象です。大学入学資格については、「入学者選抜要項」及び、各入試の「学生募集要項」で確認してください。

2018年度 入学者選抜日程(2018年4月入学)



[注] * 1: 一般入試(前期日程)の2月26日(月)は、文教育学部芸術・表現行動学科、理学部、生活科学部食物栄養学科、人間・環境科学科のみ実施。
* 2: 推薦入試、帰国子女・外国学校出身者特別入試第2次選考の11月26日(日)は、文教育学部のみ実施。
* 3: 理学部第3年次編入学試験の6月29日(木)は、生物学科の受験者数により実施する場合がある。
* 4: 理学部及び生活科学部人間・環境科学科の志望者対象。
* 5: 文教育学部及び生活科学部人間生活学科の志望者対象。

一般入試(前期日程、後期日程)

一般入試においては、本学が指定する平成30年度大学入試センター試験の教科・科目を全て受験しなければなりません。

〈大学入試センター試験〉

■文教育学部

学科	選抜方法の区分	大学入試センター試験で入学志願者に解答させる教科・科目名		受験を要する 教科・科目数
人文科学科	前期日程	国語 地歴公民 数学 理科 外国語	国語 世界史B、日本史B、地理B、倫政経から2 数学I・数学Aと、数学II・数学B、簿会*、情報*から1 (物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2)又は、(物理、化学、生物、地学から1) 英語(リスニングテストを含む)、独語、仏語、中国語、韓国語から1	5又は6教科 7又は8科目
	後期日程	国語 地歴公民 理科 数学 外国語	国語 世界史B、日本史B、地理B、倫政経から1 又は、 (物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2)又は、(物理、化学、生物、地学から1) 数学I・数学Aと、数学II・数学B、簿会*、情報*から1 英語(リスニングテストを含む)、独語、仏語、中国語から1	から3 ^{*1} 3教科 3～5科目
言語文化学科	前期日程のみ	国語 地歴公民 数学 理科 外国語	国語 世界史B、日本史B、地理B、倫政経から2 数学I・数学Aと、数学II・数学B、簿会*、情報*から1 (物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2)又は、(物理、化学、生物、地学から1) 英語(リスニングテストを含む)、独語、仏語、中国語、韓国語から1	5又は6教科 7又は8科目
人間社会科学科	前期日程	国語 地歴公民 数学 理科 外国語	国語 世界史B、日本史B、地理B、倫政経から2 数学I・数学Aと、数学II・数学B、簿会*、情報*から1 (物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2)又は、(物理、化学、生物、地学から1) 英語(リスニングテストを含む)、独語、仏語、中国語、韓国語から1	5又は6教科 7又は8科目
	後期日程	国語 地歴公民 理科 数学 外国語	国語 世界史B、日本史B、地理B、倫政経から2 (物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2)又は、(物理、化学、生物、地学から1) 数学I・数学Aと、数学II・数学B、簿会*、情報*から1 英語(リスニングテストを含む)、独語、仏語、中国語から1	から3又は4 ^{*2} 5又は6教科 7又は8科目
芸術・表現行動学科 舞踊教育学コース	前期日程のみ	国語 地歴公民 数学 理科 外国語	国語 世界史B、日本史B、地理B、倫政経から2 数学I・数学Aと、数学II・数学B、簿会*、情報*から1 (物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2)又は、(物理、化学、生物、地学から1) 英語(リスニングテストを含む)、独語、仏語、中国語、韓国語から1	5又は6教科 7又は8科目
芸術・表現行動学科 音楽表現コース	前期日程	国語 地歴公民 数学 理科 外国語	国語 世界史B、日本史B、地理B、倫政経から2 数学I・数学Aと、数学II・数学B、簿会*、情報*から1 (物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2)又は、(物理、化学、生物、地学から1) 英語(リスニングテストを含む)、独語、仏語、中国語、韓国語から1	5又は6教科 7又は8科目
	後期日程	国語 数学 外国語	国語 数学I・数学Aと、数学II・数学B、簿会*、情報*から1 英語(リスニングテストを含む)、独語、仏語、中国語から1	3教科 4科目

※注釈は次頁を参照。

■理学部

学科	選抜方法の区分	大学入試センター試験で入学志願者に解答させる教科・科目名		受験を要する教科・科目数
数学科	前期日程	国語 地歴公民 数学	国語 世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B、現社、倫理、政経、倫政経から1 数学I・数学Aと、数学II・数学B、簿会*、情報*から1	5教科 7科目
	後期日程	理科 外国語	物理、化学、生物、地学から2 英語（リスニングテストを含む）、独語、仏語から1	
物理学科	前期日程	国語 地歴公民 数学	国語 世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B、現社、倫理、政経、倫政経から1 数学I・数学Aと、数学II・数学B、簿会*、情報*から1	5教科 7科目
	後期日程	理科 外国語	物理と、化学、生物、地学から1 英語（リスニングテストを含む）	
化学科	前期日程	国語 地歴公民 数学	国語 世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B、現社、倫理、政経、倫政経から1 数学I・数学Aと、数学II・数学B、簿会*、情報*から1	5教科 7科目
	後期日程	理科 外国語	化学と、物理、生物、地学から1 英語（リスニングテストを含む）	
生物学科	前期日程	国語 地歴公民 数学	国語 世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B、現社、倫理、政経、倫政経から1 数学I・数学Aと、数学II・数学B、簿会*、情報*から1	5教科 7科目
	後期日程	理科 外国語	生物と、物理、化学、地学から1 英語（リスニングテストを含む）、独語、仏語から1	
情報科学科	前期日程	国語 地歴公民 数学	国語 世界史A、世界史B、日本史A、日本史B、地理A、地理B、現社、倫理、政経、倫政経から1 数学I・数学Aと、数学II・数学B、簿会*、情報*から1	5教科 7科目
	後期日程	理科 外国語	物理、化学、生物、地学から2 英語（リスニングテストを含む）、独語、仏語から1	

■生活科学部

学科	選抜方法の区分	大学入試センター試験で入学志願者に解答させる教科・科目名		受験を要する教科・科目数
食物栄養学科	前期日程	国語 地歴公民 数学	国語 世界史B、日本史B、地理B、倫政経から1 数学I・数学Aと、数学II・数学B、簿会*、情報*から1	5教科 7科目
	後期日程	理科 外国語	物理、化学、生物から2 英語（リスニングテストを含む）、独語、仏語、中国語から1	
人間・環境科学科	前期日程	国語 地歴公民 数学	国語 世界史B、日本史B、地理B、倫政経から1 数学I・数学Aと、数学II・数学B、簿会*、情報*から1	5教科 7科目
	後期日程	理科 外国語	物理、化学、生物、地学から2 英語（リスニングテストを含む）、独語、仏語、中国語から1	
人間生活学科	前期日程のみ	国語 地歴公民 数学	国語 世界史B、日本史B、地理B、倫政経から2 数学I・数学Aと、数学II・数学B、簿会*、情報*から1	5又は6教科 7又は8科目
		理科 外国語	(物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2)又は、(物理、化学、生物、地学から1) 英語（リスニングテストを含む）、独語、仏語、中国語から1	
心理学科	前期日程のみ	国語 地歴公民 数学	国語 世界史B、日本史B、地理B、倫政経から2 数学I・数学Aと、数学II・数学B、簿会*、情報*から1	5又は6教科 7又は8科目
		理科 外国語	(物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎から2)又は、(物理、化学、生物、地学から1) 英語（リスニングテストを含む）、独語、仏語、中国語から1	

○教科・科目名の表記：地歴公民：「地理歴史、公民」/現社：「現代社会」/政経：「政治・経済」/倫政経：「倫理、政治・経済」/簿会：「簿記・会計」/情報：「情報関係基礎」
○*印科目の受験資格：大学入試センター試験の「簿記・会計」、「情報関係基礎」を選択できる者は、高等学校において、これらの科目を履修した者及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限る。
[注] *1：文教育学部人文科学科の後期日程の大学入試センター試験では、「[国語]」、「地理歴史・公民、理科」、「数学」、「外国語」から3教科を受験するものとする。なお、上記「地理歴史・公民、理科」のうち、理科の選択科目は、物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎の4科目の中から2科目、又は、物理、化学、生物、地学の4科目の中から1科目のいずれかとする。また、「地理歴史・公民」又は「理科」で1科目を選択する場合は、「第1解答科目」を当該教科の成績としたうえで、指定した教科の範囲内で4教科以上受験した場合は、高得点の順に3教科の成績を用いる。
*2：文教育学部人間社会科学科の後期日程の大学入試センター試験のうち、「地理歴史・公民、理科」の各教科の選択科目については、「地理歴史から2科目と理科」又は「地理歴史から1科目と公民の計2科目と理科」とする。なお、理科の選択科目は、物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎の4科目の中から2科目、又は、物理、化学、生物、地学の4科目の中から1科目のいずれかとする。
※「地理歴史・公民」又は「理科」の各試験時間において2科目を受験する場合、試験時間の前半に受験した科目を「第1解答科目」、後半に受験した科目を「第2解答科目」とする。
※「地理歴史・公民」又は「理科」で1科目のみ配点する学部・学科において、2科目を受験した場合は、「第1解答科目」として受験した科目の成績を用いる。
※大学入試センター試験において、本学が指定する教科、科目を受験していない者（指定された教科・科目を第1解答科目として受験していない者も含む）は、出願無資格者とし、本学の個別学力検査を受験することはできないので、十分注意すること。

〈個別学力検査〉

学部	学科等	選抜方法の区分	出題教科等	出題科目（出題範囲）	試験日
文教育学部	人文科学科	前期日程	国語 数学 外国語	国語総合・現代文B・古典B 数学I・数学II・数学A・数学B コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・コミュニケーション英語III	2月25日（日）
		後期日程	小論文（英和辞典（電子式を除く）持込可）		3月12日（月）
	言語文化学科	前期日程のみ		国語総合・現代文B・古典B コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・コミュニケーション英語III	2月25日（日）
		前期日程	国語 数学 外国語	国語総合・現代文B・古典B 数学I・数学II・数学A・数学B コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・コミュニケーション英語III	2月25日（日）
	人間社会科学科	前期日程		国語総合・現代文B・古典B 数学I・数学II・数学A・数学B コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・コミュニケーション英語III	2月25日（日）
		後期日程	小論文		3月12日（月）
	芸術・表現行動学科 舞踊教育学コース	前期日程のみ	国語 数学 外国語 実技	国語総合・現代文B・古典B 数学I・数学II・数学A・数学B コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・コミュニケーション英語III 舞踊実技検査	2月25日（日） 2月26日（月） （2日目は実技検査）
			国語 数学 外国語 実技	国語総合・現代文B・古典B 数学I・数学II・数学A・数学B コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・コミュニケーション英語III 音楽実技検査	2月25日（日） 2月26日（月） （2日目は実技検査）
	芸術・表現行動学科 音楽表現コース	前期日程	国語 数学 外国語 実技	国語総合・現代文B・古典B 数学I・数学II・数学A・数学B コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・コミュニケーション英語III 音楽実技検査	2月25日（日） 2月26日（月） （2日目は実技検査）
		後期日程	実技	音楽実技検査	3月12日（月）
理学部	数学科	前期日程	数学 理科 外国語	数学I・数学II・数学III・数学A・数学B 物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物から1 コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・コミュニケーション英語III	2月25日（日） 2月26日（月）
		後期日程	数学	数学I・数学II・数学III・数学A・数学B	3月12日（月）
	物理学科	前期日程	数学 理科 外国語	数学I・数学II・数学III・数学A・数学B 物理基礎・物理 コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・コミュニケーション英語III	2月25日（日） 2月26日（月）
		後期日程	個別学力検査は課さない		－
	化学科	前期日程	数学 理科 外国語	数学I・数学II・数学III・数学A・数学B 化学基礎・化学と、物理基礎・物理、生物基礎・生物から1 コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・コミュニケーション英語III	2月25日（日） 2月26日（月）
		後期日程	論述試験		3月12日（月）
	生物学科	前期日程	数学 理科 外国語	数学I・数学II・数学III・数学A・数学B 生物基礎・生物と、物理基礎・物理、化学基礎・化学から1 コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・コミュニケーション英語III	2月25日（日） 2月26日（月）
		後期日程	論述試験 面接（口述試験を含む）		3月12日（月）
	情報科学科	前期日程	数学 数学・理科 外国語	数学I・数学II・数学III・数学A・数学B 数学I・数学II・数学III・数学A・数学B、物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物から2 コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・コミュニケーション英語III	2月25日（日） 2月26日（月）
		後期日程	数学	数学I・数学II・数学III・数学A・数学B	3月12日（月）
生活科学部	食物栄養学科	前期日程	数学 理科 外国語	数学I・数学II・数学A・数学B 物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物から1 コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・コミュニケーション英語III	2月25日（日） 2月26日（月）
		後期日程	面接		3月12日（月）
	人間・環境科学科	前期日程	数学 理科 外国語	数学I・数学II・数学A・数学B 物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物から1 コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・コミュニケーション英語III	2月25日（日） 2月26日（月）
		後期日程	面接		3月12日（月）
	人間生活学科	前期日程のみ	国語 数学 外国語	国語総合・現代文B・古典B 数学I・数学II・数学A・数学B コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・コミュニケーション英語III	2月25日（日）
			国語 数学 外国語	国語総合・現代文B・古典B 数学I・数学II・数学A・数学B コミュニケーション英語I・コミュニケーション英語II・コミュニケーション英語III	2月25日（日）

（3学部共通）
※ 数学I・数学II・数学III・数学Aは、全範囲から出題する。数学Bについては、「数列」、「ベクトル」を出題範囲とする。
※ 「物理基礎・物理」については、物理基礎、物理の全範囲から出題、「化学基礎・化学」については、化学基礎、化学の全範囲から出題、「生物基礎・生物」については生物基礎、生物の全範囲から出題する。

〈試験教科・科目別配点〉

(全学部共通事項)

大学入試センター試験の外国語「英語」については、筆記試験(200点)とリスニングテスト(50点)の合計得点を、4:1の比率を変えず各学科等の配点に圧縮して換算する。(但し、リスニングテスト免除者を除く)

■前期日程：文教育学部

試験区分		大学入試センター試験					本学の試験					合計
学科	教科・科目等	国語	地歴公民	数学	理科	外国語	国語※2	数学※2	外国語	実技	計	
人文科学科		400※1					(200)	(200)	200	－	400	800
言語文化学科		400※1					200	－	200	－	400	800
人間社会科学科		400※1					(200)	(200)	200	－	400	800
芸術・表現行動学科	舞踊	400※1					(100)	(100)	100	200	400	800
	音楽	400※1					(200)	(200)	200	※3	400	800

[注] ^{*1}：大学入試センター試験は、国語200点、地歴公民200点(地歴から1、公民から1の計2科目、または地歴から2科目のいずれかの組み合わせ)、数学200点(2科目の合計点)、理科100点、外国語200点の合計点900点に9分の4を掛けて400点満点に換算する。
^{*2}：人文科学科、人間社会科学科、芸術・表現行動学科は、本学の試験「国語、数学」から1教科選択。
^{*3}：芸術・表現行動学科「音楽表現コース」の実技については、実技検査全科目(各科目100点満点)の平均点が60点未満の場合、不合格となる。

■前期日程：理学部

試験区分		大学入試センター試験						本学の試験								合計
学科	教科・科目等	国語	地歴公民 ^{*1}	数学 ^{*2}	理科 ^{*2}	外国語	計	数学 ^{*3*4}			理科 ^{*4}			外国語	計	
								数学共通	数学専門	数学	物理	化学	生物			
	数学科	50	25	50	50	50	225	100	200	－	(100)	(100)	(100)	100	500	725
	物理学科	25	25	50	50	100	250	100	－	100	200	－	－	50	450	700
	化学科	100	50	100	100	100	450	100	－	－	(100)	200	(100)	100	500	950
	生物学科	50	50	100	100	100	400	100	－	－	(100)	(100)	200	100	500	900
	情報科学科	100	50	100	50	100	400	200	－	(100)	(100)	(100)	(100)	100	500	900

[注] ^{*1}：大学入試センター試験「地歴公民」から1科目選択。
^{*2}：大学入試センター試験「数学」及び「理科」はそれぞれの教科の2科目の合計点とする。
^{*3}：数学及び理科の出題範囲については前頁を参照のこと。
数学(数学共通)：数学科、物理学科〔数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B〕
数学(数学共通)：化学科、生物学科、情報科学科〔数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B〕
数学(数学専門)：〔数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B〕
数学(数学)：〔数Ⅲ〕
^{*4}：数学科、化学科、生物学科は本学の試験「理科」のうち配点に()をつけたものから1科目選択、情報科学科は本学の試験「数学・理科」のうち配点に()をつけたものから2科目選択。

■前期日程：生活科学部

試験区分		大学入試センター試験						本学の試験					合計
学科	教科・科目等	国語	地歴公民*1	数学*2	理科*3	外国語	計	国語*4	数学*4	理科	外国語	計	
	食物栄養学科	100	50	100	150	100	500	－	200	100	200	500	1000
	人間・環境科学科	100	50	100	150	100	500	－	200	100	200	500	1000
	人間生活学科	100	150	100	50	100	500	(250)	(250)	－	250	500	1000
	心理学科	100	100	100	100	100	500	(250)	(250)	－	250	500	1000

[注] ^{*1}：食物栄養学科、人間・環境科学科は大学入試センター試験「地歴公民」から1科目選択。人間生活学科「地歴公民」は、地理歴史から1、公民から1の計2科目、又は地理歴史から2科目選択。
^{*2}：大学入試センター試験「数学」は2科目の合計点とする。
^{*3}：食物栄養学科、人間・環境科学科の大学入試センター試験「理科」は2科目の合計点とする。
^{*4}：人間生活学科、心理学科は本学の試験「国語、数学」から1教科選択。

■後期日程：文教育学部

試験区分		大学入試センター試験					本学の試験			合計	
学科	教科・科目等	国語	地歴公民	数学 ^{*4}	理科	外国語	計	小論文	実技		計
	人文科学科 ^{*1}	(50)	(50)	(50)	(50)	(50)	150	100	—	100	250
	人間社会科学科	100	100	100	50	100	450	100	—	100	550
	芸術・表現行動学科 ^{*2}	100	—	100	—	200	400	—	^{*3}	—	400

[注] ^{*1}：人文科学科の本学の試験「小論文」は、英語文の短い論文をもとに日本語で論述する。なお、英和辞典(電子式を除く)の持ち込みを認める。
^{*2}：芸術・表現行動学科の「舞踊教育学コース」は、前期のみで後期の募集は行わない。
^{*3}：芸術・表現行動学科「音楽表現コース」の実技については、実技検査全科目(各科目100点満点)の平均点が60点未満の場合、不合格となる。
^{*4}：大学入試センター試験「数学」は2科目の合計点とする。

■後期日程：理学部

試験区分		大学入試センター試験						本学の試験			合計
学科	教科・科目等	国語	地歴公民 ^{*1}	数学 ^{*2}	理科 ^{*2}	外国語	計	数学	論述試験	面接 (口述試験を含む)	
	数学科	*3	*3	*3	*3	100	100	300	－	－	400
	物理学科	50	50	200	200	100	600	－	－	－	600
	化学科	100	50	100	200	100	550	－	100	－	650
	生物学科	25	25	50	100	50	250	－	200	100	550
	情報科学科	100	50	200	200	250	800	300	－	－	1100

[注] ^{*1}：大学入試センター試験「地歴公民」から1科目選択。
^{*2}：大学入試センター試験「数学」及び「理科」はそれぞれの教科の2科目の合計点とする。
^{*3}：数学科では、大学入試センター試験の受験を要する教科として、「国語」、「地歴公民から1」、「数学」、「理科」及び「外国語」の5教科を課しているが、合否の判定には、「外国語」のみを用いる。ただし、第1段階選抜を実施する場合は、大学入試センター試験の「国語」(50点)、「地歴公民から1」(25点)、「数学」(50点)、「理科」(50点)、「外国語」(100点)の配点とする。

■後期日程：生活科学部

試験区分		大学入試センター試験						本学の試験
学科	教科・科目等	国語	地歴公民 ^{*1}	数学 ^{*2}	理科 ^{*2}	外国語	合計	面接
	食物栄養学科	50	50	200	200	200	700	*3
	人間・環境科学科	50	50	200	200	200	700	*3

[注] ^{*1}：大学入試センター試験「地歴公民」から1科目選択。
^{*2}：大学入試センター試験「数学」及び「理科」はそれぞれの教科の2科目の合計点とする。
^{*3}：本学の試験「面接」は、ABC評価により合格判定の資料とする。

〈実技検査〉

学部	学科	コース	摘要
文教育学部	芸術・表現行動学科	舞踊教育学コース	内容については、「平成30年度入学者選抜要項」(7月下旬発行)及び「平成30年度学生募集要項」(10月下旬発行)で確認すること。 本学のホームページにも掲載する。 http://www.ao.ocha.ac.jp/application.html
		音楽表現コース	

〈合格発表〉

前期日程	後期日程
2018年3月8日(木)正午 学内に掲示し、かつ合格者本人宛に郵送(速達)する。	2018年3月20日(火)正午 学内に掲示し、かつ合格者本人宛に郵送(速達)する。

特別入試

〈推薦入試〉

■文教育学部

学部	文教育学部
募集人員	■人文科学科(12名) ■言語文化学科(16名) ■人間社会科学科(10名) ■芸術・表現行動学科・舞踊教育学コース(3名)／音楽表現コース(4名)
出願資格	2017年度中(2017年4月～2018年3月)に高等学校(中等教育学校を含む)を卒業又は卒業見込みの女子で、高等学校長が、以下の要件に該当すると認め、責任をもって推薦できる者
推薦要件	人文科学科 次の①又は②のいずれかに該当する者 ①調査書の学習成績概評が、㉠の者 ②次のa～cのいずれかに該当する者 a.哲学、倫理学、美術史のいずれかの分野に対する強い関心を持ち、優れた能力を有する者 b.歴史学に対する強い関心を持ち、優れた能力を有する者 c.地理学に対する強い関心を持ち、優れた能力を有する者
	言語文化学科 次の①と②の双方に該当する者 ①調査書の学習成績概評が、A以上の者 ②将来の専門的研究への意欲的なビジョンを持ち、次のa～dのいずれかに該当する者 a.「日本語・日本文学」：国語の成績がきわめて優秀で、日本語・日本文学の研究に強い意欲を有する者 b.「中国語圏言語文化」：中国語又は国語又は英語の成績がきわめて優秀で、中国語・中国文学の研究に強い意欲を有する者 c.「英語圏言語文化」：英語の成績がきわめて優秀で、英語や英語圏の文学・文化の研究に強い意欲を有する者 d.「仏語圏言語文化」：フランス語又は英語又は国語の成績がきわめて優秀で、フランス語・フランス語圏の文化の研究に強い意欲を有する者 なお、出願に際しては当学科の受入方針「入学者選抜要項」「学生募集要項(推薦入試)」も参照すること。
	人間社会科学科 次の①と②の双方に該当する者 ①調査書の学習成績概評が、A以上の者 ②教育学、子ども学、総合人間発達科学いずれかの勉学に強い意欲を有する者 (受入方針「入学者選抜要項」「学生募集要項(推薦入試)」を参照のこと)
	芸術・表現行動学科 次の①又は②のいずれかに該当する者 ①調査書の学習成績概評が、㉠の者 ②「舞踊教育学コース」：舞踊において、特に優れた能力と意欲を有する者 「音楽表現コース」：音楽において、特に優れた能力と意欲を有する者
出願期間	2017年11月1日(水)～6日(月)【郵送必着】 ただし、11月5日(日)以前の発信局消印のある書留速達に限り、期間後に到着した場合でも受理する。
選考方法	第1次選考 2017年11月15日(水) 出願書類の審査により第1次選考を行い、選考結果は本人宛に郵送(速達)する。
	第2次選考 人文科学科/言語文化学科 人間社会科学科 2017年11月25日(土)～26日(日) 第2次選考は、第1次選考合格者に対し、志望学科による小論文と面接(口述試験を含む)を課し、総合的に判定する。
	第2次選考 芸術・表現行動学科 2017年11月25日(土)～26日(日) 第2次選考は、第1次選考合格者に対し、小論文と面接(口述試験を含む)、及び実技検査を課し、本学の必修科目を受講するのに必要な能力を基準として、総合的に判定する。(実技検査については、「入学者選抜要項」「学生募集要項(推薦入試)」を参照すること)
	合格発表 2017年12月7日(木)正午 学内に掲示し、かつ本人宛に郵送(速達)する。

※外国語検定試験のスコアの提出等、詳細については、「平成30年度入学者選抜要項」及び「平成30年度特別入試学生募集要項(推薦入試)」を参照。
<http://www.ao.ocha.ac.jp/application/faculty/index.html>

■理学部・生活科学部

学部	理学部	生活科学部
募集人員	■数学科(4名) ■物理学科(3名) ■生物学科(4名) ■情報科学科(7名)	■人間生活学科(7名) ■心理学科(3名)
出願資格	2017年度中(2017年4月～2018年3月)に高等学校(中等教育学校を含む)を卒業又は卒業見込みの女子で、真理の探究に対し強い憧憬と意欲を抱き、かつ、高等学校長が次の①又は②のいずれかに該当すると認め、責任をもって推薦できる者	
推薦要件	① 調査書の学習成績概評が㉠の者 ② 志望学科に関連する科目において、特に優れた能力と意欲を有する者	① 調査書の学習成績概評が㉠の者 ② 志望学科における各専門領域の勉学に強い意欲を有する者
出願期間	2017年11月1日(水)～6日(月)【郵送必着】 ただし、11月5日(日)以前の発信局消印のある書留速達に限り、期間後に到着した場合でも受理する。	
選考方法	第1次選考 2017年11月15日(水) 出願書類の審査により第1次選考を行い、選考結果は本人宛に郵送(速達)する。	2017年11月25日(土) 第2次選考は、第1次選考合格者に対し、志望学科による小論文(心理学科のみ)と論述試験(生物学科のみ)を課し、総合的に判定する。
	第2次選考 2017年11月25日(土) 第2次選考は、第1次選考合格者に対し、志望学科による面接(口述試験を含む)と論述試験(生物学科のみ)を課し、総合的に判定する。	2017年11月25日(土) 第2次選考は、第1次選考合格者に対し、志望学科による小論文(心理学科のみ)と、面接(口述試験を含む)を課し、総合的に判定する。
合格発表	2017年12月7日(木)正午 学内に掲示し、かつ本人宛に郵送(速達)する。	

※外国語検定試験のスコアの提出等、詳細については、「平成30年度入学者選抜要項」及び「平成30年度特別入試学生募集要項(推薦入試)」を参照。
<http://www.ao.ocha.ac.jp/application/faculty/index.html>

〈AO入試(新フンボルト入試)〉

■募集人員等

受入学部	文教育学部：人文科学科／言語文化学科／人間社会科学科(グローバル文化学環を含む)	
	理学部：数学科／物理学科／化学科／生物学科／情報科学科	
	生活科学部：食物栄養学科／人間・環境科学科／人間生活学科／心理学科	
募集人員	募集人員 全学で20名以内	
出願資格	次の①～②のすべての要件に該当する女子 ① 高等学校若しくは中等教育学校を2016年3月以降卒業した者及び2018年3月卒業見込みの者 ② お茶の水女子大学での勉学を強く希望し、合格した場合には必ず入学することを確約できる者 (受入学部・学科によっては出願要件が付加される場合があり、これについては下記の出願要件を参照)	
出願期間	2017年8月28日(月)～31日(木)【郵送必着】 ただし、8月30日(水)以前の発信局消印のある書留速達に限り、期間後に到着した場合でも受理する。	
選考方法	第1次選考	2017年9月23日(土)～24日(日) プレゼミナールで作成したレポートや志望理由書、活動報告書、外国語試験成績等を総合的に評価し第1次選考を行う。 文系学科(文教育学部人文科学科、言語文化学科、人間社会科学科、生活科学部人間生活学科、心理学科)志願者は下記いずれかの外国語検定試験スコア・級の提出を必須とする。TOEFL、IELTS、TEAP、英検、TOEIC、GTEC(プレゼミナール初日から遡って2年以内のスコアを有効とする) 理学部生物学科、生活科学部食物栄養学科は自主課題研究ポスター(A4判に縮小印刷)の提出を必須とする。
	第2次選考	2017年10月14日(土)～15日(日) 第2次選考は、第1次選考合格者について模擬講義、討論、レポート、面接、小論文等を課し、総合的に判定する。第2次選考の内容は下記を参照。
合格発表	2017年10月20日(金) 学内に掲示し、かつ合格者本人宛に郵送(速達)する。	

※ 詳細については、「平成30年度入学者選抜要項」及び「平成30年度特別入試学生募集要項アドミッション・オフィス入試(AO入試)」を参照。
<http://www.ao.ocha.ac.jp/application/faculty/index.html>

■出願要件

- 調査書の学習成績概評がA段階以上であることが望ましい
- 学科別に指定されている下記の科目(指定科目)について、履修し単位を得ているか、入学時までに単位を修得見込みであること

学部・学科		出願要件
文教育学部	人文科学科	指定科目なし
	言語文化学科	指定科目なし
	人間社会科学科	数学Ⅰ・Ⅱ・A・B
理学部	数学科	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B
	物理学科	物理基礎・物理および数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B
	化学科	化学基礎・化学、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bと、(物理基礎・物理)又は(生物基礎・生物)の2組のうちのいずれか1組
	生物学科	生物基礎・生物、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bと、(物理基礎・物理)又は(化学基礎・化学)の2組のうちのいずれか1組
	情報科学科	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bと、(物理基礎・物理)、(化学基礎・化学)、(生物基礎・生物)の3組のうちのいずれか1組
生活科学部	食物栄養学科	数学Ⅰ・Ⅱ・A・Bと、(物理基礎・物理)、(化学基礎・化学)、(生物基礎・生物)の3組から2組
	人間・環境科学科	数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・Bと、(物理基礎・物理)、(化学基礎・化学)、(生物基礎・生物)、(地学基礎・地学)の4組から2組
	人間生活学科	指定科目なし
	心理学科	数学Ⅰ・Ⅱ・A・B

■第2次選考内容

文系【図書館入試】		理系【実験室入試】	
文教育学部 (全ての受入学科)／ 生活科学部 人間生活学科／心理学科	1日目 附属図書館の図書などを自由に参照しつつ 課題についてのレポートを長時間かけて作成する	理学部数学科／ 物理学科／化学科／ 情報科学科	思考力や探究力等を見る専門性のある試験課題を課す 例：実験、実験演示や実験データをもとにして考察する 黒板などを使って考え方を説明する
	2日目 グループ討論、面接	理学部生物学科／ 生活科学部食物栄養学科／ 人間・環境科学科	自主研究課題のポスター発表を課す (自主研究課題のポスター発表を中心とした、 これまでの高校での取り組みを評価する試験)

〈帰国子女・外国学校出身者特別入試〉

実施学部・学科	文教育学部：人文科学科／言語文化学科／人間社会科学科／芸術・表現行動学科
	理学部：数学科／物理学科／生物学科／情報科学科
	生活科学部：人間生活学科／心理学科
募集人員	入学定員のうち若干名
出願資格	日本国籍を有する女子又は日本国の永住許可を得ている女子で、保護者の海外勤務などの事情により、次のいずれかに該当する者 ア)外国の正規の教育制度に基づく教育機関において、12年の課程(日本における通常の課程による学校教育の期間を含む)を2016年4月1日から2018年3月31日までに卒業(修了)した者又は卒業(修了)見込みの者で、外国において最終学年を含め2年以上(2学年相当修了も含む)継続して学校教育を受けている者 イ)外国において、スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で、2018年3月31日までに満18歳に達する者 ウ)外国において、ドイツ連邦共和国の各州で大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で、2018年3月31日までに満18歳に達する者 エ)外国において、フランス共和国の大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で、2018年3月31日までに満18歳に達する者 注)外国に設置されたものであっても、日本の学校教育法に準拠した教育を施している学校(文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有していると認定した在外教育施設)に在学した期間については、外国において学校教育を受けたものとはみなさない。
選考方法	入学者の選抜は、次の第1次選考、第2次選考に分けて行う。 ①第1次選考：出願書類を資料として行い、選考結果は本人宛に郵送(速達)する。 ②第2次選考：第1次選考合格者に対し、志望学科による小論文、又は論述試験(生物学科が対象)、口述試験及び実技検査(芸術・表現行動学科が対象)を課し、総合的に判定する。詳細は「入学者選抜要項」及び「学生募集要項」を参照。
出願期間	2017年11月1日(水)～6日(月)【郵送必着】 ただし、11月5日(日)以前の発信局消印のある書留速達に限り、期間後に到着した場合でも受理する。
第1次選考	2017年11月15日(水) 出願書類の審査により第1次選考を行い、選考結果は本人宛に郵送(速達)する。
第2次選考	第2次選考は2017年11月25日(土)、26日(日)※26日(日)は文教育学部のみ。
合格発表	2017年12月7日(木)正午学内に掲示し、本人宛に郵送(速達)する。

※詳細については、「平成30年度入学者選抜要項」及び「平成30年度特別入試学生募集要項(帰国子女・外国学校出身者特別入試)」を参照。
<http://www.ao.ocha.ac.jp/application/faculty/index.html>

〈私費外国人留学生(学部留学生)特別入試〉

実施学部・学科	文教育学部：人文科学科／言語文化学科／人間社会科学科／芸術・表現行動学科
	理学部：数学科／物理学科／化学科／生物学科／情報科学科
	生活科学部：食物栄養学科／人間・環境科学科／人間生活学科／心理学科
募集人員	各学科とも若干名
出願資格	次の(1)及び(2)の両方に該当する日本国籍を有しない女子で、出入国管理及び難民認定法の定めるところにより、在留資格「留学」又は「留学」に変更できる在留資格を有する者及び取得できる見込みの者 (1)次の①、②、③、④のいずれかに該当する者 ①外国において、学校教育における12年の課程を修了した者及び2018年3月31日までに修了見込みの者、又はこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者 ②スイス民法典に基づく財団法人である国際バカロレア事務局が授与する国際バカロレア資格を有する者で、2018年3月31日までに満18歳に達する者 ③ドイツ連邦共和国の各州において大学入学資格として認められているアビトゥア資格を有する者で、2018年3月31日までに満18歳に達する者 ④フランス共和国において大学入学資格として認められているバカロレア資格を有する者で、2018年3月31日までに満18歳に達する者 (2)独立行政法人日本学生支援機構主催の「日本留学試験」を受験した者 受験を要する科目については、「入学者選抜要項」、「私費外国人留学生募集要項」を参照のこと。 さらに、理学部物理学科を志願する者については、「TOEFL試験」の受験が必要である。 なお、日本において高等学校を卒業又は同等以上の資格を得た者は、一般志願者用の募集要項により手続きをすること。
選考方法	志願者(理学部物理学科志望者を除く)に「本学の入学試験」を課し、その結果と「日本留学試験成績」及び最終出身校の成績証明書等の提出書類の内容を総合して合格者を判定する。 なお、理学部物理学科を志願する者は、「日本留学試験」、「TOEFL試験」及び最終出身校の成績証明書等の提出書類の内容を総合して合格者を判定する。
出願期間	出願書類は郵送により受付を行う。 2017年12月4日(月)～14日(木)【郵送必着】 ただし、12月13日(水)以前の発信局消印のある書留速達に限り、期間後に到着した場合でも受理する。
試験日	2018年2月25日(日)、26日(月)学力試験、口述試験及び実技検査(実技検査は芸術・表現行動学科が対象) (受験を要する科目については、「入学者選抜要項」、「私費外国人留学生(学部留学生)特別入試募集要項」を参照)

※詳細については、「平成30年度入学者選抜要項」及び「平成30年度私費外国人留学生(学部留学生)特別入試学生募集要項」を参照。
<http://www.ao.ocha.ac.jp/application/faculty/index.html>

〈第3年次編入学試験〉

実施学部・学科	文教育学部：言語文化学科／人間社会科学科／芸術・表現行動学科(音楽)／グローバル文化学環を含む	理学部：数学科／物理学科／化学科／生物学科／情報科学科
	生活科学部：人間生活学科	生活科学部：人間・環境科学科
募集人員	各学部で10名	
出願資格	次のいずれかに該当する女子とする。 (1)大学を卒業した者及び2018年3月卒業見込みの者 (2)短期大学を卒業した者及び2018年3月卒業見込みの者 (3)高等専門学校を卒業した者及び2018年3月卒業見込みの者 (4)2018年3月31日までに本学以外の大学に2年以上在学している者で62単位以上修得見込みの者 (5)大学に2年以上在学し、62単位以上修得した者(2018年3月本学卒業見込みの者以外で本学に在学中の者は除く) (6)外国の短期大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を我が国において修了した者及び2018年3月までに修了見込みの者(学校教育法第90条第1項に規定する者に限る) (7)外国において、学校教育における14年以上の課程を修了した者及び2018年3月までに修了見込みの者 (注)出願資格(7)により出願しようとする者は、「第3年次編入学試験募集要項」を参照して手続きをすること。	
選考方法	学力試験(筆記試験)及び成績証明書等を総合して第1次選考合格者を判定し、第1次合格者に対し、第2次選考(口述試験及び実技検査(芸術・表現行動学科音楽表現コースのみ))を行い、第1次・第2次選考の結果を総合して最終合格者を決定する。	学力試験(筆記試験・口述試験)及び成績証明書等を総合して判定する。
出願期間	2017年9月11日(月)～14日(木)【郵送必着】 ただし、9月13日(水)以前の発信局消印のある書留速達に限り、期間後に到着した場合でも受理する。	2017年6月1日(木)～5日(月)【郵送必着】 ただし、6月4日(日)以前の発信局消印のある書留速達に限り、期間後に到着した場合でも受理する。
選考日	文教育学部、生活科学部人間生活学科 【第1次選考】2017年10月1日(日) 【第2次選考】2017年10月25日(水)	2017年6月28日(水)、29日(木)：理学部全学科、生活科学部人間・環境科学科(29日(木)は理学部生物学科志願者が24名を超えた場合に実施)
合格発表	2017年11月9日(木) 学内に掲示し、かつ本人宛に郵送(速達)する。	2017年7月6日(木) 学内に掲示し、かつ本人宛に郵送(速達)する。

※外国語検定試験のスコアの提出、社会人特別入試等、詳細については、「平成30年度第3年次編入学試験学生募集要項」を参照。
<http://www.ao.ocha.ac.jp/application/faculty/index.html>

検定料

○第3年次編入学試験：30,000円

○その他入学試験(大学入試センター試験を除く)：17,000円

(参考)

入学科：282,000円(予定額)

授業料前期分：267,900円(年額535,800円)(予定額)

入学時及び在学中に授業料の改定が行われた場合は、改定時から新授業料が適用されます。

2017年度 入学試験実施状況

〈一般入試(志願者・合格者等)〉

学部学科等			種別	前期日程					後期日程					
				募集人員	志願者	受験者	合格者	倍率 ^(※)	入学者	募集人員	志願者	受験者	合格者	倍率 ^(※)
文教育学部	人文学科		32	106	101	36	2.81	30	11	186	99	15	6.60	12
	言語文化学科		64	178	171	67	2.55	59	—	—	—	—	—	—
	人間社会科学科		28	65	63	28	2.25	28	6	145	65	6	10.83	3
	芸術・表現行動学科	舞踊教育学コース	12	52	51	12	4.25	12	—	—	—	—	—	—
		音楽表現コース	5	16	15	5	3.00	5	3	15	9	3	3.00	3
理学部	数学科		13	48	47	14	3.36	14	3	82	45	3	15.00	3
	物理学科		14	63	63	16	3.94	16	3	19	19	3	6.33	3
	化学科		16	51	48	19	2.53	17	4	23	9	5	1.80	5
	生物学科		18	70	65	20	3.25	20	3	34	18	3	6.00	2
	情報科学科		23	76	73	25	2.92	24	10	41	18	14	1.29	12
生活科学部	食物栄養学科		31	135	134	31	4.32	30	5	80	50	7	7.14	6
	人間・環境科学科		19	55	54	19	2.84	17	5	53	27	6	4.50	5
	人間生活学科		53	173	170	60	2.83	59	—	—	—	—	—	—

※倍率は、受験者数÷合格者数。小数点以下第三位を四捨五入
※合格者数には追加合格も含む。

〈特別入試(志願者・合格者等)〉

学部学科等			種別	推薦入試				帰国子女等				私費外国人留学生			
				募集人員	志願者	合格者	入学者	募集人員	志願者	合格者	入学者	募集人員	志願者	合格者	入学者
文教育学部	人文学科			12	26	12	12	若干名	2	1	1	若干名	0	0	0
	言語文化学科			16	26	16	16		5	3	3		5	0	0
	人間社会科学科			6	9	6	6		6	3	3		5	1	1
	芸術・表現行動学科	舞踊教育学コース		3	42	3	3		1	1	1		1	0	0
		音楽表現コース		4	21	5	5		0	0	0		0	0	0
理学部	数学科			4	10	4	4	若干名	0	0	0	若干名	2	1	1
	物理学科			3	6	3	3		0	0	0		1	0	0
	化学科			—	—	—	—		—	—	—		1	0	0
	生物学科			4	8	3	3		4	1	1		1	0	0
	情報科学科			7	18	5	5		1	0	0		0	0	0
生活科学部	食物栄養学科			—	—	—	—	若干名	—	—	—	若干名	3	0	0
	人間・環境科学科			—	—	—	—		—	—	4		0	0	
	人間生活学科			12	42	12	12		4	1	1		4	0	0

種別	募集人員	志願者	合格者	入学者
AO入試	20名	198	20	20
高大連携特別入試	若干名(10名程度)	2	2	2

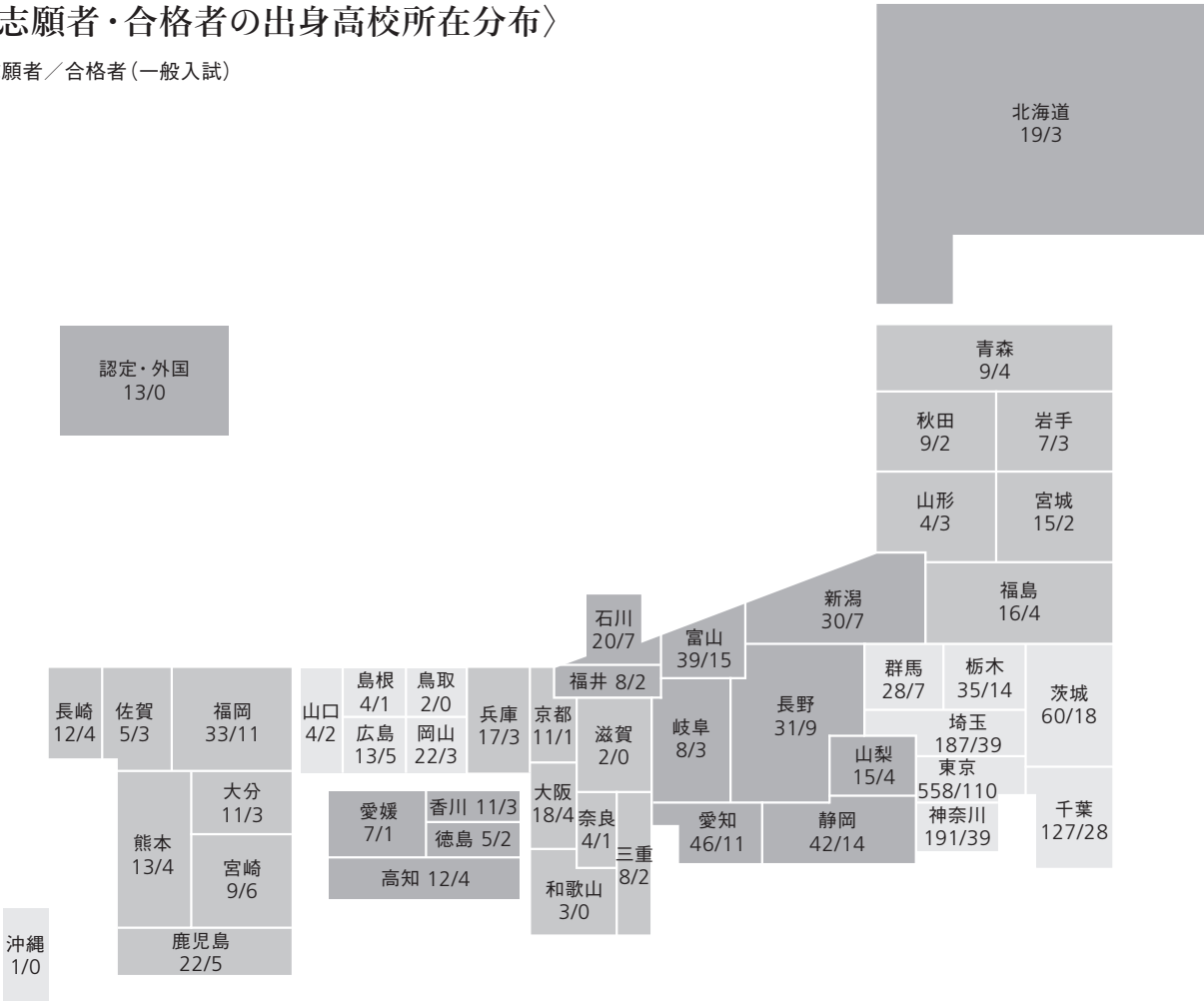
〈一般入試の合格者数・最高点・最低点・平均点〉

学部学科等		種別	前期日程					後期日程				
			配点	合格者	最高点	最低点	平均点	配点	合格者	最高点	最低点	平均点
文教育学部	人文科学科		800	36	684	603	626	250	15	220	213	216
	言語文化学科		800	67	687	591	622	—	—	—	—	—
	人間社会科学科		800	28	660	585	616	550	6	※	※	※
	芸術・表現行動学科	舞踊教育学コース	800	12	624	564	597	—	—	—	—	—
		音楽表現コース	800	5	※	※	※	400	3	※	※	※
理学部	数学科		725	14	594	447	496	400	3	※	※	※
	物理学科		700	16	518	440	472	600	3	※	※	※
	化学科		950	19	734	632	675	650	5	※	※	※
	生物学科		900	20	721	618	665	550	3	※	※	※
	情報科学科		900	25	692	594	632	1100	14	987	766	844
生活科学部	食物栄養学科		1000	31	906	779	808	700	7	※	※	※
	人間・環境科学科		1000	19	896	725	766	700	6	※	※	※
	人間生活学科		1000	60	881	738	777	—	—	—	—	—

※各学科の合格者が10名以下の場合と、実技検査及び面接が総合判定の資料となっている場合は、最高点・最低点・平均点は開示しない。
※合格者数には追加合格も含む。

〈志願者・合格者の出身高校所在分布〉

志願者／合格者(一般入試)



学生募集要項(願書付き)・大学案内等の請求

〈配布時期〉

募集要項等の種別	配布予定時期	備考
一般入試(前期日程・後期日程)	10月下旬	※
AO入試学生募集要項	7月下旬	テレメールで請求可能
推薦入試学生募集要項	9月上旬	◇
帰国子女等学生募集要項	9月上旬	◇
私費外国人留学生学生募集要項	9月上旬	◇
第3年次編入学学生募集要項	7月下旬	文教育学部及び生活科学部人間生活学科(理学部及び生活科学部人間・環境科学科は6月下旬に試験終了)

※一般入試(前期日程・後期日程)は、平成30年度入試よりインターネット出願のみでの受付となるので、募集要項は冊子での配布を行いません。入試課のホームページから閲覧できます。

〈資料請求〉

1. 大学のホームページから請求する場合

大学のホームページからテレメールを利用して大学案内や学生募集要項(願書付き)の資料が請求できます。
詳しくは、入試課ホームページをご覧ください。 <http://www.ao.ocha.ac.jp/application.html>

2. インターネット(パソコン・スマートフォン・携帯電話)または自動音声応答電話で請求する場合

①下記のいずれかの方法でテレメールにアクセスしてください。

インターネット(パソコン・スマートフォン・携帯電話)の場合	自動音声応答電話の場合
http://telemail.jp (パソコン、携帯電話各社共通) ※バーコードからアクセスした場合は資料請求番号の入力は不要 	IP電話: 050-8601-0101 (24時間受け付け) ※IP電話への通話料金は、一般電話回線からは日本全国どこからでも3分毎に約12円です。

②お茶の水女子大学資料請求番号(6桁)をプッシュまたは入力してください。

資料名	資料請求番号	資料名	資料請求番号
大学案内	562370	AO入試学生募集要項	582380
入学者選抜要項	582370	私費外国人留学生学生募集要項	562380
推薦入試・帰国子女等学生募集要項	582360	第3年次編入学学生募集要項(文教育学部・生活科学部)	582390

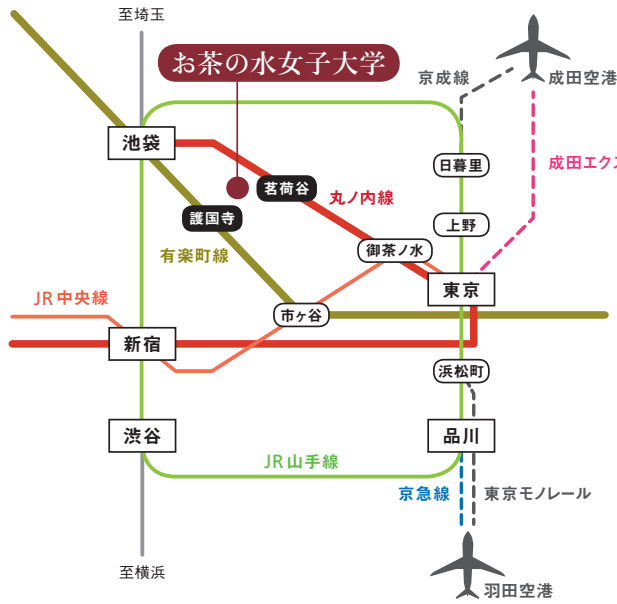
③操作方法については、ガイドンスに従ってください。
テレメールでの資料請求に関するお問い合わせ先
テレメールカスタマーセンター IP電話 050-8601-0102 (受付時間 9:30～18:00)

〈ホームページ〉 <http://www.ao.ocha.ac.jp>

入試最新情報は「お茶の水女子大学ホームページ」をご覧ください。

受験生・保護者の方	入試情報	NEWS & INFO
	- 入試日程表 - 入試統計 - 大学案内 - 入試要項の請求 - 大学説明会 - 進学相談会 - 学生寮	- 奨学金 - 入学者選抜要項(入試概要) - 各種学生募集要項 - 過去の入試問題(特別入試の一部) - アドミッション・ポリシー - 入試Q&A
		- 入試最新情報 - 出願速報(一般入試) - 合格者受験番号 - 次年度以降の選抜方法の予告・変更など

アクセスMAP



東京駅

東京メトロ丸ノ内線【約10分】

茗荷谷駅

品川駅

JR山手線【約7分】

東京駅

東京メトロ丸ノ内線【約10分】

茗荷谷駅

羽田空港

東京モノレール【約30分】

浜松町駅

JR山手線【約7分】

東京駅

東京メトロ丸ノ内線【約10分】

茗荷谷駅

池袋駅

東京メトロ丸ノ内線【約5分】

茗荷谷駅

池袋駅

東京メトロ有楽町線【約5分】

護国寺駅

新宿駅

JR山手線【約10分】

池袋駅

東京メトロ丸ノ内線【約5分】

茗荷谷駅

新宿駅

東京メトロ有楽町線【約5分】

護国寺駅

周辺MAP

茗荷谷駅(東京メトロ丸ノ内線)より徒歩7分

護国寺駅(東京メトロ有楽町線)5番口より徒歩8分

大塚二丁目停留所(都営バス)下車徒歩1分
(都02番、都02乙番)



キャンパスMAP

施設一覧

- 1 大学本館
- 2 大学講堂(微音堂)
- 3 学生センター棟
- 4 文教育学部1号館
- 5 共通講義棟1号館
- 6 共通講義棟2号館
- 7 共通講義棟3号館
- 8 附属図書館
- 9 保健管理センター
- 10 大学食堂
- 11 課外活動共用施設
- 12 Student Commons
- 13 文教育学部2号館
- 14 課外活動団体談話室
- 15 大学体育館
- 16 人間文化創成科学研究科・全学共用研究棟
- 17 ラジオアイソトープ実験センター
- 18 理学部1号館
- 19 理学部2号館
- 20 理学部3号館
- 21 情報基盤センター
- 22 総合研究棟
- 23 附属幼稚園
- 24 附属小学校第1校舎
- 25 附属小学校第2校舎
- 26 附属小学校第3校舎
- 27 附属小学校体育館
- 28 附属高等学校校舎
- 29 附属高等学校体育館
- 30 附属中学校第1校舎
- 31 附属中学校第2校舎
- 32 附属中学校体育館
- 33 いずみナーサリー
- 34 大塚宿舎
- 35 作業会館
- 36 桜蔭会館
- 37 お茶大アカデミック・プロダクション研究棟
- 38 茶室 芳香庵
- 39 生活科学部本館2
- 40 お茶大インフォメーション・プラザ
- 41 文京区立お茶の水女子大学こども園

